千葉県教育振興財団調査報告第627集

東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書1

―松戸市上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡―

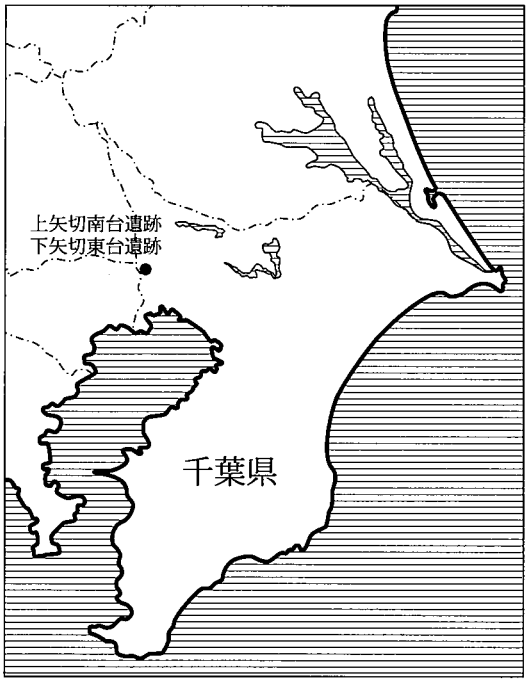
平成21年3月

国　土　交　通　省

財団法人　千葉県教育振興財団

東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書1

― 松戸市上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡 ―



序　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第627集として、国土交通省関東地方整備局の東京外かく環状道路建設事業に伴って実施した松戸市上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器がまとまって出土したほか、弥生時代から古墳時代初頭と奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が発見され、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年３月

財団法人　千葉県教育振興財団
理事長　福　島　　義　弘

凡　例

1　本書は、国土交通省による東京外かく環状道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県松戸市上矢切南台117－２ほかに所在する上矢切南台遺跡（遺跡コード207－016）と同市下矢切東台６－２ほかに所在する下矢切東台遺跡（遺跡コード207－017）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省関東整備局の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆・編集は、第１章第２節３・第２章第１節・第３章第１節・第４章第１節を落合章雄が担当し、それ以外を豊田秀治と郷堀英司が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、松戸市教育委員会の御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は以下のとおりである。

第１図　松戸市発行　1/ 2,500　松戸都市計画図（Ⅸ－KE　81－３、Ⅸ－KE　81－４）
合成して1/5,000にして使用

第５図　国土地理院発行　1/25,000　地形図「松戸」（NI－54－25－２－１）
国土地理院発行　1/25,000　地形図「船橋」（NI－54－25－２－２）

8　周辺航空写真は、京葉測量株式会社による平成20年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は、全て座標北であり,測量値は日本測地系による。

10　第２章第１節、第３章第１節の出土状況図で用いた記号の意味については、図中において例示した。

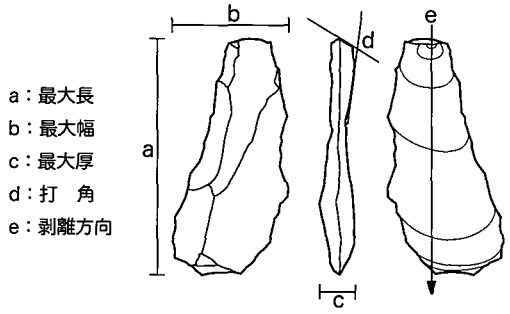
11　第２章第１節、第３章第１節では、出土した石器を平面分布上の観点から「ブロック」として括った。各ブロックについて、「出土分布図」「垂直分布図」「垂直ヒストグラム」「石器実測図」「石器組成表」「石器一覧表」「出土石器写真」を作成した。

出土分布図　縮尺100分の１を基本とし、器種別、石材別の２種類を作成した。

垂直分布図　縮尺100分の１を基本とし、器種別分布図に付随して作成した。よって記号の種類は器種別分布図に使用したものと同一である。土層柱状図については不明瞭なブロックは掲載を控えた。

垂直ヒストグラム　石器の出土点数を５cm単位で集計し、グラフとして表している。左側には各ブロックの土層柱状図を基に作成した模式図を掲載した。

石器実測図　縮尺５分の４を基本としているが、大型の石器、接合資料の接合状況図については３分の２とした。各実測図にはスケールを配している。番号はブロック毎に１からナンバーリングし、器種名と石材を表記してあるが、器種名については以下のように記号化している。



計　測　位　置

器種

槍先形尖頭器：Po、台形石器：Tr、ナイフ形石器：Kn、角錐状石器：KaK、削器：SS、調整痕のあ

る剥片：RFl、使用痕のある剥片：UFl、削片：Sp、剥片：Fl、砕片：Ch、剥片利用石核：Cofl、石核：Co、敲石：HS、礫・礫片：Gr

石材

黒曜石：Ob、玉髄：Cc、珪質頁岩：Ss、頁岩：Sh、流紋岩：Rh、安山岩：An、ガラス質黒色安山岩：Ga、安山岩（トロトロ石）：To、チャート：Ch、凝灰岩：Tu、花崗岩：Gr、石英斑岩：Qp、ヒン岩：Po、変成岩：Ho、砂岩：Sa、粘板岩：Sl、泥岩：Ms

石器組成表　横項目を器種、縦項目を石材として点数、重量について集計した。セルの上段が点数、下段が重量である。また縦横合計と共に組成比の項目をパーセント表示にて明記している。二重線以下は、接合資料の組成を属するブロックに分け点数と重量で表記したものである。

石器一覧表　番号の若いブロックから順に、ブロック単位でまとめた。各ブロック内の並びはグリッド、遺物番号による。実測図を掲載した石器については、挿図番号（第○図）を付した。器種名、石材については、編集の関係上、上記の記号化したものを使用した。石器の計測は右図に準じて行った。

出土石器写真　実測図を掲載した石器について全て掲載した。

本文目次

序文
凡例
第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査の概要…… 1
　　１　調査の経緯と経過…… 1
　　２　調査の方法と概要…… 2
　第２節　遺跡の位置と歴史的環境…… 4
　　１　遺跡の位置…… 4
　　２　遺跡周辺の歴史的環境…… 8
　　３　立川ローム層…… 8
第２章　上矢切南台遺跡……12
　第１節　旧石器時代……12
　第２節　縄文時代……48
　第３節　弥生時代～古墳時代……51
　第４節　奈良・平安時代……58
　第５節　中世以降……62
第３章　下矢切東台遺跡……66
　第１節　旧石器時代……66
　第２節　中世以降…… 102
第４章　まとめ…… 105
　第１節　旧石器時代…… 105
　第２節　縄文時代～中近世…… 106
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　調査区域と周辺地形図（1/5,000）…… 3
第２図　上矢切南台遺跡確認調査設定図…… 5
第３図　上矢切南台遺跡遺構分布図…… 6
第４図　下矢切東台遺跡確認調査設定図…… 7
第５図　調査遺跡と周辺の主な遺跡…… 9
第６図　基本層序……11

上矢切南台遺跡
第７図　旧石器時代遺構配置図……13
第８図　第１ブロック器種別分布……14
第９図　第１ブロック石材別分布……15
第10図　第１ブロック石器形状比グラフ……15
第11図　第１ブロック出土石器……16
第12図　第２～５ブロック器種別分……17

第13図　第２～５ブロック石材別分……18
第14図　第２～５ブロック石器形状比グラフ……19
第15図　第２ブロック出土石器……20
第16図　第３ブロック出土石器……21
第17図　第４ブロック出土石器（１）……22
第18図　第４ブロック出土石器（２）……23
第19図　第５ブロック出土石器（１）……24
第20図　第５ブロック出土石器（２）……25
第21図　第６ブロック器種別分布……26
第22図　第６ブロック石材別分布……27
第23図　第６ブロック形状比グラフ……27
第24図　第６ブロック出土石器……28
第25図　第７・８ブロック器種別分……29
第26図　第７・８ブロック石材別分……30
第27図　第７・８ブロック石器形状比グラフ……31
第28図　第７ブロック出土石器……32
第29図　第８ブロック出土石器（１）……33
第30図　第８ブロック出土石器（２）……34
第31図　第８ブロック出土石器（３）……35
第32図　第８ブロック出土石器（４）……36
第33図　第９～12ブロック器種別分……37
第34図　第９～12ブロック石材別分……38
第35図　第９～12ブロック石器形状比グラフ……38
第36図　第９ブロック出土石器……40
第37図　第10ブロック出土石器……41
第38図　第11ブロック出土石器……38
第39図　第12ブロック出土石器……39
第40図　単独出土石器……45
第41図　SI003 ……48
第42図　集石１……48
第43図　集石２……49
第44図　縄文土器・土製玦状耳飾り・石鏃……50
第45図　SI001（１）……52
第46図　SI001（２）……53
第47図　SI002 ……54
第48図　SI004 ……56
第49図　SI005 ……57
第50図　SI006 ……57
第51図　SI007 ……58
第52図　SI008 ……58
第53図　SI009 ……59
第54図　SI010･012 ……60
第55図　SI011･013 ……61
第56図　SD001～SD007・(4)SD004～(4)SD006・(5)001……63

下矢切東台遺跡

第57図　旧石器時代遺構配置図……67
第58図　第１～３ブロック器種別分布……68
第59図　第１～３ブロック石材別分布……69
第60図　第１～３ブロック石器形状比グラ……70
第61図　第１ブロック出土石器……71
第62図　第２ブロック出土石器（１）……72
第63図　第２ブロック出土石器（２）……73
第64図　第３ブロック出土石器……74
第65図　第４～６ブロック器種別分布……75
第66図　第４～６ブロック石材別分布……76
第67図　第４～６ブロック石器形状比グラフ……77
第68図　第４ブロック出土石器……78
第69図　第５ブロック出土石器……79
第70図　第６ブロック出土石器……80
第71図　第７・８ブロック器種別分布……81
第72図　第７・８ブロック石材形状比グラフ……82
第73図　第７・８ブロック石材別分布……82
第74図　第７ブロック出土石器……83
第75図　第８ブロック出土石器……84
第76図　第９・10ブロック器種別分布……85
第77図　第９・10ブロック石材別分布……86
第78図　第９・10ブロック石器形状比グラフ……86
第79図　第９ブロック出土石器（１）……88
第80図　第９ブロック出土石器（２）……89
第81図　第10ブロック出土石器……89
第82図　第11・12ブロック器種別分布……90
第83図　第11・12ブロック石材別分布……91
第84図　第11・12ブロック石器形状比グラフ……91
第85図　第11ブロック出土石器……92
第86図　第12ブロック出土石器……93
第87図　第13ブロック器種別分布……94
第88図　第13ブロック石材別分布……95
第89図　第13ブロック石器形状比グラフ……95
第90図　第13ブロック出土石器……96

第91図　単独出土石器（１）……97
第92図　単独出土石器（２）……98
第93図　SD001・SD002・SD003 …… 103
第94図　SD001・SD002出土遺物 …… 104

表　目　次

上矢切南台遺跡
第１表　第１ブロック石器組成表……15
第２表　第２～５ブロック石器組成表……19
第３表　第６ブロック石器組成表……27
第４表　第７・８ブロック石器組成表……31
第５表　第９～12ブロック石器組成表……39
第６表　上矢切南台遺跡出土石器属性表（１）…46
第７表　上矢切南台遺跡出土石器属性表（２）…47
第８表　弥生時代後期～奈良平安時代遺物計測表
……65

下矢切東台遺跡
第９表　第１～３ブロック石器組成表……70
第10表　第４～６ブロック石器組成表……77
第11表　第７・８ブロック石器組成表……82
第12表　第９・10ブロック石器組成表……87
第13表　第11・12ブロック石器組成表……92
第14表　第13ブロック石器組成表……95
第15表　下矢切東台遺跡出土石器属性表…… 101

図 版 目 次

図版１　遺跡周辺航空写真

上矢切南台遺跡
図版２　調査地北端部空撮（北から）
　　調査地北端部空撮（西から）
図版３　第９～12ブロック出土状況
　　SI003
図版４　SI001
　　SI002
図版５　SI004
　　SI005
図版６　SI006
　　SI007
図版７　SI008
　　SI009
図版８　SI010・012
　　SI011・013
図版９　上矢切南台遺跡出土石器（１）
図版10　上矢切南台遺跡出土石器（２）
図版11　上矢切南台遺跡出土石器（３）
図版12　上矢切南台遺跡出土石器（４）
図版13　上矢切南台遺跡出土石器（５）
図版14　上矢切南台遺跡出土石器（６）
図版15　縄文時代遺物
図版16　SI001　SI002　SI003出土遺物
図版17　SI005　SI007　SI008　SI010・012
　　SI011・013出土遺物

下矢切東台遺跡
図版18　SD001
　　SD002
図版19　下矢切東台遺跡出土石器（１）
図版20　下矢切東台遺跡出土石器（２）
図版21　下矢切東台遺跡出土石器（３）
図版22　下矢切東台遺跡出土石器（４）
図版23　下矢切東台遺跡出土石器（５）
図版24　SD002出土遺物

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

国土交通省関東地方整備局首都国道事務所（旧建設省関東地方建設局首都国道工事事務所）は東京外かく環状道路建設事業を計画した。計画の実施にあたって、事業計画用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会あてに提出され、その取り扱いについて千葉県教育委員会との慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保有が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることで協議が整い、財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することとなった。

今回報告する上矢切南台遺跡と下矢切東台遺跡は、平成９年度から平成18年度まで、各々８次に渡って発掘調査を行った。上矢切南台遺跡においては、対象面積28,082㎡に対して上層3,752㎡、下層1,246㎡の確認調査を実施した結果、上層では3,715㎡、下層では798㎡を対象に本調査を行った。下矢切東台遺跡においては、対象面積39,872㎡に対して上層4,108㎡、下層1,662㎡の確認調査を実施した結果、上層では3,281㎡、下層では2,405㎡を対象に本調査を行った。

整理作業については、平成10年度から平成20年度にかけて断続的に実施した。

発掘調査から整理作業・報告書刊行にいたるまでの調査組織及び担当者は以下のとおりである。

（１）発掘調査

上矢切南台遺跡

調査次数	年度	期　間	所長	担　当　者	確認調査/対象面積(㎡)		本調査(㎡)	
					上　層	下　層	上層	下層
（1）	平成９	10.1～3.24	折原　繁	白鳥　章、落合章雄、石田清彦	2,320/23,200	992/23,200	2,440	550
（2）	平成11	2.1～2.29	及川淳一	田井知二	—	—	204	—
（3）	平成13	10.1～1.31	田坂　浩	中道俊一	248/2,406	174/2,406	725	248
（4）	平成14	10.1～11.29	田坂　浩	稲生一夫	105/1,051	52/1,397	346	0
（5）	平成15	6.2～6.23	田坂　浩	田井知二	370/370	16/370	0	0
（6）	平成15	3.2～3.15	田坂　浩	田井知二	80/80	4/80	0	0
（7）	平成16	4.5～4.20	田坂　浩	岡田光広	200/200	0	0	0
（8）	平成17	10.4～10.14	田坂　浩	石川　誠	429/429	8/429	0	0

下矢切東台遺跡

調査次数	年度	期　間	所長	担　当　者	確認調査/対象面積(㎡)		本調査(㎡)	
					上　層	下　層	上層	下層
（1）	平成９	1.7～3.24	折原　繁	白鳥　章、石田清彦	3,430/34,300	1,436/34,300	—	—
（2）	平成10	4.1～7.31	鈴木定明	白鳥　章、田井知二	—	—	2,600	2,100
（3）	平成12	3.1～3.16	及川淳一	田井知二	16/89	2/89	0	0
（4）	平成13	12.17～3.29	田坂　浩	中道俊一	272/2,719	128/2,719	168	105
（5）	平成15	6.24～9.12	田坂　浩	田井知二	141/1,411	56/1,411	313	0
（6）	平成16	12.13～1.31	田坂　浩	福田　誠	—	—	200	200
（7）	平成17	10.17～10.31	田坂　浩	石川　誠	119/119	8/119	0	0
（8）	平成18	4.3～4.28	田坂　浩	郷堀英司	130/1,234	32/1,234	0	0

（2）整理作業

平成10年度

組　織　調査部長　沼澤　豊　　西部調査事務所長　鈴木定明

上矢切南台遺跡

内　容　整理作業　水洗・注記の一部～復元の一部

担当者　主任技師　田井知二

平成13年度

組　織　調査部長　佐久間　豊　　西部調査事務所長　田坂　浩

上矢切南台遺跡

内　容　整理作業　記録整理～挿図・図面作成の一部

担当者　上席研究員　落合章雄

下矢切東台遺跡

内　容　整理作業　水洗・注記の一部～挿図・図面作成の一部

担当者　上席研究員　落合章雄

平成19年度

組　織　調査研究部長　矢戸三男　　西部調査事務所長　及川淳一

上矢切南台遺跡

内　容　整理作業　記録整理～原稿執筆の一部

担当者　上席研究員　豊田秀治

下矢切東台遺跡

内　容　整理作業　記録整理～原稿執筆の一部

担当者　上席研究員　豊田秀治

平成20年度

組　織　調査研究部長　大原正義　　西部調査事務所長　及川淳一

上矢切南台遺跡

内　容　整理作業　実測の一部～報告書刊行

担当者　上席研究員　郷堀英司　落合章雄

下矢切東台遺跡

内　容　整理作業　実測の一部～報告書刊行

担当者　上席研究員　郷堀英司　落合章雄

2　調査の方法と概要

調査にあたっては、国土方眼座標（第Ⅸ座標系）に基づいてグリッドの設定を行った。上矢切南台遺跡と下矢切東台遺跡の調査対象範囲を合わせた部分に40m×40mの方眼網を設定してこれを大グリッドとし、北西端を起点に南北方向を北から１、２、３…、東西方向を西からＡ、Ｂ、Ｃ…としてこれを組み合わせて呼称することとした（第１図）。上矢切南台遺跡は、南北方向で１から10グリッド、東西方向でＡからＧグリッドにあたり、下矢切東台遺跡は、南北方向で10から19グリッド、東西方向でＧからＰグリッドに

第１図　調査区域と周辺地形図

あたる。この大グリッドをさらに４ｍ×４ｍの小グリッドに100分割し、やはり北西端を起点に北から南へ00、10、20…、西から東へ00、01、02…と呼称することにした。すなわち、大グリッド内の小グリッドは北西端が00、北東端が09、南西端が90、南東端が99ということになる。調査時には、この大グリッド名と小グリッド名を組み合わせて、B3－55のように呼称した。なお、主な地点における日本測地系と、世界測地系へ変換した座標値・経緯度は以下のとおりである。

		1A－00（基点）	9F－00	18P－00
日本測地系	X座標	－26120.000m	－26440.000m	－26800.000m
	Y座標	5920.000m	6120.000m	6520.000m
	北　緯	35° 45′ 52.29627″	35° 45′ 41.90710″	35° 45′ 30.21499″
	東　経	139° 53′ 55.72319″	139° 54′ 03.67801″	139° 54′ 19.59413″
世界測地系	X座標	－25764.7478m	－26084.7436m	－26444.7438m
	Y座標	5626.8594m	5826.8574m	6226.8561m
	北　緯	35° 46′ 03.92001″	35° 45′ 53.53233″	35° 41′ 41.84189″
	東　経	139° 53′ 44.03319″	139° 53′ 51.98772″	139° 54′ 07.90300″

上層の確認調査では、対象面積の10％程度を目途に、地形や調査対象範囲等を考慮しながらトレンチの設定位置を決定し、遺構の検出と状況の把握に努めた。その結果、上矢切南台遺跡では、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡や奈良・平安時代の竪穴住居跡等を検出したことから、3,715㎡の本調査を実施した。下矢切東台遺跡では、中世以降の溝状遺構を確認したことから、3,281㎡の本調査を実施した。

下層の確認調査は、上層遺構が確認されなかった部分は随時、上層において遺構を数多く検出した部分については上層本調査終了後に、対象面積の約４％について２ｍ×２ｍのグリッドを設定して、遺物の広がり等の把握に努めた。その結果、上矢切南台遺跡においては798㎡、下矢切東台遺跡においては2,405㎡の本調査を実施した。

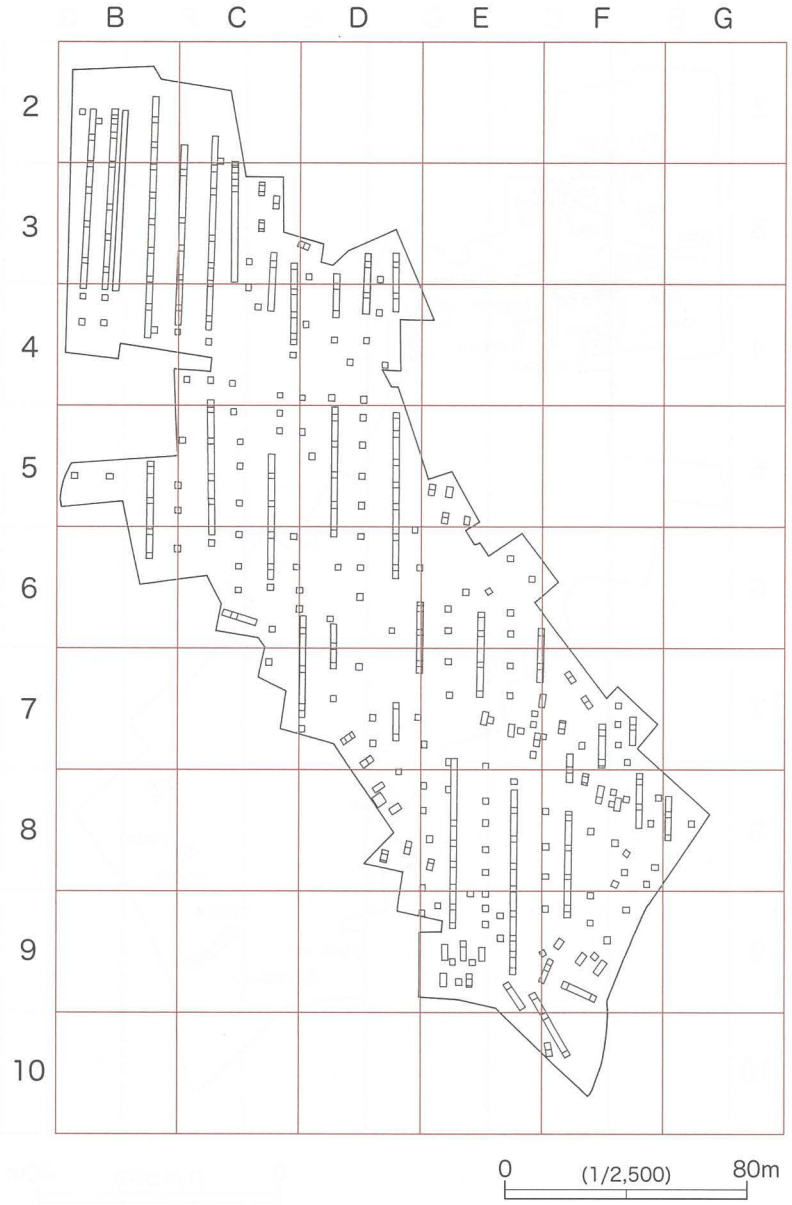
調査にあたっては、竪穴住居にはアルファベットのSIを付して３桁の連番とし、溝にはアルファベットのSDを３桁の番号の前に冠したものと、遺構種別のアルファベットを付けずに番号だけのものがある。さらに複数年次にわたる調査のため、年度ごとに001からの番号を使用した調査もあり、同一番号が使用されている場合もある。報告にあたっては、竪穴住居跡以外は、調査時における遺構番号を尊重しつつも、同一番号が使用されたものについては、第２次調査以降の遺構番号について括弧付けの調査次数を遺構番号の前に冠することで重複を避けることとした。

第２節　遺跡の位置と歴史的環境

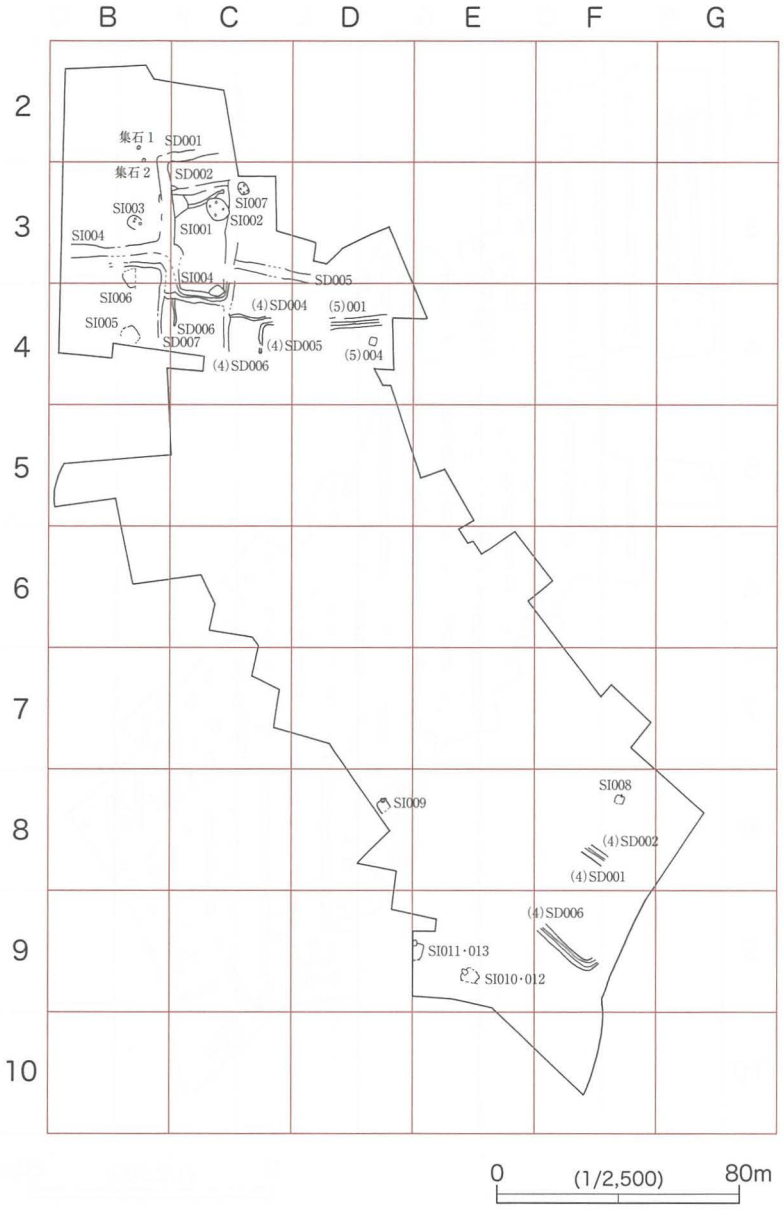
１　遺跡の位置

上矢切南台・下矢切東台遺跡の所在する松戸市は、千葉県の北西部、都心から約30㎞北東に位置するベッドタウンであり、本遺跡は、その中心地であるJR松戸駅から南に約２㎞離れた地点に位置する。

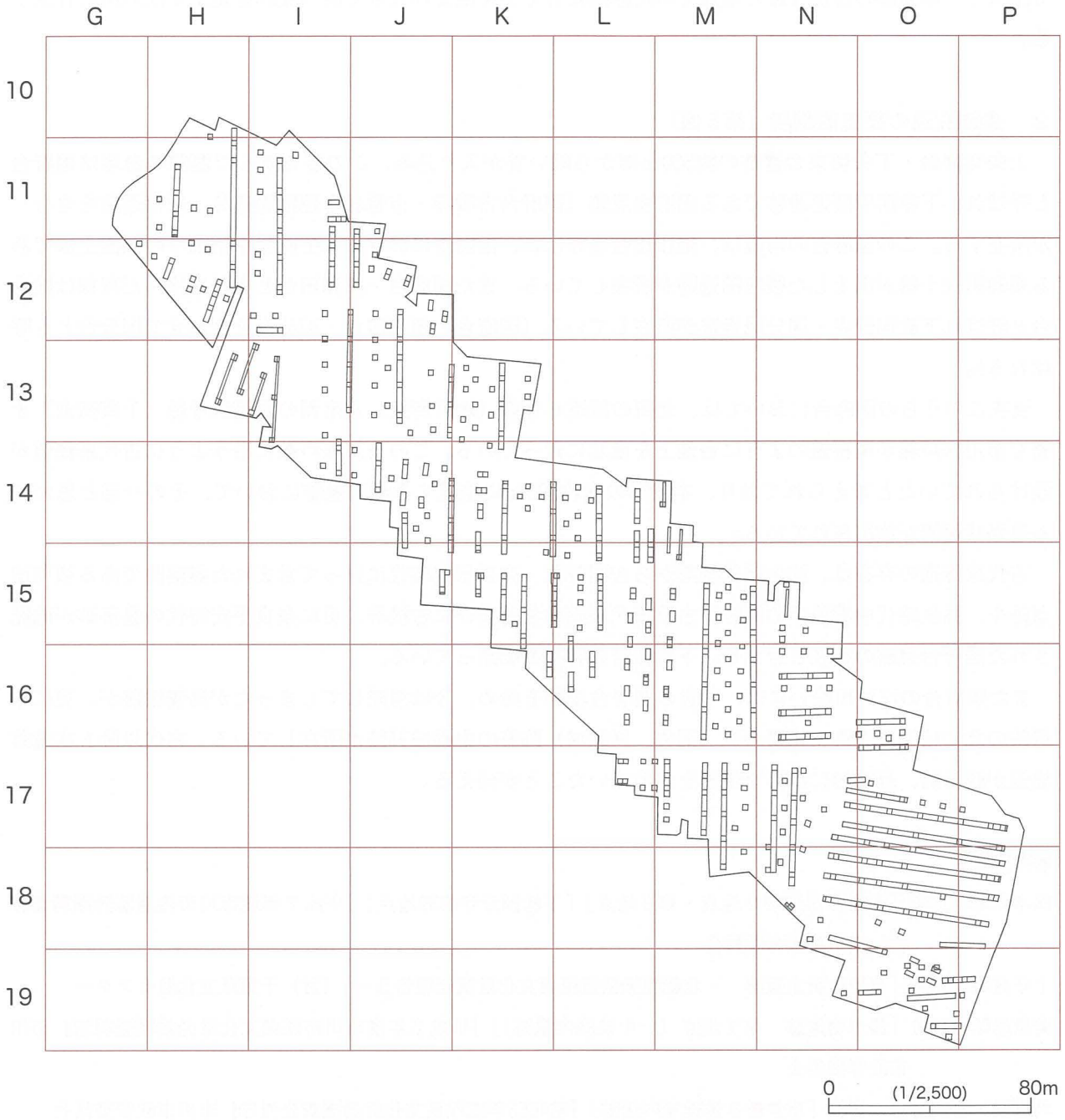
本遺跡は、下総台地の西南端に位置し、江戸川と国分川に挟まれた、南に向かって伸びる標高約25ｍの



第２図　上矢切南台遺跡確認調査設定図



第３図　上矢切南台遺跡遺構分布図



第４図　下矢切東台遺跡確認調査設定図

台地上に位置する。西側を流れる江戸川は、元々渡良瀬川の下流部であったものが、近世初頭に利根川が渡良瀬川につなげために、利根川の下流部になり、更に利根川が鬼怒川の下流部につなげたために、その分流となったものである。また東側を流れる国分川は、江戸川の支流であり、常磐平団地周辺を水源として南流し、本遺跡の南約３㎞の地点で市川砂州に行く手を阻まれ大きく西へ流れを変えて江戸川に合流する。

２　遺跡周辺の歴史的環境（第５図）

上矢切南台・下矢切東台遺跡の約500ｍ南から細い谷が入り込み、この谷を挟んで西側の台地は国府台と呼ばれ、下総国府関連遺跡である国府台遺跡（国府台古墳群・市営総合運動場遺跡・総社遺跡を含む）が所在する。この国府台の南端は、須和田台と呼ばれ、南関東における弥生時代中期前半の標識土器である須和田式土器が出土した須和田遺跡が所在している。また国府台・須和田台と支谷を挟んだ東側は国分台と呼ばれ下総国分寺・国分尼寺跡が所在している（国府台・須和田台・国分台を合わせて国分台とも呼ばれる）。

現在このうちの国府台においては、北側の国道６号線（水戸街道）と南側の国道14号線（千葉街道）を繋ぐ市川松戸線が尾根道のように台地上を南北に走っている。この市川松戸線に沿うように古代東海道が設けられていたと考えられており、本遺跡の南約300ｍに位置する新山遺跡において、その一部と思われる道路状遺構が検出されている。

古代東海道の存在は、弥生時代後期から古墳時代・奈良平安時代に亘って営まれた集落跡である須和田遺跡や、弥生時代中期後半の溝跡、古墳時代後期の集落並びに古墳群、更に奈良平安時代の集落跡が確認された国府台遺跡の存在と合わせ、下総国府の存在を物語っている。

また国府台の江戸川沿いには、中世の国府台城跡を始め、今は消滅してしまったが馬橋城跡が、更に本遺跡の北には松渡城跡や相模台城（別称　岩瀬城）跡等の中世城郭跡が所在している。古代以降も本遺跡周辺が政治的、経済的に重要な位置を占めていたことが伺える。

参考文献

松本太郎　1996「国府台遺跡第８地点・第９地点」「下総国分寺第39地点」『平成７年度市川市内遺跡発掘調査報告』市川市教育委員会

上守秀明　1990「市川市新山遺跡　－北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告Ⅱ－」（財）千葉県文化財センター

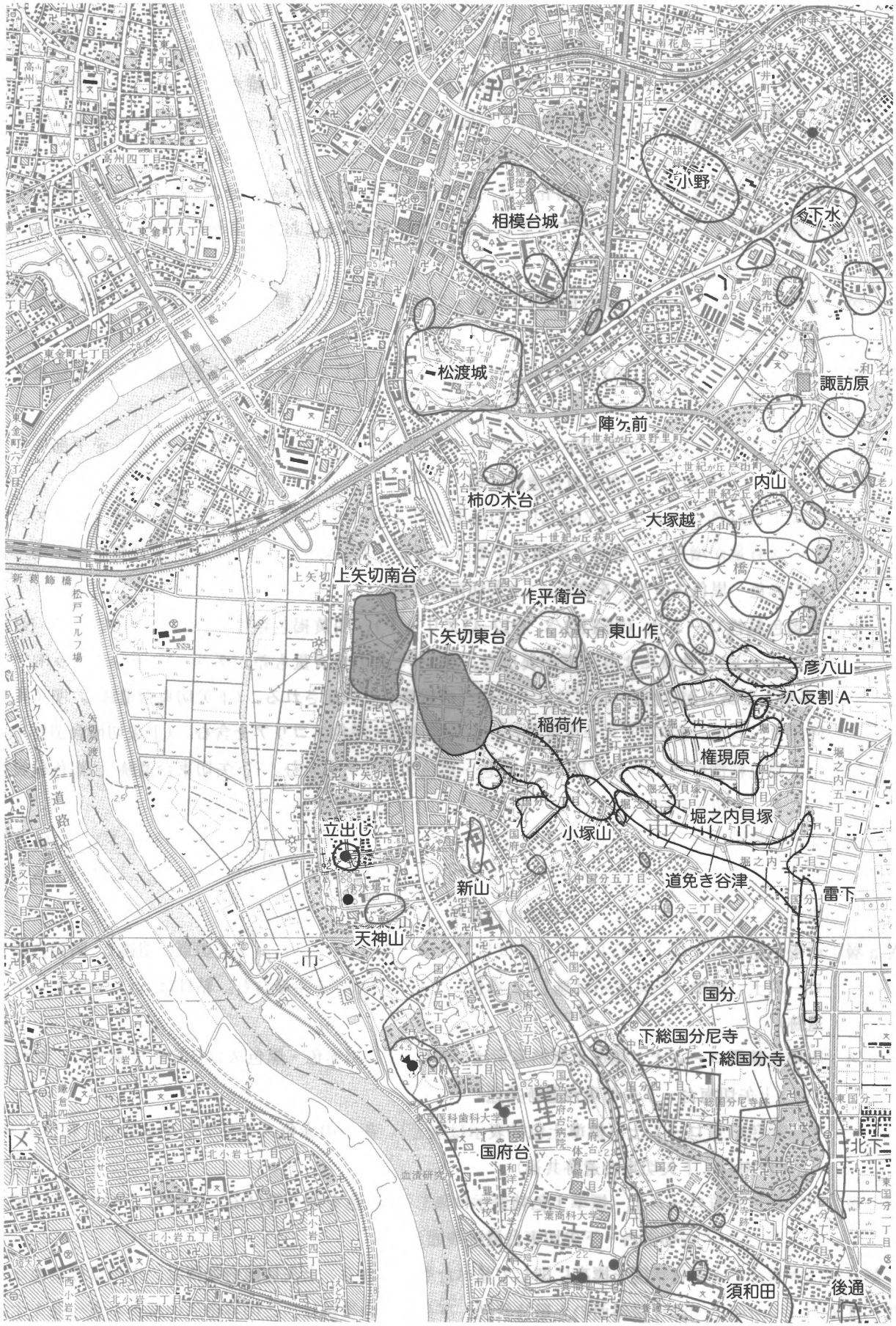
齋藤忠昭　1991「国府台遺跡　第１地点（一中校庭内遺跡）」『平成２年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』市川市教育委員会

桑原護・宮内勝巳　1981「市営総合運動場内遺跡」『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告』市川市教育委員会

３　立川ローム層

下総台地は、更新世中期から後期の海成砂層（下総層群）を主体とし、その上位を風成層である関東ローム層が覆っている。下総層群の最上部には、常総粘土層と呼称される下末吉ローム起因の凝灰質粘土層が堆積している。

下総台地の地形面は、海水・汽水・淡水に起因する浸食・堆積作用がなくなる離水期により、古い段階



第５図　調査遺跡と周辺の主な遺跡

から下末吉面（下総上位面）、武蔵野面（下総下位面）、立川面（千葉面）と区分される。松戸市を中心とした下総台地北西端は、ボーリング調査の成果から、武蔵野ローム層中の東京軽石層（TP）の下方に下末吉ローム層の存在が確認されており、下総台地のなかでも早い段階から離水していたことが窺える。上矢切南台・下矢切東台遺跡の所在する台地はこの地域の縁辺部に近く、よって常総粘土層の確認が重要となる。

上矢切南台・下矢切東台遺跡の発掘調査では、立川ローム層の一部のみを確認するに止まり、残念ながら常総粘土層の深度を把握することができなかった。まずは両遺跡における各層の特徴を記述しておきたい。

Ⅱ　層：灰黄褐色軟質ローム土（10YR4/2）。新規テフラ土。スコリア無し。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

Ⅲ　層：黄褐色軟質ローム土（10YR5/6）。ソフトローム層。スコリア無し。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

Ⅳ　層：黄褐色硬質ローム土（2.5YR5/4）。ソフト化が進行、赤色スコリア（２㎜～３㎜）を下部に多く含む。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

Ⅴ　層：暗赤褐色粘性ローム土（5YR3/2）。N19-39グリッドのⅤa層は（2.5YR6/4）。黒色・赤色スコリアの含有量が増加し、粒子も大型となる（５㎜）。（下矢切東台遺跡）。暗褐色硬質ローム土。少量の赤色・黒色スコリアを含む。（上矢切南台遺跡）

Ⅵ　層：暗褐色粘性ローム土（7.5YR3/3、O17-43グリッド）、明黄褐色粘性ローム土（10YR6/8、N19-39グリッド）。地点により色調が異なる。ATパミスの含有量も差があり、N19-39グリッドでは「多量」とあるが、017－43グリッドでは「極微量」と表記される。（下矢切東台遺跡）。明黄褐色硬質ローム土。ATパミスを少量含む。小粒の赤色・黒色スコリアを含む。（上矢切南台遺跡）

Ⅶ　層：暗赤褐色粘性ローム土（5YR2/3）。赤色・黒色スコリアを含む。（下矢切東台遺跡）。褐色硬質ローム土。赤色・黒色スコリアを多量に含む。（上矢切南台遺跡）

Ⅸ　層：極暗赤褐色粘性ローム土（7.5YR2/3はN15-97グリッド、5YR3/4はN19-39グリッド）。N19-39グリッドではこの層から湧水がある。（下矢切東台遺跡）。暗黒褐色硬質ローム土。大粒の赤色・黒色スコリアを多量に含む。（上矢切南台遺跡）

Ⅹａ層：赤褐色粘性ローム土（5YR4/3）。スコリアは全く認められない。（下矢切東台遺跡）。暗褐色軟質ローム土（標準土色帖表示は無し）。赤色・黒色スコリアを少量含む。粘性は低い。（上矢切南台遺跡）

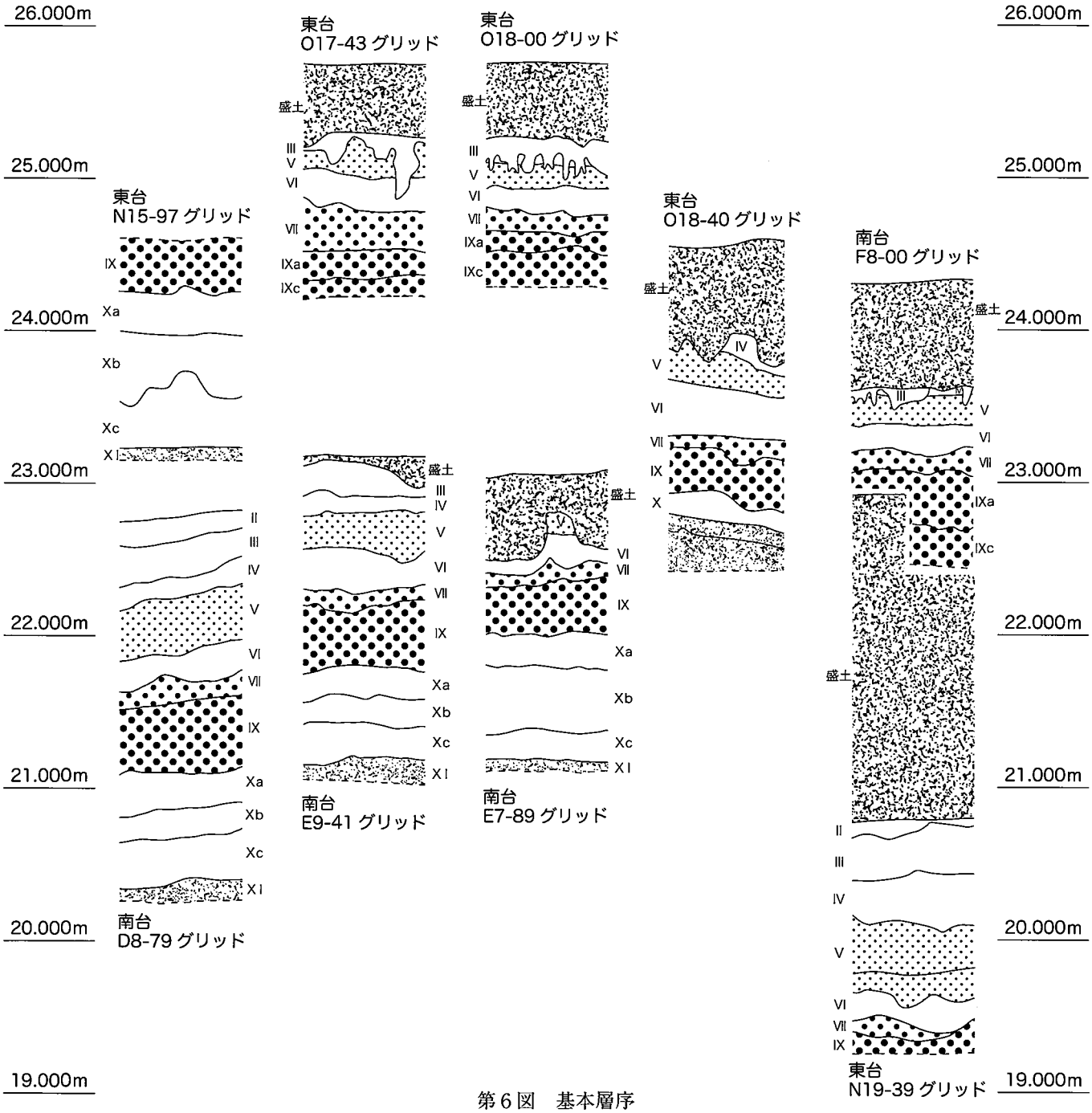
Ⅹｂ層：灰褐色軟質ローム土（標準土色帖表示は無し）。極小の赤色・黒色スコリアを少量含む。粘性低い。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

Ⅹｃ層：暗灰褐色軟質ローム土（標準土色帖表示は無し）。極小の赤色スコリアを少量含む。粘性あり。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

Ⅺ　層：暗灰褐色軟質ローム土（標準土色帖表示は無し）。灰色を強く帯びる。粘性高くスコリアは確認できない。（上矢切南台・下矢切東台遺跡共通）

第６図は両遺跡の土層柱状図を標高に則して並べたものである。上矢切南台遺跡は、市川市蓴菜池から北へ進入する谷津頭に向かう緩斜面の土層柱状図、下矢切東台遺跡は、この谷津の中域から東へ進入する

小支谷に向かう緩斜面の土層柱状図である。両遺跡の相違点は先ず標高の違いが挙げられ、Ⅵ層に着目した場合、上矢切南台遺跡と下矢切東台遺跡の最高点での標高差は1.6mにおよぶ。しかし、標高が高いにもかかわらず、下矢切東台遺跡ではほぼ全域でローム層が粘性を帯び、標高の低い上矢切南台遺跡のローム層の状態とは明らかに異なる。これは不透水層である常総粘土層に起因すると考えられ、先述したとおり両遺跡の中間で地質上の変化があると思われる。また、Ⅸ層からの湧水がある下矢切東台遺跡N19-39グリッドであるが、調査対象地の南東端は市川市堀之内貝塚から北へ進入する谷津の影響が強く感じられ、地形的に小規模な河岸段丘の存在が窺える。



第６図　基本層序

第２章　上矢切南台遺跡

第１節　遺構と遺物

１　旧石器時代

上矢切南台遺跡の調査では、合計12地点の石器集中地点が検出された。これらの石器集中地点は調査区南東側に偏る傾向があるものの、石器組成、定型的な石器の形状に相違があり、それぞれ異なる文化層に属すると考えられる。以下、ブロックとして記述することとする。

（１）第１ブロック（第８～11図、第１・６表、図版９）

分布

E7-49グリッドからE7-59グリッドにかけて検出された。分布は長軸5.5m、短軸1.5mの長楕円形状を呈する。分布範囲の北側に集中する傾向が認められる。

出土層位はⅥ層からⅦ層にかけてであり、ヒストグラムではⅥ層とⅦ層の境界部に最大値がみられる。石器の出土レベルの最大値は22.578m、最小値は22.488m、平均は22.535mである。

器種・石材

計９点の出土のうち２点が安山岩製の剥片で、他は礫片である。

１は安山岩製の剥片である。打面および背面に原石面を有する。器表面の色調は暗灰色を呈し、かなりざらついた感があるが、剥離面の切り合い関係は確認しやすい。やや縦長の形状を呈し、背面は多方向からの剥離により構成される。腹面側打面付近にみられる剥離は剥片剥離時の欠損である。

２は安山岩製の礫である。礫面は被熱し赤化している。

（２）第２ブロック（第12～15図、第２・６表、図版９）

分布

F7-36グリッドからF7-46グリッドにかけて検出された。分布は長径４m、短径２mの楕円形状を呈する。

Ⅸa層からⅦ層にかけて出土しているが、ヒストグラムでは点数の最大値付近がⅨa層中位付近に該当するため、Ⅸa層に所属するものと考えられる。なお、石器の出土レベルの最大値は23.136m、最小値は22.807m、平均は22.918mである。

器種・石材

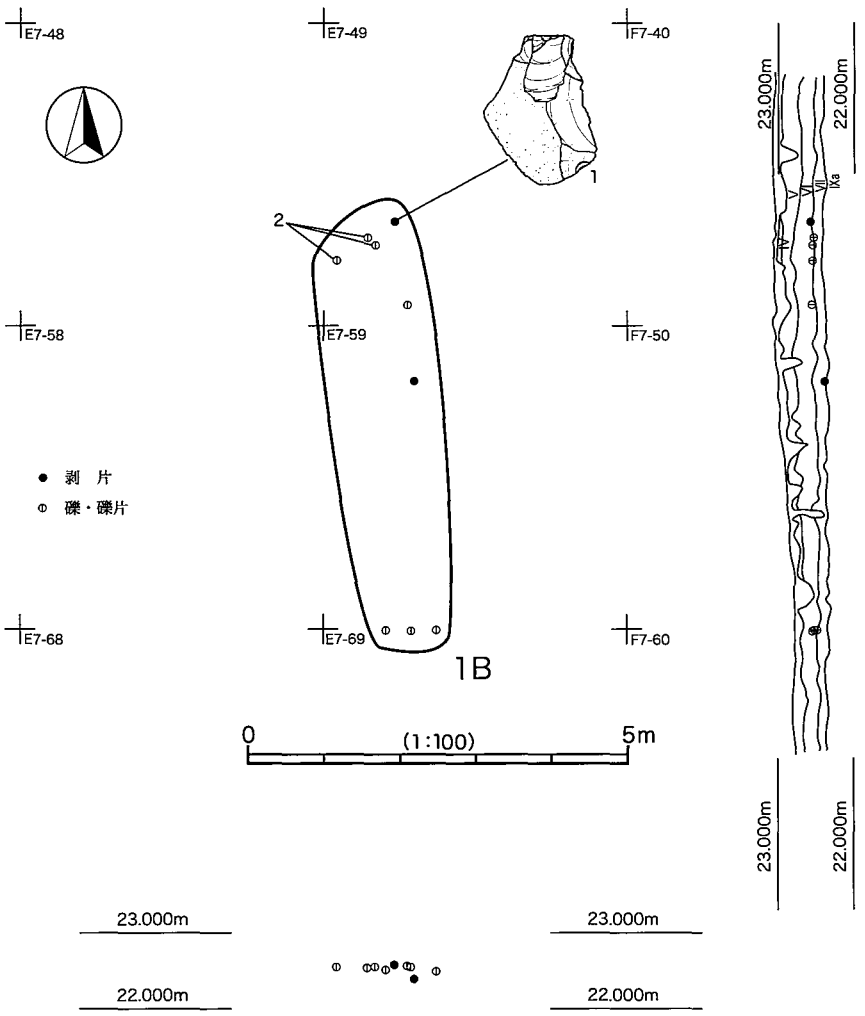
計９点のうち黒曜石が１点、頁岩が８点で構成される。定型的な石器はなく、頁岩製の調整痕のある剥片１点が組成に含まれる。他は剥片・砕片・石核であり、頁岩製の石器が比較的まとまっているが、剥片相互の接合以外には接合関係は認められなかった。

黒曜石の特徴は、透明感にやや欠け、微細な夾雑物の混入が認められる。頁岩は緻密な石材で、色調は黄土色を基調とし礫面はやや色調が濃くなる。

石器の縦横比は黒曜石・頁岩共に１：１となる傾向が認められる。

１は頁岩製の調整痕のある剥片である。折断による調整がほぼ全周に認められる。２・３は頁岩製の剥

第７図　旧石器時代遺構配置図



第８図　第１ブロック器種別分布

片で、いずれも礫面を有する。

４は黒曜石製の剥片である。打面を広く設定し作出されており、側面形状は打面から末端部にかけて直線的に薄くなる。

５は頁岩製の石核である。全面に礫面が残る。剥片剥離は礫面から行われ、裏面右側からの微細な剥片剥離で作業を終了している。

（３）第３ブロック（第12～14・16図、第２・６表、図版９）

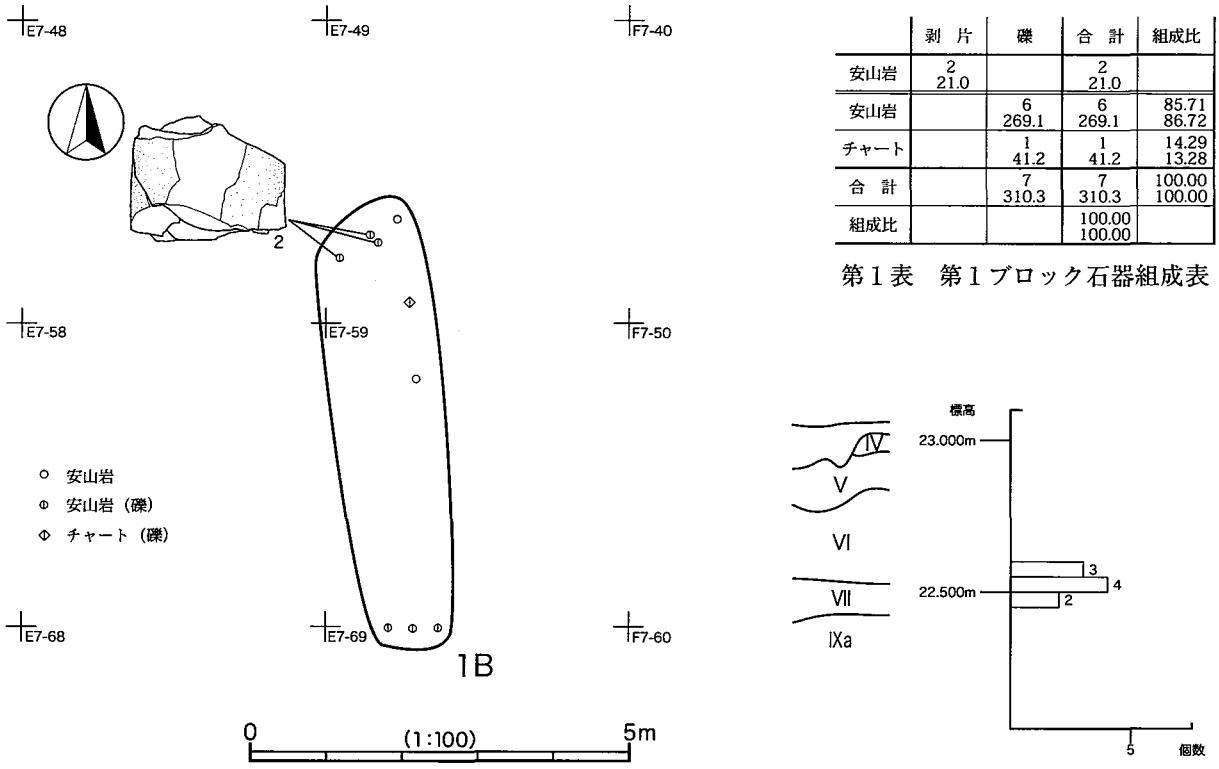
分布

F7-47グリッドからF7-57グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は長軸4.3m、短軸３mの長方形を呈する。

垂直分布のヒストグラムはⅨa層下面と同層の中位に最大値が認められるが、Ⅸa層下位に属すると考えられる。石器出土レベルの最大値は23.378m、最小値は22.617mと差が大きい。平均は22.888mである。

器種・石材

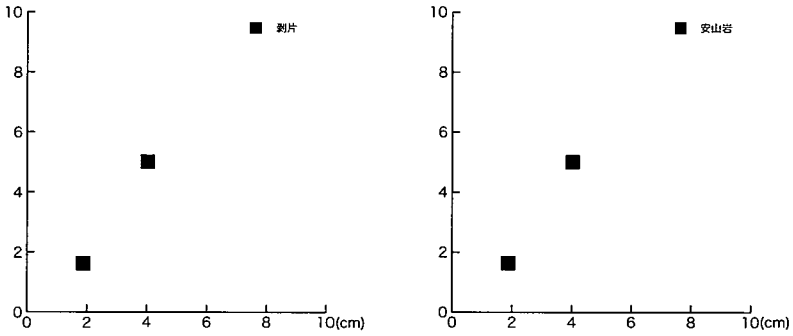
計20点出土し、うち２点はチャート製の礫片である。剥片石器では、18点のうち安山岩製の石器が10点と、点数比・重量比共に50％を上回る。他の石材では、珪質頁岩製の石器にやや多用される傾向が認めら



	剥片	礫	合計	組成比
安山岩	2 21.0		2 21.0	
安山岩		6 269.1	6 269.1	85.71 86.72
チャート		1 41.2	1 41.2	14.29 13.28
合計		7 310.3	7 310.3	100.00 100.00
組成比			100.00 100.00	

第１表　第１ブロック石器組成表

第９図　第１ブロック石材別分布



第10図　第１ブロック石器形状比グラフ

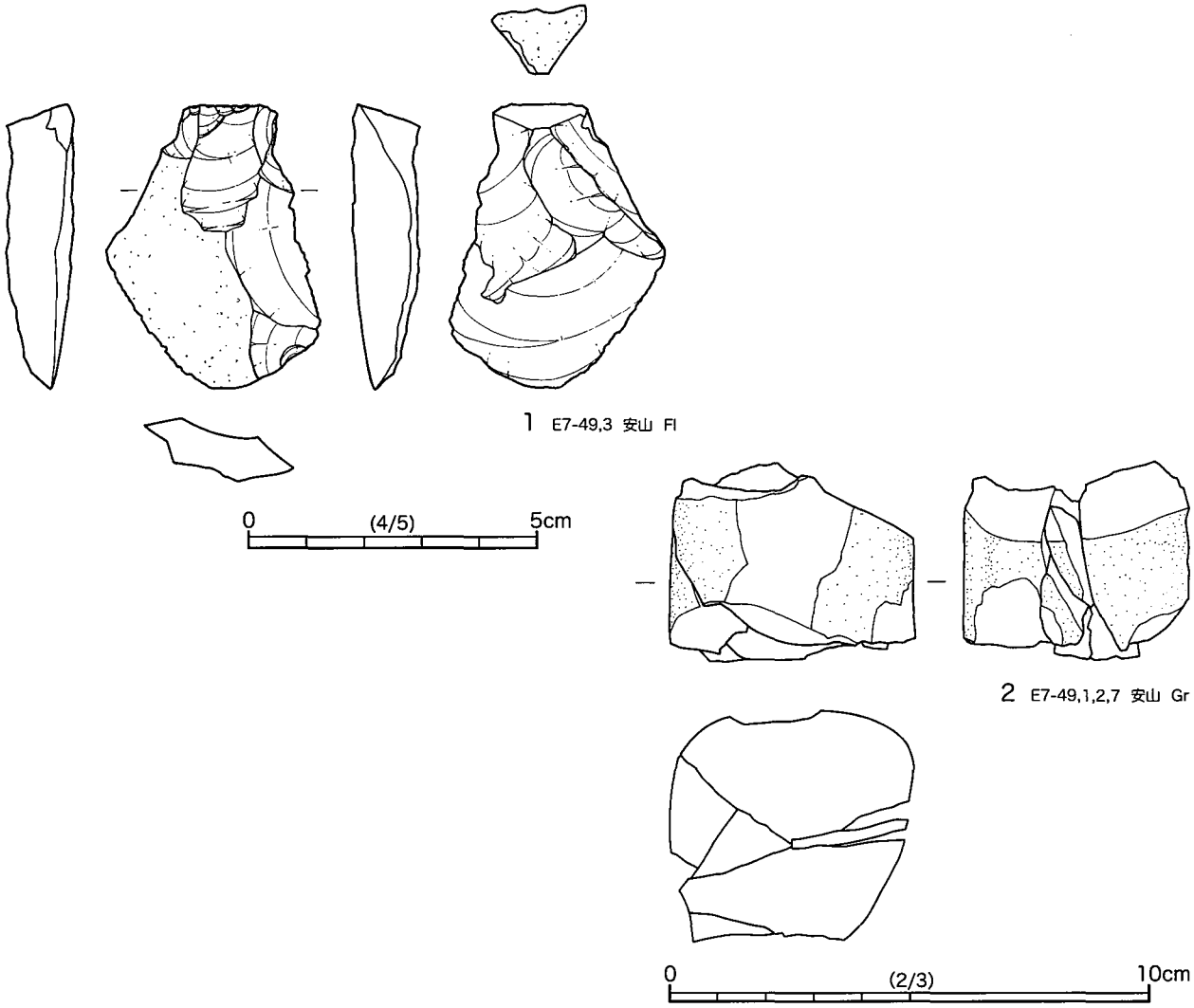
れるが、それ以外の黒曜石、頁岩、チャートは客体的である。定型的な石器は、基部加工のナイフ形石器と台形石器がそれぞれ１点ずつ認められ、他には調整痕のある剥片、剥片で構成される。剥片の形状は概して縦長剥片であり、縦横比は1.5：１以上となるものが多い。

１は珪質頁岩製の台形石器である。素材剥片の打面側および末端部側を折断・除去し、打面部側の調整は折断面に、末端部側の調整は折断面から腹面に対して施される。

２はチャート製のナイフ形石器である。素材剥片は打面に対し軸が斜行した横長剥片であるが、打面部と打面部に最も近い末端部に調整を施した基部調整のナイフ形石器となる。無調整の縁辺部には刃こぼれ状の微細な剥離が認められる。

３は珪質頁岩製の調整痕のある剥片である。調整は打面部、打面付近の両側縁および末端部に施され、いずれも背面に対して行われている。打面部以外の調整は微細な調整である。

４から９は剥片である。４は透明度の高い黒曜石製で、背面は打面方向からの剥離で構成される。５は頁岩製の剥片である。礫面は黄土色、内面は青灰色を呈する。礫面が多く遺存する。背面には剥片剥離工



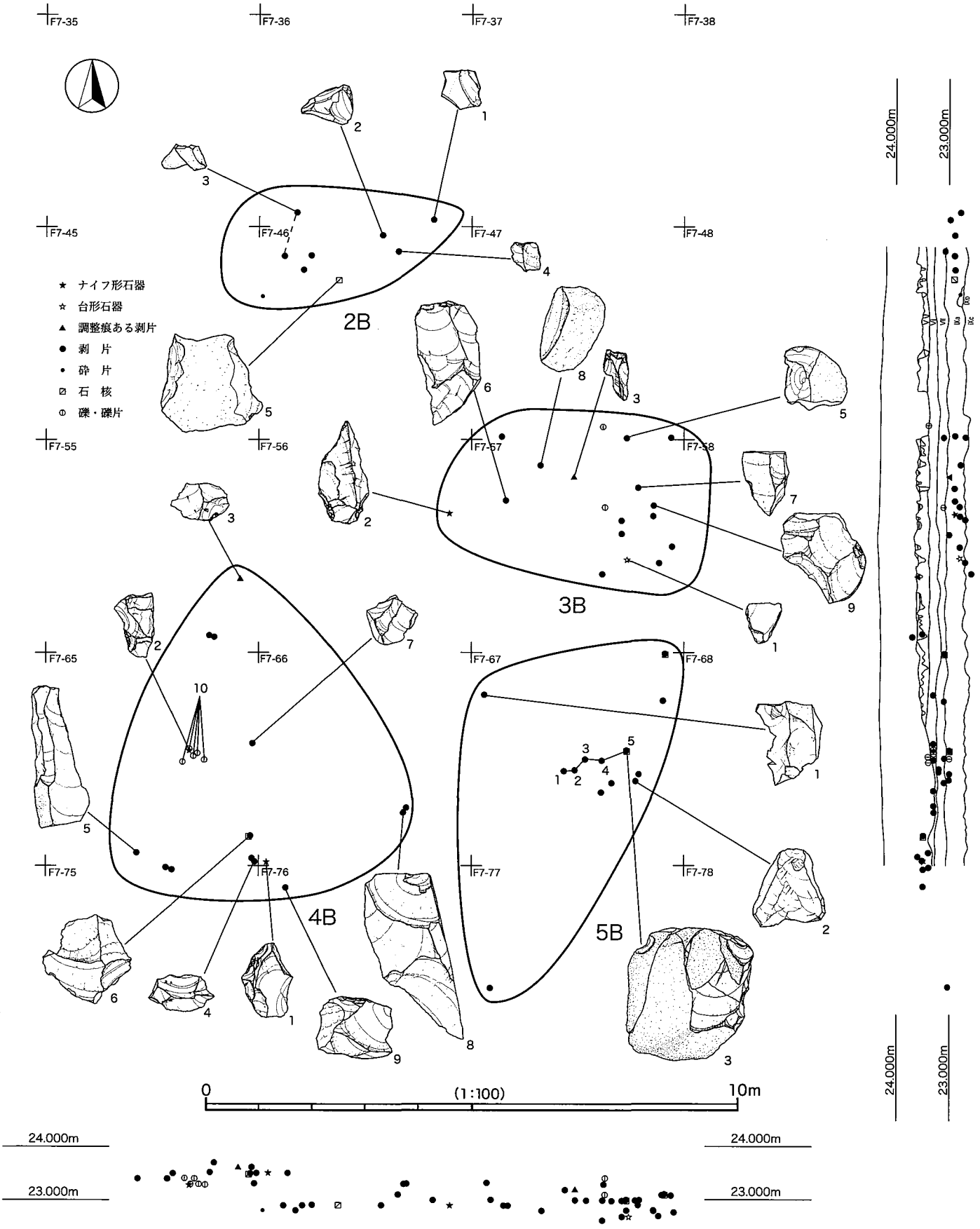
第11図　第１ブロック出土石器

程の初期段階に形成された円錐状の剥離がみられる。６は珪質頁岩製の大型剥片である。色調は青灰色を呈する。背面右側縁にみられる微細な剥離は、調査時の欠損である。中位に極端に厚みを有する部位が認められる。背面は同一打面から連続して剥片剥離を行った剥離痕と、節理状の剥離で構成される。７から９は安山岩製の剥片である。いずれも器表面は黄土色、欠損面は黒色を呈する。７は打面側が欠損し、腹面側折面付近にみられる剥離は折れによる剥離である。剥片作出時の形状は縦長剥片と想定される。背面を構成する剥離は打面側の剥離を基本とするが、一部に末端部側からの剥離が認められる。８の背面には礫面が大きく残存し、剥離痕は腹面側からの単一の剥離である。９は扁平な断面形状を呈し、背面は多方向からの剥離により構成される。右側縁から末端部にかけて礫面が残存する。

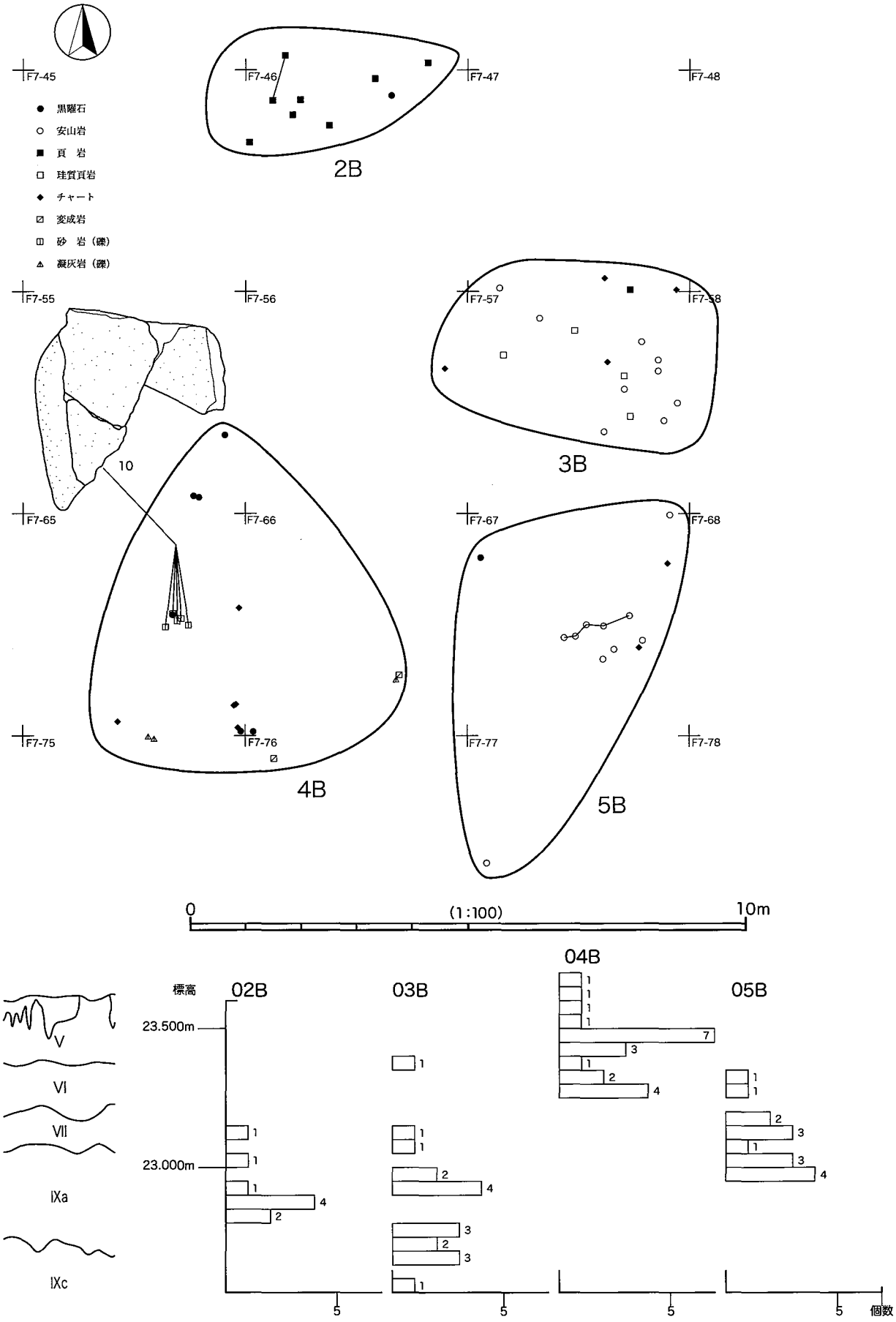
（４）第４ブロック（第12～14・17・18図、第２・６表、図版10）

分布

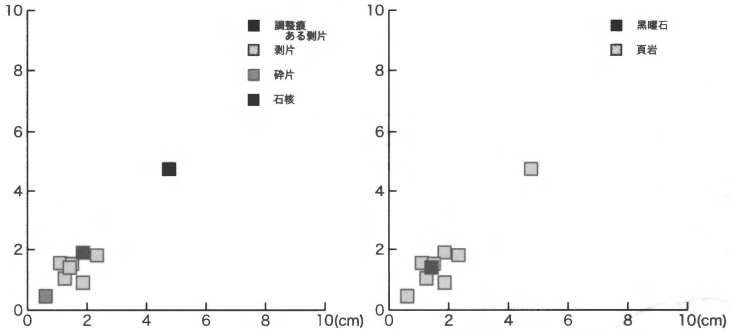
F7-55グリッドからF7-76グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は径６ｍの範囲で収束し、北側に向かい突出した正三角形に近い形状を呈する。分布範囲内でF7-65グリッド中央部および南東隅付近



第12図　第２～５ブロック器種別分布



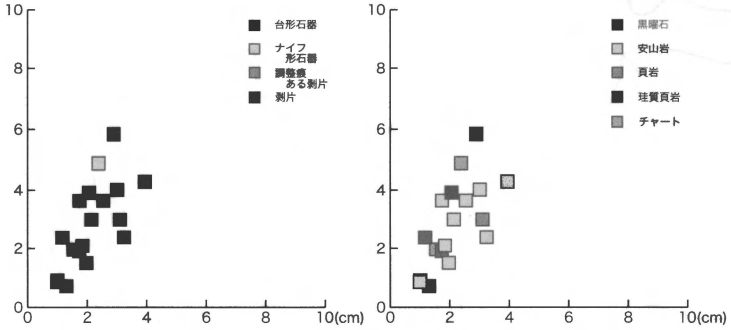
第13図　第２～５ブロック石材別分布



02B

	調整痕ある剥片	剥 片	砕 片	石 核	合 計	組成比
黒曜石		1 0.9			1 0.9	11.11 1.68
頁 岩	1 2.0	5 5.4	1 0.1	1 45.0	8 52.5	88.89 98.32
合 計	1 2.0	6 6.3	1 0.1	1 45.0	9 53.4	100.00 100.00
組成比	11.11 3.74	66.67 11.80	11.11 0.19	11.11 84.27	100.00 100.00	

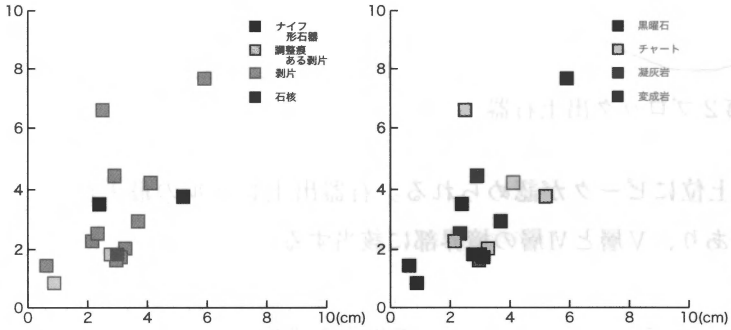
02B



03B

	ナイフ形石器	台形石器	調整痕ある剥片	剥 片	礫	合 計	組成比
黒曜石				1 2.2		1 2.2	5.55 2.18
頁 岩				1 11.4		1 11.4	5.55 11.38
珪質頁岩		1 1.7	1 0.7	2 23.1		4 25.5	22.22 25.45
安山岩				10 51.4		10 51.4	55.57 51.31
チャート	1 8.7			1 1.0		2 9.7	11.11 9.68
合 計	1 8.7	1 1.7	1 0.7	15 89.1		18 100.2	100.00 100.00
組成比	5.55 8.68	5.55 1.69	5.55 0.70	83.35 88.93		100.00 100.00	
チャート					2 20.7		

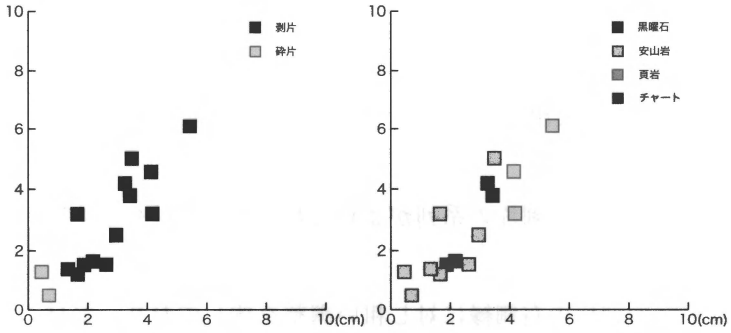
03B



04B

	ナイフ形石器	調整痕ある剥片	剥 片	石 核	礫	合 計	組成比
黒曜石	2 10.0	2 2.3	2 2.4			6 14.7	37.50 8.52
チャート			4 41.1	1 51.2		5 92.3	31.25 53.47
凝灰岩			3 16.3			3 16.3	18.75 9.44
変成岩			2 49.3			2 49.3	12.50 28.57
合 計	2 10.0	2 2.3	11 109.1	1 51.2		16 172.6	100.00 100.00
組成比	12.50 5.79	12.50 1.33	68.75 63.22	6.25 29.66		100.00 100.00	
砂 岩					5 59.9		

04B



05B

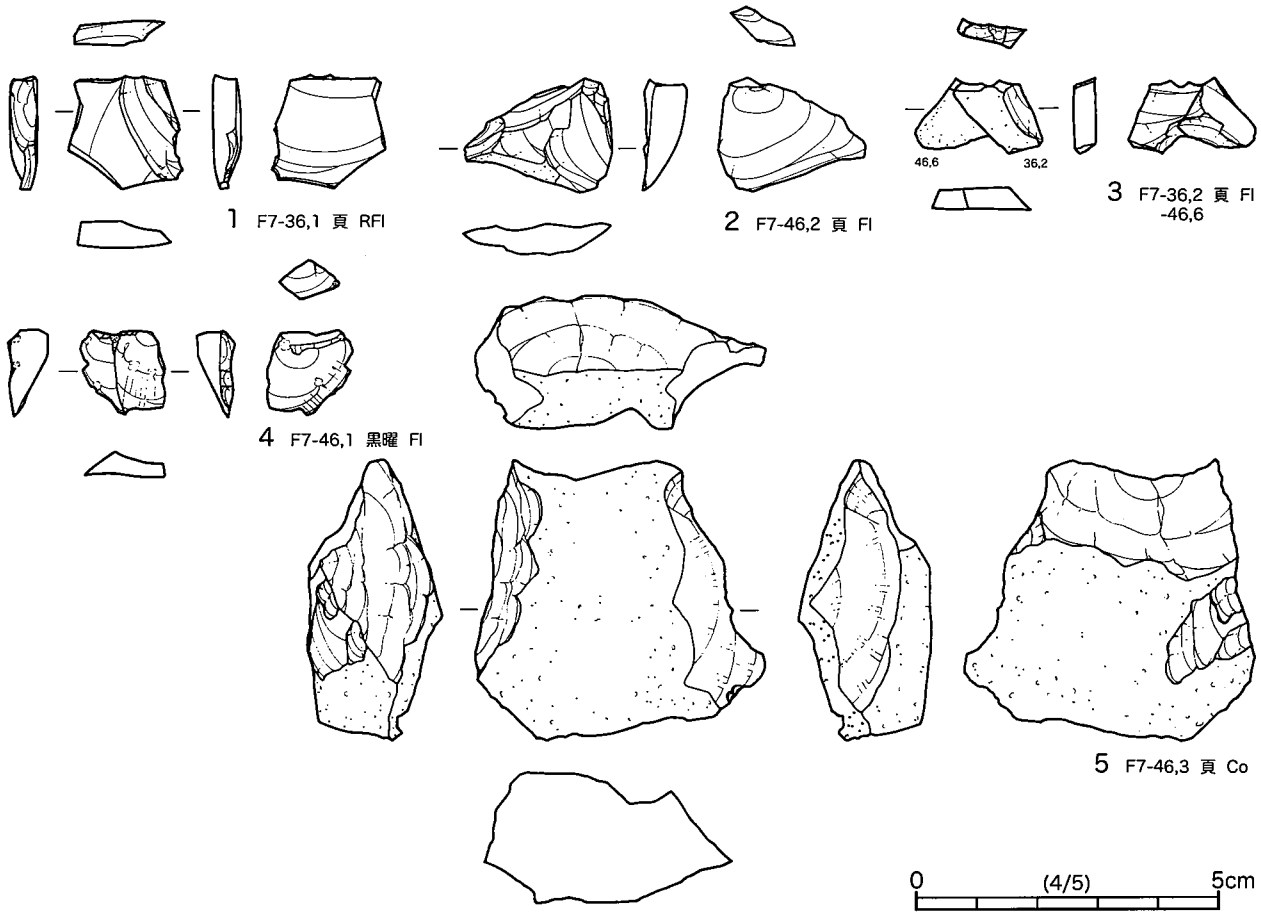
	剥 片	砕 片	合 計	組成比
黒曜石	1 9.3		1 9.3	6.67 8.30
安山岩	9 89.6	2 0.2	11 89.8	73.33 80.19
頁 岩	1 1.1		1 1.1	6.67 0.98
チャート	2 11.8		2 11.8	13.33 10.53
合 計	13 111.8	2 0.2	15 112.0	100.00 100.00
組成比	86.67 99.82	13.33 0.18	100.00 100.00	

05B

第14図　第２～５ブロック石器形状比グラフ

第２表　第２～５ブロック石器組成表

に集中箇所が認められ、南東隅の集中はチャート製の剥片石器、中央部の集中は砂岩製の礫片で構成される。



第15図　第２ブロック出土石器

垂直分布のヒストグラムはⅤ層中位とⅥ層上位にピークが認められる。石器出土レベルの最大値は23.658m、最小値は23.250m、平均は23.431mであり、Ⅴ層とⅥ層の境界部に該当する。

接合資料

剥片石器の接合関係は認められなかったものの、F7-65グリッド中央部の集中を構成する砂岩製の礫片に接合関係が認められた。

器種・石材

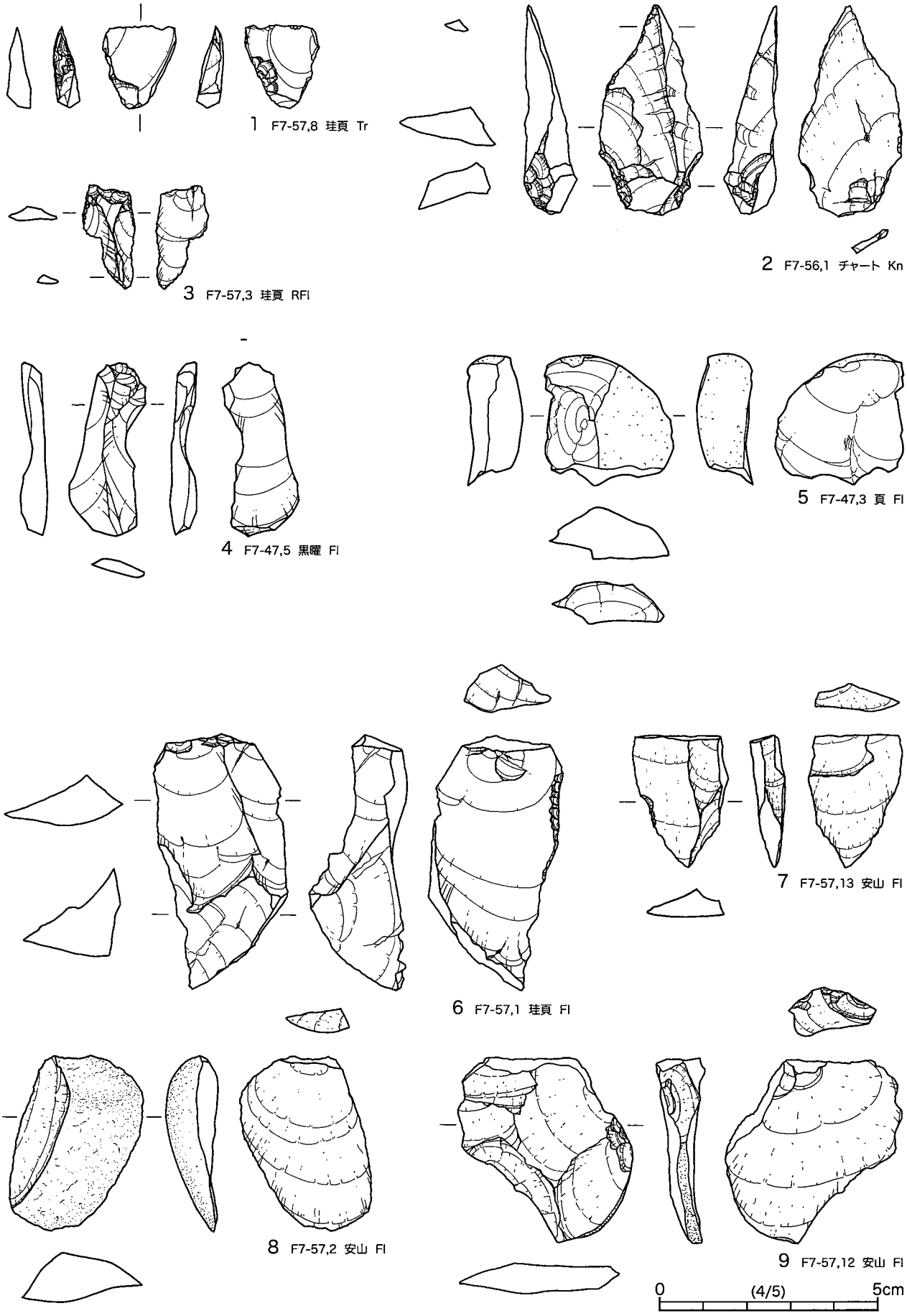
黒曜石製のナイフ形石器２点を組成に含み、他は調整痕ある剥片、剥片、石核で構成される。点数的には黒曜石が37.5％となるが、重量比ではチャート・変成岩が突出し、なかでもチャートの重量比は53.47％と半数を上回る。

石器の縦横比には、２：３の横長剥片の系列と２：１の縦長剥片の系列が認められるが、石材もしくは器種による共通性・統一性は認められない。

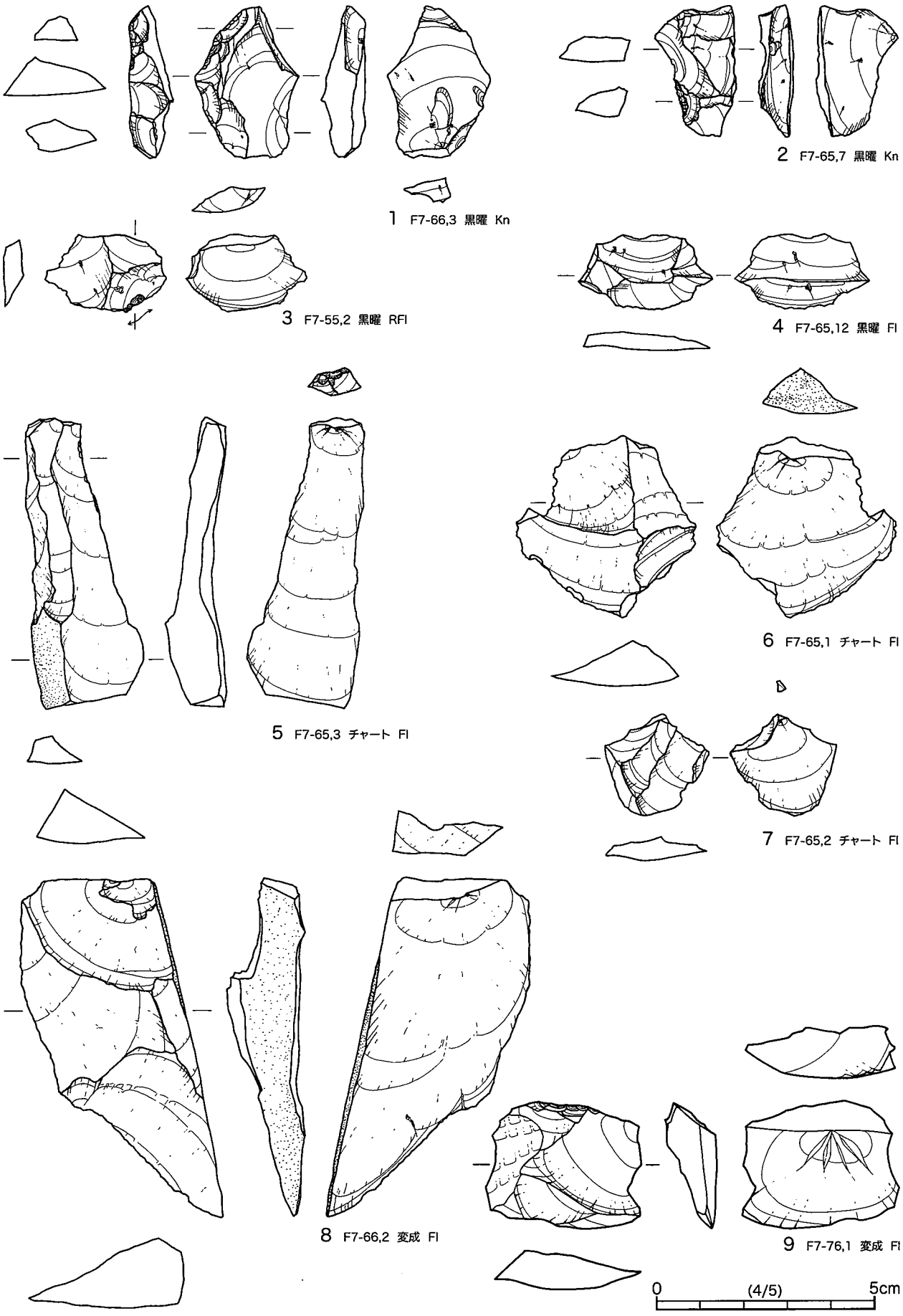
１・２は黒曜石製のナイフ形石器である。１は不定形剥片の右側縁に対し粗い調整を施しており、素材剥片の打面を残している。２は素材剥片の打面部に調整を施し、対する辺は折断後無調整で作出されている。

３は黒曜石製の横長剥片の末端部に調整を施した、調整痕ある剥片である。調整部位は極めて限定的である。

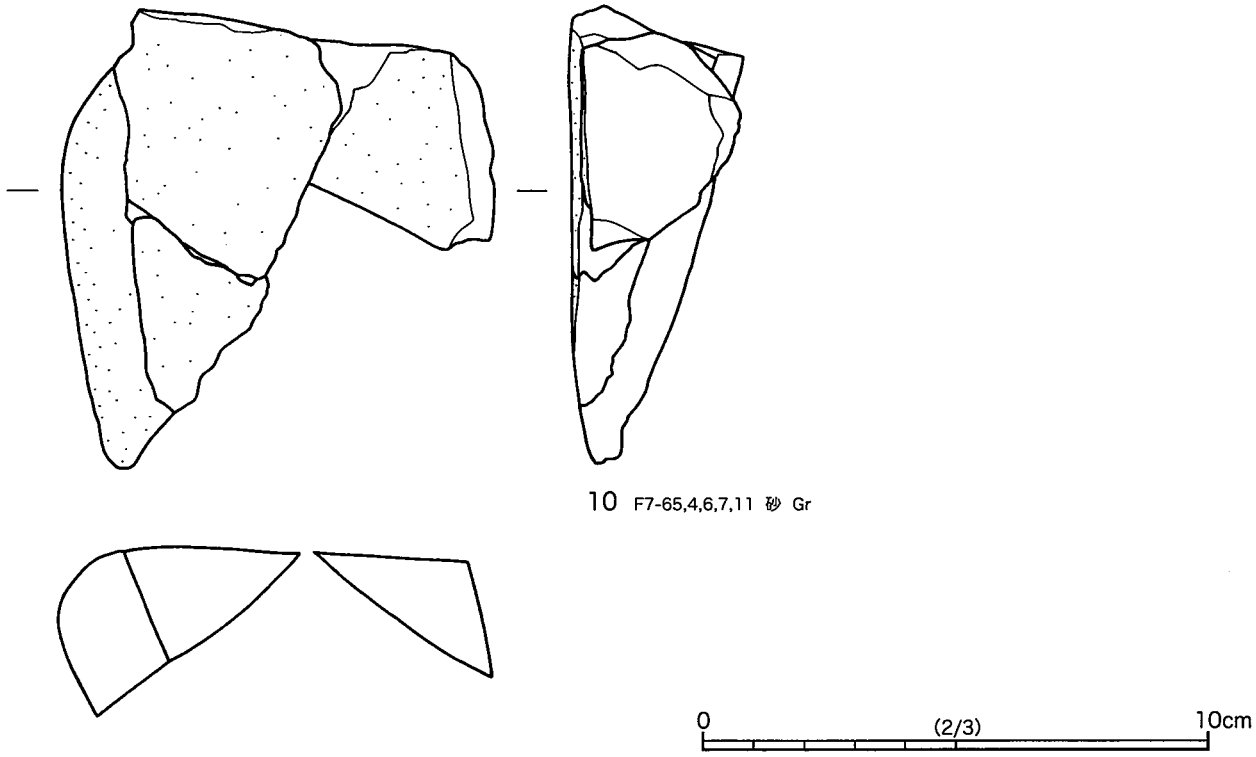
４から９は剥片である。４は黒曜石製の横長剥片であり、打面部は剥片剥離時に欠損している。５はチ



第16図　第３ブロック出土石器



第17図　第４ブロック出土石器（１）



第18図　第４ブロック出土石器（２）

ャート製の縦長剥片で、器表面の色調は青灰色であるが、平滑感が無くざらついている。背面を構成する剥離は打面方向からであり、中央および右側縁側の剥離からは、同一打面から連続的に剥片剥離を行った形跡が明らかである。６・７は青灰色を呈するチャート製の不定形剥片で同一母岩から作出された剥片と考えられる。背面を構成する剥離は多方向からの剥離であり、６は礫面を打面として作出される。８・９は変成岩製の剥片である。器表面は暗灰色を呈し、ざらついた感がある。８は縦長剥片、９は横長剥片であるが、両者とも背面は多方向からの剥離で構成される。10は砂岩製の礫片の接合資料である。礫面は被熱し赤化するが、著しい赤化ではなく平滑感がある。

（５）第５ブロック（第12～14・19・20図、第２・６表、図版10）

分布

F7-67グリッドからF7-77グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は長軸６ｍ、短軸４ｍの範囲で収束する。F7-67グリッド中央部に集中区が認められる他は散漫な分布状況である。

垂直分布のヒストグラムはⅦ層下部とⅨa層上部にピークが認められる。石器出土レベルの最大値は23.345m、最小値は22.956m、平均は23.097mであり、Ⅶ層とⅨa層の境界部に該当する。

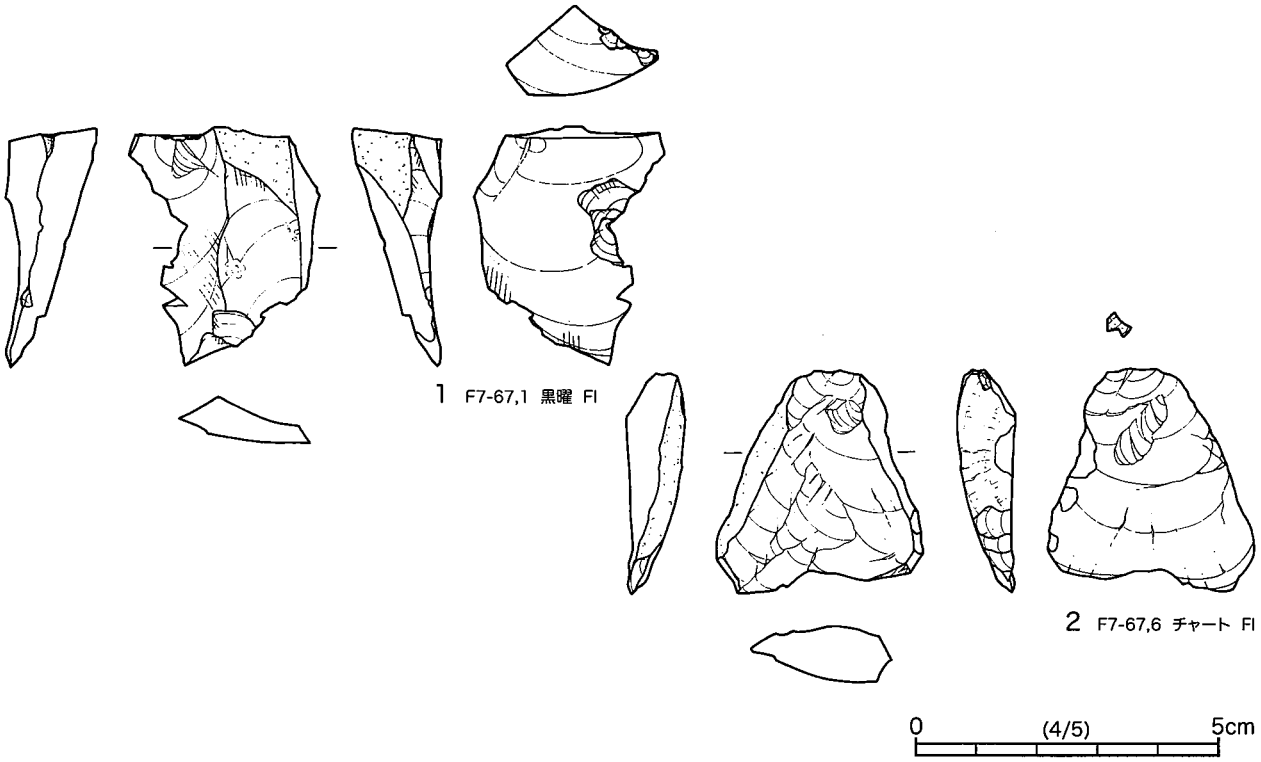
接合資料

F7-67グリッド中央部の集中区から安山岩製の接合資料が確認された。

器種・石材

定型的な石器はなく、剥片・砕片で構成される。計15点のうち安山岩製の石器が点数比・重量比でも大半を占める。他の石材は黒曜石、頁岩、チャートが使用されるが客体的である。

石器の縦横比は、小型の剥片に横長傾向がみられるものの、全体的にはほぼ縦横の比が等しくなる感が



第19図　第５ブロック出土石器（１）

ある。

１は黒曜石製の剥片である。透明度が高く、直径３㎜ほどの夾雑物が混入する。打面を広く設定して作出されており、最大厚の部位は打面直下となる。背面打面付近に節理状の礫面が認められる。

２はチャート製の剥片である。背面左側縁には礫面、右側面には剥片剥離の際に節理面により分離した痕跡が認められる。

３は安山岩製の接合資料である。礫面、剥離面共に暗灰色を呈し、礫面には平滑感のある石材である。打面を共有して連続的に作出されているが、２と３の間の剥片は確認できなかった。

（６）第６ブロック（第21～24図、第３・６表、図版11）

分布

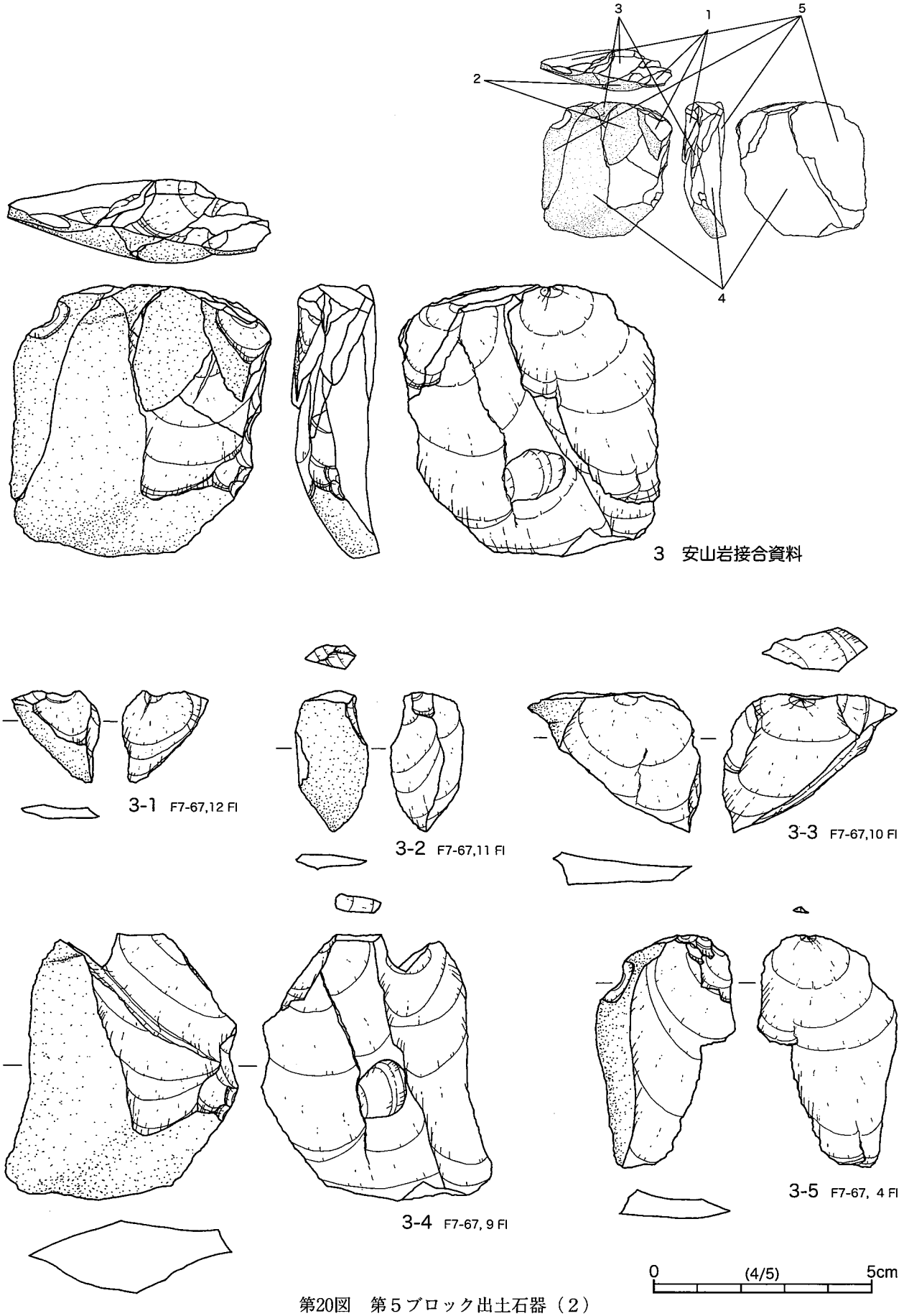
F8-14グリッドからF8-25グリッドにかけて検出された。分布範囲は４ｍほどの範囲で、やや散漫な分布状況である。

垂直分布の上方はⅤ層、下方はⅨ層下位と高低差が大きく、ヒストグラムのデータも文化層の決定には至らない状況である。Ⅴ層付近から出土した石器は、攪乱により定位置を保っていない可能性も考えられる。出土レベルの最大値は22.477m、最小値は21.530m、平均レベルは22.026mである。

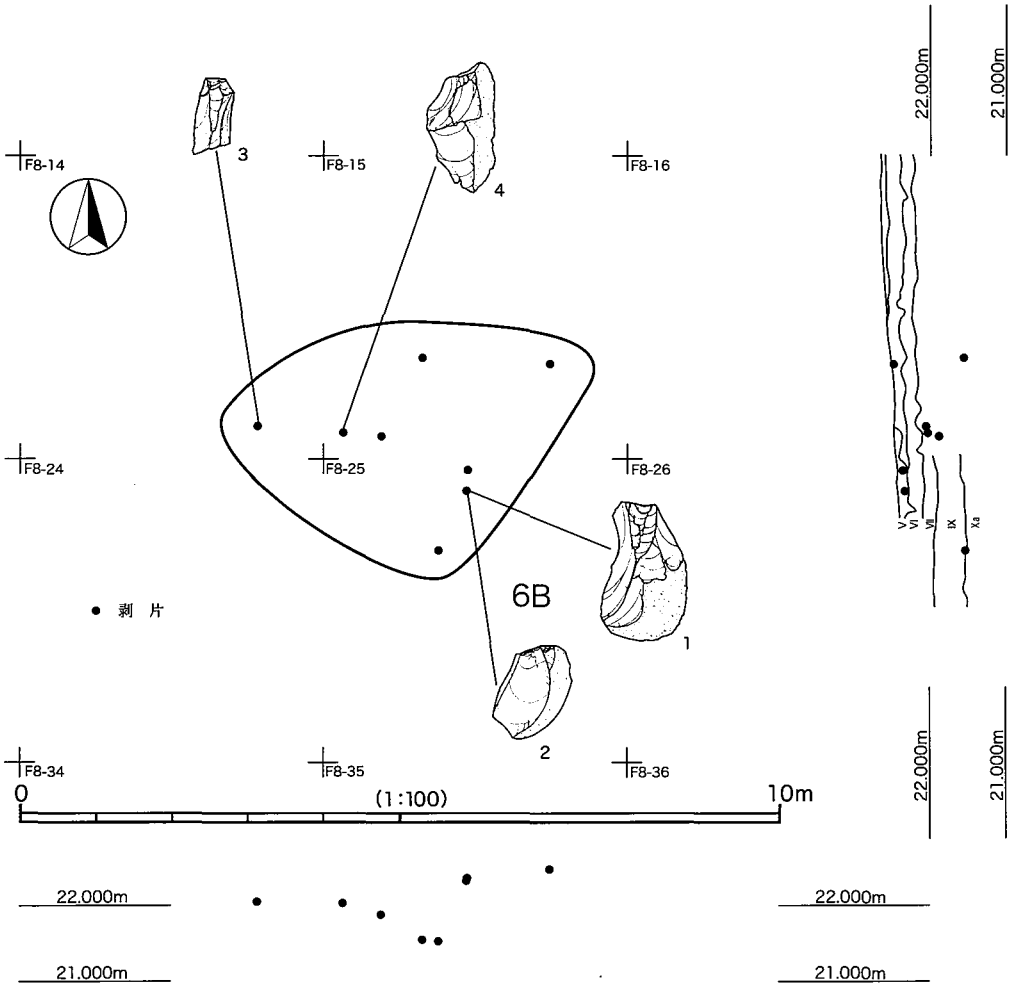
器種・石材

計13点出土している石器のうち、点数的には黒曜石が38.47％を占めるが、重量比では20.92％に過ぎない。石器の縦横比については、縦横２cm付近の石器に横長の傾向があるが、他は概して1.5：１の縦長となる傾向が認められる。

１は暗灰色を呈する頁岩製の剥片である。背面は礫面と打面方向からの剥離で構成され、腹面の打瘤は



第20図　第５ブロック出土石器（２）



第21図　第６ブロック器種別分布

大きく発達しており、この付近に最大厚をもつ。

２・３は頁岩製の剥片である。礫面は黄土色、剥離面は黄土色を基調としてやや緑がかる色調である。２の背面には礫面がみられ、大半は打面方向からの剥離で構成されるが、一部末端部側からの剥離が認められる。３は末端部が欠損した縦長剥片である。背面構成は打面側からの剥離が基本であるが、右側縁部には腹面側右方向からの剥離が認められる。

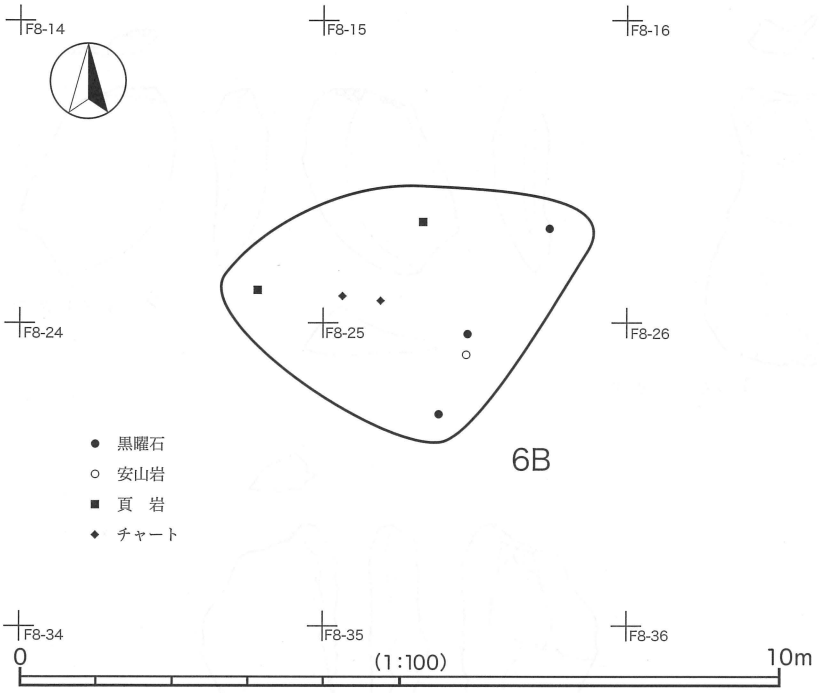
４は青灰色を呈するチャート製の剥片である。縦長剥片であるが、背面は打面側、左側縁側からの剥離により構成される。背面右側縁には礫面が認められる。

（７）第７ブロック（第25～28図、第４・６表、図版11）

分布

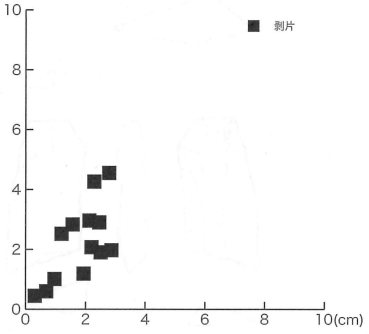
E9-03グリッドからE9-13グリッドにかけて検出された。散漫な分布であるが、ブロックの主体はE9-12・13グリッドの長軸６ｍ、短軸３ｍの範囲である。砂岩を主体とした礫群を伴うが、礫群と剥片石器との平面分布状の偏りは認められない。

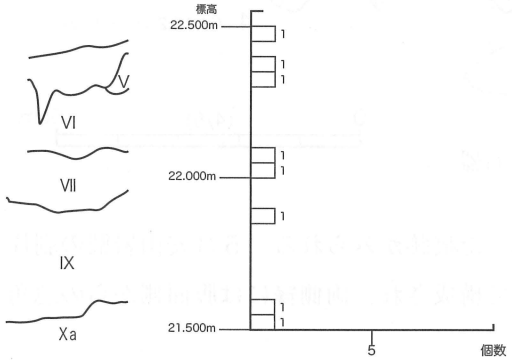
石器の出土レベルには大差はなく、Ⅲ層から下方はⅥ層下位に止まる。ヒストグラムは第８ブロックに合わせて作成しているため、正しいヒストグラムのピークはⅤ層を示す。石器出土レベルの最大値は



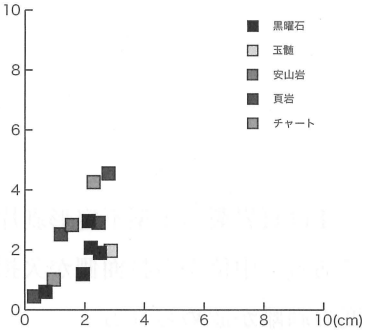
	剥　片	合　計	組成比
黒曜石	5 8.6	5 8.6	38.47 20.92
玉　髄	1 4.5	1 4.5	7.69 10.95
安山岩	1 3.3	1 3.3	7.69 8.03
頁　岩	4 17.5	4 17.5	30.77 42.58
チャート	2 7.2	2 7.2	15.38 17.52
合　計	13 41.1	13 41.1	100.00 100.00
組成比		100.00 100.00	

第３表　第６ブロック石器組成表





第22図　第６ブロック石材別分布



第23図　第６ブロック形状比グラフ

23.959m、最小値は23.369m、平均は23.691mである。

器種・石材

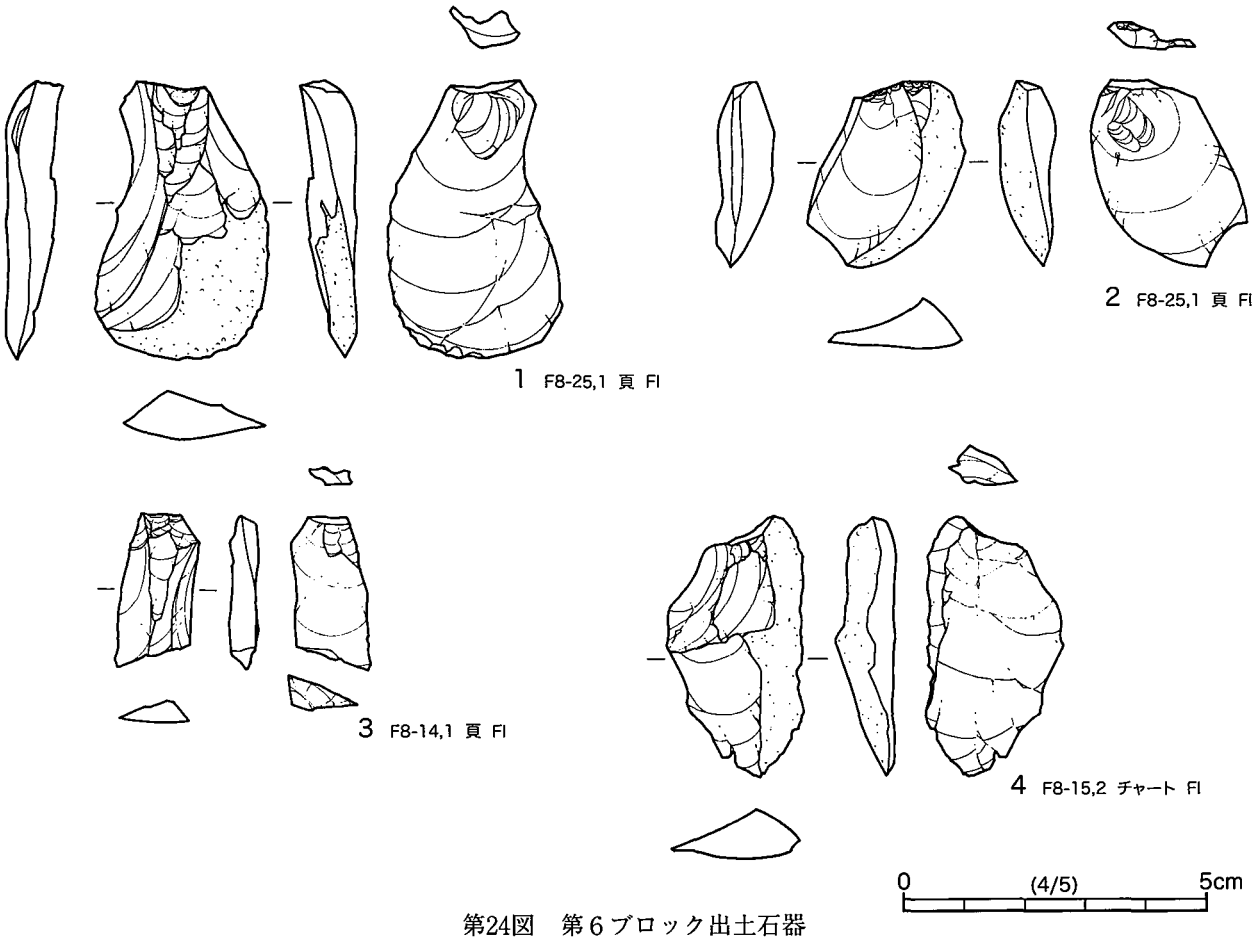
剥片石器は計７点出土している。珪質頁岩製の角錐状石器と使用痕ある剥片を組成に含み、他は頁岩製、安山岩製の剥片、頁岩製の剥片利用石核である。珪質頁岩は黒色を呈し、特に角錐状石器の器表面にはフズリナ有孔虫の化石混入が顕著にみられる。

礫群を形成する礫は、点数的には砂岩が半数を占めるが、重量比では花崗岩が58.38％を占める。

１は珪質頁岩製の角錐状石器である。先端部付近が欠損する。調整は両側縁に対して行われ、急角度の調整が腹面側から施される。

２は頁岩製の剥片利用石核である。部厚な大型剥片を利用し、左側縁にみられる剥離面を打面とし、連続的に剥片を作出している。右側縁付近は腹面側からの剥片剥離の痕跡も見受けられる。

３は珪質頁岩製の使用痕のある剥片であり、１と同様に部分的にフズリナ有孔虫化石の混入が認められる。横長の不定形剥片で、使用痕は左側縁に部分的に認められる。



第24図　第６ブロック出土石器

４は頁岩製の小型不定形剥片で、剥片剥離時に打点から分割した痕跡がみられる。５は安山岩製の剥片である。中位から打面側が欠損する。背面は多方向からの剥離で構成され、両側縁には腹面側からの急角度の剥離が認められる。

６は花崗岩製の敲石である。打撃部位は裏面側の平坦面であり、剥落痕が顕著に認められる。

７は花崗岩製の礫である。被熱の痕跡は認められず、礫面は平滑で一部光沢もみられる。

（８）第８ブロック（第25～27・29～32図、第４・６表、図版11～13）

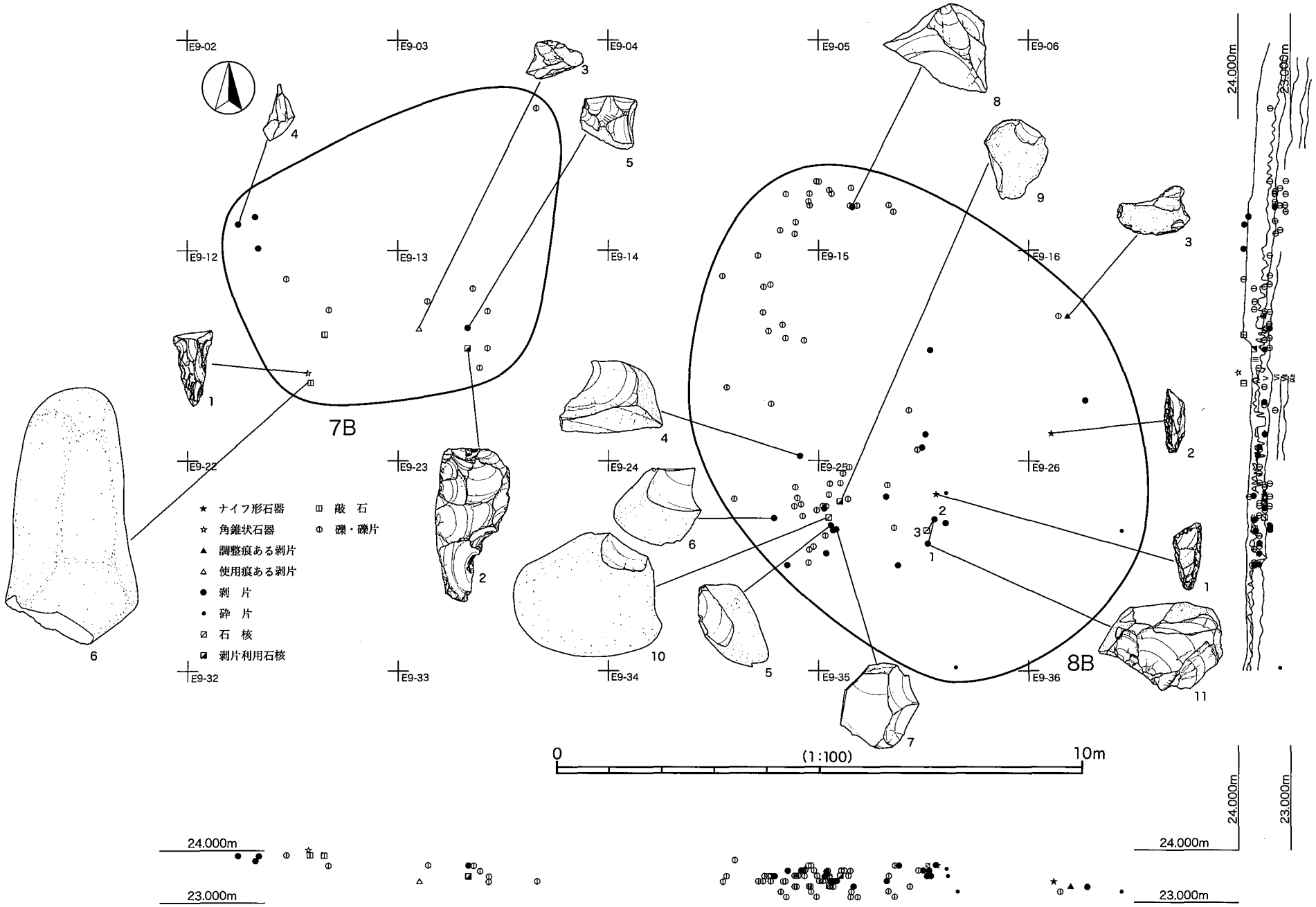
分布

E9-04グリッドからE9-26にかけて検出された。直径８ｍのほぼ円形状に石器が分布するが、E9-15グリッド杭付近とE9-25グリッド杭付近にそれぞれ集中区が認められる。礫群を伴い、E9-15グリッド杭付近の集中区はほぼ礫で構成され、E9-25グリッド杭付近の集中区は剥片石器と礫が混在する。

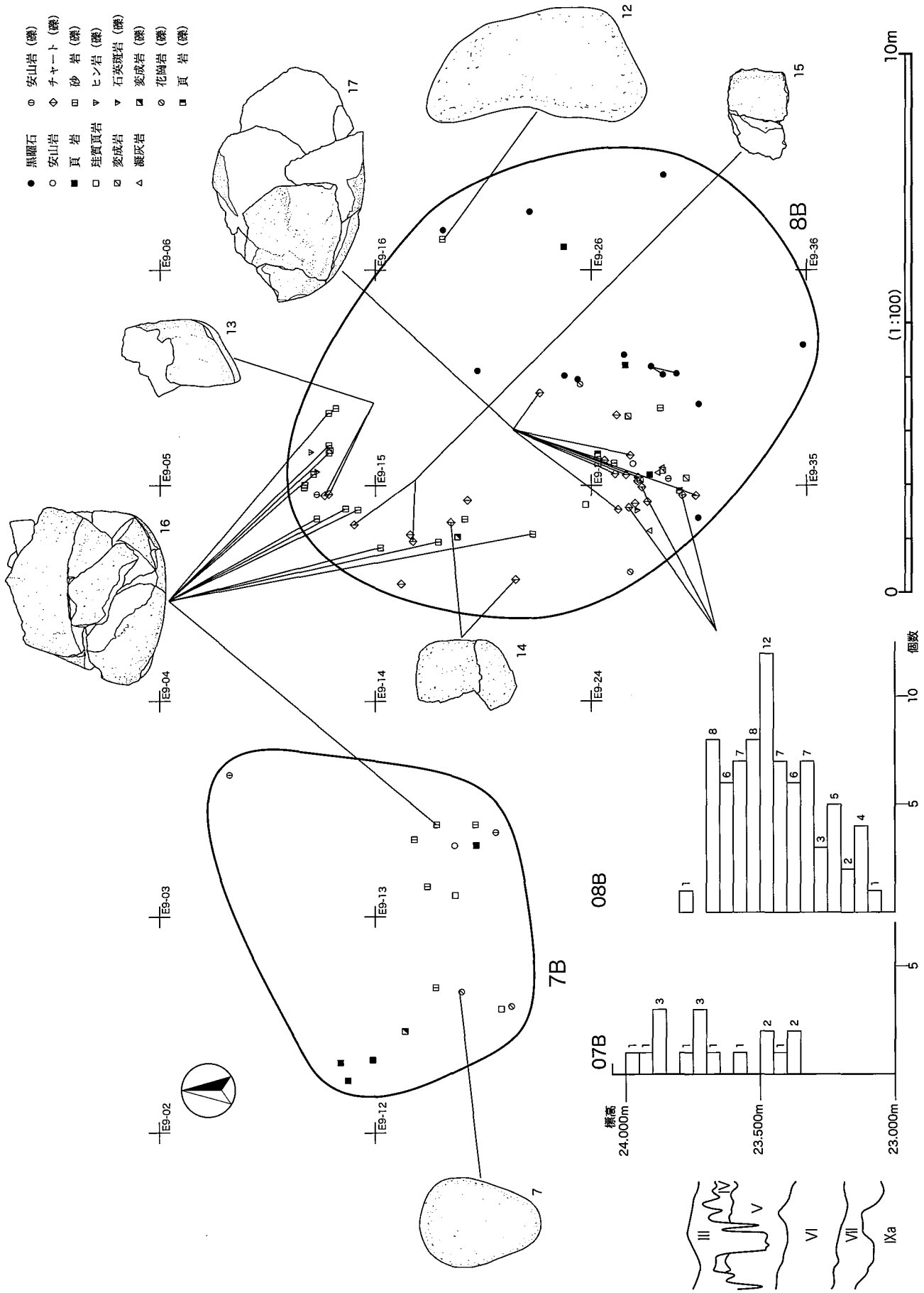
石器の出土層位Ⅲ層からⅥ層下部にわたり、高低差が大きい。ヒストグラムはやや上方に集中する傾向がみられ、Ⅳ層からⅤ層の境界部にピークが認められる。石器出土レベルの最大値は23.772m、最小値は23.070m、平均は23.444mである。

接合資料

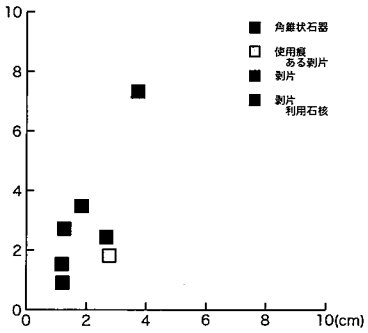
剥片石器では黒曜石製の接合資料が一個体確認された。礫ではE9-15グリッド杭付近の集中区からは砂岩製、E9-25グリッド杭付近の集中区からはチャート製のまとまった接合資料が確認された。

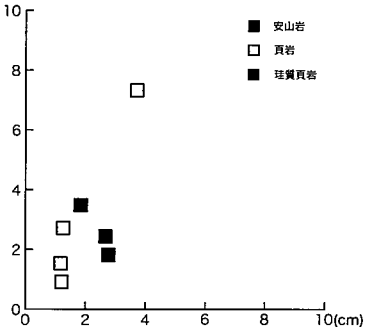


第25図　第７・８ブロック器種別分布



第26図　第７・８ブロック石材別分

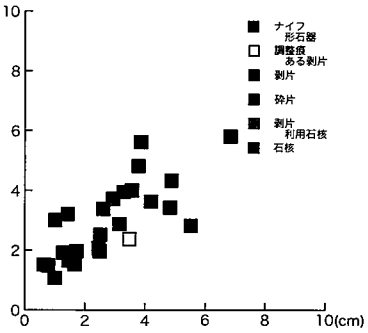


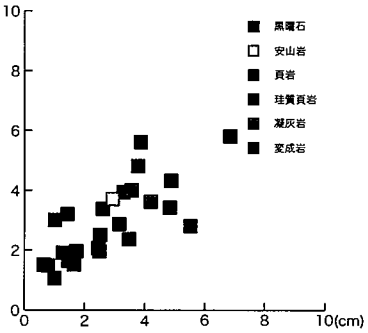


07B

	角錐状石器	使用痕ある剥片	剥片	剥片利用石核	敲石	礫	合計	組成比
安山岩			1 7.2				1 7.2	14.28 13.11
頁岩			3 2.8	1 37.1			4 39.9	57.16 72.68
珪質頁岩	1 5.5	1 2.3					2 7.8	28.56 14.21
合計	1 5.5	1 2.3	4 10.0	1 37.1			7 54.9	100.00 100.00
組成比	14.28 10.02	14.28 4.19	57.16 18.21	14.28 67.58			100.00 100.00	
花崗岩					2 423.7		2 423.7	20.00 58.38
安山岩						2 61.9	2 61.9	20.00 8.54
変成岩						1 22.5	1 22.5	10.00 3.11
砂岩						5 216.4	5 216.4	50.00 29.87
合計					2 423.7	8 300.8	10 724.5	100.00 100.00
組成比					20.00 58.48	80.00 41.52	100.00 100.00	

07B





08B

	ナイフ形石器	調整痕ある剥片	剥片	砕片	石核	剥片利用石核	礫	合計	組成比
黒曜石		1 3.9	8 33.3	3 0.8	1 38.2			13 76.2	49.99 20.74
安山岩						1 15.2		1 15.2	3.85 4.14
頁岩	2 4.9				1 161.0			3 165.9	11.54 45.18
珪質頁岩			1 14.2					1 14.2	3.85 3.86
変成岩			5 57.8					5 57.8	19.23 15.74
凝灰岩			3 38.0					3 38.0	11.54 10.34
合計	2 4.9	1 3.9	17 143.3	3 0.8	2 199.2	1 15.2		26 367.3	100.00 100.00
組成比	7.69 1.33	3.85 1.06	65.38 39.01	11.54 0.22	7.69 54.24	3.85 4.14		100.00 100.00	
安山岩							2 73.4	2 73.4	3.70 3.77
花崗岩							2 249.6	2 249.6	3.70 12.83
石英斑岩							2 72.3	2 72.3	3.70 3.72
ヒン岩							1 7.2	1 7.2	1.86 0.37
変成岩							1 18.2	1 18.2	1.86 0.93
チャート							27 581.0	27 581.0	50.00 29.86
頁岩							2 21.7	2 21.7	3.70 1.11
砂岩							17 922.5	17 922.5	31.48 47.41
合計							54 1945.9	54 1945.9	100.00 100.00
組成比							100.00 100.00	100.00 100.00	

08B

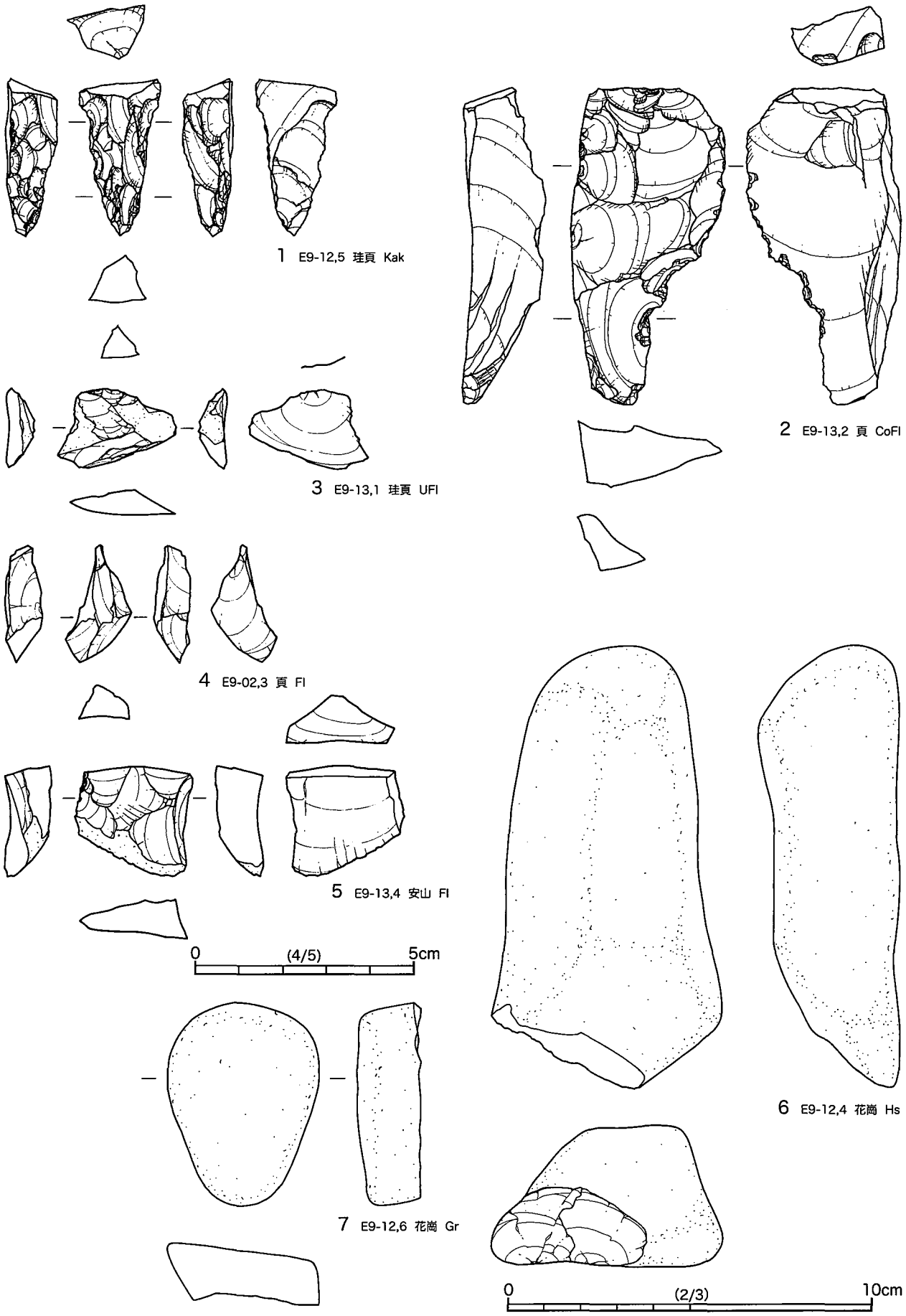
第27図　第７・８ブロック石器形状比グラフ

第４表　第７・８ブロック石器組成表

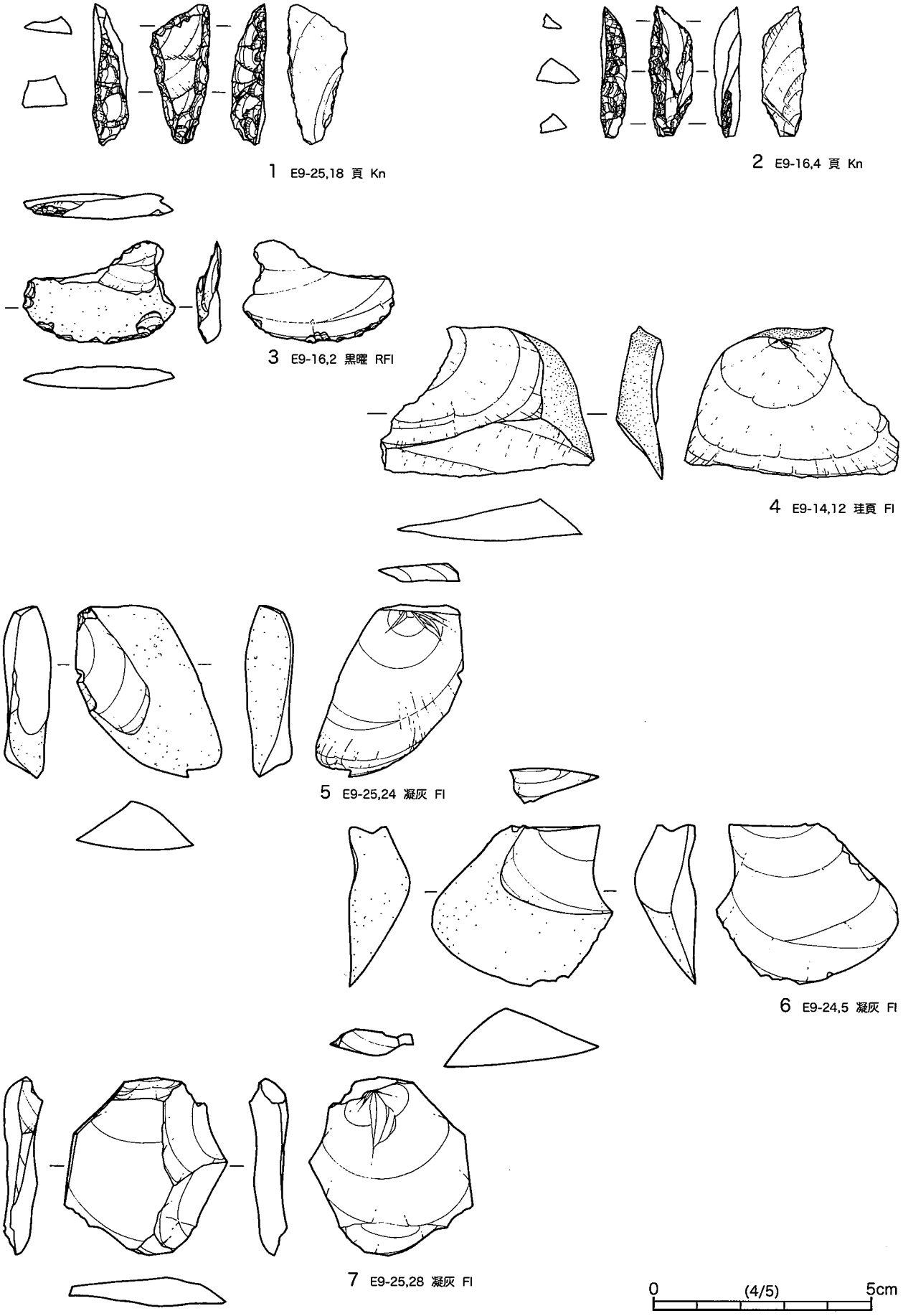
器種・石材

剥片石器は計26点出土し、頁岩製のナイフ形石器２点を組成に含む。ナイフ形石器以外に定型的な石器は認められず、黒曜石製の調整痕ある剥片の他は剥片、砕片、石核で占められる。

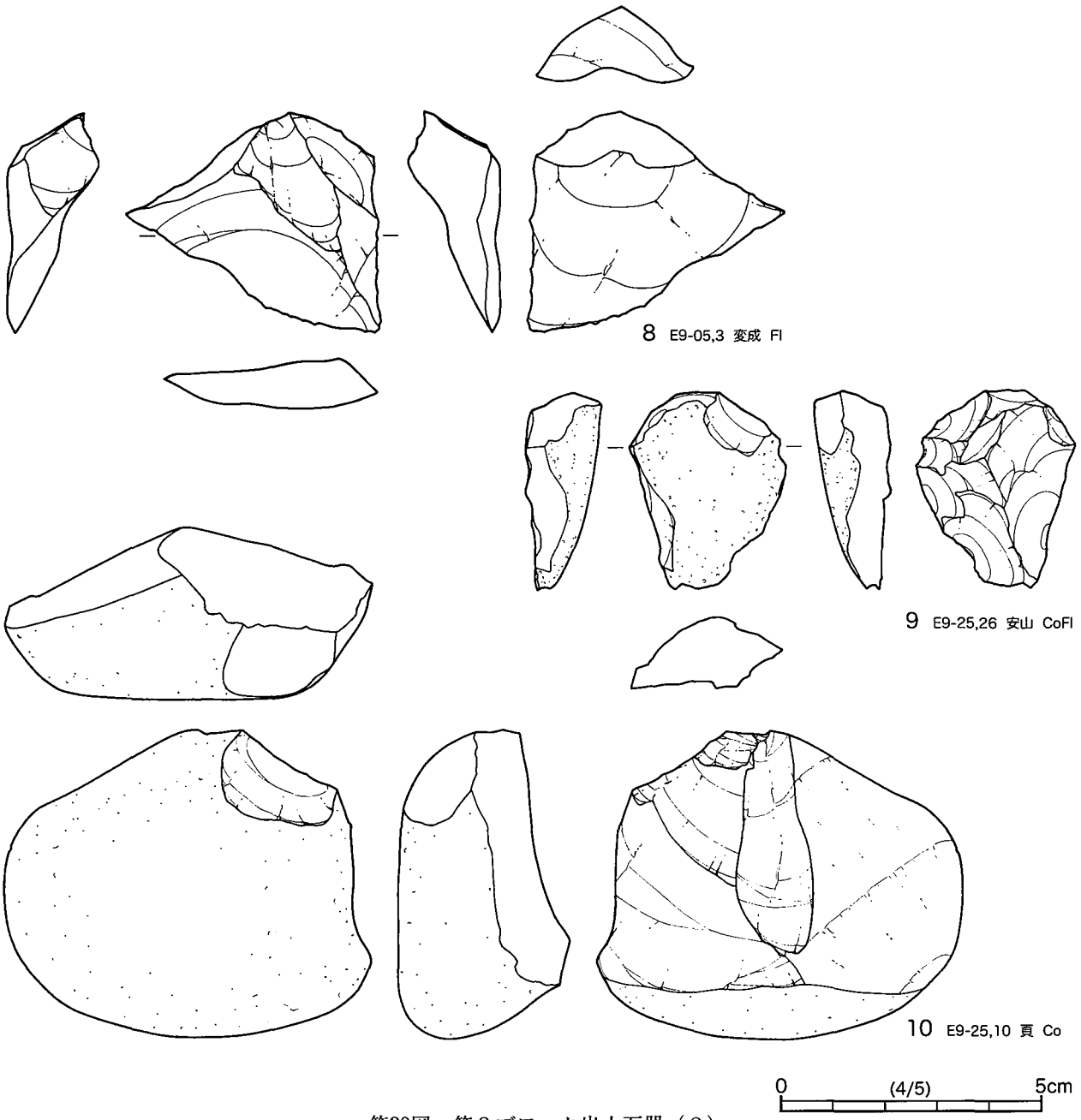
石器の縦横比は横長の傾向が認められるが、極端な横長系統ではなく１：１に近い横長系統である。



第28図　第７ブロック出土石器



第29図　第８ブロック出土石器（１）



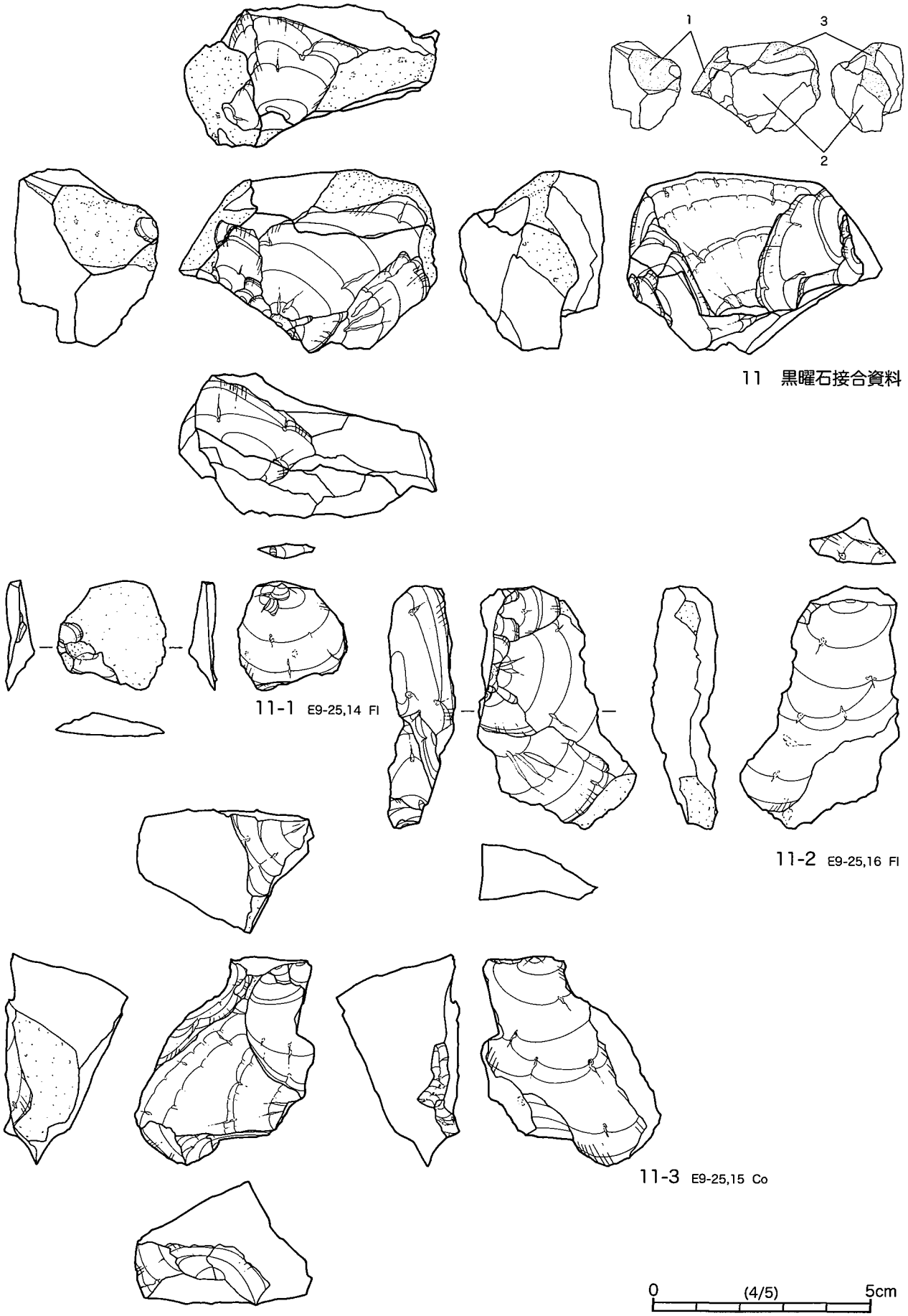
第30図　第８ブロック出土石器（２）

石材は黒曜石を中心に、変成岩、頁岩、凝灰岩、安山岩、珪質頁岩が使用される。点数的には黒曜石が半数を占めるが、重量比では大型の石核を含む頁岩が45.18％におよぶ。

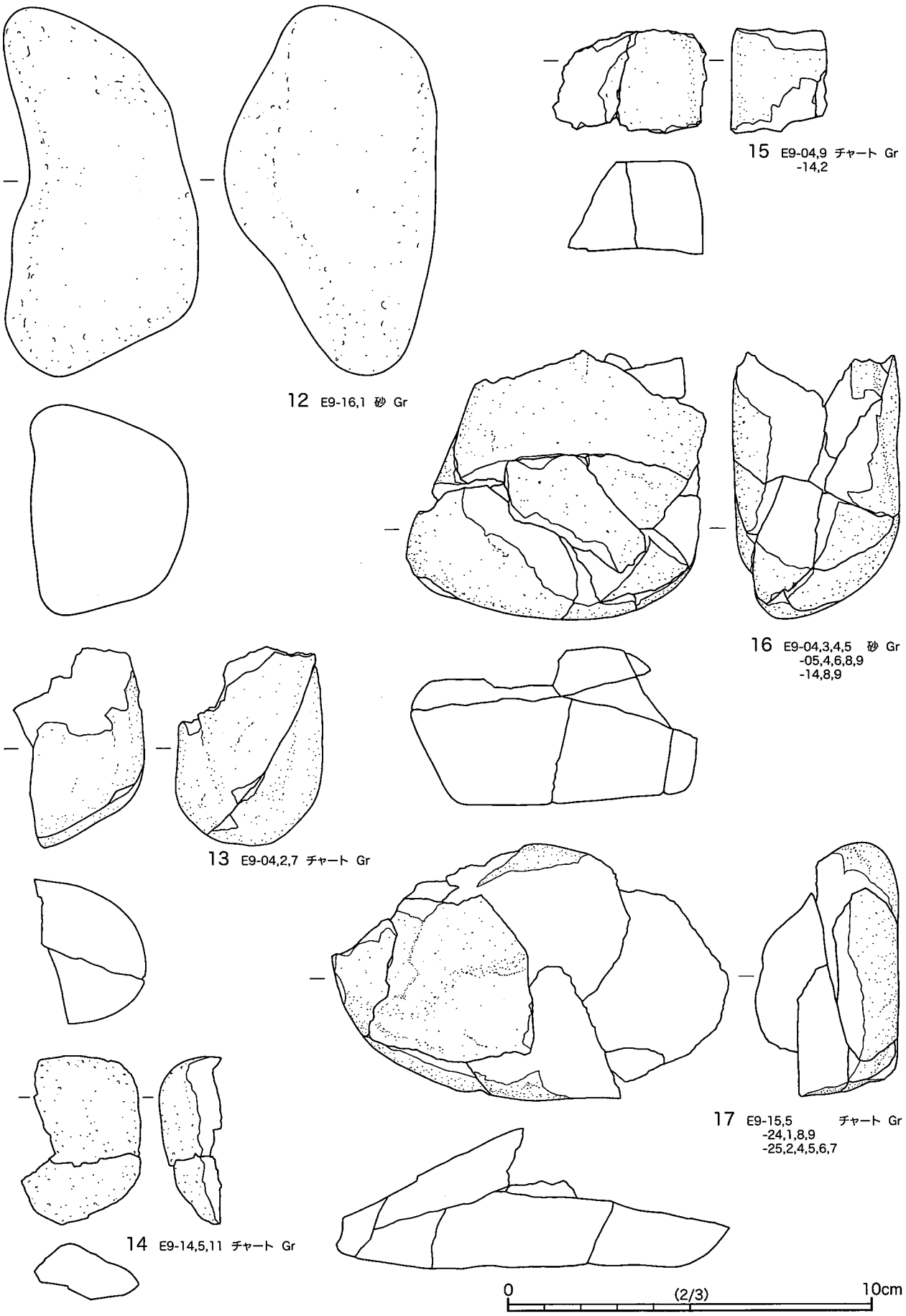
１・２は頁岩製のナイフ形石器である。１は素材剥片の打面部および末端部に対し、腹面側からの急角度の調整を施している。２は左側縁と右側縁の一部に調整が施されるが、右側縁は腹面・背面側両方向からの調整が施される。

３は黒曜石製の調整痕のある剥片である。ほぼ全周に微細な調整が施される。

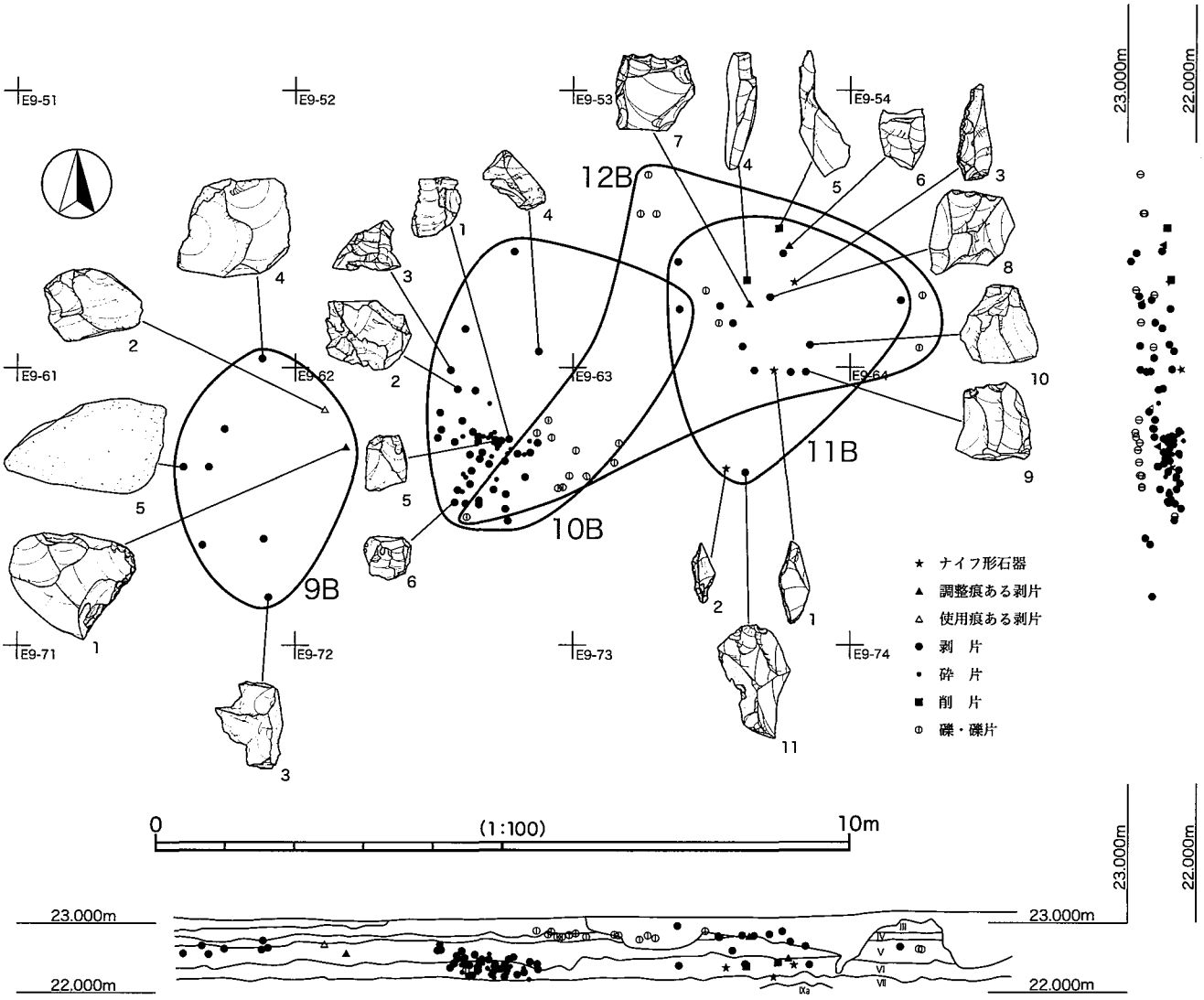
４は珪質頁岩製、５から７は凝灰岩製、８は変成岩製の剥片である。４から６は背面に礫面が遺存し、礫面以外の剥離の方向は打面側もしくは正逆方向からである。７・８の背面は多方向からの剥離で構成される。９は安山岩製の剥片利用石核である。背面はほぼ礫面で占められ、剥片の作出は礫面側から腹面側



第31図　第８ブロック出土石器（３）



第32図　第８ブロック出土石器（４）



第33図　第９～12ブロック器種別分

に向かい行われ、素材剥片の主要剥離面は一部のみ残存する。10は頁岩製の石核である。円礫素材であり、裏面右側縁下部からの剥片剥離の後、作業面を上面に移動し剥片剥離を行っている。

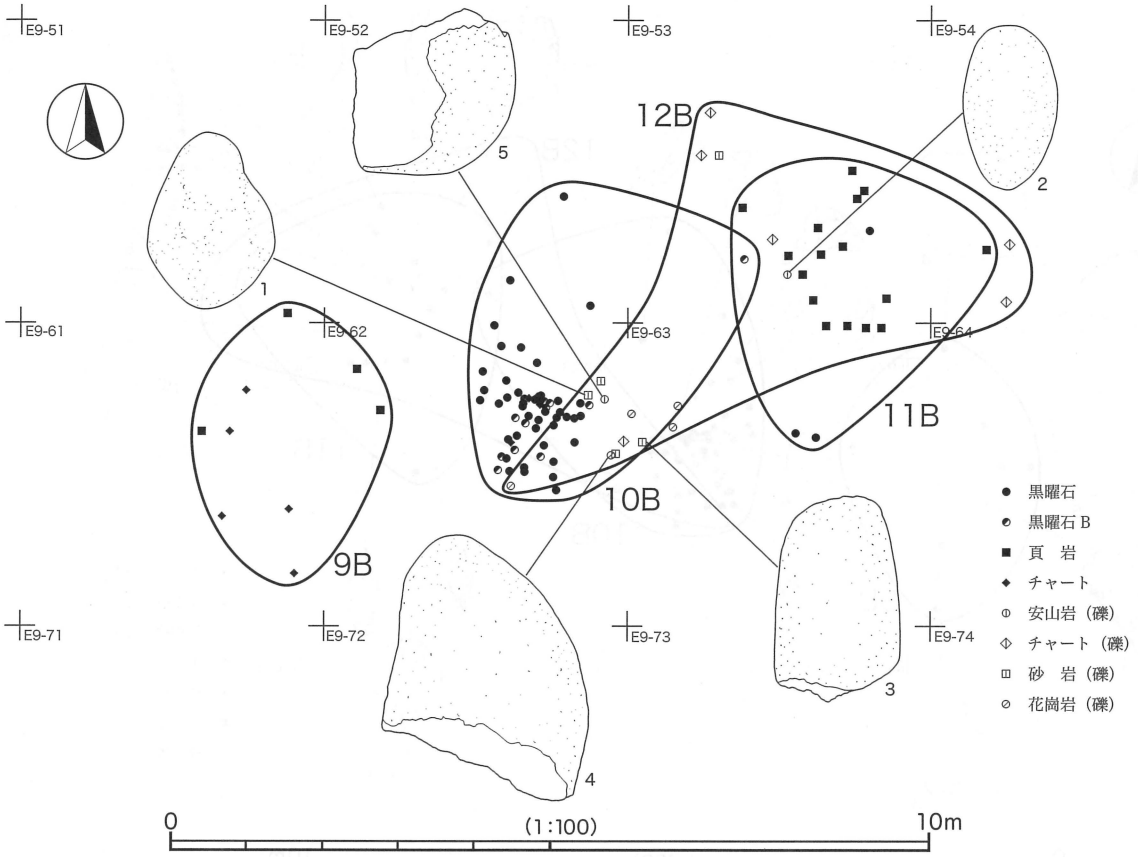
11は黒曜石製の剥片２点と石核１点の接合資料である。石材については、礫面は平滑で光沢があり、内面は透明感に欠ける黒色を呈する。夾雑物を多量に含む。１の背面はほぼ礫面で占められており、２の剥片が１のネガティブ面を打面として作出される。このため、１は打面作出を目的とした剥片と考えられる。１の剥片作出後、３の正面図にみられる上面からの剥片剥離を行い、２が作出される。２は打面を広く設定し作出されており、石核の形状を大きく変化させている。剥片剥離作業は２の剥片の作出で終了している。

12から17は礫である。一様に被熱するが、12の砂岩製の礫のみ被熱の度合いが少なく、部分的に礫面が赤化する程度である。他は大きく被熱しており、礫面の赤化、被熱による破砕が著しい。

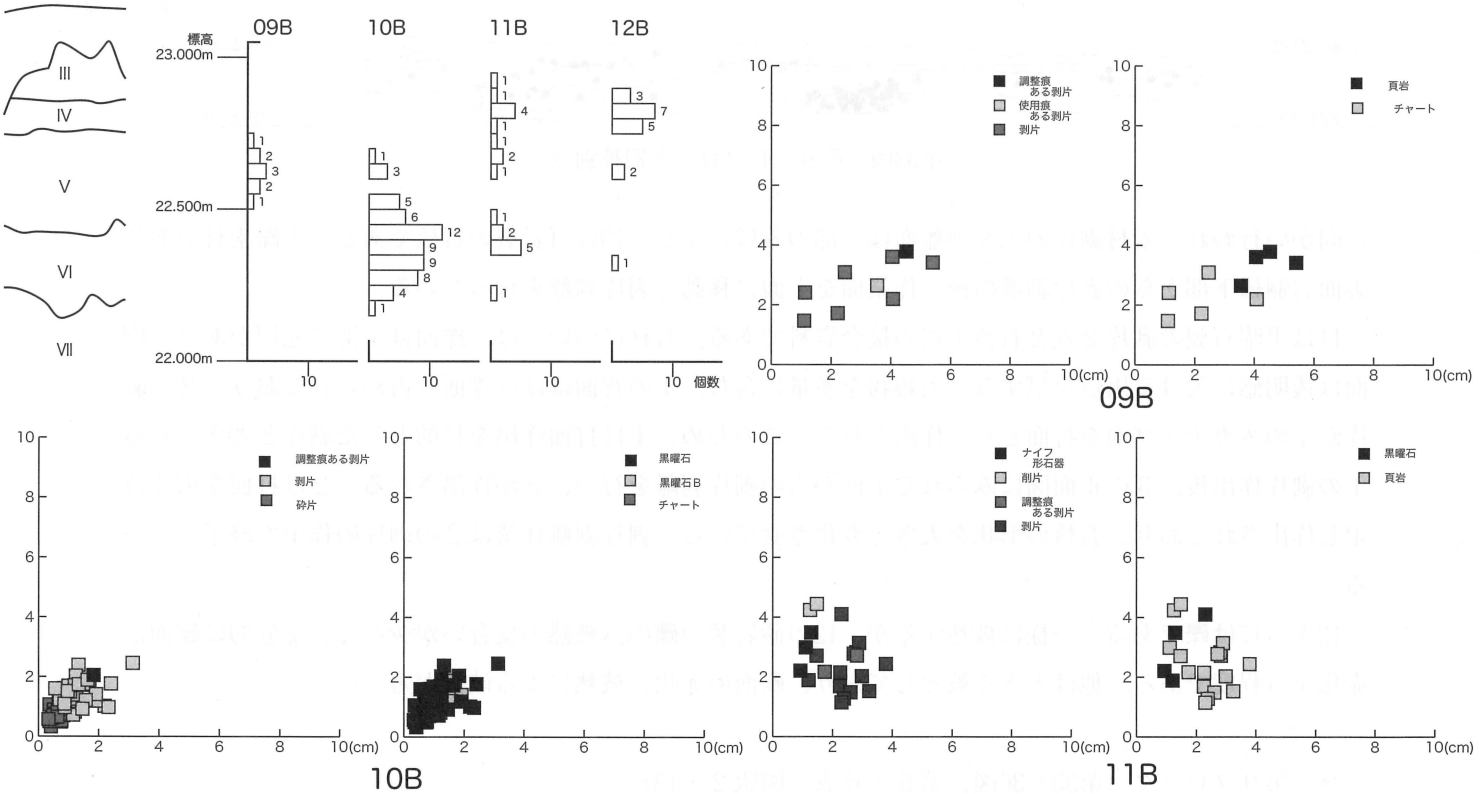
（９）第９ブロック（第33～36図、第５・６表、図版２・13）

分布

E9-51グリッドからE9-62グリッドにかけて検出された。石器の分布は長軸４ｍ、短軸３ｍの楕円形を



第34図　第９～12ブロック石材別分布



第35図　第９～12ブロック石器形状比グラフ

	調整痕ある剥片	使用痕ある剥片	剥　片	合　計	組成比
頁　岩	1 22.7	1 6.8	2 33.2	4 62.7	44.44 67.06
チャート			5 30.8	5 30.8	55.56 32.94
合　計	1 22.7	1 6.8	7 64.0	9 93.5	100.00 100.00
組成比	11.11 24.28	11.11 7.27	77.78 68.45	100.00 100.00	

09B

	調整痕ある剥片	剥　片	砕　片	合　計	組成比
黒曜石	1 1.5	26 18.6	16 1.6	43 21.7	72.88 65.56
黒曜石B		12 11.0		12 11.0	20.34 33.23
チャート			4 0.4	4 0.4	6.78 1.21
合　計	1 1.5	38 29.6	20 2.0	59 33.1	100.00 100.00
組成比	1.69 4.53	64.41 89.43	33.90 6.04	100.00 100.00	

10B

	ナイフ形石器	調整痕ある剥片	削　片	剥　片	合　計	組成比
黒曜石	2 2.9			1 4.9	3 7.8	15.00 12.00
頁　岩	1 0.8	2 10.5	2 6.8	12 39.1	17 57.2	85.00 88.00
合　計	3 3.7	2 10.5	2 6.8	13 44.0	20 65.0	100.00 100.00
組成比	15.00 5.69	10.00 16.15	10.00 10.46	65.00 67.70	100.00 100.00	

11B

	礫	合　計	組成比
安山岩	2 275.4	2 275.4	10.53 18.31
花崗岩	5 543.7	5 543.7	26.31 36.17
砂　岩	6 542.6	6 542.6	31.58 36.08
チャート	6 142.0	6 142.0	31.58 9.44
合　計	19 1503.7	19 1503.7	100.00 100.00
組成比		100.00 100.00	

12B

第５表　第９～12ブロック石器組成表

呈する。範囲内に特に集中する傾向は認められず、計９点の石器が散漫に分布する。

石器はⅤ層中から出土しており、ヒストグラムについてもピークがⅤ層に認められるため、Ⅴ層に属するブロックといえる。石器出土レベルの最大値は22.746m、最小値は22.550m、平均は22.627mである。

器種・石材

頁岩製の石器が４点、チャート製の石器が５点の計９点で構成される。頁岩製の石器は点数的に半数に満たないが、重量比では67.06％を占める。頁岩製の調整痕、使用痕のある剥片が各１点組成に含まれ、他は剥片で構成される。頁岩の礫面は黄土色、内面は緑灰色を基調に黄土色の縞模様がみられる。チャートは節理の混入が少なく、礫面、内面共に青灰色を呈する。剥片の形状はやや横長の傾向が認められる。

１は頁岩製の調整痕のある剥片である。打面直下に最大幅をもち、末端部が尖る形状の剥片である。背面は、打面側からの剥離と右側縁方向からの剥離により構成される。調整は右側縁ほぼ全体にみられ、腹面からの調整が施される。

２は頁岩製の使用痕のある剥片である。横長剥片であり、使用痕は剥片の左側縁から末端部、右側縁の一部にみられる。左側縁と末端部の使用痕は腹面側に顕著に認められる。

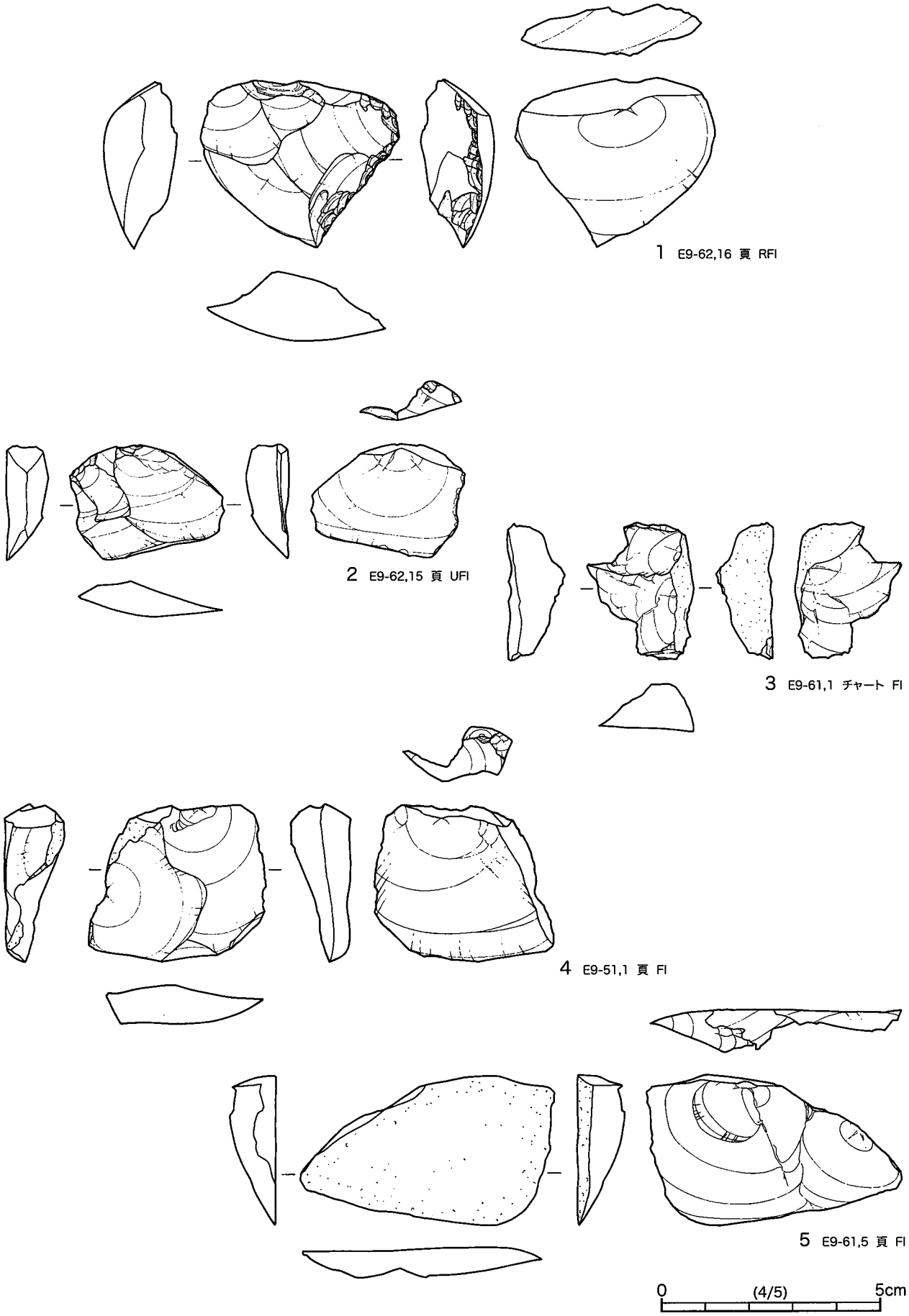
３はチャート製、４・５は頁岩製の剥片である。３は不定形剥片で、打面および右側面には礫面が残存する。背面はこの礫面からの剥離で構成される。４は腹面末端部の剥離形状がややヒンジ・フラクチュアとなる。５は横長剥片である。背面は礫面で構成される。腹面には打点と打瘤が２か所存在するが主打点は左側であり、右側は５の剥片作出直前の打撃痕である。

(10) 第10ブロック（第33～35・37図、第５～７表、図版13）

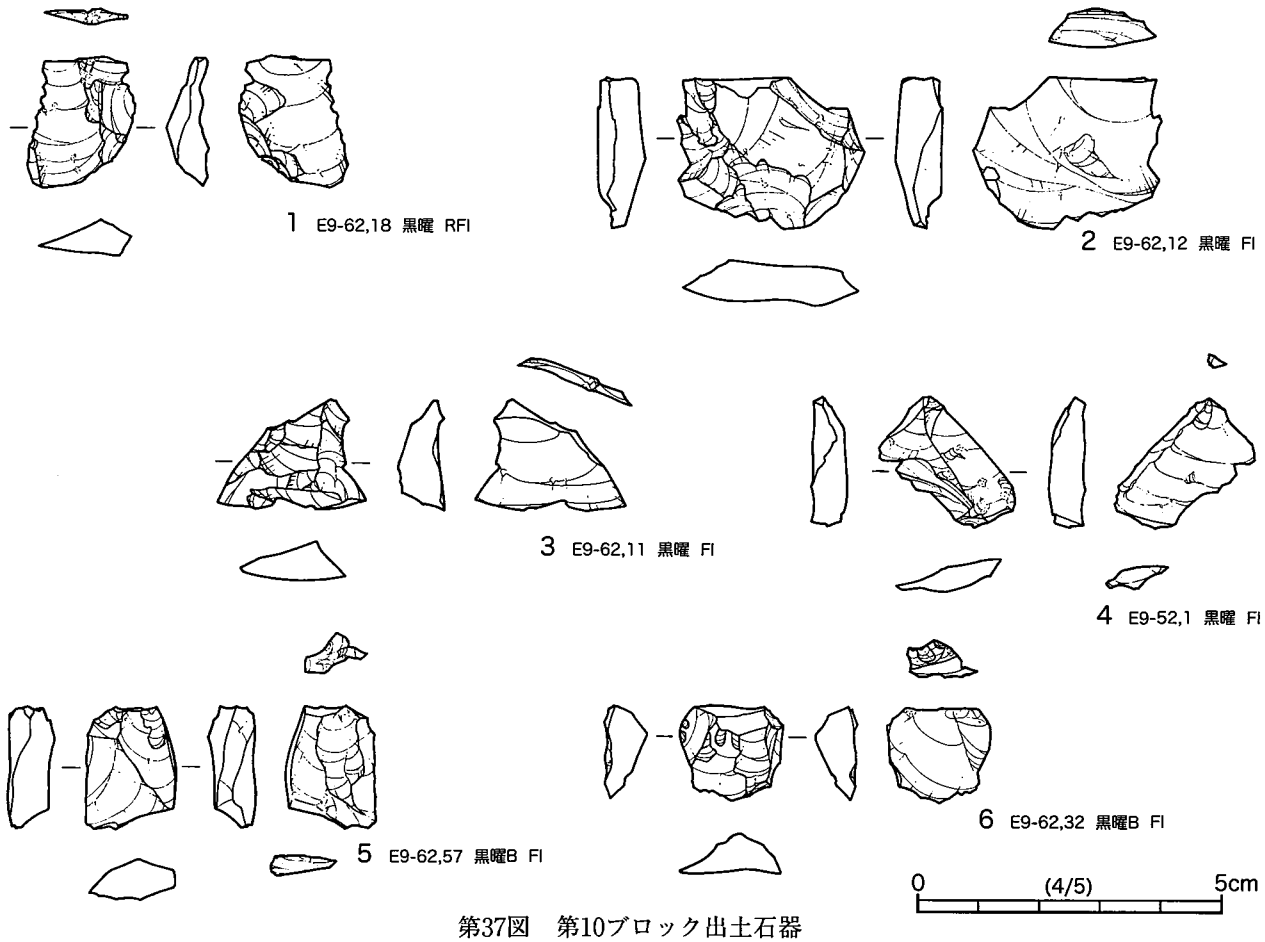
分布

E9-52グリッドからE9-63グリッドにかけて検出された。石器の分布は後述する第11・12ブロックと重複するが、出土レベル、ブロックを構成する石材の際からブロック分けが可能である。分布範囲はほぼ４mの不定円形状を呈するが、分布範囲の南側、E9-62グリッド北東よりの地点に集中区が認められる。

出土層位はⅤ層から一部Ⅶ層上面に達するが、垂直分布のヒストグラムのピークはⅥ層上面から中位に



第36図　第９ブロック出土石器



第37図　第10ブロック出土石器

かけてである。石器出土レベルの最大値は22.688m、最小値は22.185m、平均は22.389mである。

器種・石材

計59点出土したうち、チャート４点以外は全て黒曜石である。黒曜石のなかでも２種の母岩が存在すると考えられ、透明感に欠ける色調の強い黒色を呈するものと、透明感に欠ける赤茶色を呈するもので母岩分類を行い、後者を黒曜石Bとした。チャート製の石器は全て砕片であり、青灰色を呈する色調である。

石器組成は黒曜石製の調整痕のある剥片１点の他は剥片、砕片であり、重量比、縦横比グラフをみても小型剥片で構成されることが理解できる。

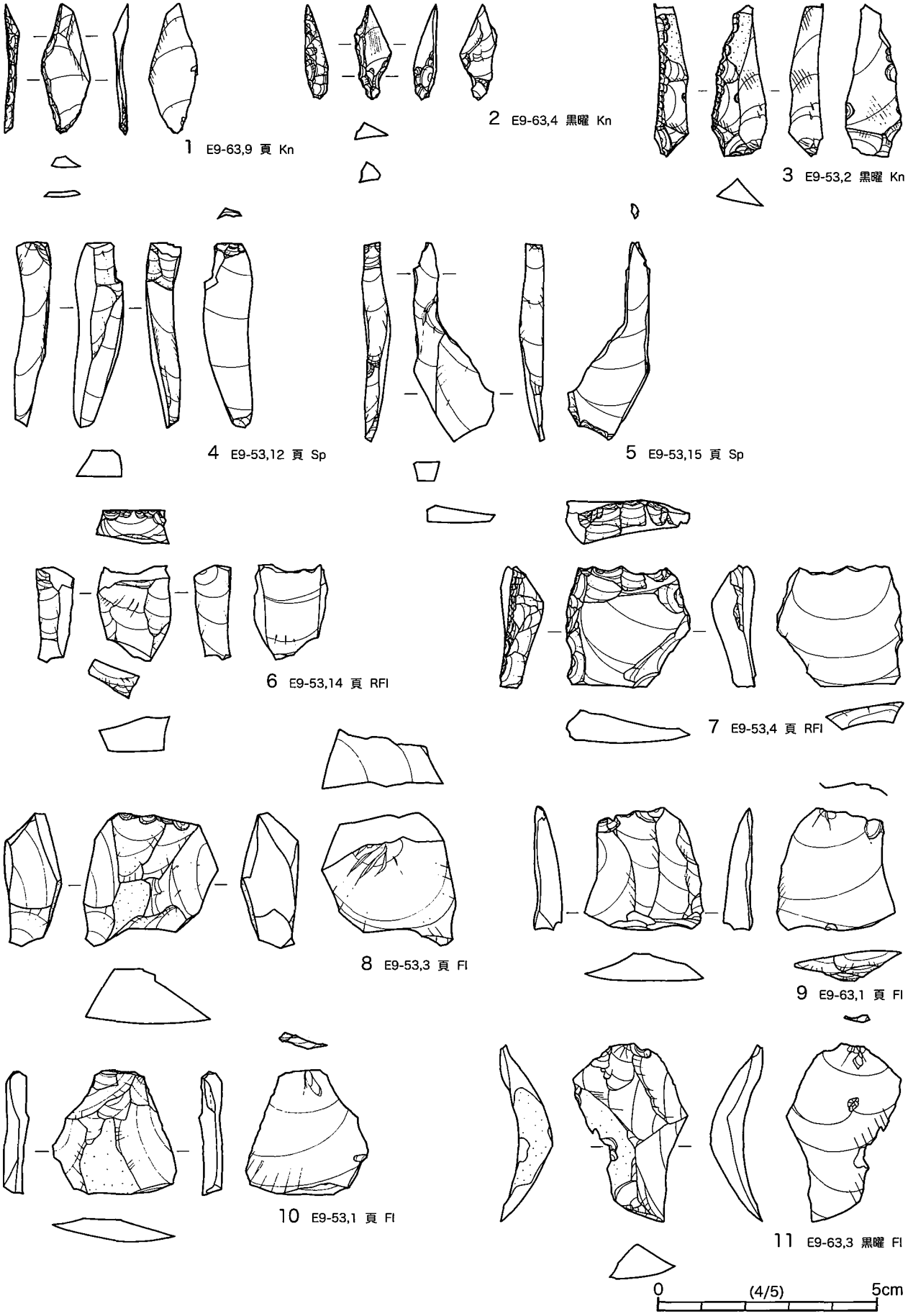
１は黒曜石製の調整痕のある剥片である。打面部が欠損する。調整は左側縁の腹面側に対して施される。背面は打面側からの剥離と左側縁側からの剥離により構成されるが、左側縁側からの剥離と調整痕には因果関係はない。

２から４は黒曜石製、５・６は黒曜石B製の剥片である。いずれも小型の不定形剥片で、２の剥片を上回る大きさのものはない。背面を構成する剥離の方向は一定しない

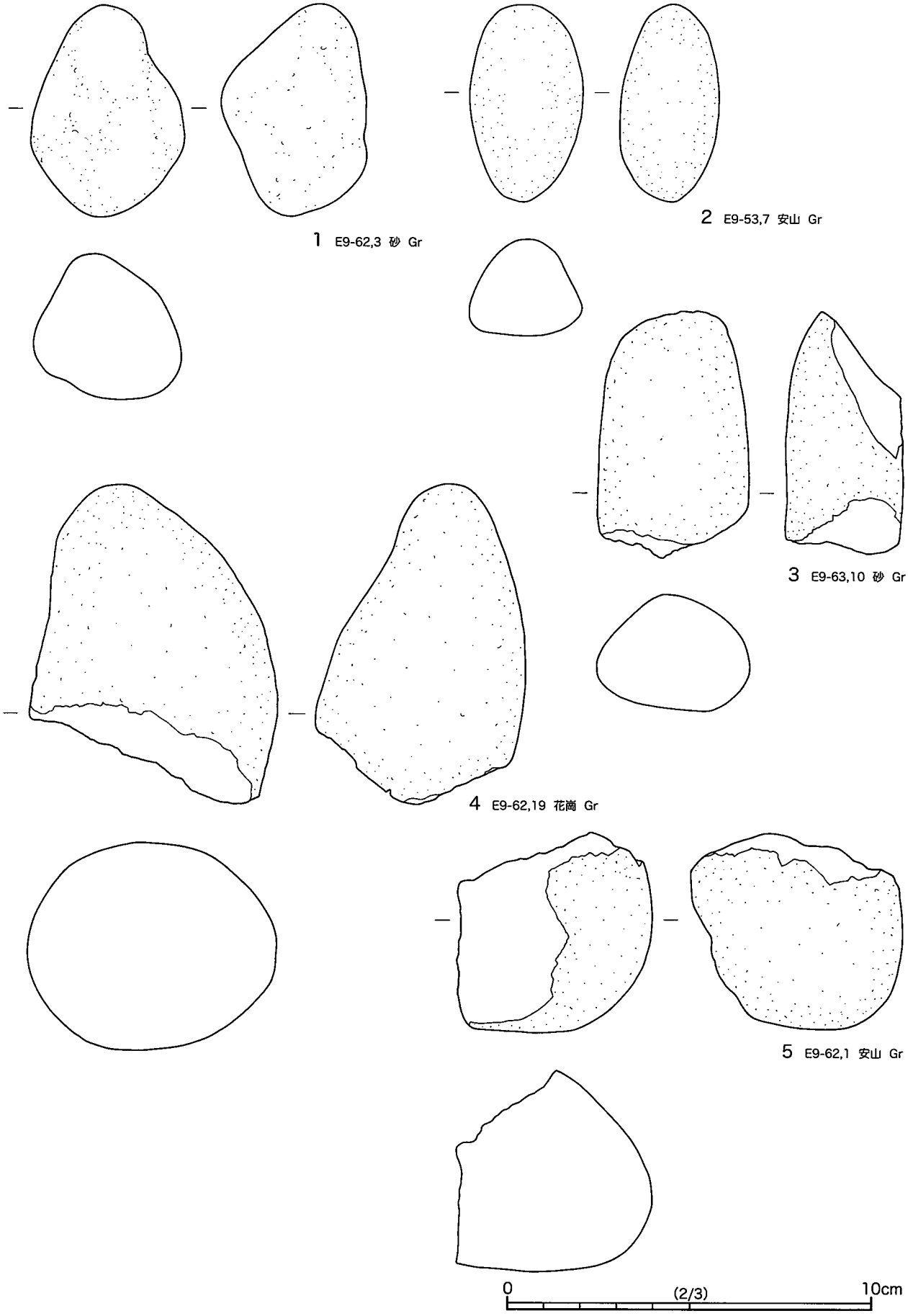
（11）第11ブロック（第33～35・38図、第５・７表、図版２・13・14）

分布

E9-53グリッドからE9-63グリッドにかけて検出された。分布範囲は計４ｍの範囲で収束し、不定円形を呈する分布形状である。



第38図　第11ブロック出土石器



第39図　第12ブロック出土石器

石器の出土層位はソフトローム層からⅥ層と幅が広く、ヒストグラムでもⅣ層とⅥ層の２か所にピークが認められる。第11ブロック周辺の立川ローム層の堆積状況は、東西方向はほぼ水平レベルを保っているのに対し、南北方向では南に向かい緩やかに傾斜している。このため分布範囲の南側で出土する石器については所属層位の修正が必要であり、ヒストグラムの上方のピークに帰属することが望ましい。石器出土レベルの最大値は22.957m、最小値は22.226m、平均は22.602mである。

器種・石材

黒曜石３点、玉髄17点で構成される。黒曜石は透明度が高く、夾雑物の混入が少ない石材である。頁岩は肌理が細かく色調は茶色を呈する。いわゆるチョコレート頁岩である。

定型的な石器はナイフ形石器が３点出土しており、他は調整痕ある剥片、削片、剥片で構成される。剥片の形状は２：１の縦長剥片の系列と、１：２の横長剥片の系列の両者が認められる。

１は頁岩製、２・３は黒曜石製のナイフ形石器である。１は薄い縦長剥片の打面側を基部、末端部を先端部に設定し調整を施す。二側縁加工であるが左側縁の調整は基部付近に止まる。２は剥片の末端部を先端部に設定、二側縁に対し調整を施す。打面部除去の際の調整が裏面基部付近に認められる。３は削片を素材としたナイフ形石器で、正面図および右側面図にみられる剥離が素材剥片としての最終剥離面である。この石器の素材剥片は、裏面の剥離の状況から剥片の末端部を調整後、調整面を打面として作出されたことが理解できる。調整は左側縁のみに施され、先端部が欠損する。

４・５は頁岩製の削片である。４の最終剥離面は左側縁、５は右側縁に確認でき、それぞれ対となる側縁には同様の作業行程による剥離痕が確認できる。

６・７は頁岩製の調整痕のある剥片である。６は素材剥片の打面部に調整を施し、調整面から両側縁に対し剥片剥離を行っている。４・５のような削片を作出した後の残核的な性格が強い石器である。７は素材剥片の打面部および両側縁に調整を施す。各部の調整は急角度で施されており、６の削片作出作業以前の性格が窺える。

８から10は頁岩製、11は黒曜石製の剥片である。８は部厚な剥片で、打面を広く設定し作出される。背面は多方向からの剥離で構成される。９・10は薄い作りの剥片であるが背面構成に差があり、９は打面側からの連続的な剥離で構成されるが、10は多方向の剥離により構成される。11の背面は左側縁側からの剥離により構成され、側面形状は大きく湾曲した形状となる。

（12）第12ブロック（第33～35・39図、第５・７表、図版２・14）

分布

E9-53グリッドからE9-63グリッドにかけて検出された。礫・礫片のみで構成されるブロックである。第10・11ブロックと平面分布が重複する。長軸６m、短軸４mのいびつな楕円形状を呈する分布であるが、E9-63グリッド杭付近に空白地点が認められる。

石器の出土層位はソフトローム層からⅣ層にかけてであり、ヒストグラムのピークもこの位置にあたる。石器出土レベルの最大値は22.886m、最小値は22.318m、平均は22.774mである。

器種・石材

礫の石材は安山岩、花崗岩、砂岩、チャートである。計19点の内訳は、安山岩２点、花崗岩・砂岩５点、チャート６点黒曜石製の剥片２点と、点数的にはチャートの占める割合が多いが、重量比では9.44％であ

り、一割にも満たない。

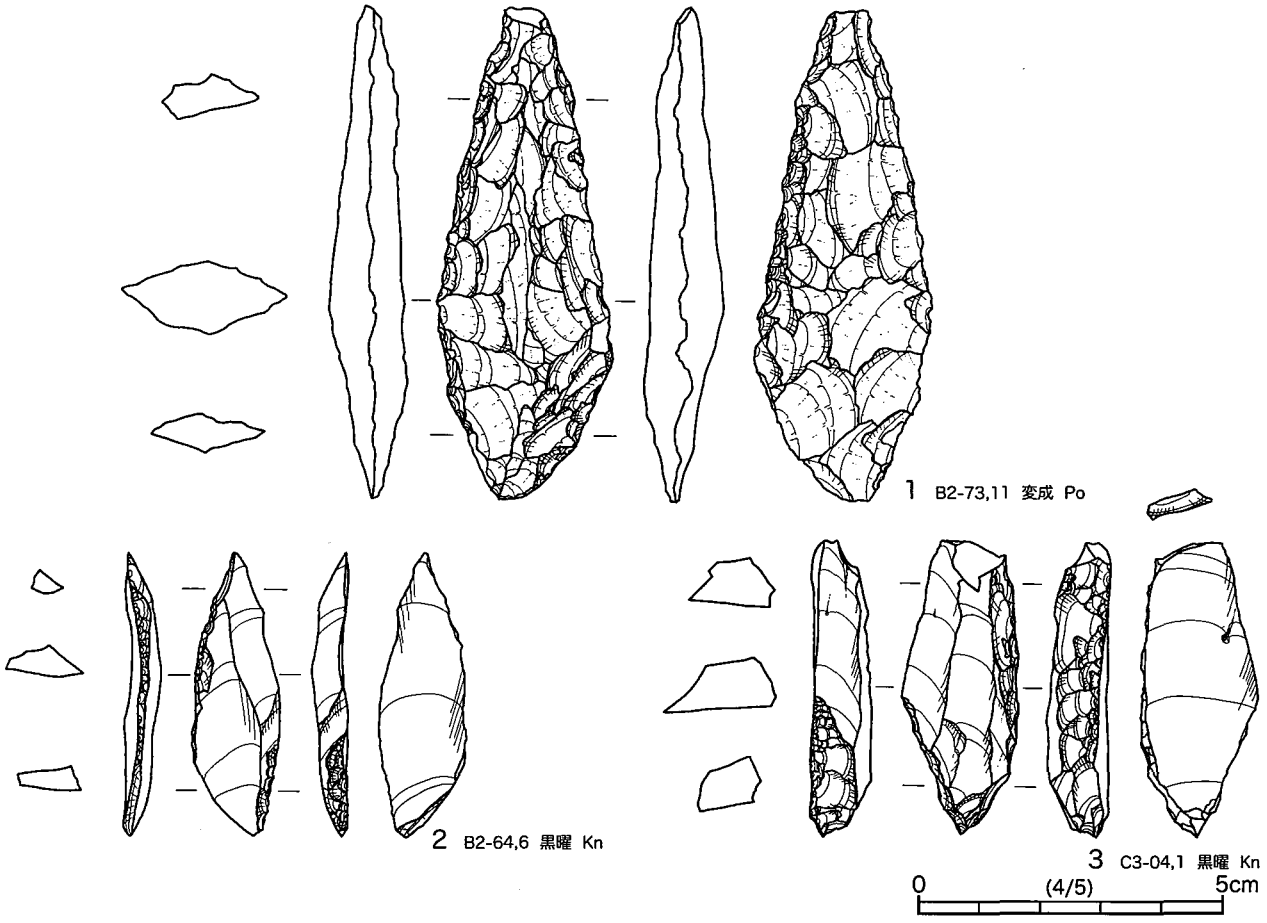
礫は全て被熱し、礫面は赤化するが、１・２のように原形を留めるもの、３から５のように単純に分割するものが多く、破砕礫となるものは少数である。

(13) 単独出土石器（第40図、第７表、図版14）

上矢切南台遺跡ではブロックに属さない、単独出土の石器も検出されている。これらは下層確認調査の際に出土したものであるが、出土地点周囲を拡張したにもかかわらず、さらなる石器の出土が確認できなかったものである。

１は変成岩製の槍先形尖頭器である。器表面は風化により粉を吹いた明るい黄土色を呈するが、欠損面は暗灰色を呈する。先端部が欠損する。中心よりも基部側に最大幅を持ち、ほぼ同一部位に最大厚が位置する形状である。調整は全面に施されるため素材剥片の形状は不明である。

２・３は、透明感のある黒曜石製のナイフ形石器である。両者とも素材剥片の背面は同方向からの剥離により構成され、連続的に作出された縦長剥片を素材としている。２は素材剥片の末端部を先端部とし、二側縁に対して調整を施す。素材剥片の打面部は折断・除去、左側縁および右側縁の一部は微細な調整が施される。３は素材剥片の末端部を先端部とし、調整は右側縁および左側縁の基部付近の二側縁に対し施される。素材剥片の打面は調整により除去される。



第40図　単独出土石器

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩番号	接合番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	X座標	Y座標	標高 (m)
Ⅵ~Ⅶ	1	11	E7-49	1	Gr	An	2		3.10	2.49	0.77	5.0	-25023.888	5823.039	22.546
Ⅵ~Ⅶ	1	11	E7-49	2	Gr	An	2		4.14	4.88	4.67	131.3	-25023.586	5823.439	22.548
Ⅵ~Ⅶ	1	11	E7-49	3	Fl	An			5.01	4.03	1.19	19.1	-25023.377	5823.798	22.578
Ⅵ~Ⅶ	1		E7-49	5	Gr	Ch			5.37	2.39	2.42	41.2	-25024.476	5823.963	22.561
Ⅵ~Ⅶ	1	11	E7-49	7	Gr	An	2		2.51	0.92	0.62	1.3	-25023.686	5823.539	22.551
Ⅵ~Ⅶ	1		E7-59	1	Fl	An			1.64	1.88	0.73	1.9	-25025.482	5824.054	22.488
Ⅵ~Ⅶ	1		E7-69	1	Gr	An			2.36	2.90	0.45	3.3	-25028.765	5824.348	22.488
Ⅵ~Ⅶ	1		E7-69	2	Gr	An			9.59	5.18	2.42	116.1	-25028.775	5824.014	22.547
Ⅵ~Ⅶ	1		E7-69	3	Gr	An			3.60	2.18	1.21	15.1	-25028.766	5823.685	22.511
Ⅸa	2	15	F7-36	1	RFl	Sh			1.89	1.86	0.45	2.0	-25020.618	5854.144	23.037
Ⅸa	2	15	F7-36	2	Fl	Sh	3		1.54	1.10	0.36	0.6	-25020.481	5851.575	22.847
Ⅸa	2	15	F7-46	1	Fl	Ob			1.39	1.42	0.63	0.9	-25021.211	5853.486	23.136
Ⅸa	2	15	F7-46	2	Fl	Sh			1.80	2.33	0.60	2.2	-25020.906	5853.192	22.886
Ⅸa	2	15	F7-46	3	Co	Sh			4.75	4.76	2.17	45.0	-25021.752	5852.363	22.932
Ⅸa	2		F7-46	4	Fl	Sh			0.89	1.86	0.28	0.5	-25021.558	5851.704	22.871
Ⅸa	2		F7-46	5	Fl	Sh			1.51	1.50	0.78	1.6	-25021.288	5851.845	22.862
Ⅸa	2	15	F7-46	6	Fl	Sh	3		1.03	1.25	0.30	0.5	-25021.300	5851.340	22.880
Ⅸa	2		F7-46	7	Ch	Sh			0.45	0.61	0.11	0.1	-25022.059	5850.930	22.807
Ⅸa下	3		F7-47	1	Fl	An			3.64	1.74	1.11	7.2	-25024.695	5855.429	22.905
Ⅸa下	3		F7-47	2	Gr	Ch			3.07	2.75	2.31	17.3	-25024.507	5857.335	23.378
Ⅸa下	3	16	F7-47	3	Fl	Sh			2.99	3.10	1.13	11.4	-25024.718	5857.784	22.730
Ⅸa下	3		F7-47	4	Fl	Ch			1.96	1.54	0.72	1.0	-25024.716	5858.622	23.140
Ⅸa下?	3	16	F7-47	5	Fl	Ob			3.91	2.06	0.36	2.2	-	-	-
Ⅸa下	3	16	F7-56	1	Kn	Ch			4.88	2.38	1.00	8.7	-25026.134	5854.448	22.908
Ⅸa下	3	16	F7-57	1	Fl	Ssh			5.84	2.89	2.11	23.0	-25025.894	5855.508	22.945
Ⅸa下	3	16	F7-57	2	Fl	An			4.01	3.01	1.17	12.1	-25025.233	5856.158	22.805
Ⅸa下	3	16	F7-57	3	RFl	Ssh			2.37	1.17	0.38	0.7	-25025.444	5856.792	22.950
Ⅸa下	3		F7-57	4	Gr	Ch			1.40	2.15	1.02	3.4	-25026.021	5857.377	23.065
Ⅸa下	3		F7-57	5	Fl	Ssh			0.71	1.30	0.16	0.1	-25026.271	5857.690	22.736
Ⅸa下	3		F7-57	6	Fl	An			0.91	1.00	0.35	0.3	-25026.518	5857.693	22.960
Ⅸa下	3		F7-57	7	Fl	An			1.50	1.97	0.54	1.2	-25027.276	5857.319	22.617
Ⅸa下	3	16	F7-57	8	Tr	Ssh			1.90	1.73	0.53	1.7	-25027.001	5857.796	22.800
Ⅸa下	3		F7-57	9	Fl	An			0.85	0.99	0.16	0.1	-25027.070	5858.401	22.727
Ⅸa下	3		F7-57	10	Fl	An			2.09	1.84	0.32	1.2	-25026.762	5858.642	22.798
Ⅸa下	3		F7-57	11	Fl	An			2.38	3.24	0.65	4.2	-25026.188	5858.289	22.830
Ⅸa下	3	16	F7-57	12	Fl	An			4.28	3.94	1.03	14.2	-25025.992	5858.295	22.795
Ⅸa下	3	16	F7-57	13	Fl	An			2.99	2.14	0.65	4.3	-25025.656	5858.001	22.900
Ⅸa下?	3		F7-57	14	Fl	An			3.64	2.54	1.03	6.6	-	-	-
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-55	1	Fl	Ob			1.44	0.62	0.29	0.3	-25028.457	5858.023	23.658
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-55	2	RFl	Ob			1.83	2.77	0.58	2.2	-25027.353	5850.512	23.642
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-55	3	RFl	Ob			0.84	0.88	0.18	0.1	-25028.428	5849.926	23.482
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-65	1	Fl	Ch			4.21	4.11	1.24	20.2	-25032.205	5850.675	23.478
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-65	2	Fl	Ch			2.28	2.15	0.63	3.0	-25030.453	5850.749	23.260
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-65	3	Fl	Ch			6.59	2.50	1.12	14.9	-25032.500	5848.562	23.422
Ⅴ~Ⅵ	4	18	F7-65	4	Gr	Sa	10		3.03	3.47	1.99	16.0	-25030.803	5849.427	23.418
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-65	5	Gr	Sa			2.71	1.82	2.22	9.1	-25030.690	5849.636	23.355
Ⅴ~Ⅵ	4	18	F7-65	6	Gr	Sa	10		1.81	2.61	1.05	3.1	-25030.763	5849.837	23.323
Ⅴ~Ⅵ	4	18	F7-65	7	Gr	Sa	10		5.56	2.36	1.15	14.7	-25030.585	5849.558	23.298
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-65	7	Kn	Ob			1.83	2.99	0.76	4.1	-25030.585	5849.558	23.472
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-65	8	Co	Ch			3.77	5.20	2.85	51.2	-25032.205	5850.675	23.594
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-65	9	Fl	Ch			2.03	3.26	0.60	3.0	-25032.608	5850.732	23.475
Ⅴ~Ⅵ	4	18	F7-65	11	Gr	Sa	10		3.42	3.04	1.90	17.0	-25030.639	5849.709	23.300
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-65	12	Fl	Ob			1.73	3.11	0.46	2.1	-25032.674	5850.787	23.470
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-66	1	Fl	Tu			4.44	2.90	0.96	11.3	-25031.662	5853.636	23.250
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-66	2	Fl	Ho			7.66	5.91	1.73	39.3	-25031.753	5853.578	23.265
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-66	3	Kn	Ob			3.52	2.39	0.96	5.9	-25032.675	5851.009	23.545
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-75	1	Fl	Tu			2.54	2.33	0.55	3.1	-25032.817	5849.221	23.457
Ⅴ~Ⅵ	4		F7-75	2	Fl	Tu			1.62	2.96	0.49	1.9	-25032.776	5849.112	23.416
Ⅴ~Ⅵ	4	17	F7-76	1	Fl	Ho			2.95	3.69	1.16	10.0	-25033.161	5851.370	23.464
Ⅶ~Ⅸa	5	19	F7-67	1	Fl	Ob			4.18	3.25	1.42	9.3	-25029.543	5855.103	23.290
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	2	Fl	An			1.21	1.66	0.38	0.7	-25028.772	5858.507	23.100
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	2	Ch	An			1.29	0.45	0.17	0.1	-25028.772	5858.507	23.100
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	3	Fl	Ch			1.65	2.17	0.27	1.1	-25029.655	5858.472	23.115
Ⅶ~Ⅸa	5	20	F7-67	4	Fl	An	3	5	5.00	3.48	0.72	10.2	-25030.601	5857.790	22.956
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	4	Ch	An			0.49	0.70	0.32	0.1	-25030.601	5857.790	22.986
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	5	Fl	An			4.56	4.13	0.72	12.0	-25031.033	5858.016	23.035
Ⅶ~Ⅸa	5	19	F7-67	6	Fl	Ch			3.79	3.42	1.03	10.7	-25031.166	5857.957	22.995
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	7	Fl	An			2.51	2.95	0.46	3.5	-25031.198	5857.505	23.050
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-67	8	Fl	An			1.39	1.33	0.15	0.2	-25031.374	5857.307	23.345
Ⅶ~Ⅸa	5	20	F7-67	9	Fl	An	3	4	6.09	5.43	1.72	52.0	-25030.778	5857.319	23.048
Ⅶ~Ⅸa	5	20	F7-67	10	Fl	An	3	3	3.20	4.17	1.02	7.6	-25030.754	5857.008	23.075
Ⅶ~Ⅸa	5	20	F7-67	11	Fl	An	3	2	3.19	1.65	0.46	2.1	-25030.957	5856.811	23.170
Ⅶ~Ⅸa	5	20	F7-67	12	Fl	An	3	1	1.54	2.62	0.31	1.3	-25030.975	5856.608	23.197
Ⅶ~Ⅸa	5		F7-77	1	Fl	Sh			1.53	1.87	0.52	1.1	-25035.046	5855.214	22.998
Ⅸ?	6	24	F8-14	1	Fl	Sh			2.52	1.20	0.50	1.8	-26052.315	5845.993	22.052
Ⅸ?	6		F8-15	1	Fl	Ob			2.07	2.20	0.75	2.9	-26051.495	5849.847	22.477
Ⅸ?	6	24	F8-15	2	Fl	Ch			4.26	2.29	0.98	7.0	-26052.403	5847.122	22.030
Ⅸ?	6		F8-15	3	Fl	Ch			1.01	0.97	0.20	0.2	-26052.447	5847.625	21.882
Ⅸ?	6		F8-15	4	Fl	Sh			0.45	0.31	0.05	0.0	-26051.415	5848.172	21.550
Ⅸ?	6		F8-25	1	Fl	An			2.83	1.57	0.96	3.3	-26053.170	5848.754	22.325
Ⅸ?	6	24	F8-25	1	Fl	Sh			4.55	2.79	0.81	9.6	-	-	-
Ⅸ?	6		F8-25	1	Fl	Cc			1.97	2.87	0.81	4.5	-	-	-
Ⅸ?	6	24	F8-25	1	Fl	Sh			2.90	2.46	0.83	5.6	-	-	-
Ⅸ?	6		F8-25	1	Fl	Ob			2.96	2.13	0.74	3.5	-	-	-
Ⅸ?	6		F8-25	1	Fl	Ob			1.90	2.51	0.28	0.9	-	-	-
Ⅸ?	6		F8-25	2	Fl	Ob			1.19	1.94	0.60	1.2	-26052.897	5848.763	22.360
Ⅸ?	6		F8-25	3	Fl	Ob			0.60	0.69	0.17	0.1	-26053.955	5848.383	21.530
Ⅴ	7		E9-02	1	Fl	Sh			0.93	1.21	0.34	0.4	-26088.709	5796.207	23.851
Ⅴ	7		E9-02	2	Fl	Sh			1.55	1.18	0.35	0.5	-26088.109	5796.154	23.799
Ⅴ	7	28	E9-02	3	Fl	Sh			2.74	1.26	0.72	1.9	-26088.250	5795.824	23.883
Ⅴ	7		E9-03	1	Gr	An			6.39	2.82	3.52	36.5	-26086.041	5801.492	23.385
Ⅴ	7	28	E9-12	4	HS	Gr			12.16	6.37	3.81	370.0	-26091.271	5797.199	23.924
Ⅴ	7	28	E9-12	5	Kak	Ssh			3.50	1.84	1.09	5.5	-26091.081	5797.151	23.959
Ⅴ	7	28	E9-12	6	Gr	Gr			4.41	5.48	1.55	53.7	-26090.349	5797.471	23.872
Ⅴ	7		E9-12	7	Gr	Sa			3.83	4.56	3.77	60.2	-26089.877	5797.546	23.744
Ⅴ	7		E9-12	8	Gr	Ho			5.00	3.38	1.70	22.5	-26089.300	5796.743	23.878
Ⅴ	7	28	E9-13	1	UFl	Ssh			1.84	2.77	0.63	2.3	-26090.230	5799.263	23.369
Ⅴ	7	28	E9-13	2	CoFl	Sh			7.35	3.74	1.68	37.1	-26090.618	5800.187	23.718
Ⅴ	7		E9-13	3	Gr	An			6.22	2.65	1.30	25.4	-26090.982	5800.419	23.563
Ⅴ	7	28	E9-13	4	Fl	An			2.46	2.67	1.06	7.2	-26090.226	5800.185	23.497
Ⅴ	7	32	E9-13	5	Gr	Sa	16		4.08	3.25	1.84	18.4	-26089.897	5800.562	23.495
Ⅴ	7		E9-13	6	Gr	Sa			7.47	4.38	1.09	36.1	-26089.476	5800.288	23.665
Ⅴ	7		E9-13	7	Gr	Sa			6.38	4.50	1.42	31.3	-26089.723	5799.418	23.710
Ⅴ	7		E9-13	8	Gr	Sa			5.08	3.95	3.95	70.4	-26090.609	5800.566	23.435
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-04	1	Gr	An			6.16	4.69	1.83	62.7	-26087.668	5806.694	23.342
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	2	Gr	Ch	13		4.55	3.74	2.12	32.8	-26087.818	5806.676	23.336
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	3	Gr	Sa	16		5.96	4.22	2.59	54.4	-26088.431	5806.407	23.346
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	4	Gr	Sa	16		2.05	1.87	2.09	5.2	-26087.672	5806.244	23.144
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	5	Gr	Sa	16		5.68	4.18	2.92	46.1	-26088.206	5806.425	23.308
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	7	Gr	Ch	13		3.82	5.19	2.14	44.0	-26087.893	5806.698	23.154
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-04	8	Gr	Sa			6.28	4.31	2.19	50.5	-26087.432	5806.824	23.070
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-04	9	Gr	Ch	15		3.03	1.99	2.64	14.6	-26088.362	5806.129	23.213
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-05	1	Gr	Sa			5.51	5.41	0.76	22.2	-26087.436	5806.870	23.402
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-05	2	Gr	Qp			2.89	4.69	2.32	31.0	-26087.668	5807.115	23.278
Ⅳ~Ⅴ	8	30	E9-05	3	Fl	Ho			4.33	4.87	1.67	23.9	-26087.922	5807.509	23.298
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-05	4	Gr	Sa	16		4.39	3.81	2.00	28.7	-26087.888	5808.202	23.245
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-05	5	Gr	Po			3.56	2.10	0.95	7.2	-26087.553	5807.483	23.235
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-05	6	Gr	Sa	16		3.50	6.65	2.13	53.3	-26087.600	5807.068	23.310
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-05	7	Gr	Sa			5.40	2.95	0.81	12.9	-26088.014	5808.292	23.142
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-05	8	Gr	Sa	16		4.94	3.28	1.35	23.5	-26087.895	5807.600	23.146
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-05	9	Gr	Sa	16		4.03	4.78	2.67	40.2	-26087.895	5807.465	23.120
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	1	Gr	Sa	16		2.15	2.71	1.37	5.1	-26088.850	5805.710	23.415
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	2	Gr	Ch	15		2.37	2.82	2.54	26.7	-26089.445	5805.818	23.500
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-14	3	Gr	Ch			7.15	4.75	1.78	71.2	-26089.401	5805.948	23.405
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-14	4	Gr	Ho			3.95	3.29	1.62	18.2	-26090.285	5805.909	23.470
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	5	Gr	Ch	14		2.96	2.76	1.64	15.6	-26090.164	5806.176	23.375
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-14	6	Gr	Sa			3.16	3.74	0.53	7.0	-26090.417	5806.233	23.395
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-14	7	Gr	Ch			2.06	1.51	1.84	5.4	-26090.466	5806.586	23.475
Ⅳ~Ⅴ?	8		E9-14	7	Gr	Ch			1.13	1.49	0.60	1.0	-	-	-
Ⅳ~Ⅴ?	8		E9-14	7	Gr	Ch			1.03	0.75	0.56	0.4	-	-	-
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	8	Gr	Sa	16		4.97	2.52	1.13	10.8	-26091.670	5805.959	23.455
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	9	Gr	Sa	16		3.92	2.86	1.35	11.9	-26089.926	5805.803	23.447
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-14	10	Gr	Ch			4.33	3.16	2.35	34.9	-26089.236	5805.033	23.366
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-14	11	Gr	Ch	14		3.27	1.95	1.12	6.8	-26091.357	5805.113	23.468
Ⅳ~Ⅴ?	8	29	E9-14	12	Fl	Ssh			3.43	4.83	1.00	14.2	-	-	-
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-15	1	Gr	Gr			7.25	7.81	3.73	218.0	-26092.538	5808.738	23.624
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-15	2	Fl	Ob			1.99	1.73	0.80	2.6	-26092.497	5808.828	23.604
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-15	3	Fl	Ob			1.94	1.39	0.69	1.5	-26092.250	5808.899	23.460
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-15	4	Fl	Ob			1.55	1.66	0.60	1.3	-26090.649	5808.989	23.508
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-15	5	Gr	Ch	17		4.99	4.60	1.62	42.1	-26091.795	5808.581	23.305
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-16	1	Gr	Sa			10.02	6.04	5.82	380.0	-26089.996	5811.427	23.201
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-16	2	RFl	Ob			2.40	3.48	0.58	3.9	-26089.992	5811.599	23.325
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-16	3	Fl	Ob			1.99	2.49	0.30	1.1	-26091.601	5811.941	23.255
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-16	4	Kn	Sh			3.03	1.01	0.55	1.6	-26092.230	5811.295	23.359
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-24	1	Gr	Ch	17		2.76	2.68	1.08	7.8	-26093.251	5806.417	23.482
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	2	Gr	Ch			5.40	3.36	2.64	37.1	-26093.453	5806.456	23.493
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	3	Gr	Ch			2.40	2.08	0.97	5.7	-26093.573	5806.526	23.635
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	4	Gr	Qp			6.18	2.88	1.71	41.3	-26093.612	5806.400	23.520
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-24	5	Fl	Tu			3.65	4.20	1.28	15.3	-26093.839	5806.016	23.472
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	6	Gr	Ch			3.07	2.42	1.78	13.2	-26093.690	5806.826	23.517
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	7	Gr	Ch			3.33	1.98	1.41	9.4	-26093.798	5806.558	23.556
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-24	8	Gr	Ch	17		4.62	4.12	1.79	37.3	-26094.444	5806.680	23.680
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	8	Gr	Ch			2.82	1.13	0.86	2.5	-26094.444	5806.680	23.680
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-24	9	Gr	Ch	17		2.56	2.49	1.52	11.0	-26094.693	5806.667	23.676
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	10	Fl	Ob			1.67	1.46	0.55	0.9	-26094.737	5806.261	23.604
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	11	Gr	Gr			6.40	3.88	1.37	31.6	-26093.473	5805.256	23.772
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-24	12	Gr	Sh			3.28	2.84	2.00	15.6	-26094.385	5806.761	23.631
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	1	Gr	Sh			3.54	3.24	1.26	6.1	-26092.871	5807.443	23.561
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-25	2	Gr	Ch	17		1.81	1.53	1.11	2.7	-26092.992	5807.323	23.570
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	3	Gr	Sa			5.52	2.90	1.93	27.6	-26093.176	5807.274	23.575
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-25	4	Gr	Ch	17		1.45	1.37	0.83	2.3	-26093.187	5807.074	23.370
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-25	5	Gr	Ch	17		3.69	4.32	1.46	23.0	-26093.395	5807.058	23.495
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-25	6	Gr	Ch	17		5.86	3.16	2.02	33.2	-26093.476	5807.421	23.470
Ⅳ~Ⅴ	8	32	E9-25	7	Gr	Ch	17		6.08	5.51	2.25	95.7	-26093.617	5807.005	23.553
Ⅳ~Ⅴ	8	30	E9-25	10	Co	Sh			5.81	6.85	3.26	161.0	-26093.830	5807.055	23.534
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	11	Gr	An			3.36	2.48	1.29	10.7	-26094.177	5806.949	23.582
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	12	Fl	Ho			2.10	2.45	0.54	3.4	-26094.513	5807.002	23.584
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	13	Fl	Ob			1.94	1.28	0.39	0.9	-26094.746	5808.369	23.674
Ⅳ~Ⅴ	8	31	E9-25	14	Fl	Ob	11	1	2.54	2.51	0.52	2.7	-26094.327	5808.937	23.648
Ⅳ~Ⅴ	8	31	E9-25	15	Co	Ob	11	3	2.82	5.52	3.25	38.2	-26094.075	5808.913	23.698
Ⅳ~Ⅴ	8	31	E9-25	16	Fl	Ob	11	2	5.64	3.87	1.49	22.3	-26093.862	5809.069	23.696
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	17	Ch	Ob			1.54	0.64	0.41	0.2	-26093.359	5809.288	23.541
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-25	18	Kn	Sh			3.23	1.43	0.76	3.3	-26093.381	5809.095	23.665
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	19	Gr	Ch			1.42	1.47	1.22	2.6	-26093.215	5808.168	23.525
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	20	Fl	Ho			3.41	2.60	0.83	6.3	-26093.436	5808.146	23.417
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	21	Gr	Sa			9.70	5.38	3.43	143.1	-26094.027	5808.293	23.680
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	22	Ch	Ob			1.51	0.78	0.43	0.5	-26096.691	5809.473	23.236
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	23	Fl	Ho			4.84	3.78	1.15	13.8	-26094.074	5807.132	23.440
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-25	24	Fl	Tu			3.97	3.29	1.08	12.3	-26093.981	5807.093	23.447
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	25	Fl	Ho			2.90	3.15	2.07	10.4	-26093.658	5806.968	23.507
Ⅳ~Ⅴ	8	30	E9-25	26	CoFl	An			3.74	2.93	1.44	15.2	-26093.524	5807.267	23.497
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-25	27	Gr	Ch			2.29	1.12	0.81	2.0	-26093.614	5806.941	23.358
Ⅳ~Ⅴ	8	29	E9-25	28	Fl	Tu			4.03	3.56	0.77	10.4	-26094.058	5807.190	23.417
Ⅳ~Ⅴ	8		E9-26	1	Ch	Ob			1.09	1.00	0.14	0.1	-26094.085	5812.631	23.194
Ⅴ	9	36	E9-51	1	Fl	Sh			3.61	4.05	1.13	15.5	-26108.620	5802.381	22.617
Ⅴ	9	36	E9-61	1	Fl	Ch			3.09	2.46	1.31	6.0	-26112.060	5802.469	22.643
Ⅴ	9		E9-61	2	Fl	Ch			1.72	2.22	0.47	1.7	-26111.219	5802.398	22.746
Ⅴ	9		E9-61	3	Fl	Ch			2.41	1.13	0.61	1.8	-26111.307	5801.516	22.675
Ⅴ	9	36	E9-61	5	Fl	Sh			3.42	5.40	0.95	17.7	-26110.184	5801.246	22.560
Ⅴ	9		E9-61	6	Fl	Ch			1.47	1.10	0.48	0.8	-26110.184	5801.616	22.550
Ⅴ	9		E9-61	7	Fl	Ch			2.20	4.07	2.27	20.5	-26109.638	5801.840	22.628
Ⅴ	9	36	E9-62	15	UFl	Sh			2.65	3.54	0.85	6.8	-26109.352	5803.290	22.676
Ⅴ	9	36	E9-62	16	RFl	Sh			3.79	4.52	1.65	22.7	-26109.890	5803.595	22.549
Ⅵ	10	37	E9-52	1	Fl	Ob			2.39	1.33	0.53	1.7	-26108.520	5806.367	22.330
Ⅵ	10		E9-52	2	Fl	Ob			1.73	1.64	0.54	1.1	-26107.080	5806.014	22.506
Ⅵ	10		E9-52	3	Fl	Ob			1.53	0.93	0.38	0.4	-26108.191	5805.309	22.500
Ⅵ	10		E9-62	5	Fl	Ob	B		1.66	1.24	0.45	0.9	-26110.426	5805.373	22.237
Ⅵ	10		E9-62	6	Fl	Ob	B		1.40	0.96	0.31	0.4	-26110.073	5805.520	22.452
Ⅵ	10		E9-62	7	Fl	Ob			1.07	1.13	0.30	0.3	-26109.761	5804.915	22.608
Ⅵ	10		E9-62	8	Fl	Ob			1.13	1.21	0.29	0.3	-26109.643	5804.968	22.617
Ⅵ	10		E9-62	9	Fl	Ob			1.49	1.23	0.45	0.8	-26109.396	5804.950	22.688
Ⅵ	10		E9-62	10	Fl	Ob			0.98	1.18	0.31	0.3	-26109.514	5805.267	22.600
Ⅵ	10	37	E9-62	11	Fl	Ob			1.77	2.41	0.80	1.9	-26108.785	5805.103	22.357
Ⅵ	10	37	E9-62	12	Fl	Ob			2.46	3.13	0.70	5.6	-26109.061	5805.203	22.486
Ⅵ	10		E9-62	13	Fl	Ob			1.26	0.67	0.25	0.1	-26109.079	5805.456	22.549
Ⅵ	10		E9-62	14	Ch	Ob			0.33	0.41	0.11	0.0	-26109.272	5805.663	22.548

第6表　上矢切南台遺跡出土石器属性表（1）

文化層	ブロック	掘図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩番号	接合番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	標高(m)
Ⅵ	10	37	E9-62	18	RFl	Ob			2.05	1.83	0.58	1.5	-26109.785	5805.944	22.475
Ⅵ	10		E9-62	20	Fl	Ob	B		1.72	1.69	0.89	2.0	-26110.514	5805.197	22.532
Ⅵ	10		E9-62	22	Fl	Ob			2.03	1.24	0.26	0.5	-26109.979	5805.556	22.473
Ⅵ	10		E9-62	22	Ch	Ob			0.97	0.76	0.11	0.0	-26109.979	5805.556	22.473
Ⅵ	10		E9-62	23	Fl	Ob			1.02	2.20	0.25	0.4	-26110.143	5805.655	22.470
Ⅵ	10		E9-62	24	Ch	Ch			0.62	0.71	0.09	0.0	-26110.331	5805.322	22.445
Ⅵ	10		E9-62	25	Fl	Ob			1.19	1.90	0.29	0.8	-26109.979	5806.249	22.438
Ⅵ	10		E9-62	26	Fl	Ob			1.39	1.25	0.44	0.7	-26110.578	5805.891	22.400
Ⅵ	10		E9-62	27	Ch	Ob			0.49	0.74	0.29	0.1	-26109.919	5805.775	22.400
Ⅵ	10		E9-62	28	Ch	Ch			0.55	0.62	0.10	0.0	-26109.746	5805.570	22.417
Ⅵ	10		E9-62	29	Fl	Ob			1.49	1.05	0.28	0.4	-26110.708	5805.309	22.410
Ⅵ	10		E9-62	30	Fl	Ob	B		0.82	1.21	0.48	0.3	-26109.838	5806.355	22.408
Ⅵ	10		E9-62	31	Fl	Ob			0.74	1.14	0.23	0.1	-26109.820	5805.162	22.420
Ⅵ	10	37	E9-62	32	Fl	Ob	B		1.75	1.58	0.67	1.3	-26110.690	5805.156	22.422
Ⅵ	10		E9-62	33	Ch	Ob			1.09	0.68	0.20	0.1	-26110.537	5805.263	22.401
Ⅵ	10		E9-62	34	Fl	Ob			0.72	1.15	0.12	0.1	-26110.661	5805.503	22.377
Ⅵ	10		E9-62	35	Fl	Ob	B		1.61	0.85	0.28	0.2	-26109.747	5805.498	22.357
Ⅵ	10		E9-62	36	Ch	Ob			1.06	0.36	0.19	0.1	-26109.796	5805.750	22.404
Ⅵ	10		E9-62	37	Ch	Ob			0.52	0.76	0.17	0.0	-26110.284	5805.287	22.428
Ⅵ	10		E9-62	38	Fl	Ob			1.25	0.70	0.16	0.1	-26110.961	5805.920	22.325
Ⅵ	10		E9-62	39	Fl	Ob			1.23	0.70	0.22	0.2	-26110.102	5805.885	22.387
Ⅵ	10		E9-62	40	Fl	Ob	B		1.41	1.91	0.64	1.6	-26109.808	5805.832	22.369
Ⅵ	10		E9-62	41	Ch	Ob			0.50	0.36	0.10	0.1	-26109.931	5805.968	22.371
Ⅵ	10		E9-62	42	Ch	Ob			0.82	0.79	0.17	0.1	-26109.849	5805.475	22.380
Ⅵ	10		E9-62	43	Fl	Ob			1.60	0.55	0.54	0.4	-26110.719	5805.503	22.315
Ⅵ	10		E9-62	44	Fl	Ob	B		0.97	0.87	0.33	0.2	-26110.002	5805.379	22.396
Ⅵ	10		E9-62	45	Ch	Ob			0.89	0.50	0.26	0.1	-26110.007	5806.163	22.347
Ⅵ	10		E9-62	46	Fl	Ob			0.98	2.33	0.29	0.4	-26109.673	5805.420	22.252
Ⅵ	10		E9-62	47	Ch	Ob			0.70	0.83	0.13	0.1	-26109.740	5805.276	22.295
Ⅵ	10		E9-62	48	Fl	Ob			1.69	0.99	0.31	0.5	-26110.790	5805.885	22.227
Ⅵ	10		E9-62	49	Fl	Ob			1.71	1.20	0.36	0.6	-26110.331	5806.167	22.288
Ⅵ	10		E9-62	50	Fl	Ob			1.09	0.86	0.18	0.1	-26109.814	5805.497	22.338
Ⅵ	10		E9-62	51	Fl	Ob	B		1.51	0.97	0.30	0.3	-26110.514	5805.714	22.285
Ⅵ	10		E9-62	52	Ch	Ob			1.03	0.97	0.13	0.1	-26109.996	5805.922	22.276
Ⅵ	10		E9-62	53	Fl	Ob	B		1.21	1.57	0.58	0.9	-26109.867	5805.785	22.336
Ⅵ	10		E9-62	54	Ch	Ob			0.72	0.61	0.13	0.1	-26109.813	5806.239	22.185
Ⅵ	10		E9-62	55	Ch	Ch			0.61	0.46	0.13	0.0	-26109.837	5806.785	22.375
Ⅵ	10		E9-62	56	Fl	Ob			1.74	1.34	0.47	0.4	-26109.996	5806.067	22.254
Ⅵ	10	37	E9-62	57	Fl	Ob	B		1.89	1.63	0.69	2.2	-26109.808	5805.832	22.334
Ⅵ	10		E9-62	58	Ch	Ob			0.75	0.54	0.15	0.0	-26109.766	5805.639	22.343
Ⅵ	10		E9-62	59	Ch	Ob			0.69	0.48	0.27	0.1	-26110.366	5805.757	22.310
Ⅵ	10		E9-62	60	Fl	Ob			0.92	1.46	0.25	0.4	-26110.235	5805.404	22.253
Ⅵ	10		E9-62	61	Ch	Ch			0.82	0.63	0.12	0.0	-26109.719	5805.680	22.256
Ⅵ	10		E9-62	62	Ch	Ob			0.65	0.63	0.12	0.0	-26109.690	5805.733	22.209
Ⅵ	10		E9-62	63	Ch	Ob			0.57	0.33	0.12	0.0	-26110.037	5805.692	22.237
Ⅳ	11	38	E9-53	1	Fl	Sh			2.83	2.80	0.60	4.4	-26108.426	5810.277	22.399
Ⅳ	11	38	E9-53	2	Kn	Ob			3.49	1.29	0.80	2.5	-26107.518	5810.053	22.398
Ⅳ	11	38	E9-53	3	Fl	Sh			3.14	2.89	1.19	10.0	-26107.733	5809.701	22.837
Ⅳ	11	38	E9-53	4	RFl	Sh			2.72	2.82	0.81	7.1	-26107.830	5809.407	22.812
Ⅳ	11		E9-53	5	Fl	Sh			1.53	3.23	0.48	1.4	-26108.112	5809.163	22.602
Ⅳ	11		E9-53	6	Fl	Sh			2.15	2.26	0.48	2.0	-26108.447	5809.304	22.821
Ⅳ	11		E9-53	8	Fl	Sh			1.69	2.25	0.55	2.4	-26107.862	5808.976	22.795
Ⅳ	11		E9-53	10	Fl	Ob	B		1.89	1.20	0.47	0.7	-26107.911	5808.394	22.385
Ⅳ	11		E9-53	11	Fl	Sh			1.49	2.60	0.39	1.6	-26107.227	5808.372	22.957
Ⅳ	11	38	E9-53	12	Sp	Sh			4.24	1.25	0.92	3.7	-26107.492	5809.366	22.375
Ⅳ	11		E9-53	13	Fl	Sh			1.28	2.38	0.49	1.2	-26107.108	5809.884	22.876
Ⅳ	11	38	E9-53	14	RFl	Sh			2.17	1.74	0.77	3.4	-26106.989	5809.974	22.495
Ⅳ	11	38	E9-53	15	Sp	Sh			4.44	1.48	0.62	3.1	-26106.746	5809.824	22.432
Ⅳ	11		E9-54	3	Fl	Sh			1.15	2.30	0.35	0.7	-26107.783	5811.591	22.656
Ⅳ	11	38	E9-63	1	Fl	Sh			2.78	2.71	0.62	5.3	-26108.815	5810.218	22.665
Ⅳ?	11		E9-63	1	Fl	Sh			2.44	3.79	0.72	4.9	-	-	-
Ⅳ	11		E9-63	2	Fl	Sh			2.03	2.98	0.53	2.4	-26108.820	5810.001	22.727
Ⅳ	11	38	E9-63	3	Fl	Ob			4.10	2.30	1.15	4.9	-26110.261	5809.348	22.410
Ⅳ	11	38	E9-63	4	Kn	Ob			2.21	0.93	0.54	0.4	-26110.203	5809.073	22.360
Ⅳ	11		E9-63	8	Fl	Sh			2.71	1.47	1.53	2.8	-26108.991	5809.477	22.815
Ⅳ	11	38	E9-63	9	Kn	Sh			2.99	1.11	0.36	0.8	-26108.786	5809.761	22.226
Ⅲ～Ⅳ	12	39	E9-53	7	Gr	An			5.41	3.11	2.80	59.4	-26108.109	5808.960	22.810
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-53	9	Gr	Ch			2.81	2.45	1.59	18.4	-26107.642	5808.770	22.882
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-53	16	Gr	Sa			3.03	1.96	1.88	15.5	-26106.535	5808.056	22.780
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-53	17	Gr	Ch			1.99	2.44	1.21	6.0	-26106.535	5807.827	22.760
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-53	18	Gr	Ch			3.65	2.04	1.71	13.3	-26105.970	5807.946	22.817
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-54	1	Gr	Ch			3.84	4.46	3.01	39.6	-26108.466	5811.857	22.625
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-54	2	Gr	Ch			3.02	3.64	1.42	21.0	-26107.712	5811.901	22.617
Ⅲ～Ⅳ	12	39	E9-62	1	Gr	An			5.25	5.27	5.80	216.0	-26109.761	5806.555	22.875
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-62	2	Gr	Sa			4.82	4.11	2.54	77.5	-26109.514	5806.508	22.834
Ⅲ～Ⅳ	12	39	E9-62	3	Gr	Sa			5.86	4.12	4.33	105.3	-26109.696	5806.343	22.886
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-62	4	Gr	Gr			1.30	1.34	0.57	0.8	-26110.902	5805.326	22.318
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-62	17	Gr	Ch			4.08	3.66	2.11	43.7	-26110.314	5806.814	22.825
Ⅲ～Ⅳ	12	39	E9-62	19	Gr	Gr			7.08	6.77	5.64	357.0	-26110.490	5806.643	22.798
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-62	21	Gr	Sa			5.48	3.47	3.82	94.8	-26110.478	5806.714	22.798
Ⅲ～Ⅳ?	12		E9-63	1	Gr	Sa			4.28	4.29	4.09	126.2	-	-	-
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-63	5	Gr	Gr			3.45	2.68	1.48	12.6	-26110.126	5807.461	22.830
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-63	6	Gr	Gr			3.53	3.88	3.55	60.4	-26109.843	5807.525	22.821
Ⅲ～Ⅳ	12		E9-63	7	Gr	Gr			5.80	5.01	3.11	112.9	-26109.949	5806.908	22.848
Ⅲ～Ⅳ	12	39	E9-63	10	Gr	Sa			6.71	4.11	3.38	123.3	-26110.320	5807.061	22.799
	B外	40	B2-64	6	Kn	Ob			4.66	1.44	0.42	2.3	-	-	-
	B外	40	B2-73	11	Po	Ho			8.06	2.92	1.18	23.9	-	-	-
	B外		B2-73	15	Gr	Ms			3.66	5.60	2.13	35.9	-	-	-
	B外		B2-73	16	Fl	Ho			1.60	2.15	0.77	2.5	-	-	-
	B外		B2-74	4	Fl	Ch			1.28	2.07	0.77	1.2	-	-	-
	B外		B2-83	5	Gr	An			3.97	4.55	2.90	67.8	-	-	-
	B外		B2-83	9	Ch	Cc			0.87	0.77	0.50	0.3	-	-	-
	B外		B2-83	10	Gr	Ch			1.51	1.83	1.17	4.4	-	-	-
	B外		B2-83	19	Gr	Ch			1.20	1.91	0.47	1.3	-	-	-
	B外		B2-83	26	Gr	Ch			2.24	1.90	1.70	10.0	-	-	-
	B外		B2-83	27	Gr	Ch			1.88	3.61	0.80	8.2	-	-	-
	B外		B2-83	28	Gr	Ch			2.32	2.53	0.83	5.6	-	-	-
	B外	40	C3-04	1	Kn	Ob			4.82	1.95	0.88	9.4	-	-	-
	B外		C5-85	1	HS	Ssc			7.41	2.92	1.57	54.5	-	-	-

第７表　上矢切南台遺跡出土石器属性表（２）

第２節　縄文時代

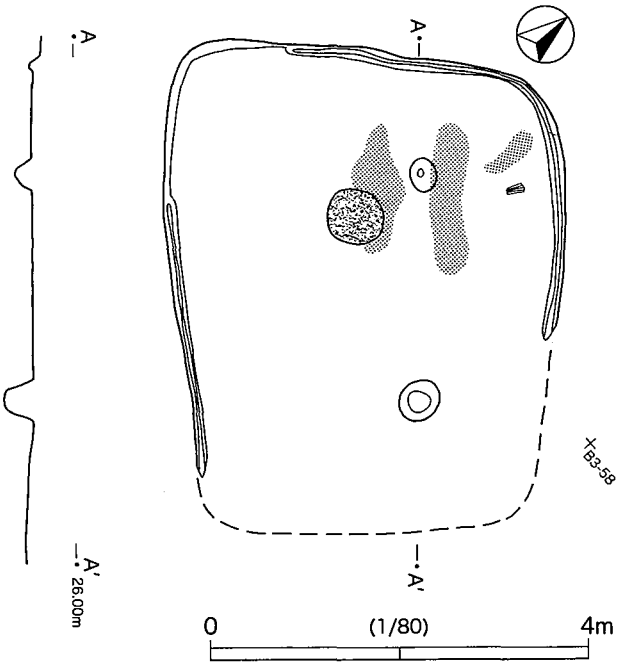
（１）概要

縄文時代の遺構は竪穴住居跡１軒と集石遺構２基である。遺物も少なく希薄であるが、調査地の北端部で検出しており、北西に面した台地縁辺部の土地利用であったことがうかがえる。

（２）竪穴住居跡

SI003（第41図、図版２）

第１次および２次調査で検出した、B3-57周辺に位置する長軸4.5m以上短軸約4.3mを測る不整長方形の住居跡である。南壁と東壁の一部に相当する部分は近世以降の攪乱により削平されている。また、遺存する部分についても床面近くまでの削平を受けているため、壁の立ち上がりは痕跡をとどめる程度である。炉の東側に２基の柱穴を検出した。北側の柱穴は平面楕円形を呈し、長径35cm、深さ20cm程の浅いものである。南側の柱穴は直径40cmほどの平面円形で、深さは30cmである。炉跡は径約60cmを測る円形の地床炉で、深さは約４cmと浅いが、底面は被熱により硬化している。炉の東側床面には焼土と炭化材が検出された。遺物としては土製玦状耳飾り（第44図32）以外は、小破片の縄文前期土器と弥生時代後期末から古墳時代初頭の土師器小破片が散見されるに過ぎない。図示した土製玦状耳飾りは、側縁部に横方向の刻みを施した後に、直交するように側縁部中央にも刻みが施されている。住居の形状や主体となる遺物から見て縄文前期の住居と考えられる。



第41図　SI003

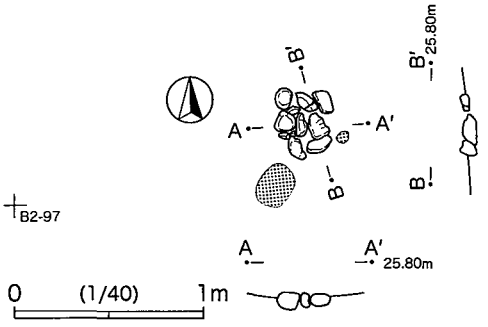
（３）集石遺構

集石１（第42図）

第２次調査で検出した、B2-87グリッド周辺に位置する礫のまとまりである。南北40cm東西40cm程の範囲に、重量１kg前後の礫が数十点密集した状況を呈している。礫のまとまりの東と南西に狭い範囲で粘土のまとまりが認められた。

集石２（第43図）

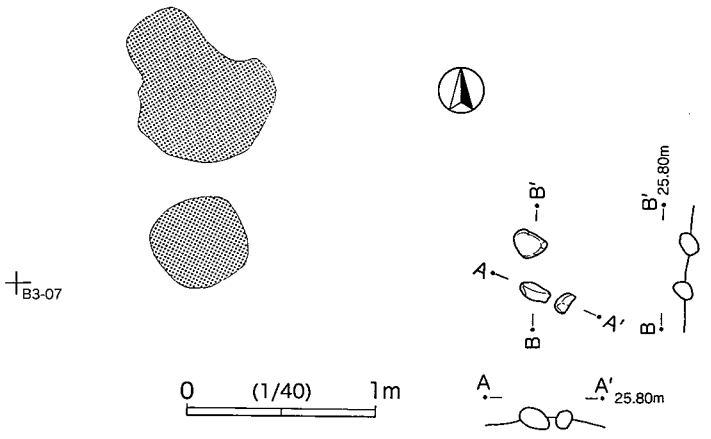
第２次調査で検出した、B2-97グリッド周辺に位置する礫のまとまりである。集石１から南に約４m程離れており、南北50cm東西30cmほどの範囲に、重量２kg前後の礫が数点、散在した状況を呈している。礫のまとまりの西、約２m離れた位置に粘土のまとまりが



第42図　集石１

認められた。

集石１・２は、調査範囲が道路下であり、填圧・攪乱等を受けていることから、堀込みを伴うかどうかは判然としない。ただし、両者とも、礫のまとまりと粘土のまとまりが近接して存在することと、礫の検出面が同じくらいの高さであることから、ほぼ同時期に構築されたものと思われる。また時期を示すような遺物は検出されていないため明確な時期は明らかに出来ないが、周辺から縄文時代前期の土器片が少量出土していることと、隣接する第１次調査範囲においても興津式や黒浜式などの縄文前期土器が検出されていることから、この時期に構築された可能性が高い。



第43図　集石２

（４）出土遺物

縄文時代の遺物は、量的に少ないだけでなく、小破片となるものが多い。調査地内の北端部にあたるＢ２・Ｃ３グリッドから出土したものが多い。

土器は前期が主体となるが、後期も若干出土している。また、土製玦状耳飾りが２点、石鏃１点が出土している。

土器

出土土器は、以下の４群に大別した。

第１群土器　前期中葉（第44図１～４）

繊維を含むもので、黒浜式土器として一括した。いずれも胴部破片であり、地文の縄文には無節のもの（１・２）と単節のもの（３・４）がある。

第２群土器　前期後葉（第44図５～23）

最も多く出土したもので、浮島・興津式系土器（５～22）と諸磯式（23）を一括した。５～７は口縁部に縦方向の沈線による刻みが加えられ、８・９は口縁部に刺突文を施している。６・13～16は波状貝殻腹縁文を施しているが、６・14・15は肋脈のない貝を使用している。11・12・18～19は貝殻文を施している。23は刻みを加えた浮線文が付くものである。

第３群土器　前期末～中期初頭（第44図24～29）

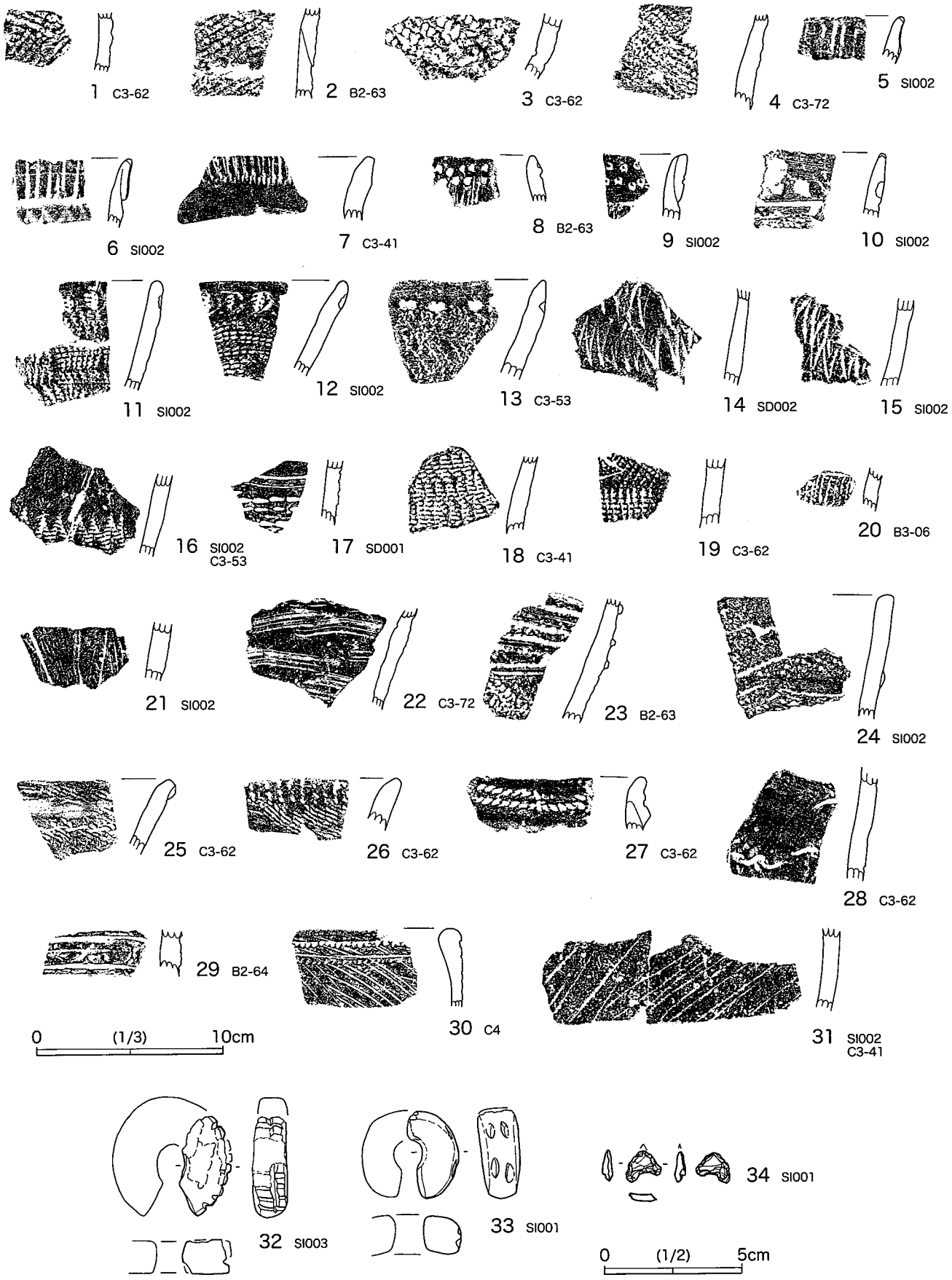
下小野・五領ヶ台式系土器を一括した。25・26には無節の縄文が施され、25・28には結節縄文もみられる。27の口縁部には縄文原体押圧痕が２条施されている。沈線が２条巡る29も当該期のものとした。

第４群土器　後期後半（第44図30・31）

安行式土器で、すべて粗製深鉢である。30の口縁部には刺突文と細沈線が巡らされている。

土製玦状耳飾り（第44図32・33）

32はSI003から出土したもので、側縁部には横方向の刻みを施した後に、直交するように測縁部中央にも刻みが施されている。ほぼ中央部で欠損しており、現存最大長32.5㎜、最大厚13㎜、重量7.8ｇを測る。



第44図　縄文土器・土製玦状耳飾り・石鏃

33は弥生時代の住居SI002の覆土中から出土したもので、側縁部には２個を１単位として間隔を開けた刺突文を巡らしている。約２／３を欠損しており、現存最大長37㎜、最大厚12.5㎜、重量7.7ｇとなる。

石鏃（第44図34）

SI001の覆土中から出土したもので、凹基の頁岩製の石鏃である。先端部と片側の脚端部を欠損している。現存最大長11.5㎜、現存最大幅13㎜、最大厚3.9㎜、重量0.37ｇである。

第３節　弥生時代～古墳時代

（１）概要

当該期の遺構はわずかに竪穴住居跡６軒であるが、検出地点は調査地の北端部に集中しており、狭い範囲のなかでの集中が認められる。しかしながら後世の攪乱を受けたものや後述する溝状遺構に切られているものも多い。

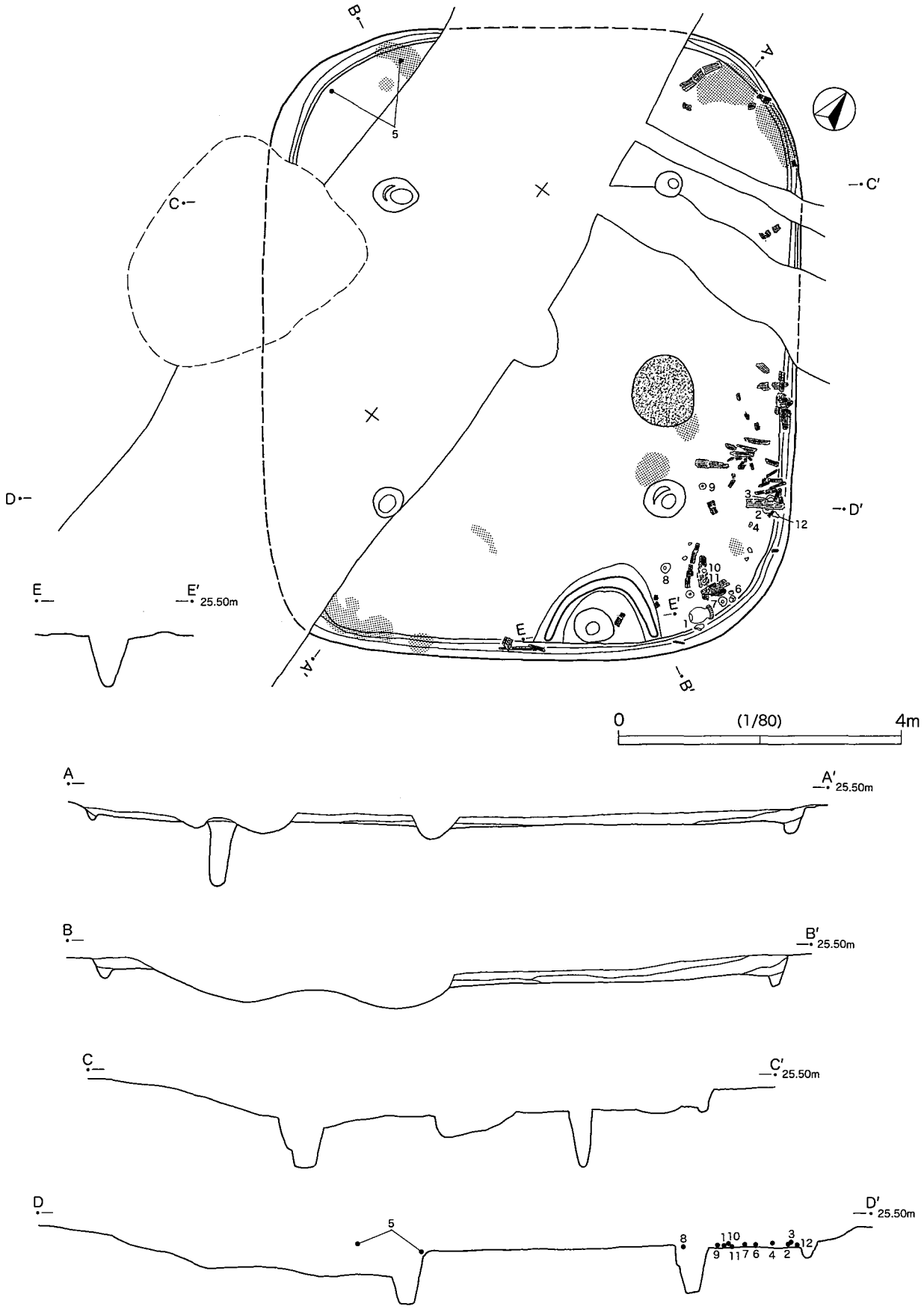
（２）竪穴住居跡

SI001（第45・46図、図版４・16）

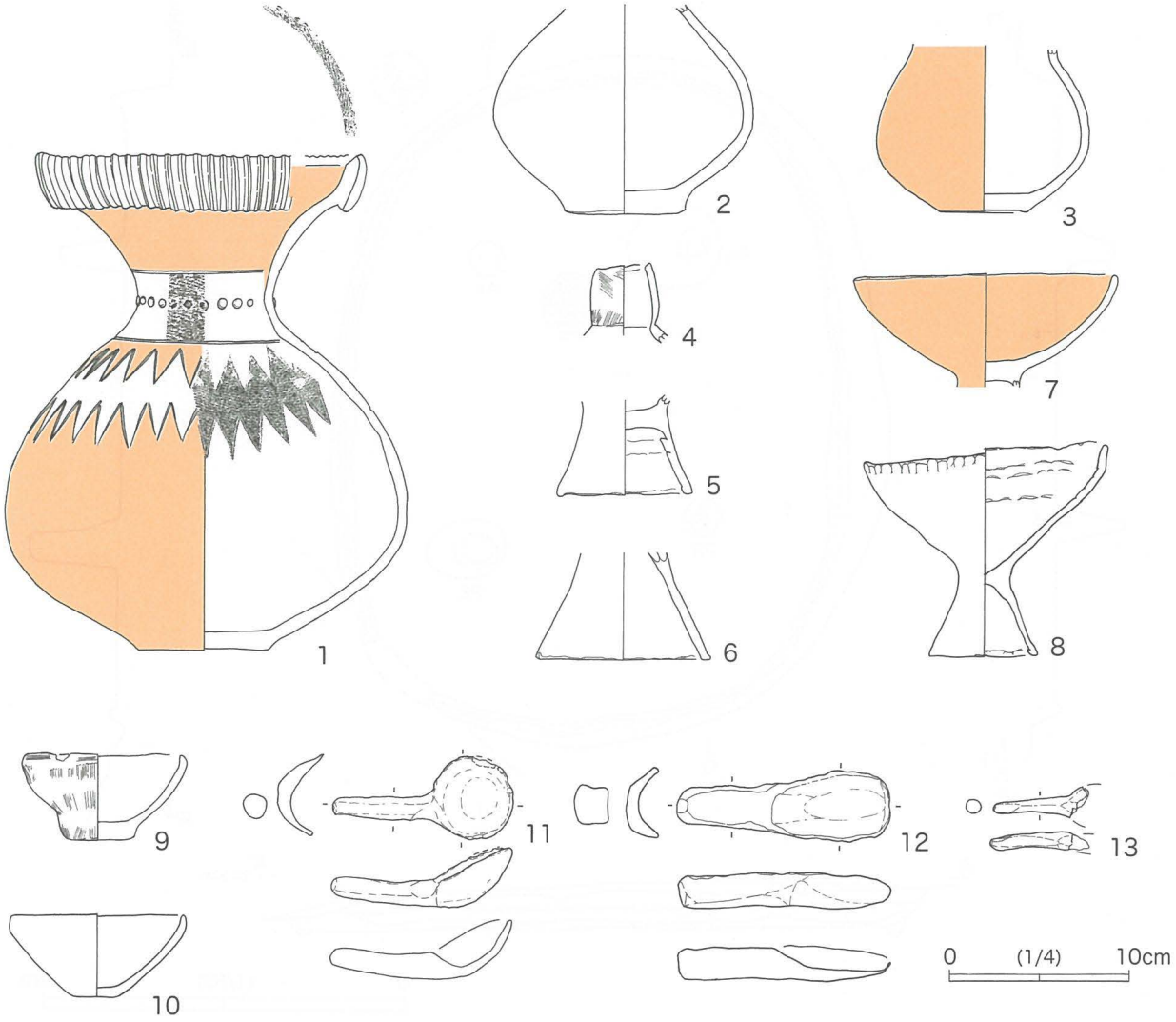
第１次調査で検出した、C3-30グリッド周辺に位置する、長軸約4.5m、短軸約3.8mを測る隅丸長方形の住居跡である。主軸はＮ－33°－Ｗにとる。西側の半分近くをSD001に、北側の一部をSD002によって切られており遺存状態は良くないが、四隅に主柱穴、南端に貯蔵穴、東側の柱穴間に炉跡が認められた。主柱穴は、深さが0.6～0.8m程で北西隅と南東隅の２基は開口部が広い、断面漏斗状の形状を呈している。貯蔵穴は、深さ0.7m程で、やや方形の形状を呈し、周囲を、確認時で高さ２～３㎝周提帯に囲まれている。炉跡は長軸約１m、短軸約0.8mを測る楕円形の地床炉で、深さは約６㎝と浅い。焼土が少なく底面もあまり硬化していないことから、検出した炉跡以外にSD001に切られた部分に日常的に使用する別の炉が存在していた可能性が高い。床面からは多量の焼土と炭化材が検出され、出土遺物の多くが、被熱によって表面が脆くなっていることから、焼失家屋と考えられる。

床面から出土した遺物が多く、南東隅の壁際からの出土が顕著である。

１～３は壷である。１は口径18.0㎝、器高27.5㎝、胴部最大径22.4㎝の装飾壷である。附加条縄文を地文とした複合口縁部には密な間隔で棒状浮文を配し、頸部は沈線で区画した範囲に附加条縄文を施文し、中央部に小さな円形浮文を貼り巡らす。胴上半部の沈線で鋸歯状に区画した部分は附加条縄文を施文している。無文の部分には赤彩を施している。２・３ともに口頸部を欠失している壷である。３は胴部外面を磨いた後に赤彩している。４は瓢壷の口縁部で外面に粗い刷毛調整を施した後に丁寧になでている。５は台付き甕の台部、６は高坏の脚部、７は内外面磨いた後に赤彩した高坏の杯部である。８も高坏であるが、全体に粗雑な作りで、内面には輪積み痕跡と粗い刷毛調整を残し、口唇部には指頭押捺により襞状の凹凸が認められる。９・10は小型の鉢である。９は底部が突出しており、内面は粗いナデ、外面は粗い刷毛調整を施しているのに対して、10は内外面ともに丁寧なミガキがなされている。11～13は匙型土製品である。11の匙部は円形の刳りの深いもので、細い柄の断面形も円形となる。12の匙部は断面長方形となる太い柄から匙部へ繋がる形をとっている。13は柄のみの出土であるが、断面円形となり細い柄となることから11と同様な形状の匙型土製品であったと考えられる。



第45図　SI001（1）

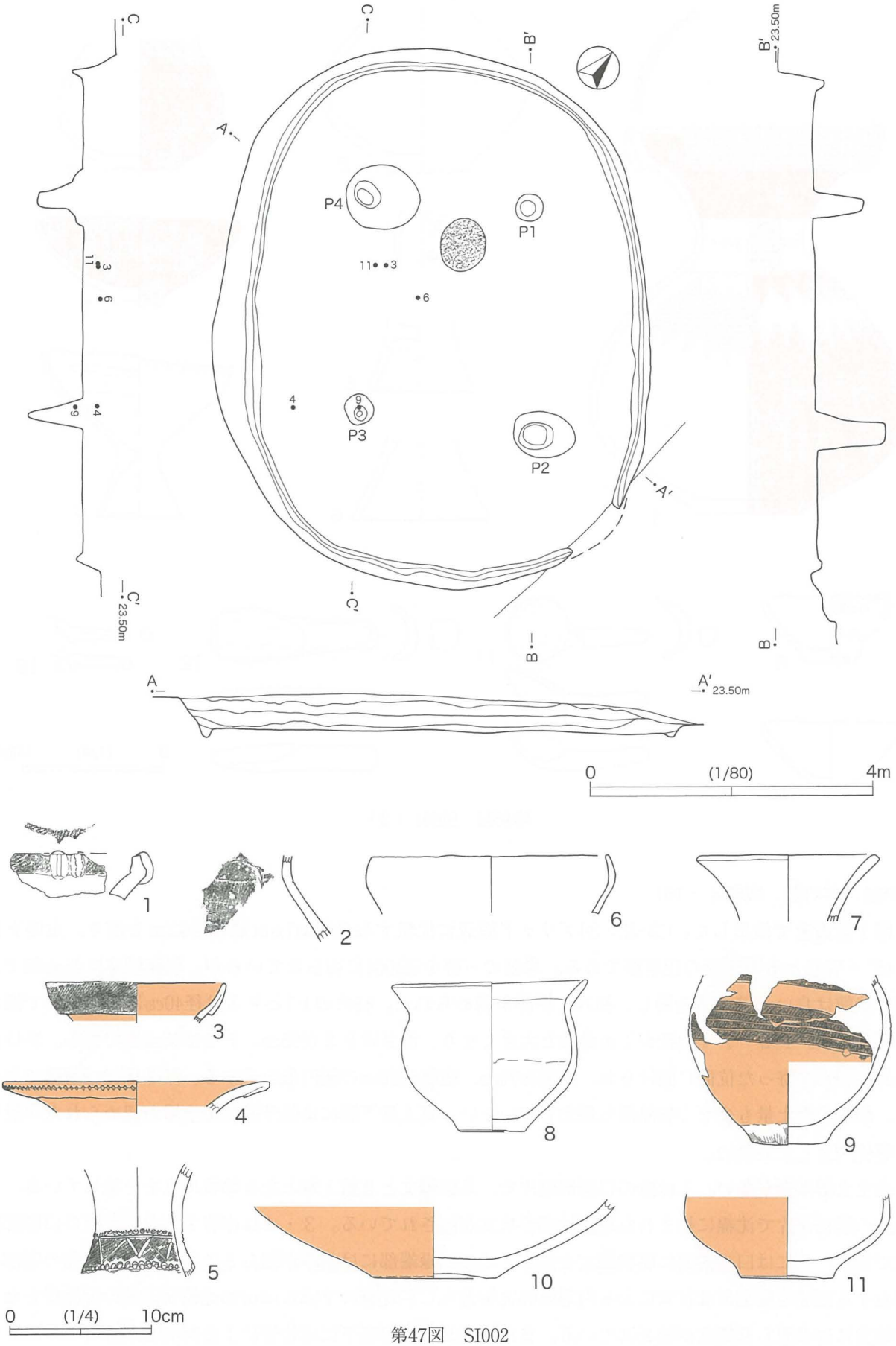


第46図　SI001（２）

SI002（第47図、図版４・16）

第１次調査で検出した。C3-33・34グリッド周辺に位置する長軸約7.6m短軸約6.2mを測り、主軸をN－46°－Wにとる楕円形の住居跡である。東側の一部をSD004に切られているが、現存壁高は45cm程で、遺存状態は良い。壁溝は全周し、柱穴、炉跡が認められた。柱穴のP1とＰ３は径40cmほどの円形で深さは75cmある。Ｐ２・Ｐ４は径が１m前後と大きくなり、深さはＰ２が95cm、Ｐ４は65cm程である。炉は住居長軸の北に寄った位置に設けられ、長軸約70cm、短軸約60cmの楕円形を呈する。深さは10cm前後である。炉内は焼土量も少なく被熱面も硬化していない。覆土最下層には部分的に焼土層が認められたが炭化材等は検出していない。

出土土器は壷が多い。１は壷の口縁部破片で、単節縄文と２個１対となる棒状浮文をを施している。２は壷の頸部破片で沈線に挟まれた範囲は網目状文が施されている。３・４は赤彩された装飾壷の口縁部破片であり、３には口縁外面に羽状縄文を施し、４の口縁端部には刻みが巡らされている。５は壷の頸部で、横走する沈線の直上には竹管による円形刺突文を巡らし、沈線の下部には山形沈線文区画の文様帯をなして地文には単節ＬＲ縄文が施されている。また山形文様帯の直下には竹管による刺突文が巡っている。６


C
C
B'
B' 23.50m
A
P4
P1
11
3
6
4
9
P3
P2
A'
C'
C'
23.50m
B
B
A
A' 23.50m
0
(1/80)
4m
1
2
6
7
3
4
8
9
5
10
11
0
(1/4)
10cm

第47図　SI002

は内彎する鉢の口縁の小破片を推定復元したものである。７は壷の口縁、８は口径13.5cm、器高10.5cmの小型の甕で内外面はミガキが施されている。柱穴Ｐ３内から出土した９は、胴上半部を欠失した壷で、外面は赤彩されている。胴中央部には横走する５条の沈線で４列の文様帯を画し、その中を単節縄文で充填している。胴上半部にも同様の文様帯が配されていると考えられる。10・11は壷の下半部で両者とも外面はミガキが施され赤彩されている。

SI004（第48図、図版５・16）

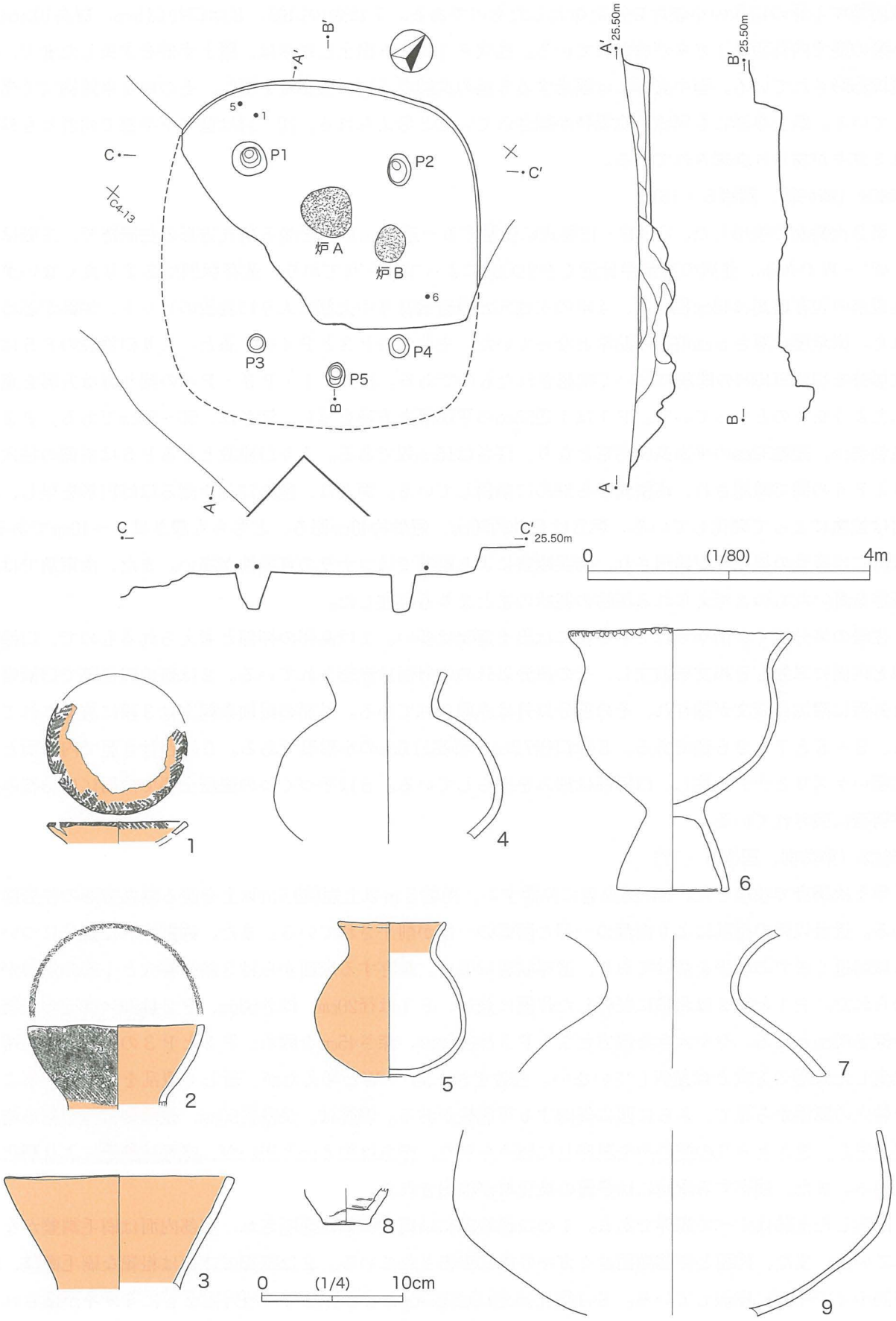
第２次調査で検出した、C4-03・13周辺に位置する一辺4.1m以上を測る隅丸方形の住居跡で、主軸はＮ－48°－Ｗである。住居の南側半分近くをSD004によって切られており、遺存状態はあまり良くないが、北辺部の現存壁高は40cm程あり、４本の主柱穴と南壁側寄り中央部に入り口施設のピット、炉跡が認められた。床全面は厚さ５cm前後の貼床となっていた。主柱穴のＰ３とＰ４の２基と、入り口施設のＰ５は本住居跡を切るSD004の溝底において確認されたものである。柱穴Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の掘り方は方形を意識したようなものとなっている。Ｐ１は１辺50cmの平面隅丸方形を呈し、深さは、50～55cmである。Ｐ２は長軸45cm、短軸32cmの平面長楕円形となり、深さは55cm程である。入り口施設となるＰ５は南側の柱穴Ｐ３とＰ４の間で確認され、南壁側から斜めに傾斜している。炉Ａは、径約70cmを測るほぼ円形を呈し、底面は被熱によって硬化している。炉Ｂは長軸約50cm、短軸約40cm測る。どちらも深さは５～10cmである。床面には多量の炭化材が検出され、肉眼観察による範囲ではコナラの可能性が高い。また、南東隅では屋根等を葺いたものと考えられる植物の茎状のまとまりも存在した。

住居の半分近くが削平されている割には出土遺物は多い。１は高杯の杯部と考えられるもので、口縁端部と内面に単節ＬＲ縄文を施文し、その部分以外の内外面は赤彩されている。２は壷の口径部で口縁端部と外面に附加条縄文が施され、その部分以外は赤彩されている。外面の附加条縄文は３段に施文されている。３～５と７・９も壷である。５は口径7.3cm、器高11.0cmの小形壷である。６は台付き甕で内外面ともに粗いケズリとナデを施し、口唇部は刻みを巡らしている。８は手づくねの壷型土器で内面には輪積み痕が明瞭に残されている。

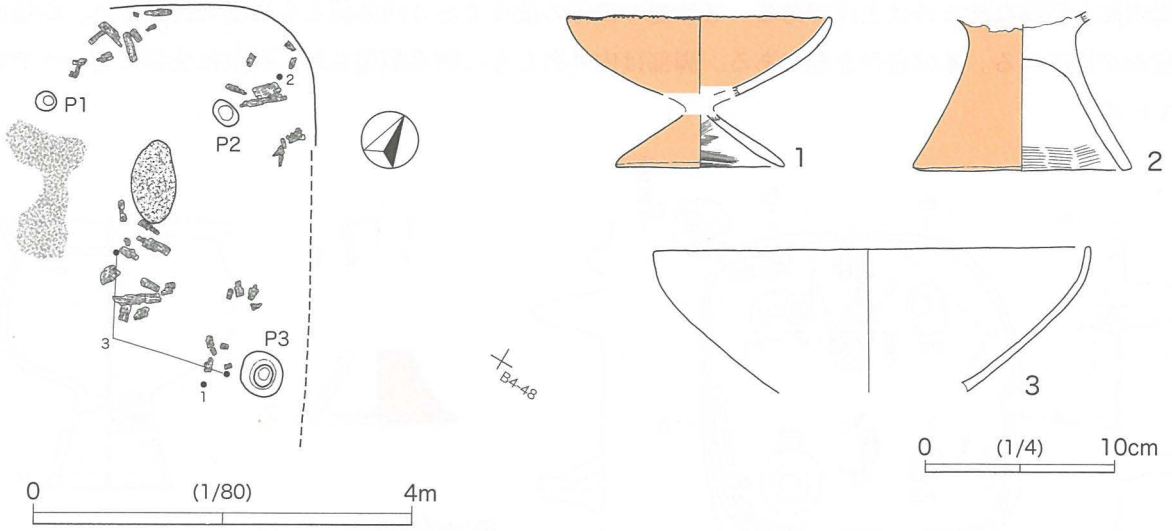
SI005（第49図、図版５・17）

第１次調査で検出した、B4-36周辺に位置する、長軸５m以上短軸3.6m以上を測る隅丸方形の住居跡である。近世以降の攪乱により南側の一部と西側の一部が削平されている。また、確認された部分についても床面近くまでの削平を受けており、遺存状態は悪い。遺存する床面からは３基の柱穴と１基の炉跡が認められた。Ｐ１とＰ２は北壁に並行した位置に並び、Ｐ１は径20cm、深さ60cm、Ｐ２は20×30cmの長楕円で深さ70cmとなる。やや大きな掘方となるＰ３は径50cm、深さ45cmを測る。Ｐ２とＰ３の並びは調査時に推定した東壁の方向とは並行していない。主軸をＮ－30°－Ｗと考えたが、著しく攪乱を受けていることや柱穴の配置から見て、さらに西に偏向する可能性がある。炉跡は、長軸約90cm、短軸約40cmを測る楕円形を呈し、Ｐ１とＰ２の間のやや東寄りに認められた。深さは約４cmと浅いが、底面は被熱により硬化している。また、残存する床面には多量の炭化材が検出された。

図示した土器はすべて高杯である。１の口縁端部には縄文原体が押圧され、脚部内面は刷毛調整がなされている。また、外面と杯部内面はミガキの後に赤彩されている。２は脚部で内面は粗雑な刷毛調整、縦方向のミガキ後に赤彩している。３は復元推定口径22.7cmとなる杯部で、内外面ともにミガキが施されている。


A'
B'
5
1
C
C4-13
P1
P2
C'
炉A
炉B
6
P3
P4
P5
B
A
25.50m
25.50m
C
C'
25.50m
0
(1/80)
4m
1
4
6
2
5
7
3
8
0
(1/4)
10cm
9

第48図　SI004

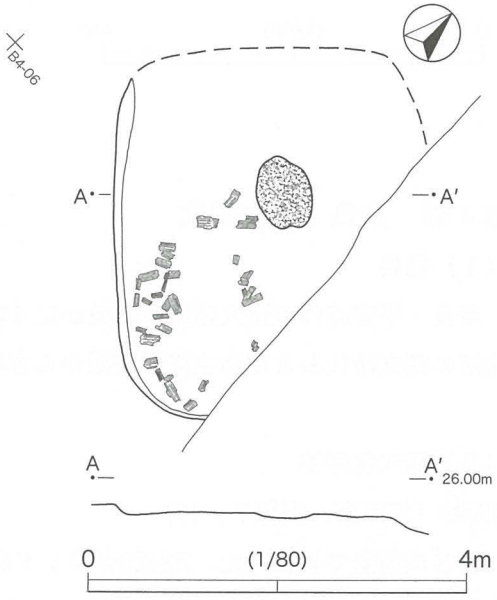


第49図　SI005

SI006（第50図、図版６）

第２次調査で検出した、B4-06周辺に位置する、長軸3.5m以上短軸3.3m以上を測る隅丸方形の住居跡である。主軸はN－45°－Wにとる。近世以降の攪乱により北側と東側の一部が削平されている。また、確認された部分についても床面近くまでの削平を受けており、遺存状態は悪い。炉は長軸約80cm、短軸約60cm、深さ約4cmを測る楕円形のもので、底面は被熱により硬化している。残存する床の部分においては柱穴を確認することはできなかった。なお、床面には炭化材や焼土が検出された。

遺物量は少なく、図示できるものはないが、外面を赤彩した壷の胴部破片などが出土している。



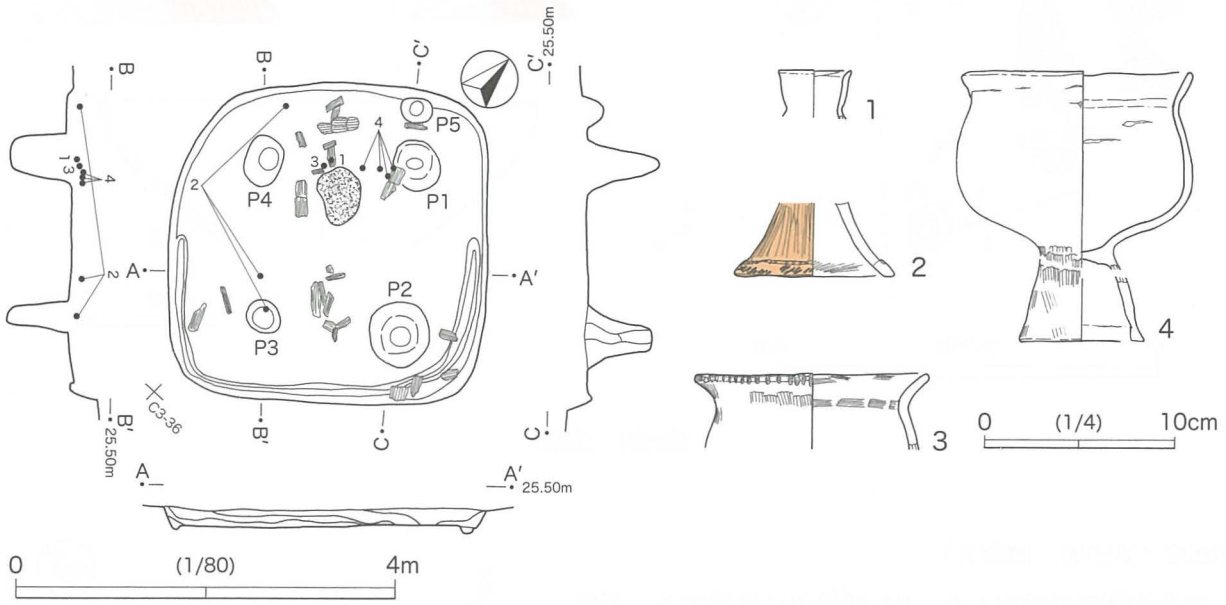
第50図　SI006

SI007（第51図、図版６・17）

第３次調査で検出した、C3-24・25グリッド周辺に位置する、一辺約3.4mを測る隅丸方形の住居跡である。主軸はN－40°－Wにとる。現存壁高は５～25cmと深くはないが、全体に遺存状態は良い。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴である。Ｐ１は径55cm、深さ70cm、Ｐ２は径70cm、深さ70cmで土層断面には柱痕跡が認められる。Ｐ３は径40cm、深さ65cm、Ｐ４は平面楕円形となり深さ60cmを測る。北壁際のＰ５は径10cm、深さ20cm程の小さなピットである。炉は住居中央より北に寄った場所に設けられ、長軸60cm、短軸45cmの楕円形を呈している。壁溝の深さは３cm程度の浅いもので、住居の南半分に認められた。なお、床面には焼土と炭化材が検出された。

出土遺物は多くはない。１は復元口径3.8cmとなる瓢型壷の口縁部である。内面は刷毛調整、外面はナデ調整され、全体に丁寧な作りとなっている。２は高坏の脚部で、端部の肥厚帯には単節縄文と刻みが巡らされている。外面全体に赤彩され、壷の口縁のように見えるが、内面は刷毛調整痕を残したままであり、

端部内面も粗雑なままの仕上げである。３は甕の口縁の破片であり内外面ともに刷毛調整され、口唇部には刻みが施される。４は台付き甕である。脚部は内外面ともに刷毛調整され、甕部は全体に粗いナデを施している。



第51図　SI007

第４節　奈良・平安時代

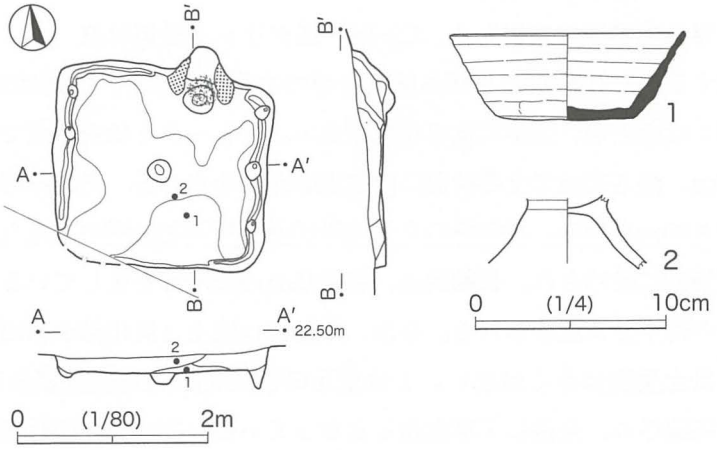
（１）概要

奈良・平安時代の竪穴住居跡は僅かに４軒であるが、分布は、調査対象範囲の東に寄った地点に集中し、前述の縄文時代および弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構・遺物の分布と大きく異なっている。

（２）竪穴住居跡

SI008（第52図、図版７・17）

第３次調査で検出した、F8-25グリッド周辺に位置する、一辺約2.2mを測る方形の小さな住居跡で、主軸をＮ－11°－Ｅにとる。覆土は、１層はしまりの弱い暗褐色土、２層は固くしまったローム粒子を多く含む暗黄褐色土、３層はロームを主体とする黄褐色土、４層は固くしまった暗褐色土、５～８層は黒褐色土で、５層はしまり弱く山砂を多く含み、６層は炭化材を多く含んだ山砂主体、７層は焼土を多く含んだ山砂主体、８層は炭化材を多く含んでいる。南壁側の一部を近世以降の攪乱によっ



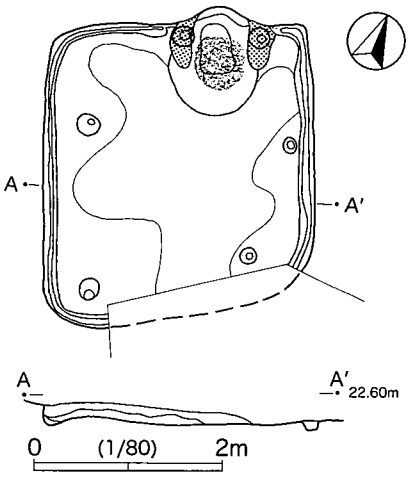
第52図　SI008

て削平されているが、遺存状態は良好で床面中央に深さ約0.1m、径約0.2mの円形を呈した柱穴が存在する。壁溝は幅約10cm、深さ約３cmを測る。壁溝内には東壁側に３基、西壁側に２基の壁柱穴が認めらる。また、壁溝は削平された南辺部にも存在した可能性が高く、全周していたものと考えられる。カマドは北壁の中心からやや東に寄った位置に構築している。カマド燃焼部が北壁際にあり、煙道部は壁の外方へ大きく飛び出した位置になっている

遺物は少ないが、床面から新治産須恵器杯が出土している（１）。口径12.3cm、底径7.3cm、器高4.7cmを測る。２は脚部の破片であるが、椀に付くものか甕類に付くものか判然としない。

SI009（第53図、図版７）

第３次調査で検出した、D8-27グリッド周辺に位置する、長軸約3.2m、短軸約2.8mを測る長方形の住居跡である。主軸をＮ－21°－Ｗにとる。覆土は、１層は山砂やロームを多く含んだ暗褐色土、２層は焼土を多く含んだ黒褐色土、３層はローム主体の暗黄褐色土である。南側の一部を近世以降の攪乱によって削平されているが、遺存状態は良好で、壁溝は全周するものと考えられる。床面には４基のピット、北辺の中心からやや東に寄った位置にカマドが認められた。壁溝は幅約10cm、深さ約５cmを測る。ピットは径15～25cmほどで深さが約30cmのもので、しまりのないローム主体の覆土であることから、柱穴と判断するには躊躇する。カマド煙道部の張り出しは小さく、袖部の遺存状態も悪いが、左右の袖の痕跡下にそれぞれ浅いピットが認められた。



第53図　SI009

遺物は図示できるようなものはないが、土師器杯の小破片と、新治産須恵器有台杯の高台部小破片が出土している。

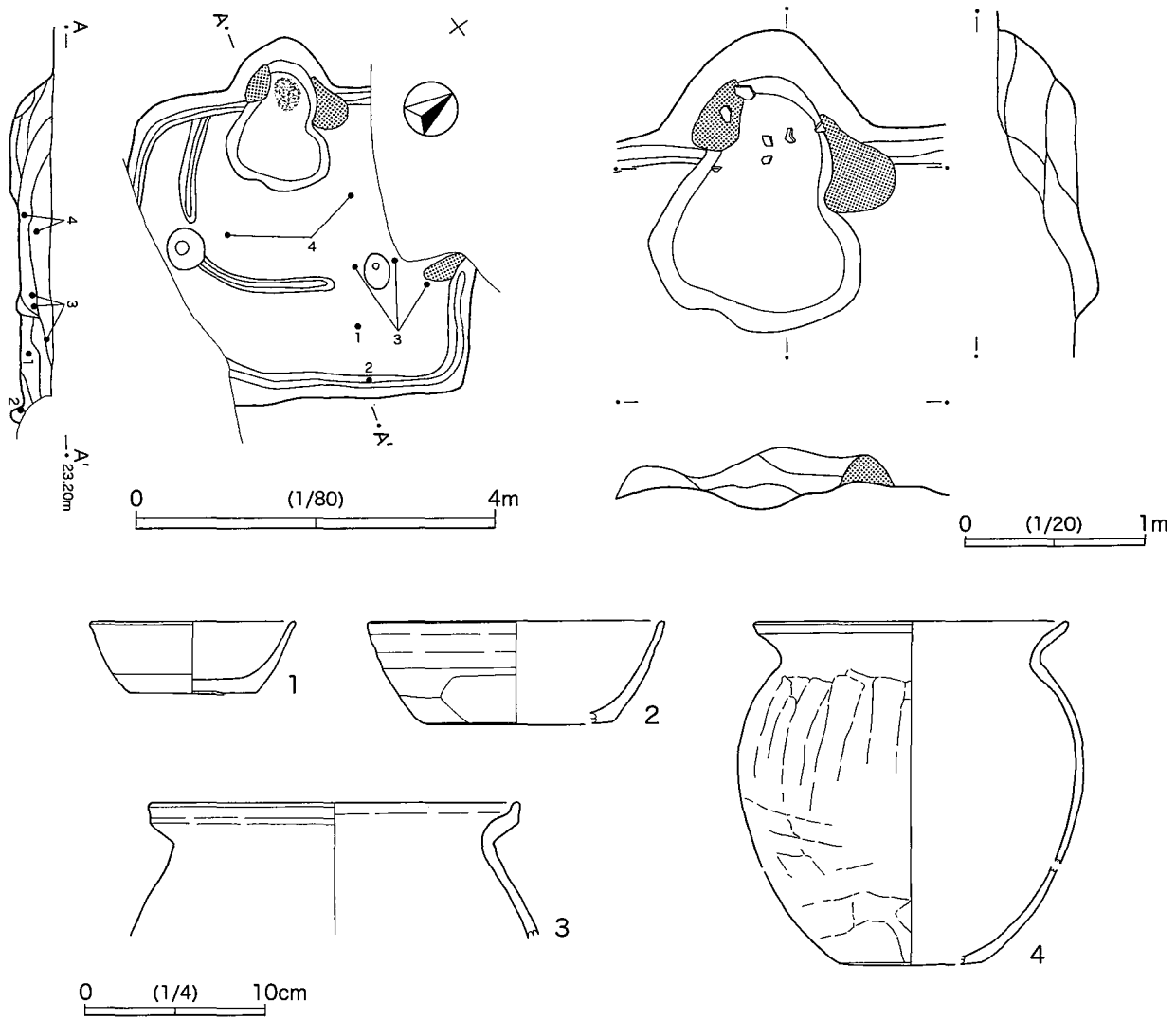
SI010・012（第54図、図版８・17）

第３次調査で検出したもので、調査段階では２基のカマドを有し、西辺カマドの前に壁溝状の溝を確認したことから２軒の住居と考え010と012の２つの遺構番号を付しているが、整理段階での検討から、１軒の住居と判断し、遺構番号のみ併記することとした。

E9-54グリッド周辺に位置し、長軸約3.7m短軸約3.4mを測る。主軸はＮ－55°－Ｗにとる。北辺と南辺の一部が近世以降の攪乱によって削平されており、遺存状態はあまり良くないが、壁溝が四辺を巡り、床面には２基のピット、西辺中央部と北辺中央部にカマドを構築しているが、北辺のカマドは大半を削平されて、袖の一部が残存している程度のものである。

壁溝は、幅20cm、深さ約５cmを測る。２基のピットはいずれも深さ約40cmを測る。北辺の中程に位置するカマドは、その大半を攪乱等によって削平されていおり、遺存状態は悪い。左袖の一部がかろうじて確認された程度である。西辺中央に設けられたカマドも両袖の痕跡をとどめてはいるが、天井部等の痕跡は認められない。

図示した遺物は杯、甕それぞれ２点である。１の口径は11.6cm、底径7.1cmで回転糸切り離し後に回転ヘラ削りを施している。２は床面から出土したもので、口径16.4cm、底径10.7cmを測る。内面は横方向のミ



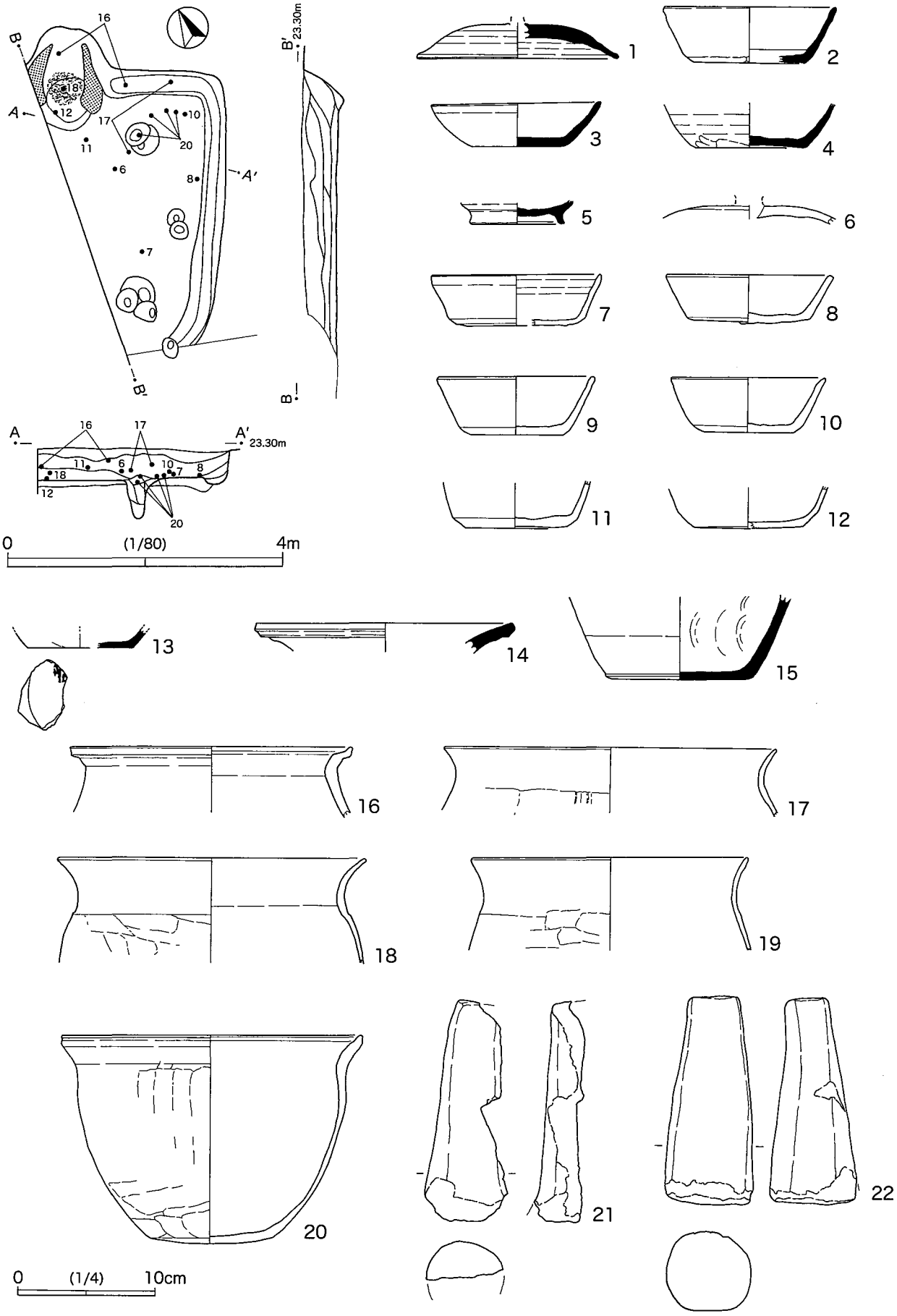
第54図　SI010・012

ガキを加えているが、二次的被熱のためか火撥ね状の器面剥離が著しい。３は口唇部をつまみ上げた甕で常総型となるものである。４は器厚の薄い甕で縦方向のヘラ削り後に胴下半部には横方向のヘラ削りを施している。

SI011・013（第55図、図版８・17）

第３次調査で検出した、E9-40グリッド周辺に位置する、南北4.2m以上東西2.8m以上の方形の住居跡である。主軸をN－30°－Eにとる。西側の大半は調査範囲外に伸び、調査範囲内の南辺は近世以降の攪乱によって削平されている。遺存する壁際には幅約30cm、深さ約５cmの壁溝が巡っている。カマドは北壁に設けられ西側の袖の一部は調査範囲外になるが、遺存状態は良好である。。

床面には斬り合ったピットが４基、主柱穴は北東と南東の隅に１基ずつ認められたが、両者共に切り合い関係を有している。北側の柱穴は径50cmの円形を呈し、深さは55～60cmである。南側の柱穴は径50～70cmの不整円形を呈し、深さは25～30cmである。この他に東壁中央部近くの床面で径25cm、深さ20cm程のピット２基を検出した。南東隅の壁溝内で検出したピットは深さが60cmにもなるもので、この住居に伴わな



第55図　SI011・013

い可能性が考えられる。なお、調査の進捗に伴い貼床を除去した段階で、壁溝の内側に一回り小さい壁溝が巡っていることを確認した。柱穴の切り合い関係や壁溝の状況から判断して、本住居跡は拡張された住居跡であることが明らかになった。この拡張前の住居跡に対してSI013の番号を付したため、報告ではSI011・013と併記した。

遺物量は多く、須恵器杯・蓋・甕、土師器杯・甕、土製支脚が出土している。1は須恵器蓋で端部は丸く収められている。2～4・13は須恵器杯である。3は底部回転糸切り離しで口径12.2cmを測る。5は須恵器高台付杯である。13の底部中央には墨書が認められるが判読できない。土師器杯はいずれも体部が直線的に立ち上がる箱形のもので底部の切り離し技法と器高の差が認められる。7は口径12.3cm、器高3.8cmで静止糸切り後、底部周縁と体部下端に回転ヘラ削りを施し、8～10は回転ヘラ切り後に底部全面と体部下端に回転ヘラ削りを施している。8は口径12.1cm、器高3.5cm、9・10はともに口径11.2cm、器高は4cmを超える。11は回転糸切り後に底部周縁と体部下端に回転ヘラ削りがなされている。12は切り離し不明で一方向の手持ちヘラ削りを施している。土師器甕はいわゆる常総型甕（16）と武蔵型甕（17～19）がある。土製支脚2点（21・22）は両者共に丁寧な面取りを施している。21の現存長は16.1cm、22は15.0cmである。須恵器の大半は新治産であるが、3は東金子窯の製品であり、土師器甕に武蔵型が多く見られることもこの遺跡の特徴といえよう。

第5節　中近世以降

（1）概要

当該期の遺構は、弥生時代から古墳時代の竪穴住居群が存在する地点と重なり、調査対象地の北端部に集中している（第3・56図、図版3）。そのほとんどは溝状遺構であり、この地点で検出した溝状遺構について詳述する。なお、調査地の南東部にあたるＦ８・Ｆ９グリッドでも数条の溝状遺構を検出している（第3図）。

（2）溝状遺構

SD001

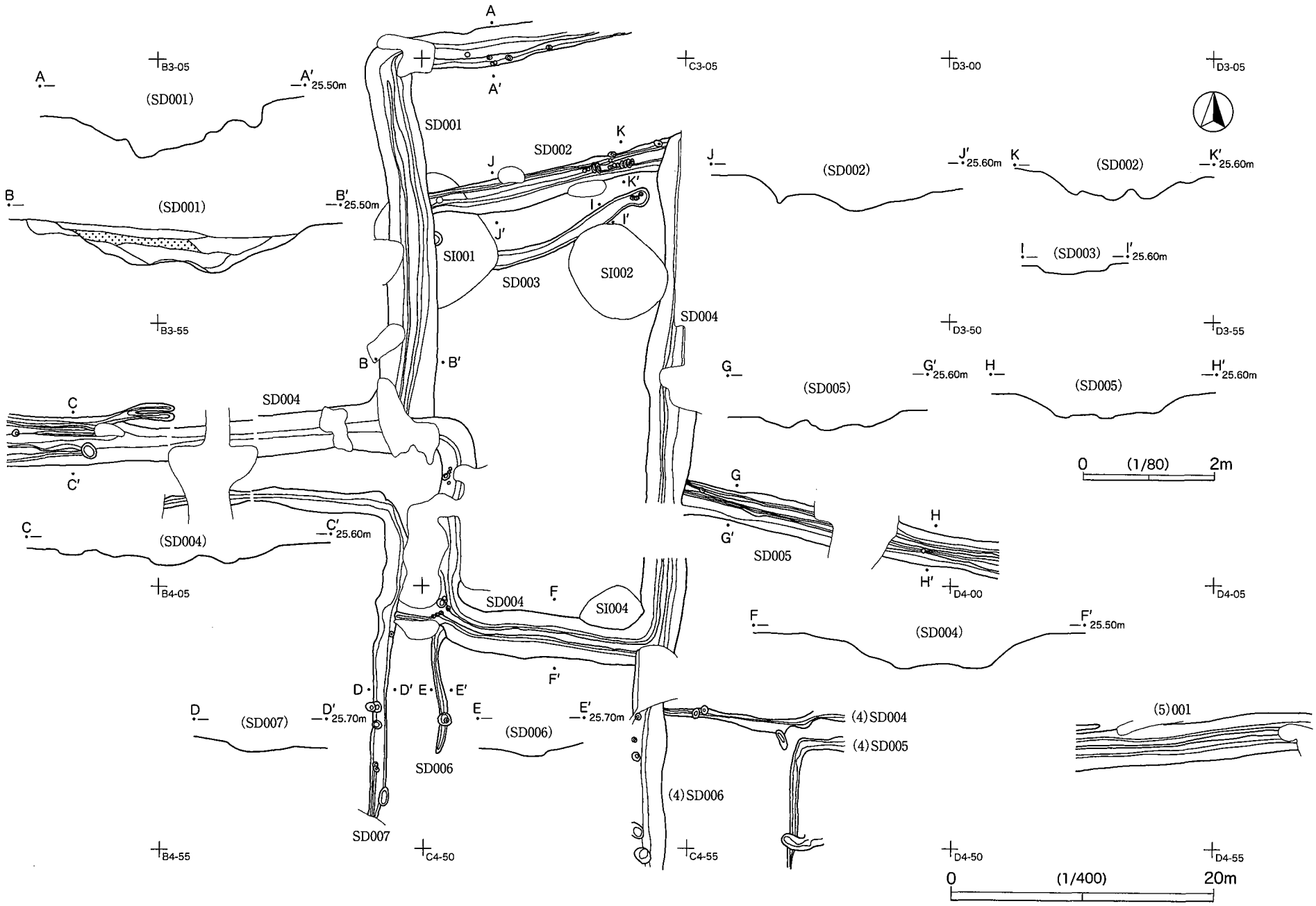
C2-93グリッドから東西方向に走り、B2-99グリッドあたりでほぼ真南に屈曲しC3-60グリッドでSD004に接続する、幅約4m深さ約70cmの溝状遺構である。溝底は階段状を呈する部分や2条に分かれる部分などがあり、一定の形状を呈することはない。覆土上層部には宝永の火山灰を含む層（第56図、Ｂ－Ｂ'）が認められことから、18世紀初頭以前に構築されたものと考えられる。SD002とSD004との切り合っているが、その新旧関係は明らかではない。

SD002

C3-14グリッドからC3-20グリッドへ向かって走行してSD001に接続する、幅2m深さ約30cmの溝状遺構である。溝底は階段状を呈する部分や2条に分かれる部分などがあり、浅い窪みが随所に認められ、一定の形状を呈することはない。溝の方向はSD001の東西走行部から南へ約8mの距離を置いて並走している。

SD003

C3-24グリッドの地点から端を発し、SD002の南側で東西に走る、幅約1m深さ約10cmの浅い溝状遺構



第56図　SD001～SD007・(4)SD004～(4)SD006・(5)001

である。SD001・002に比べて、規模が小さく、形状も大きく異なっている。

SD004

C3-14グリッドの地点でSD002と切り合い、真南に走行し、C4-14グリッド地点でほぼ直角に西へ屈曲し、C4-00グリッドで再び真北に北上し、C3-70グリッドで再度西へ屈曲して西進する溝で、幅約3.5m深さ約60cmを測る。溝底は階段状を呈する部分や２条に分かれる部分などがあり、一定の形状を呈することはない。第４次調査でC4-24グリッドからC4-44グリッドにかけて検出した南北に走る溝 (4)SD003もSD004に連続するものと考えられる。

SD005

C3-84グリッドでSD004に接続し、D3-90グリッド方向へ延びる幅約2.5m深さ約20cmの溝である。溝底は平坦となる部分や階段状を呈する部分、２条に分かれる部分などがあり、一定の形状を呈することはない。切り合うSD004との新旧関係は明らかではない。

SD006

C4-30グリッドに端を発し、緩やかな彎曲線を描きながら北上してSD004に接続する幅約40cm、深さ約10cmの浅い溝である。

SD007

B3-35グリッドから東進し、B3-39グリッド地点で直角に屈曲してB3-94グリッド方向へ南進する溝で幅約1.2m、深さ約0.4mを測る。この溝は前述のSD004とSD006と約４mの距離を置いて併走している。

(4) SD004

C4-34グリッドで (4)SD003と接続し、C4-37グリッド方向へ東進する溝である。幅約1.7m深さ約20cmを測る。

(4) SD005

C4-57グリッドから北上し、C4-37グリッド地点で直角に東へ屈曲する、幅約60cm、深さ約20cmの小規模な溝である。

(5) 001

D4-32グリッドからD4-36グリッド方向にかけて検出した東西に走る溝状遺構である。幅約３m、深さ約50cmを測り、溝底は２条に分かれている。(4)SD004・005の延長線上にあり、溝底の2条の溝がそれぞれと接続するものと思われる。

以上の溝状遺構のなかで時代を明らかにできるものは少ない。溝の走行方向との関係からSD001、SD004、SD007、(4)SD003は相互に関連した遺構と考えられ、覆土中の宝永の火山灰堆積を認めるならば18世紀初頭以前に機能していたものといえるであろう。また、(4)SD004・(4)SD005・(5)001は江戸後期の陶磁器が多く伴っていたことから近世の所産と考えられる。

この他に第４次調査の中で、Ｆ８・Ｆ９グリッドで検出した (4)SD001・(4)SD002・(4)SD006と、第５次調査のD4-47グリッド周辺で検出した長方形の竪穴状遺構 (5)004は明らかに近世以降の新しいものであることから、報告を割愛する。

遺構番号	番号	器　種	口径	底径	器高	その他	遺　存　度	備　　考
			( ) 推定	〈 〉現存	cm			
SI001	1	壷	18.0		27.5	胴最大径22.4	完形	赤彩
	2	壷	—	6.7	〈11.6〉	胴最大径11.4	胴部2/3	
	3	壷	—	6.0	〈9.2〉	胴最大径11.8	胴部全周	赤彩
	4	甕壷	3.0	—	〈4.4〉		口頸部のみ	
	5	台付甕	—	7.6	〈5.4〉		脚部1/4	
	6	高坏	—	9.7	〈5.8〉		脚部2/3	
	7	高杯	15.5	—	〈6.2〉		杯部2/3	赤彩
	8	高杯	13.5	6.0	11.5		ほぼ完形	
	9	鉢	8.8	4.0	4.7		ほぼ完形	
	10	鉢	9.5	2.5	4.5		1/3	
	11	土製匙	4.6×4.3	1.3	長さ　10		完存	
	12	土製匙	3.9×6.3	2.2×1.9	長さ　11.7		完存	
	13	土製匙		柄長さ　8	長さ　5.5		柄のみ	
SI002	1	壷	—	—	—		口縁小破片	
	2	壷	—	—	—		頸部小破片	
	3	壷	(12.6)	—	〈2.7〉		口縁1/7	頸部赤彩
	4	壷	(18.9)	—	〈2.3〉		口縁1/5	赤彩
	5	壷頸部	—	—	〈7.5〉		頸部のみ	
	6	鉢	16.4	—	〈4.0〉		口縁1/8	
	7	壷	12.2	—	〈4.6〉		口縁1/6	
	8	壷	13.5	5.7	10.5	胴最大径12.3	胴最大径12.3	
	9	壷	—	5.3	〈11.9〉	胴最大径14.3	胴最大径14.3	赤彩
	10	壷	—	8.7	〈5.0〉		底部	赤彩
	11	壷	—	6.8	〈5.8〉		胴下半～底部	赤彩
SI004	1	高坏	9.5	—	〈1.5〉		口縁2/3	赤彩
	2	壷	12.0	—	〈6.0〉		口頸部のみ	赤彩
	3	壷	15.6	—	〈8.0〉		口頸部1/3	赤彩
	4	壷	—	—	〈11.7〉	胴最大径16.2	頸部～胴部1/3	
	5	壷	7.3	3.8	11.0	胴最大径10.7	ほぼ完形	赤彩
	6	台付甕	15.5	8.0	18.6		ほぼ完形	
	7	壷	—	—	〈10.3〉		頸部～胴部1/3	
	8	手づくね	—	3.1	〈2.5〉		底部のみ	
	9	壷	—	—	〈13.0〉	胴最大径31.1	胴下半1/3	
SI005	1	高杯	(13.6)	(8.8)	(8.0)		杯部1/4　脚部1/3	赤彩
	2	高杯	—	11.5	〈8.3〉		脚部1/2	赤彩
	3	高杯	(22.7)	—	〈7.5〉		杯部1/5	
SI007	1	甕壷	3.8	—	〈2.5〉	頸部径2.8	口頸部1/3	
	2	高杯	—	(8.4)	〈3.9〉		脚部2/5	
	3	甕	(12.1)	—	〈4.0〉		口縁1/5	
	4	台付甕	11.9	6.5	(14.2)		ほぼ完形	
SI008	1	須恵　杯	12.3	7.3	〈4.7〉		口縁1/2を欠く	常陸産
	2	高杯　脚	—	—	〈3.6〉		脚端部を欠く	
SI010・012	1	杯	11.6	7.1	4.0		完形	
	2	杯	(16.4)	(10.7)	5.8		1/4	
	3	甕	(20.6)	—	〈7.4〉		口縁1/3	
	4	甕	(17.4)	(7.4)	〈19.2〉		1/3	
SI011・013	1	須恵　蓋	(14.6)	—	〈2.6〉		1/8	新治産
	2	須恵　杯	(12.6)	(8.0)	4.1		1/6	
	3	須恵　杯	12.2	6.5	3.3		95%	東金子産
	4	須恵　杯	—	8.1	〈3.3〉		体部1/8底部100%	新治産
	5	須恵高台杯	—	(6.6)	〈1.6〉		底部1/2	
	6	蓋	—	—			つまみと端部を欠く1/3	
	7	杯	(12.3)	(8.8)	3.8		1/4	
	8	杯	12.1	9.9	3.5		ほぼ完形	
	9	杯	(11.2)	6.7	4.3		口縁1/3底部100%	
	10	杯	11.2	6.5	4.1		60%	
	11	杯	—	7.4	〈3.4〉		口縁を欠く	
	12	杯	—	(7.9)	〈3.0〉		1/5	
	13	須恵　杯	—	(7.5)	〈1.4〉		底部　1/6	新治産
	14	須恵　甕	(18.5)	—	〈2.1〉		口縁　1/12	新治産
	15	須恵　甕		(10.7)	〈6.0〉		胴下端～底部1/3	新治産
	16	甕	(20.4)	—	〈4.7〉		口縁1/6	常総型
	17	甕	(21.0)	—	〈4.7〉		口縁1/5	武蔵型
	18	甕	(22.3)	—	〈7.5〉		口縁1/4	武蔵型
	19	甕	(19.9)	—	〈6.7〉		口縁1/3	武蔵型
	20	甕	21.7	8.8	15.3		ほぼ完形	
	21	土製支脚	—	—	—	全長16.1	1/2	
	22	土製支脚	—	—	—	全長15.0	ほぼ完形	

第８表　弥生時代後期～奈良平安時代遺物計測表

第３章　下矢切東台遺跡

第１節　旧石器時代

下矢切東台遺跡の調査では、合計13ブロックが検出された。これらブロックは調査区南東側に集中する傾向が認められるが、第１章で述べたように、この区域のローム層の状態は粘性が強く調査が困難であり、また、調査時の記録に不明瞭な点が多いことから、全てのブロックについて文化層を明確にすることは困難である。しかし、石器組成、使用される石材から、同一文化層に属するブロックは希少であることが推測される。

（１）第１ブロック（第58～61図、第９・15表、図版19）

分布

N17-27グリッドからN17-47グリッドにかけて検出された。分布は長軸９ｍ、短軸2.5ｍの長楕円形状を呈する。分布範囲中には特に密集する地点はなく、均等に散布している。出土層位Ⅵ～Ⅸ層とされる第２黒色帯を一括した層からの出土である。ヒストグラムのピークはこの層の中位に位置し、レベル的にはⅨa層に所属すると考えられる。石器の出土レベルの最大値は24.508ｍ、最小値は24.325ｍ、平均は24.408ｍである。

器種・石材

剥片３点、敲石１点、礫２点が出土している。

１は黒曜石製の剥片である。透明度が高く、直径２㎜ほどの球形の夾雑物を少量含む。背面構成は節理面と打面側からの剥離のみであり、縦長剥片の形状を呈する。

２は安山岩製の剥片である。背面は多方向からの剥離で構成され、腹面は主要剥離面の他、剥片剥離工程初期段階の剥離痕が認められる。

３は安山岩製の敲石である。棒状礫の一端に敲打による剥落痕が認められる。

（２）第２ブロック（第58～60・62・63図、第９・15表、図版19・20）

分布

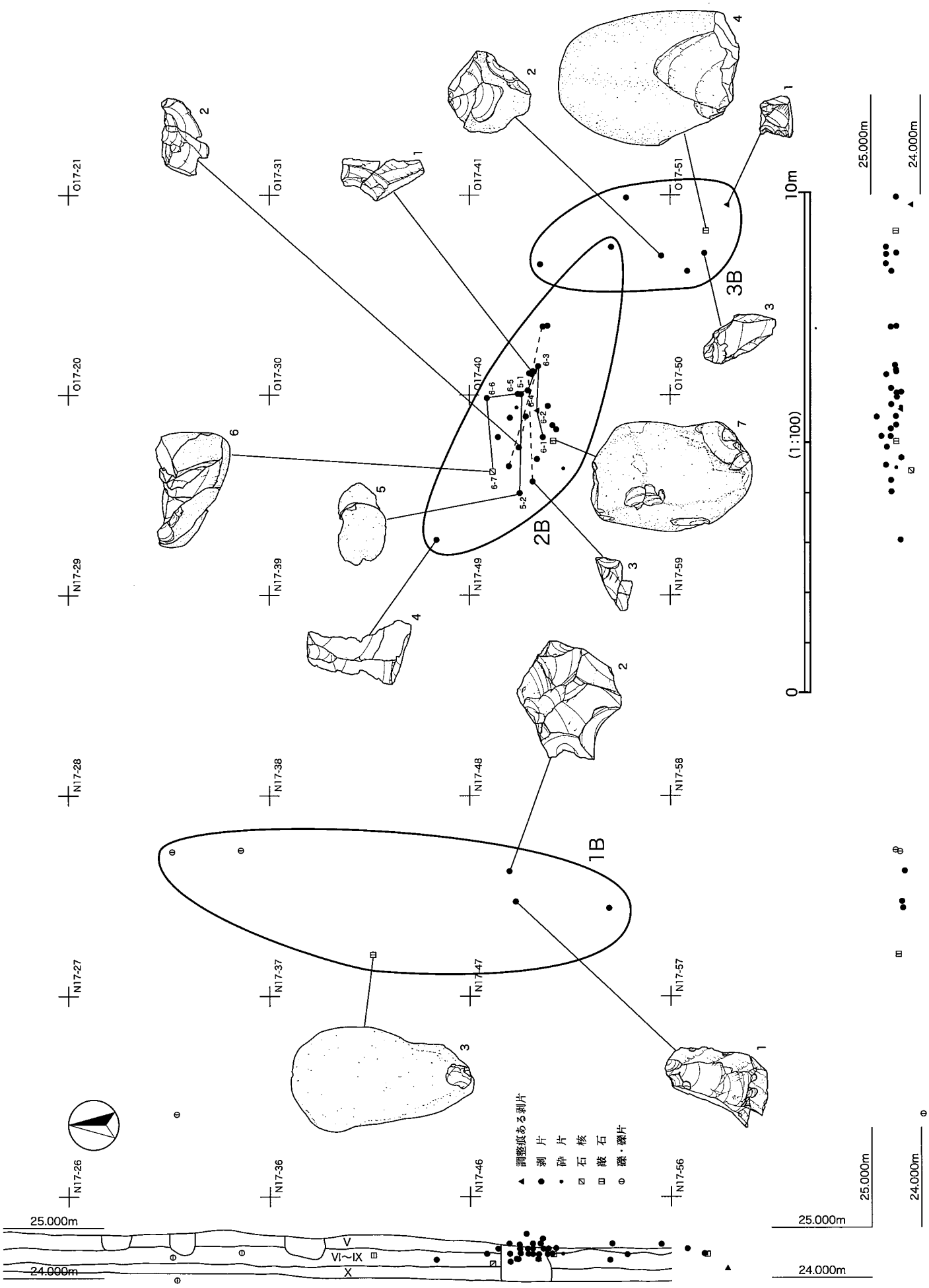
N17-39グリッドからO17-40グリッドにかけて検出された。分布は長軸７ｍ、短径２ｍの長楕円形状を呈する。第３ブロックと一部分布が重なる。分布範囲の中央部、N17-49グリッド北東部の２ｍの範囲で集中がみられ、以外の分布は疎となる。

石器の出土層位はⅤ層からⅥ～Ⅸ層と層位的な幅が大きいが、ヒストグラムでは、点数の最大値付近がⅤ層下位付近に該当するため、この層位に所属するものと考えられる。なお、石器の出土レベルの最大値は24.892ｍ、最小値は24.278ｍ、平均は24.494ｍである。

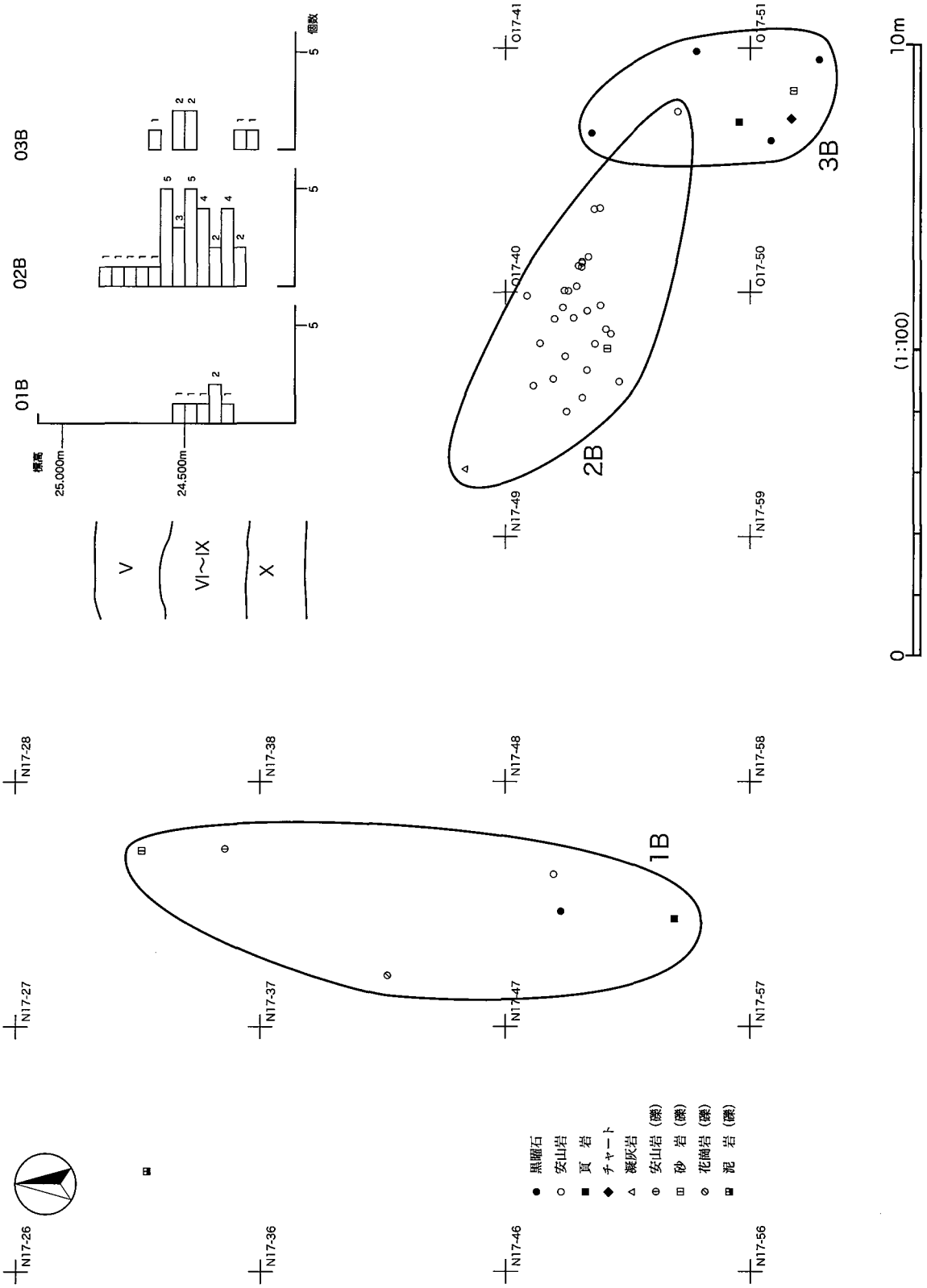
接合資料

安山岩製の接合資料２個体が確認された。剥片相互の接合資料と、同一打面から連続的に作出された剥片７点と石核の接合資料である。

第57図　旧石器時代遺構配置図



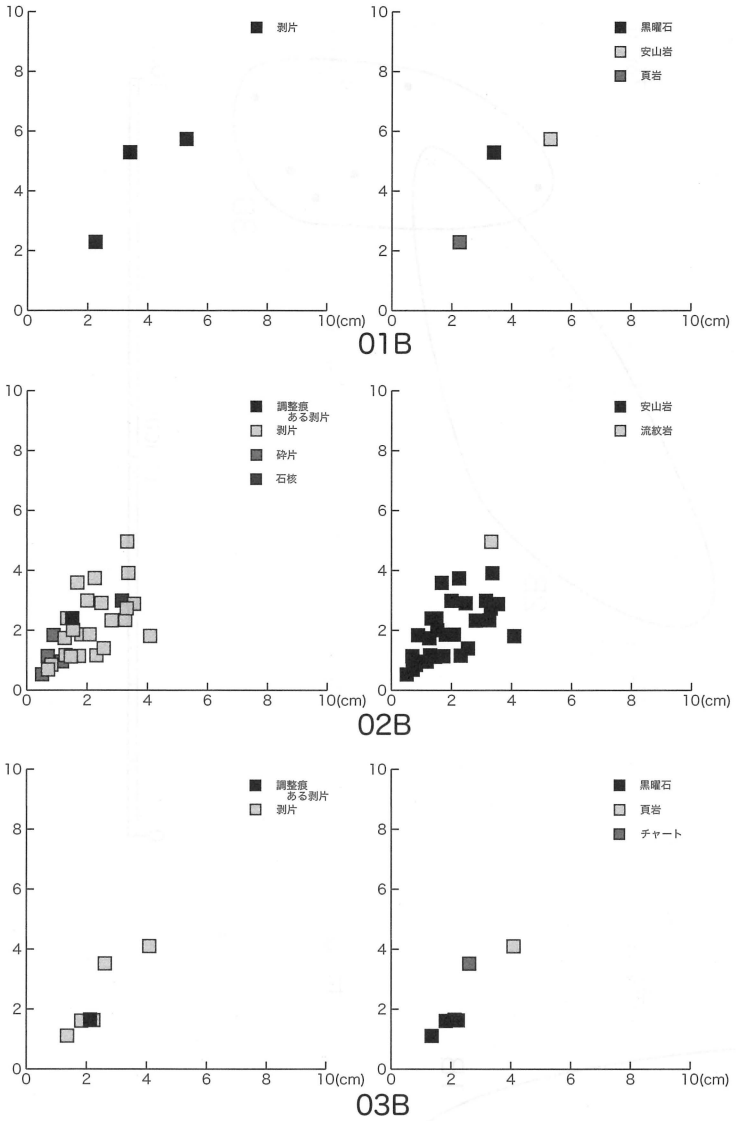
第58図　第1～3ブロック器種別分布



第59図　第１～３ブロック石材別分布

器種・石材

計29点のうち流紋岩製の剥片が１点、他の28点は全て安山岩製である。定型的な石器はなく、調整痕のある剥片１点が組成に加わる。



第60図　第１～３ブロック石器形状比グラフ

	剥　片	敲　石	礫	合　計	組成比
黒曜石	1 20.1			1 20.1	33.33 26.62
安山岩	1 51.4			1 51.4	33.33 68.08
頁　岩	1 4.0			1 4.0	33.33 5.30
合　計	3 75.5			3 75.5	99.99 100.00
組成比				99.99 100.00	
安山岩		1 202.0	1 8.3	2 210.3	66.66 99.34
砂　岩			1 1.4	1 1.4	33.33 0.66
合　計		1 202.0	2 9.7	3 211.7	99.99 100.00
組成比		33.33 95.42	66.66 4.58	99.99 100.00	

01B

	調整痕ある剥片	剥　片	砕　片	石　核	敲　石	合　計	組成比
安山岩	1 1.7	22 84.0	4 1.1	1 19.4		28 106.2	96.55 92.59
流紋岩		1 8.5				1 8.5	3.45 7.41
合　計	1 1.7	23 92.5	4 1.1	1 19.4		29 114.7	100.00 100.00
組成比	3.45 1.48	79.31 80.65	13.79 0.96	3.45 16.91		100.00 100.00	
砂　岩					1 202.0		

02B

	調整痕ある剥片	剥　片	敲　石	合　計	組成比
黒曜石	1 2.8	3 2.1		4 4.9	66.68 17.95
頁　岩		1 19.4		1 19.4	16.66 71.06
チャート		1 3.0		1 3.0	16.66 10.99
合　計	1 2.8	5 24.5		6 27.3	100.00 100.00
組成比	10.26 16.66	89.74 83.34		100.00 100.00	
砂　岩			1 2.8		

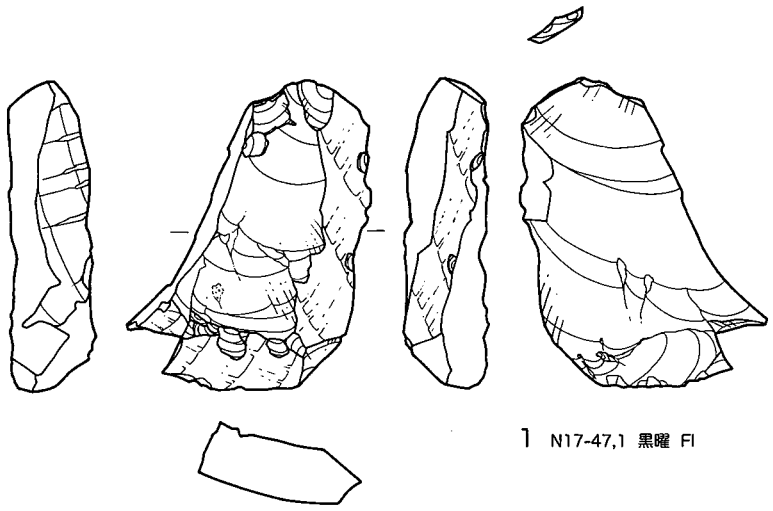
03B

第９表　第１～３ブロック石器組成表

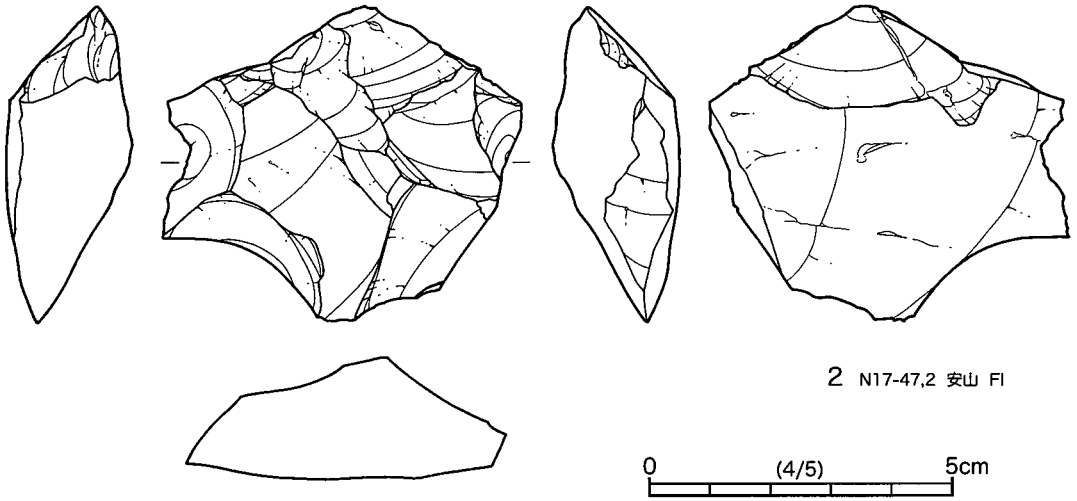
安山岩は礫面、器表面とも黄土色を、欠損面は黒色を呈する。いわゆる黒色緻密質安山岩である。流紋岩は器表面、欠損面共に白色を呈し、直方体の鉱物が混入するもので、風化による器表面の剥落が著しいものである。剥片形状は一定せず、縦横比２：１の縦長系列から１：２の横長系列の間に一様に分布している。

１から３安山岩製、４は流紋岩製の剥片である。１は縦長剥片であり２分している。人為的な折断ではなく剥片剥離時の欠損である。背面は右上方からの剥片剥離工程初期段階の剥離と左上方からの剥離により構成される。２は横長剥片であり、剥片剥離時に打点より分離したものである。背面は打面側からの剥離により構成される。３は剥片の末端部付近の資料であり、打面部は欠損している。４は縦長剥片であり、打面部付近が欠損している。背面は風化による剥落のため不明瞭であるが、打面側からの剥離が主体となり、末端部のみ右側縁方向からの剥離により構成される。

５は安山岩製の接合資料で、連続的に作出された剥片２点の接合例である。１の背面は礫面で構成され、打面は剥片剥離時に欠損している。連続して２の剥片が作出されるが、中途より２分している。

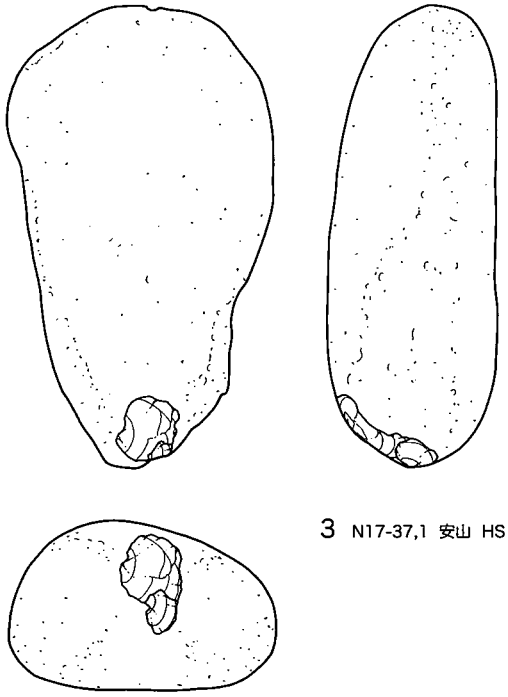


1 N17-47,1 黒曜 Fl



2 N17-47,2 安山 Fl

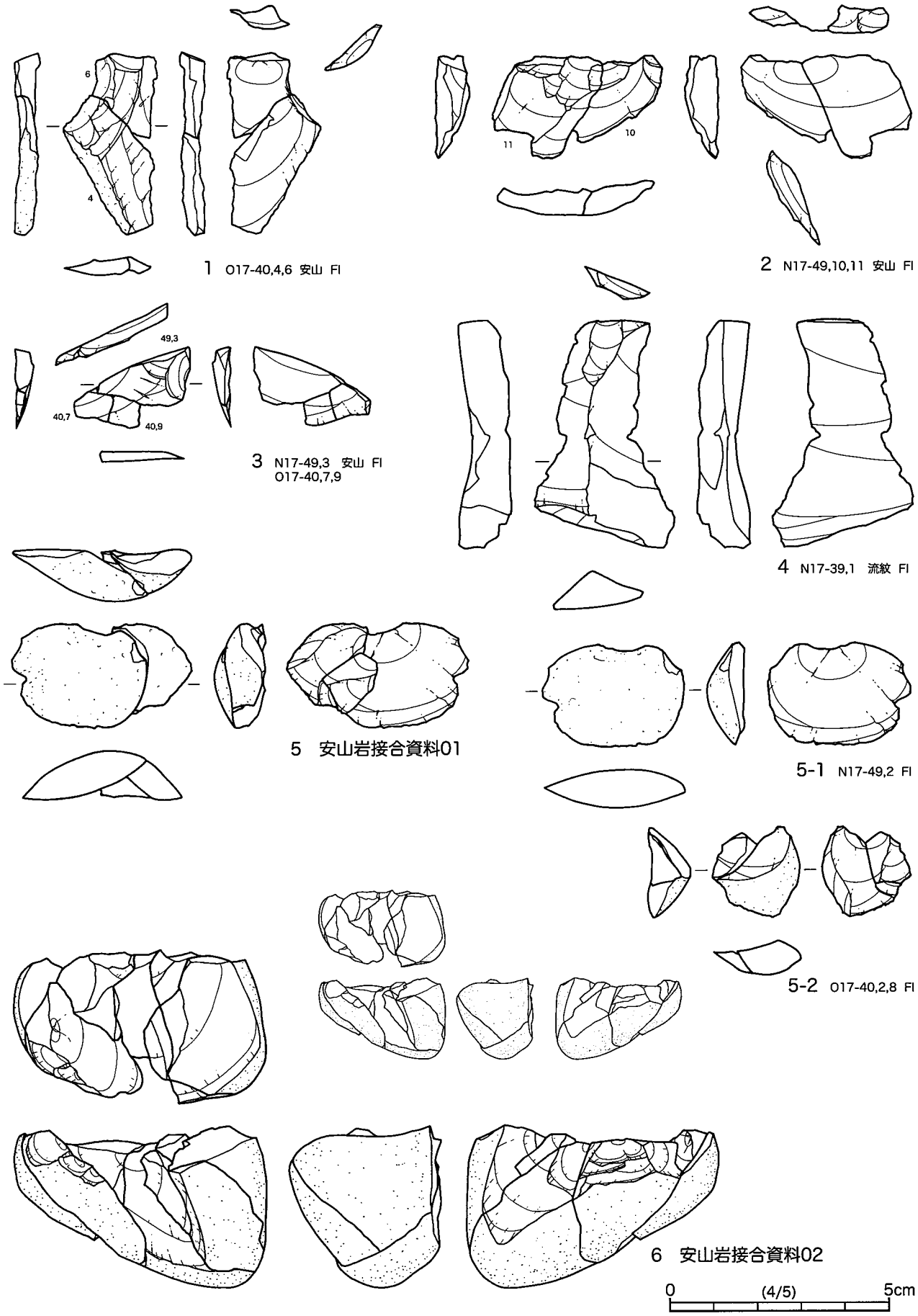
0 (4/5) 5cm



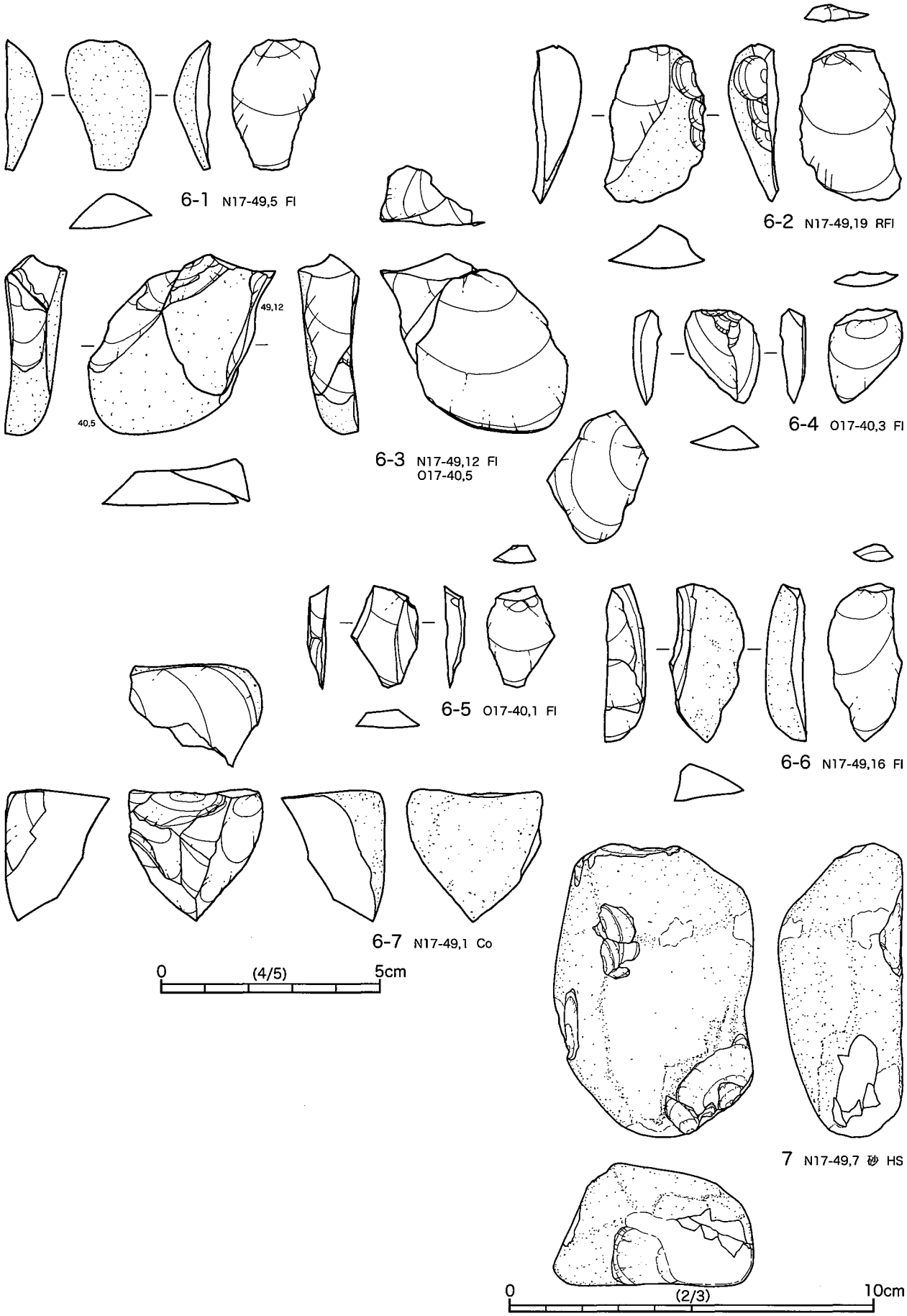
3 N17-37,1 安山 HS

0 (2/3) 10cm

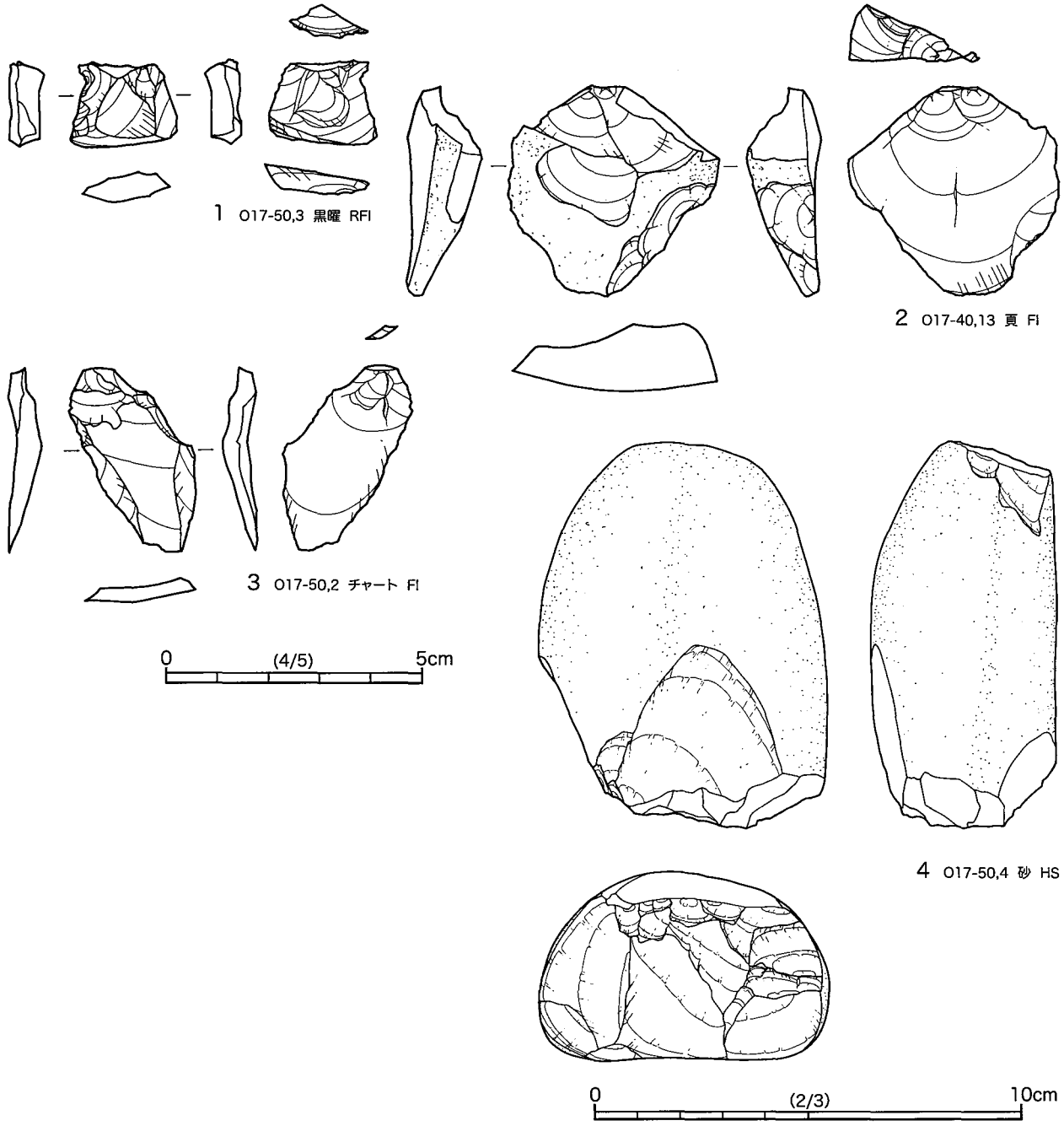
第61図　第１ブロック出土石器



第62図　第２ブロック出土石器（１）



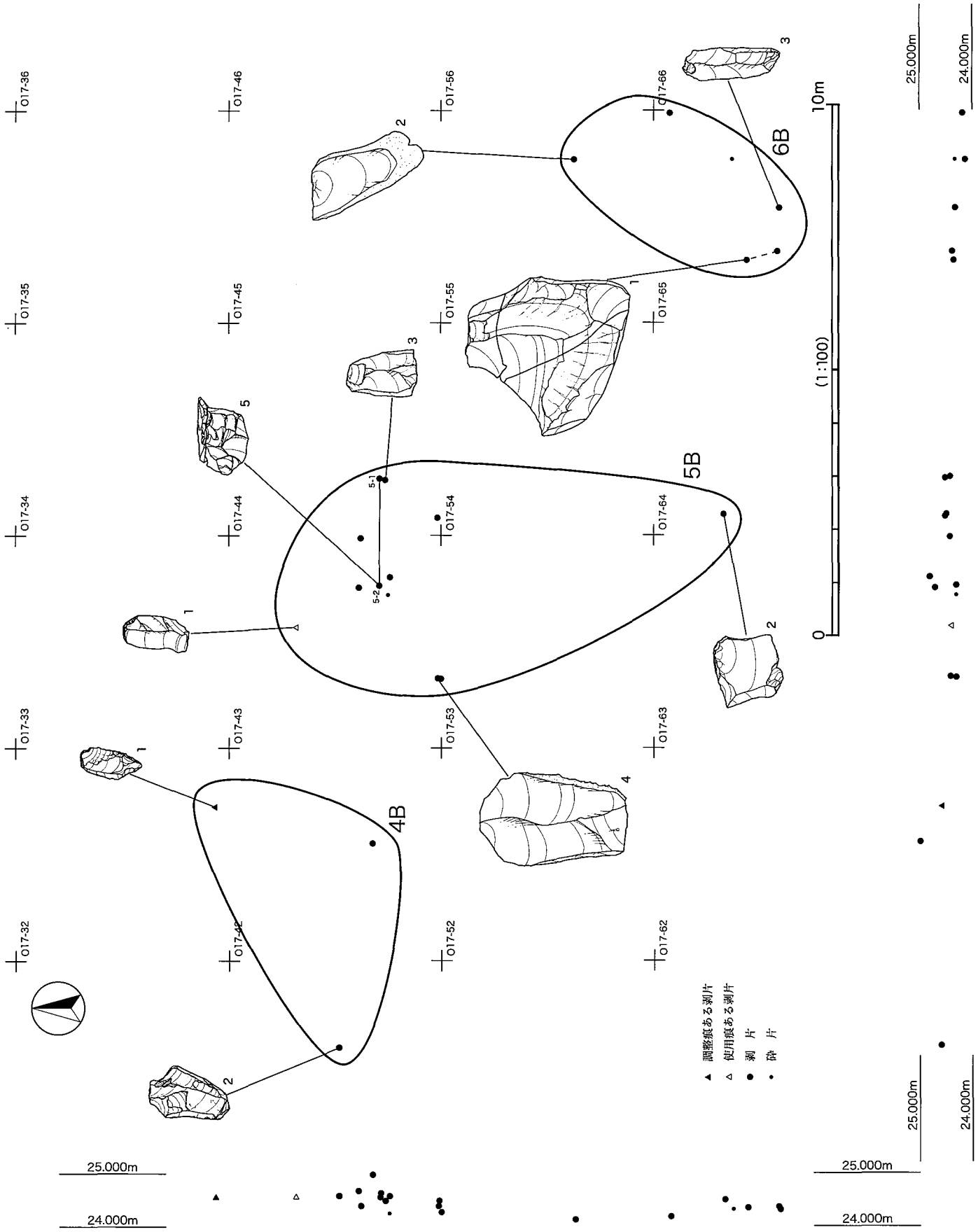
第63図　第２ブロック出土石器（２）



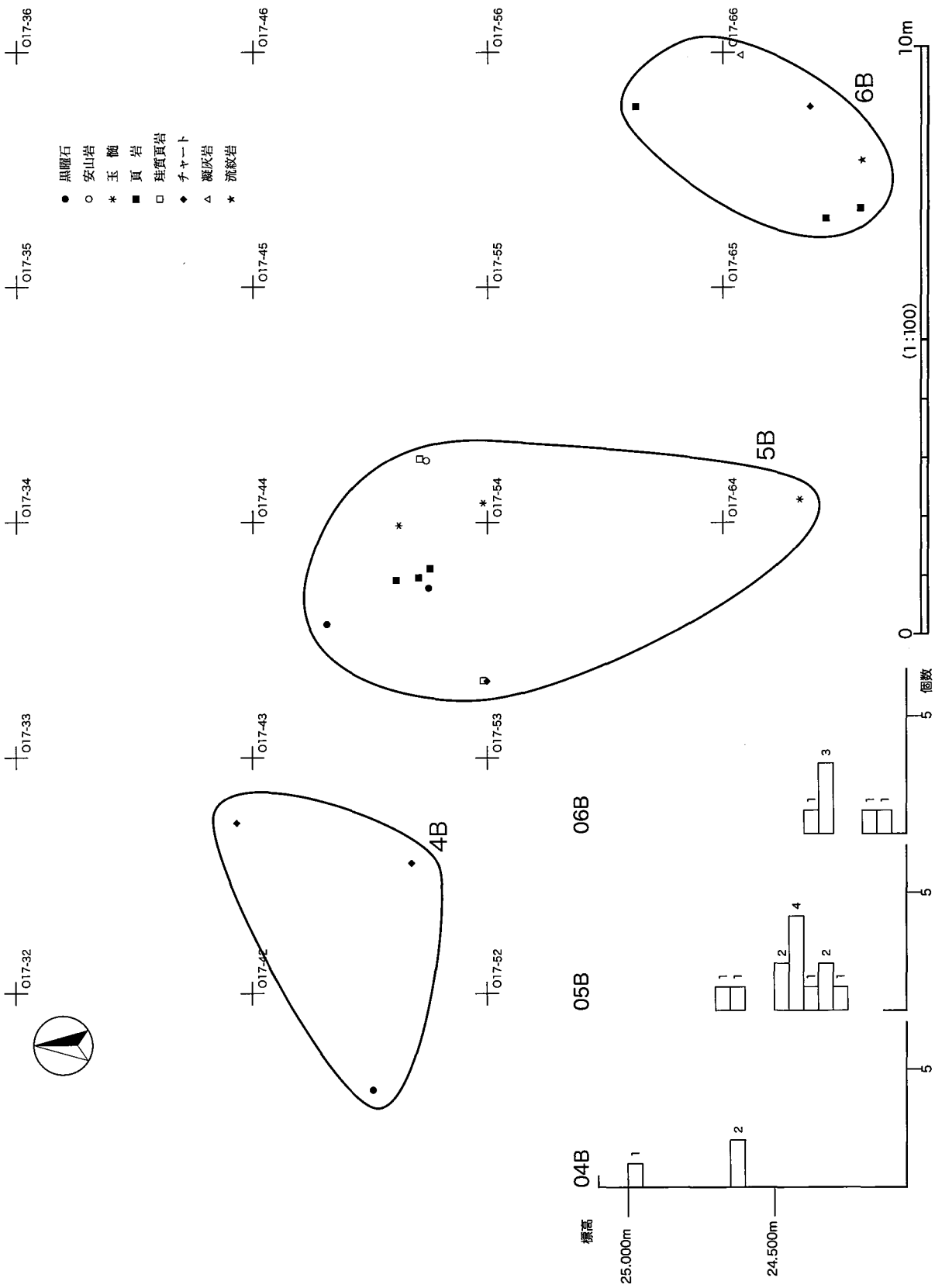
第64図　第３ブロック出土石器

６は安山岩製の接合資料である。調整痕ある剥片１点、剥片５点、石核１点の接合資料であり、第２ブロック範囲内の集中区で確認された。径６cmほどの礫を素材とし、打面を作出しながら剥片剥離を行っている。１・２を連続して作出後、打面を再生し、３から６の剥片を作出している。この間打面再生は行わず剥片剥離作業を終了している。

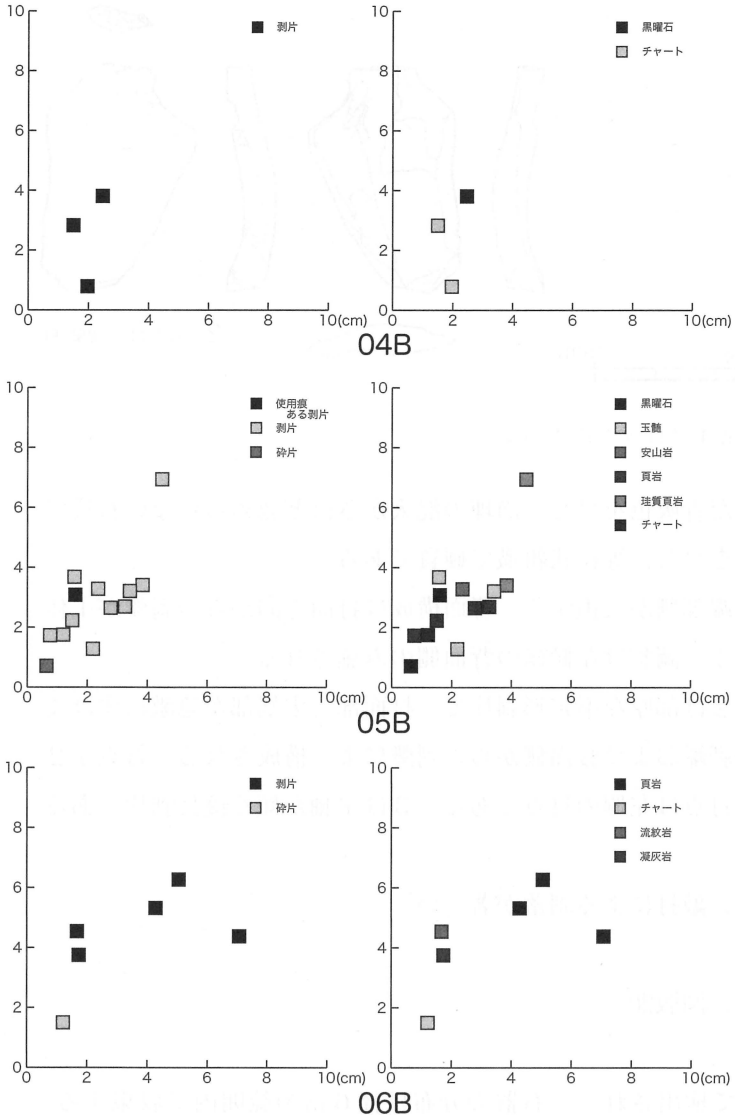
７は砂岩製の敲石である。角礫に近い形状の礫を使用し、敲打痕は上下両端を主体に礫面の至る所に認められる。下端の敲打は著しく、剥落痕と細かく潰れた敲打痕の両者が認められる。



第65図　第４～６ブロック器種別分布



第66図　第４～６ブロック石材別分布



第67図　第４～６ブロック石器形状比グラフ

	剥　片	合　計	組成比
黒曜石	1 5.4	1 5.4	33.33 71.05
チャート	2 2.2	2 2.2	66.67 28.95
合　計	3 7.6	3 7.6	100.00 100.00
組成比		100.00 100.00	

04B

	使用痕ある剥片	剥　片	砕　片	合　計	組成比
黒曜石	1 3.2		1 0.1	2 3.3	15.38 4.75
玉　髄		3 10.5		3 10.5	23.07 15.13
安山岩		1 5.5		1 5.5	7.69 7.92
頁　岩		4 11.4		4 11.4	30.79 16.43
珪質頁岩		2 38.4		2 38.4	15.38 55.33
チャート		1 0.3		1 0.3	7.69 0.44
合　計	1 3.2	11 66.1	1 0.1	13 69.4	100.00 100.00
組成比	7.69 4.61	84.62 95.25	7.69 0.14	100.00 100.00	

05B

	剥　片	砕　片	合　計	組成比
頁　岩	3 95.5		3 95.5	50.02 92.72
流紋岩	1 3.4		1 3.4	16.66 3.30
チャート		1 0.8	1 0.8	16.66 0.78
凝灰岩	1 3.3		1 3.3	16.66 3.20
合　計	5 102.2	1 0.8	6 103.0	100.00 100.00
組成比	83.34 99.22	16.66 0.78	100.00 100.00	

06B

第10表　第４～６ブロック石器組成表

（３）第３ブロック（第58～60・64図、第９・15表、図版20）

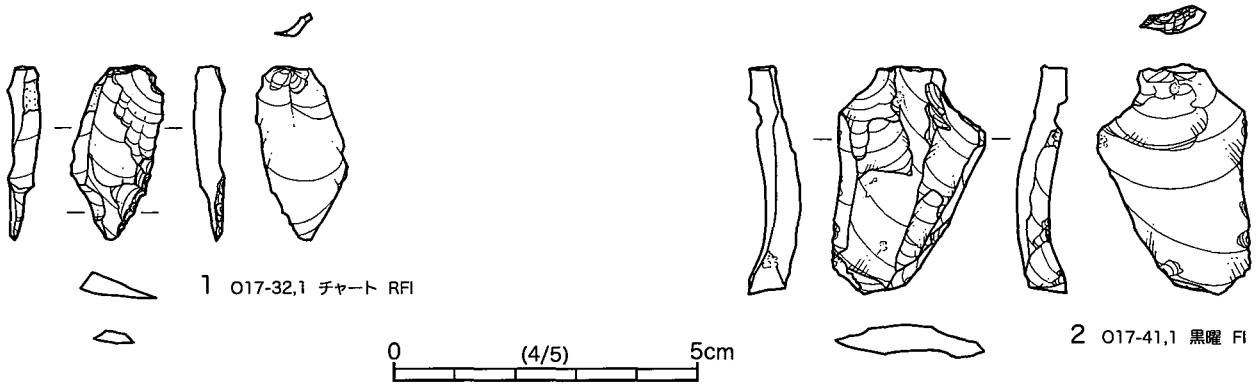
分布

O17-40・50グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は長軸４ｍ、短軸２ｍの楕円形を呈する。一部第２ブロックと分布が重複するが、これは第２ブロック所属の安山岩製の石器が、第３ブロックの範囲内で出土するためである。分布範囲内での集中区はみられず、散漫な分布状態である。

石器の出土層位はⅤ層からⅥ～Ⅸ層と幅が広い。垂直分布のヒストグラムは、Ⅴ層下面に最大値が認められるが、東西方向の垂直分布を見る限りでは、第２ブロックより古い段階に位置づけられよう。石器出土レベルの最大値は24.642m、最小値は24.245m、平均は24.454mである。

器種・石材

計７点の内訳は、調整痕ある剥片１点、剥片５点、敲石１点であり、調整痕ある剥片は黒曜石製、敲石は砂岩製である。各石材の特徴は、黒曜石は透明度の高く、黒色の縞模様が混入する石質で、夾雑物をほとんど含まない。頁岩は礫面が明灰色、内面は黄土色を基調とし、部分的に青灰色の部位が混入する色調



第68図　第４ブロック出土石器

であり、肌理が細かい。チャートはややくすんだ青灰色を呈し、節理の混入がさほど認められない石質である。礫石器の砂岩は、礫面・内面共に暗灰色を呈し、等粒状組織で硬質である。

１は黒曜石製の調整痕のある剥片である。末端部側が欠損する。背面構成は打面方向からの剥離が主体となるが、一部末端部側からの剥離も認められる。調整は左側縁の背面側のみ施される。

２は頁岩製、３はチャート製の剥片である。２は部厚な不定形剥片で、打面部と末端部が急激にすぼまる形状を呈する。背面は礫面、打面方向からの剥離および腹面側からの剥離により構成される。打点が２か所存在するが、２の剥片の作出要因となった打点は左側の打点である。３は主軸が傾く縦長剥片である。背面は打面方向からの剥離により構成される。

４は砂岩製の敲石である。棒状礫を素材とし、敲打による剥落が著しい。

（４）第４ブロック（第65～68図、第10・15表、図版20）

分布

O17-32グリッドからO17-42グリッドにかけて検出された。石器の分布は径６ｍの範囲内で収束する。垂直分布のヒストグラムの最大値は標高24.6m付近を示すが、ローム層の堆積状況が不明なため、文化層の特定は不可能である。調査時の記述では出土層位はⅦ～Ⅸ層となっている。石器出土レベルの最大値は24.969m、最小値は24.615m、平均は24.739mである。

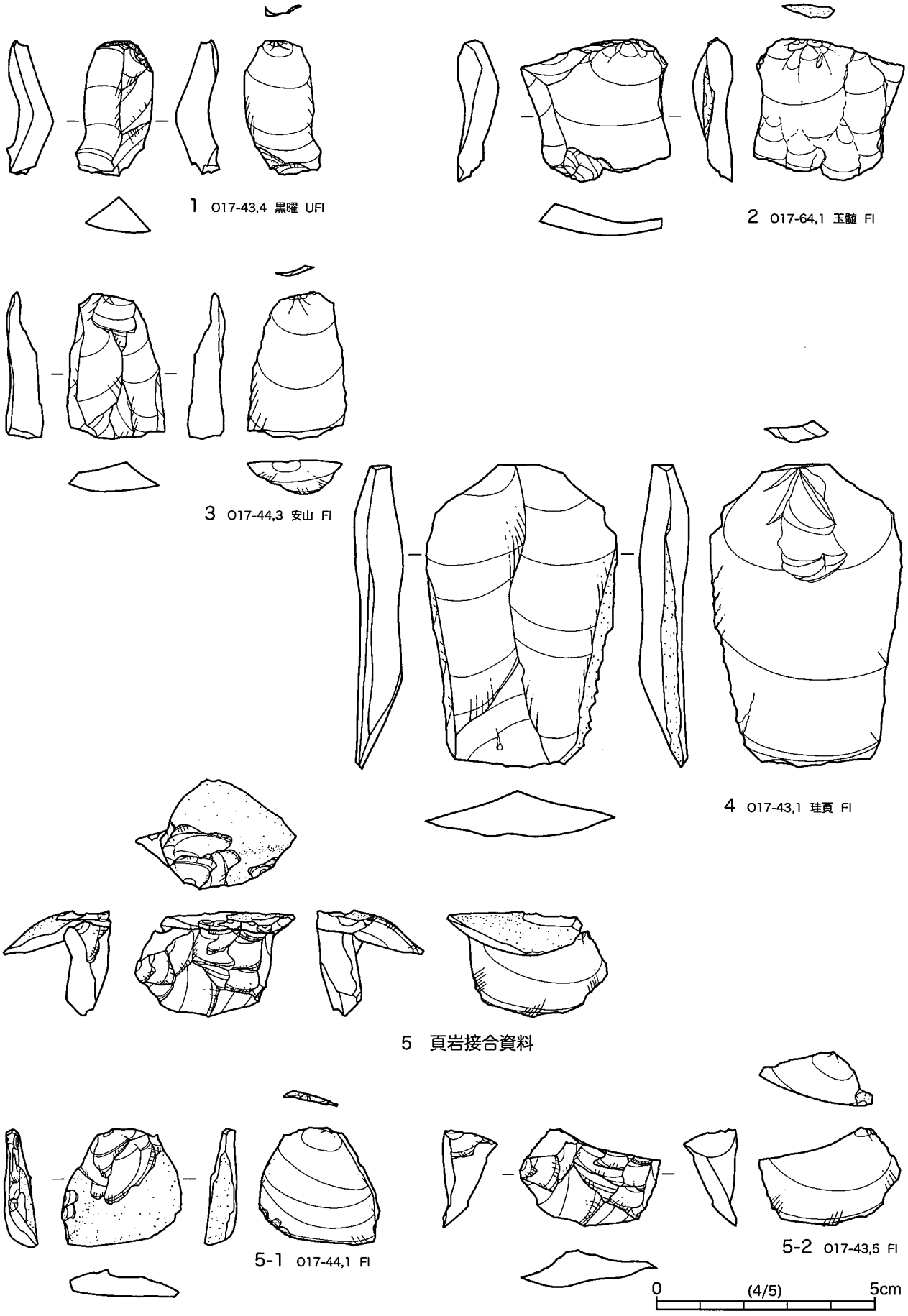
器種・石材

計３点のみの出土で、黒曜石製の剥片１点、チャート製の調整痕ある剥片１点、剥片１点で構成される。図示した２点は縦長剥片であるが、他の１点は小型の横長剥片である。

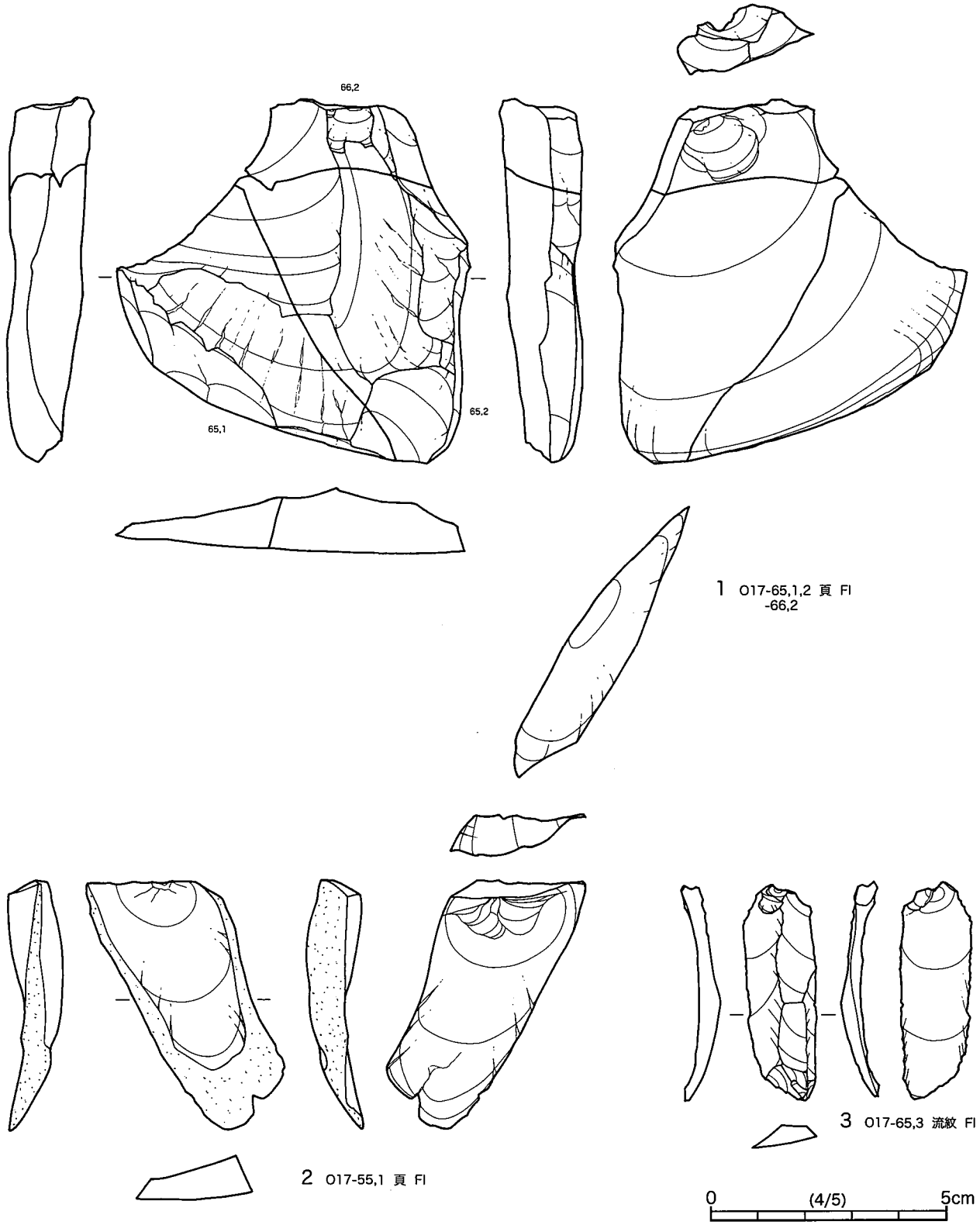
黒曜石は透明度が高く、黒色部位が層状に混入する色調であり、夾雑物の混入がほとんどみられない石質である。チャートは青灰色と乳白色の部位が層状にみられる色調で、肌理は細かく節理の混入はみられない。

１はチャート製の調整痕ある剥片である。縦長剥片であり、背面は全て打面側からの剥離で構成される。調整部位は剥片末端部付近の右側縁であり、微細な調整が腹面から施される。

２は黒曜石製の縦長剥片である。打面部直下に最大幅を持ち、背面はほぼ打面側からの剥離で構成される。中間地点で２分する。背面右側縁に礫面がみられる。背面を構成する剥離の方向は一貫して打面側からである。



第69図　第５ブロック出土石器

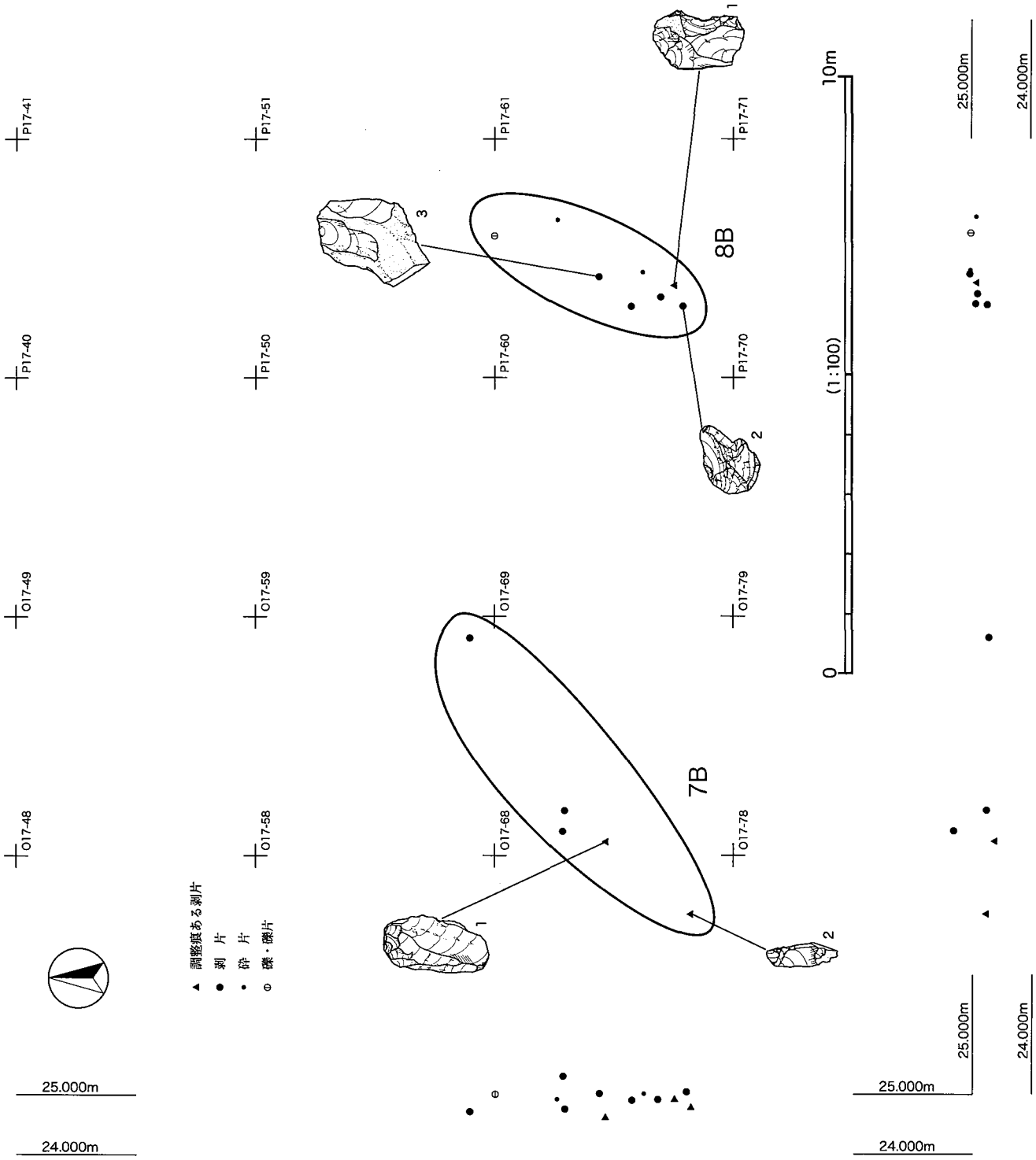


第70図　第６ブロック出土石器

（５）第５ブロック（第65～67・69図、第10・15表、図版20・21）

分布

O17-43グリッドからO17-64グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は長径８ｍ、短径４ｍの楕円形状を呈し、O17-43グリッドからO17-44グリッドにかけての南側に径２ｍほどの集中区が認められる。



第71図　第７・８ブロック器種別分布

垂直分布のヒストグラムは、標高24.5m付近にピークが認められるが、ローム層の堆積状況が不明なため、文化層の特定は不可能である。調査時の石器出土層位はⅦ～Ⅸ層と記述される。石器出土レベルの最大値は24.678m、最小値は24.264m、平均は24.442mである。

接合資料

頁岩製の接合資料が集中区から１個体確認された。

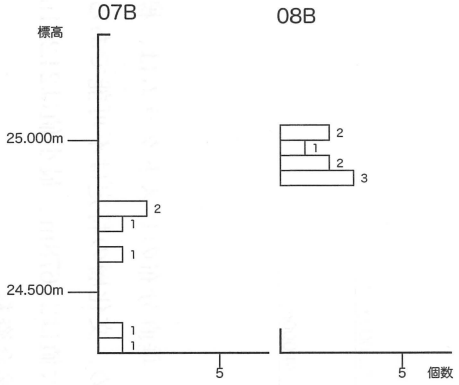
	調整痕ある剥片	剥　片	合　計	組成比
黒曜石	2 2.0		2 2.0	40.00 48.78
玉　髄		1 0.8	1 0.8	20.00 19.51
安山岩		1 1.1	1 1.1	20.00 26.83
チャート		1 0.2	1 0.2	20.00 4.88
合　計	2 2.0	3 2.1	5 4.1	100.00 100.00
組成比	40.00 48.78	60.00 51.22	100.00 100.00	

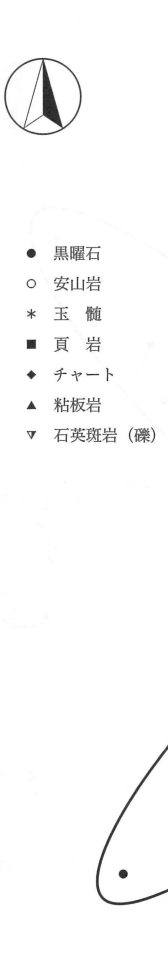
07B

	調整痕ある剥片	剥　片	砕　片	礫	合　計	組成比
黒曜石	1 11.8	1 5.5	1 0.3		3 17.6	42.88 43.35
安山岩		1 0.3			1 0.3	14.28 0.74
頁　岩		1 20.1			1 20.1	14.28 49.51
チャート		1 2.5			1 2.5	14.28 6.16
粘板岩			1 0.1		1 0.1	14.28 0.24
合　計	1 11.8	4 28.4	2 0.4		7 40.6	100.00 100.00
組成比	14.28 29.06	57.14 69.95	28.58 0.99		100.00 100.00	
石英斑岩				1 42.3		

08B

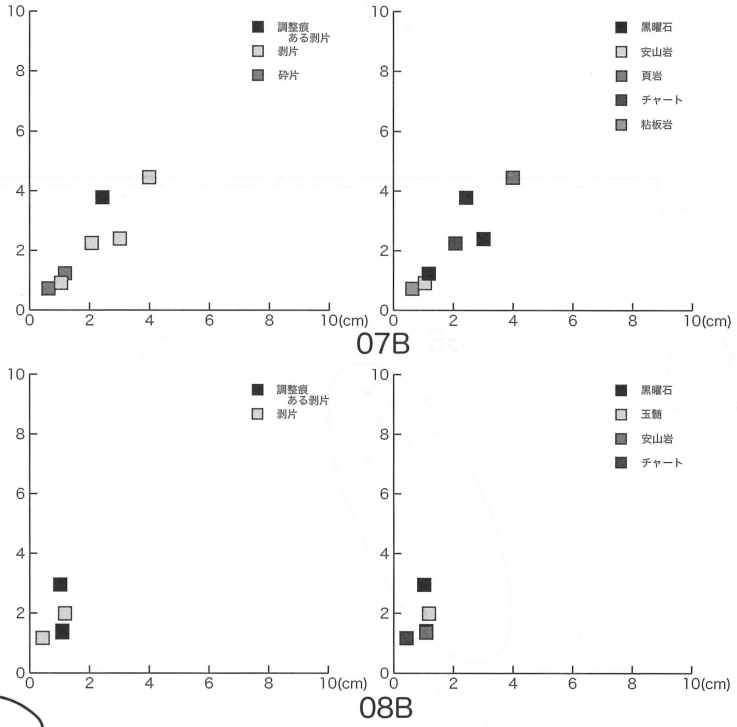
第11表　第７・８ブロック石器組成表



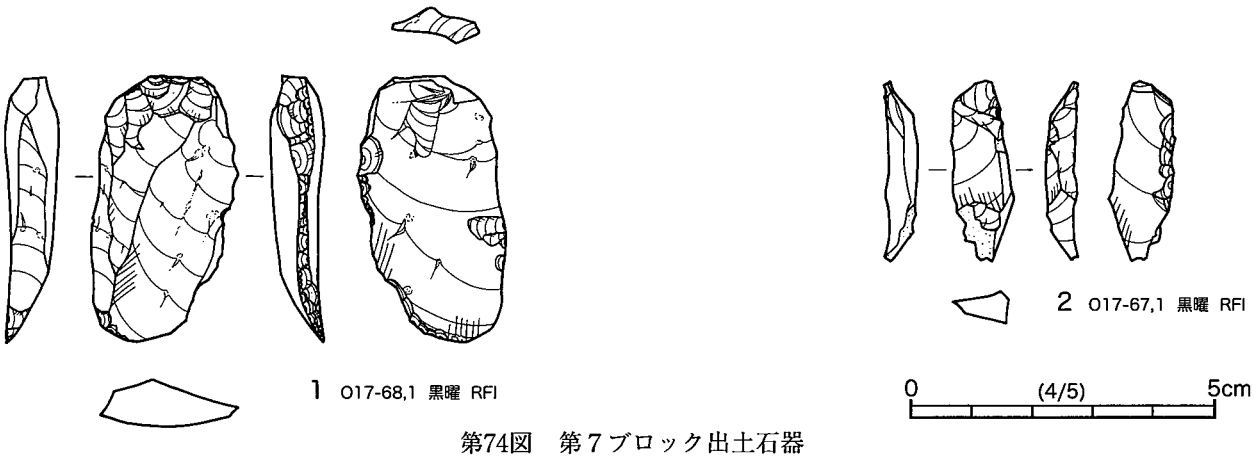


- ● 黒曜石
- ○ 安山岩
- ＊ 玉　髄
- ■ 頁　岩
- ◆ チャート
- ▲ 粘板岩
- ▽ 石英斑岩（礫）

第72図　第７・８ブロック石材形状比グラフ



第73図　第７・８ブロック石材別分布



第74図　第７ブロック出土石器

器種・石材

計13点出土し、使用痕ある剥片１点、剥片11点、砕片１点で構成される。使用される石材は黒曜石、玉髄、安山岩、頁岩、珪質頁岩、チャートと多種であり、このうち頁岩が４点と点数的には最多であるが、珪質頁岩が２点にもかかわらず重量比では55.33％を占める。図示していないチャートは、青灰色を呈し、節理の混入がさほど認められない石質であり、他の石材の特徴については後述のとおりである。

石器の縦横比は長さ３cm～４cmの石器に１：１の一群が認められる他、概して縦長の傾向を示し、２：１の値をみることができる。

１は黒曜石製の使用痕ある剥片である。透明度が高く、夾雑物の混入がほとんどみられない石質である。縦長剥片であり、背面は打面側からの剥離と末端部側からの剥離で構成される。使用痕は打面直下の右側面に認められ、極めて部分的である。

２は玉髄製の剥片である。色調は乳白色を呈し、橙色の部位が混入する。縦横比がほぼ同一であり、平面形は正方形となる。打面は礫面であるが、他の部位には礫面は残存しない。背面構成は打面側からの剥離を基本とし、部分的に末端部あるいは腹面側からの剥離がみられる。

３は安山岩製の剥片である。色調は暗灰色を呈し、白色の夾雑物が混入する。中途から末端部側が欠損する。縦長剥片であり、背面構成は全て打面側からの剥離である。

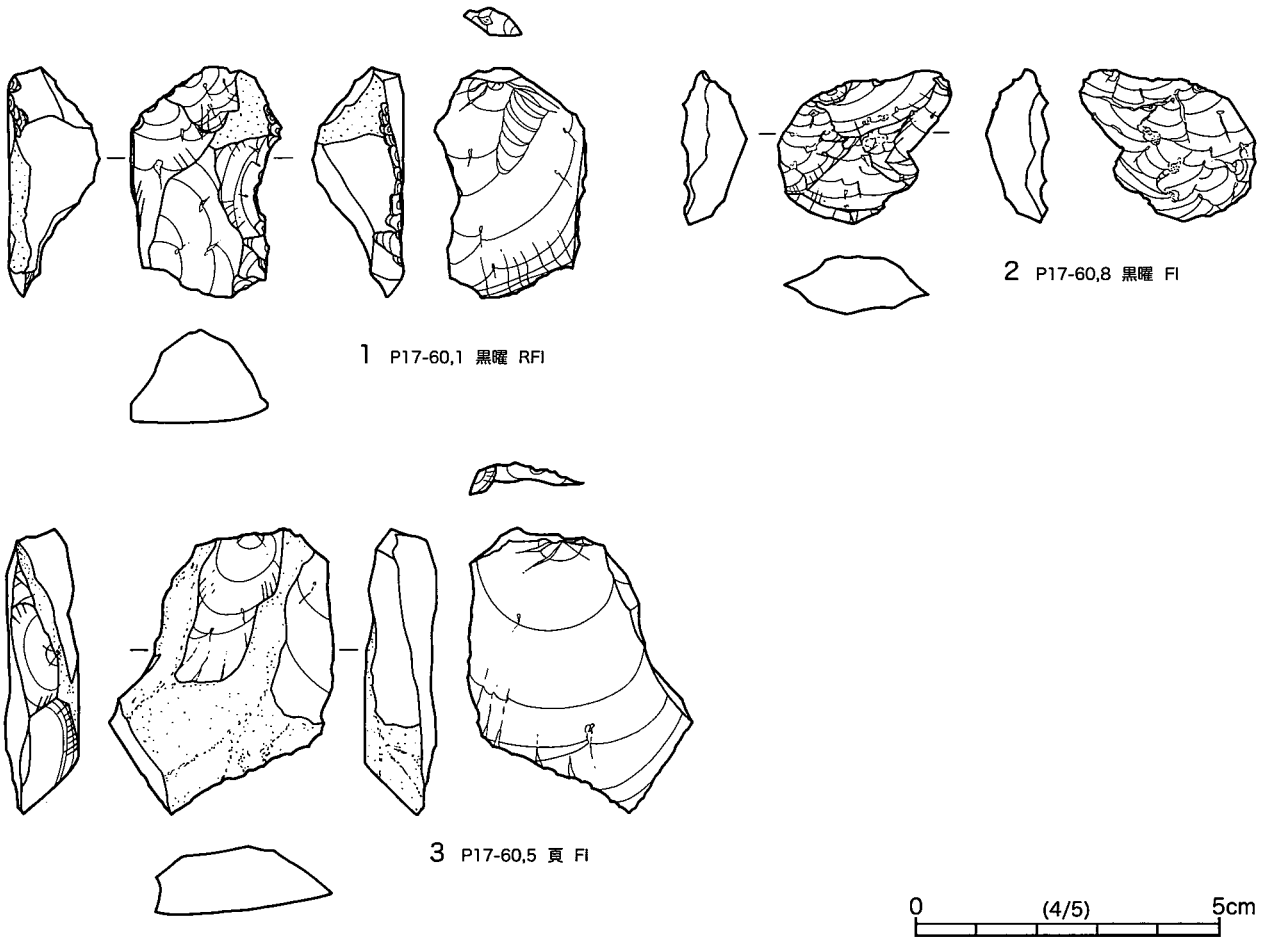
４は珪質頁岩製の大型剥片である。礫面はクリーム色、内面は青灰色を基調とし、部分的にクリーム色の斑状部位がみられる。打面部付近に最大幅を有し、末端部は直線的となる形状である。背面右側縁に礫面を有し、他の背面構成は打面側、末端部側の剥離である。

５は頁岩製の接合資料である。打面再生剥片と打面再生後に作出された剥片の接合例である。石材の特徴は、礫面は茶色を呈し平滑感があり、内面は黒色を呈する石質である。１の打面再生が行われる以前にも剥片剥離が行われており、１の背面打面部付近にみられる剥離面を打面として剥片を作出している。また、２の背面には左側縁側からの剥離もみられることから、打面転移が行われていたことが理解できる。

（６）第６ブロック（第65～67・70図、第10・15表、図版21）

分布

O17-55・65グリッドから検出された。分布範囲は長軸４ｍ、短軸３ｍの楕円形を呈し、やや散漫な分布状況である。



第75図　第８ブロック出土石器

垂直分布は、標高24.4m付近にヒストグラムのピークが認められ、隣接する第４・５ブロックのピークよりやや下方となる。文化層は不明であるが、調査時の出土層位にはⅦ～Ⅸ層の記述がある。石器出土レベルの最大値は24.368m、最小値は24.127m、平均は24.278mである。

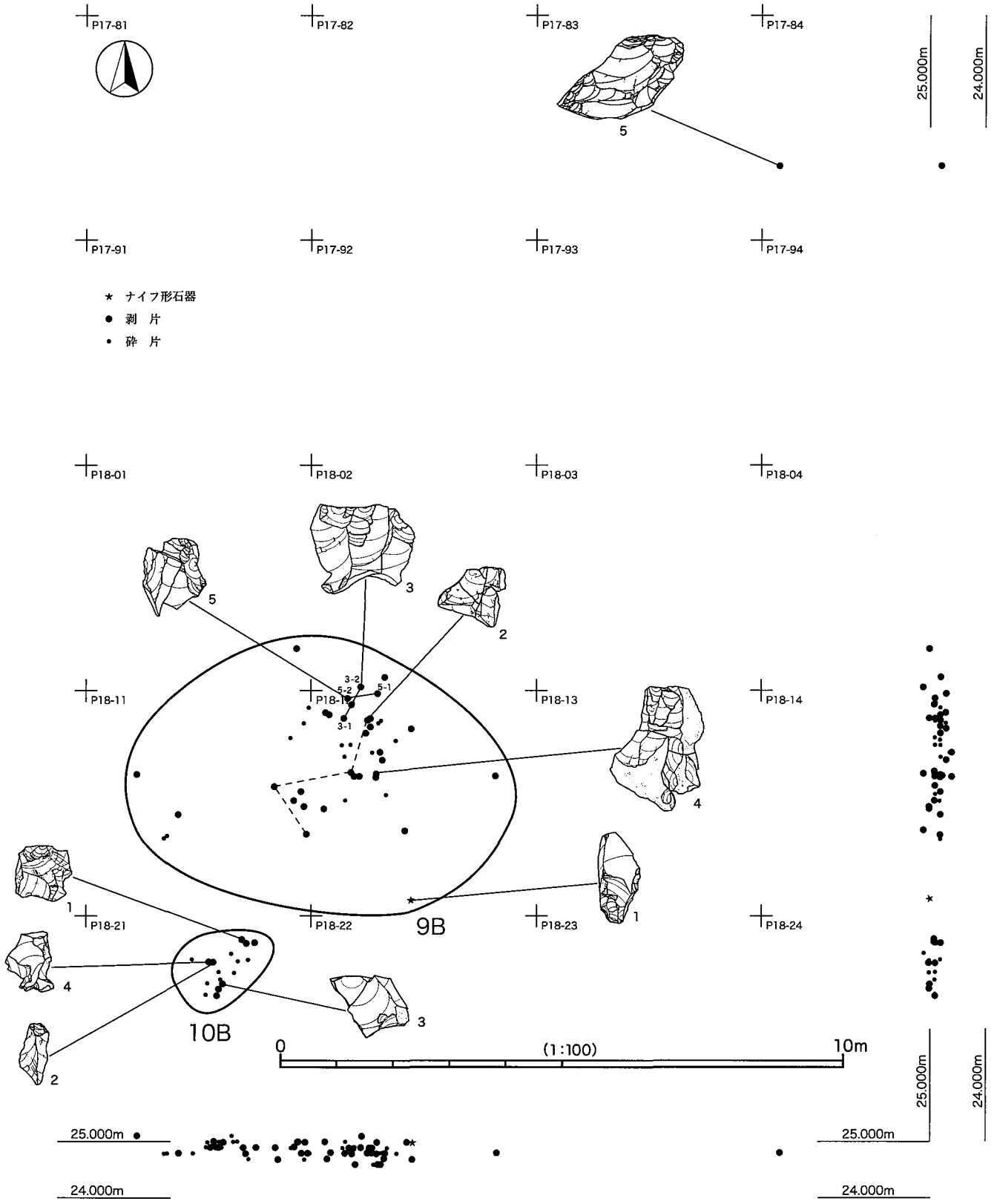
器種・石材

定型的な石器はなく、剥片、砕片のみで構成される。石材は頁岩が点数的に50%、重量比では92%を占めるが、頁岩製の剥片３点のうち２点は分離した剥片である。他の頁岩、流紋岩は剥片単体の出土であり、剥片剥離作業の形跡がみられないことから、剥片持ち込みにより形成されたブロックの可能性が示唆される。

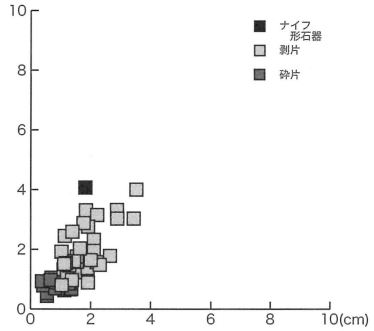
１は頁岩製の大型剥片である。３片に分離しているが、剥片剥離後の人為的な折れによるものかは不明である。暗灰色の肌理の細かい石質で、背面は多方向からの剥離で構成される。腹面末端部は著しいヒンジ・フラクチュアとなる。

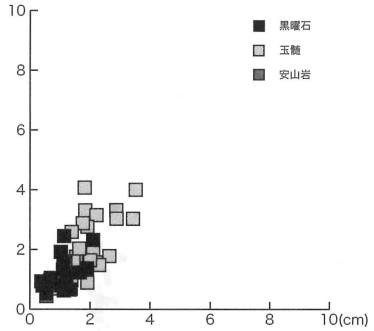
２は頁岩製の縦長剥片である。長軸は打面に対し斜行する。背面は礫面と同一打面からの剥離のみで構成される。礫面・内面共に肌理が細かく、礫面は白色、内面は白色を基調とし、青灰色の部位が部分的にみられる石質である。

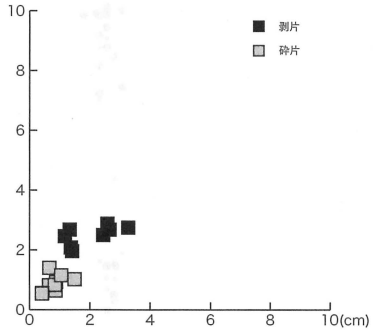
３は流紋岩製の縦長剥片である。色調は灰色を呈し、肌理は細かいが直方体の結晶が混入する石質である。背面構成は打面側からの剥離が主体であり、末端部には末端部側、左側縁側からの剥離も一部にみら

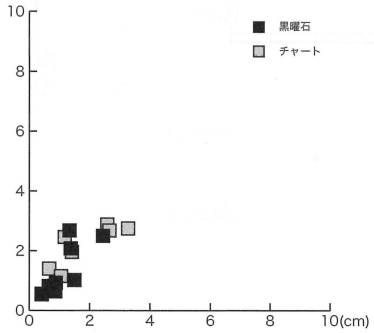


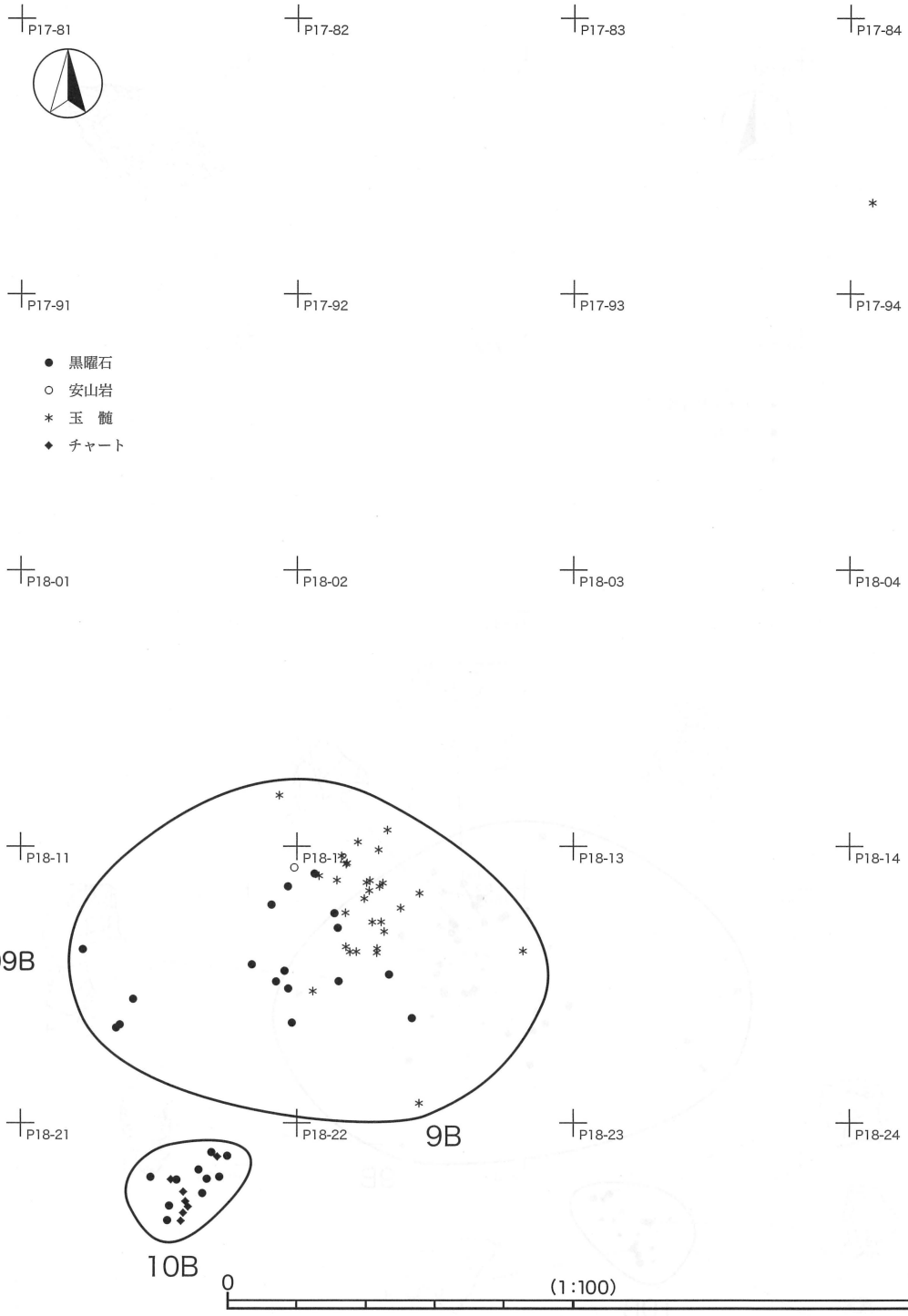
第76図　第９・10ブロック器種別分布

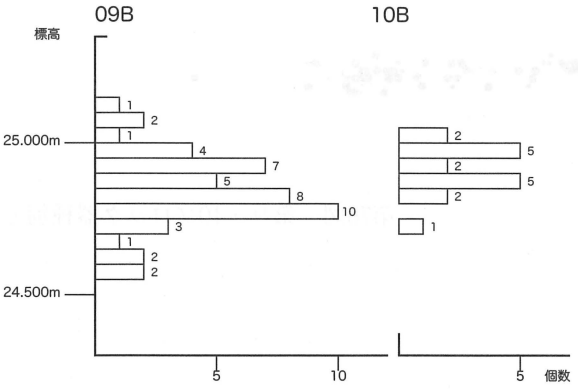












第78図　第９・10ブロック石器形状比グラフ

第77図　第９・10ブロック石材別分布

	ナイフ形石器	剥 片	砕 片	合 計	組成比
黒曜石		9 8.4	8 1.2	17 9.6	36.17 11.29
玉 髄	1 4.6	22 69.4	6 1.3	29 75.3	61.70 88.59
安山岩			1 0.1	1 0.1	2.13 0.12
合 計	1 4.6	31 77.8	15 2.6	47 85.0	100.00 100.00
組成比	2.13 5.41	65.96 91.53	31.91 3.06	100.00 100.00	

09B

	剥 片	砕 片	合 計	組成比
黒曜石	3 5.3	7 0.9	10 6.2	58.83 23.75
チャート	5 19.6	2 0.3	7 19.9	41.17 76.25
合 計	8 24.9	9 1.2	17 26.1	100.00 100.00
組成比	47.06 95.40	52.94 4.60	100.00 100.00	

10B

第12表　第９・10ブロック石器組成表

れる。

（７）第７ブロック（第71～74図、第11・15表、図版21）

分布

O17-58グリッドからO17-68グリッドにかけて検出された。分布範囲は長軸６ｍ、短軸1.5mの長楕円形を呈する。集中区は無く、範囲内に点在する分布状況である。

ローム層の堆積状況については不明な点が多く、文化層を明らかにできない。調査時の記述ではⅦ?Ⅸ層出土となっている。ヒストグラムのピークは24.8m付近を示す。石器出土レベルの最大値は25.304m、最小値は24.630m、平均は24.835mである。

器種・石材

計５点出土するが、黒曜石、玉髄、安山岩、チャートと使用される石材は多種である。黒曜石製、チャート製の調整痕ある剥片が組成に含まれ、その他は剥片である。石器の縦横比は1.5：１以上の縦長剥片の系統である。

１・２は黒曜石製の調整痕ある剥片である。共に透明度の高い黒曜石製で、１の背面構成は打面側からの剥離を基本とし、左側縁にみられるように末端部からの剥離も存在する。縦長剥片の右側縁から末端部にかけて調整が施されるが、腹面、背面の両側からの調整が混在する。２は小型の縦長剥片の左側縁の腹面側に背面からの調整を施す。背面構成は末端部に礫面を有し、他は打面方向、右側縁からの剥離である。

（８）第８ブロック（第71～73・75図、第11・15表、図版21）

分布

P17-60グリッドから検出された。長軸４ｍ、短軸1.5mの長楕円形状に石器が分布し、特に南側に密となる傾向が認められる。

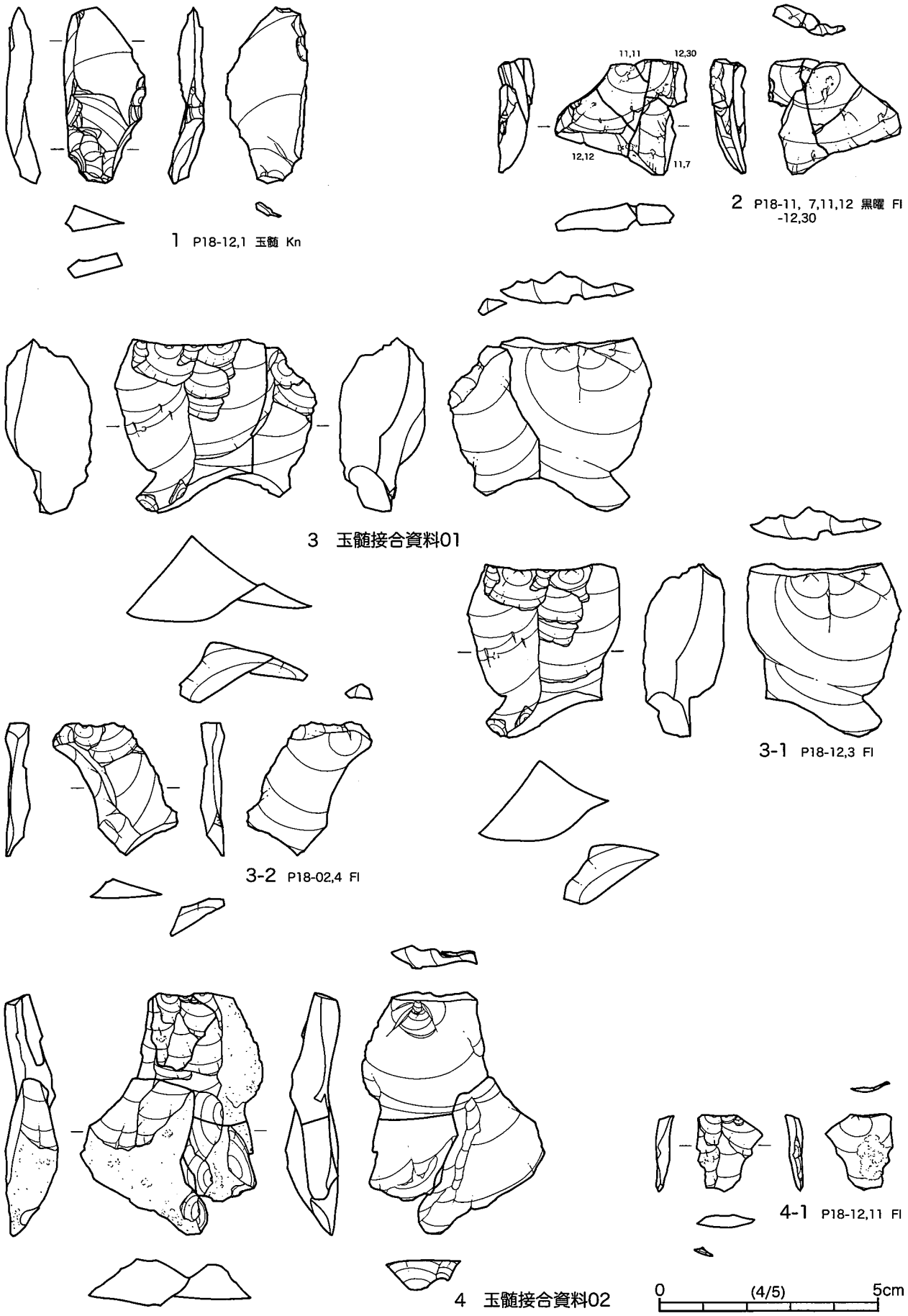
石器の出土層位は、調査時の記録ではⅥ～Ⅸ層とあるが不明瞭である。ヒストグラムのピークは標高24.9m付近を示す。石器出土レベルの最大値は25.016m、最小値は24.851m、平均は24.928mである。

器種・石材

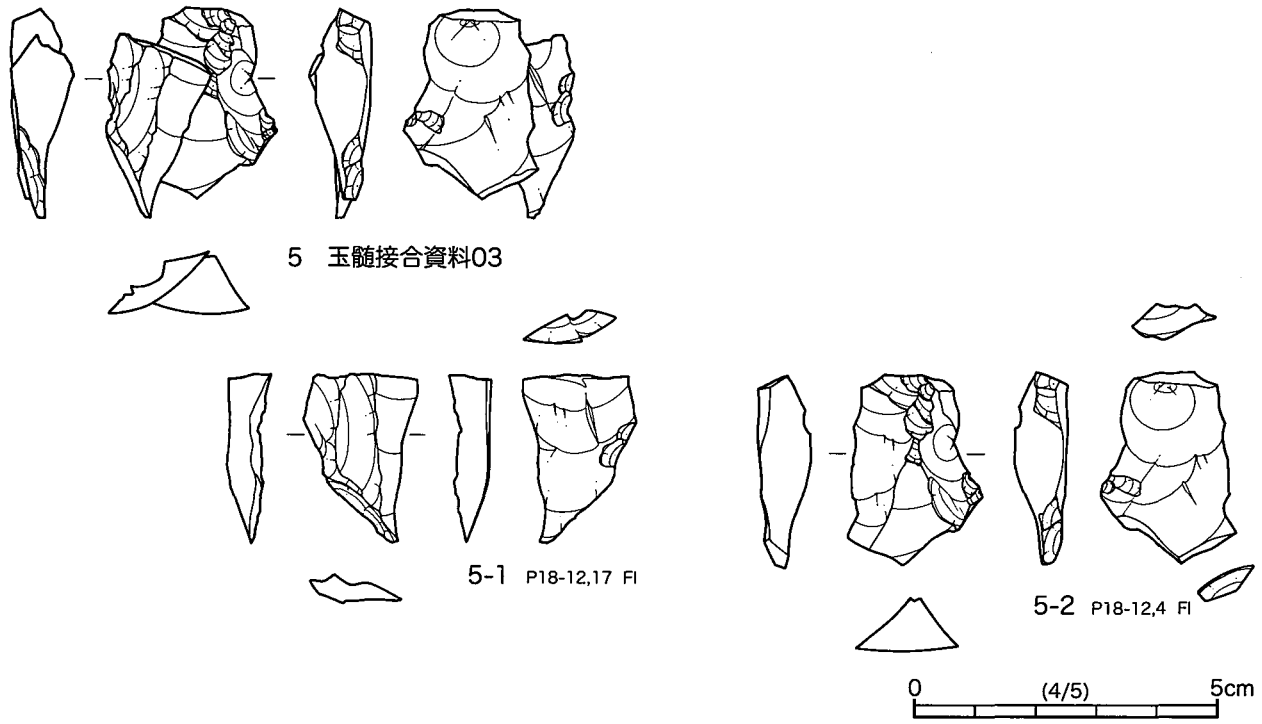
計７点の出土のうち黒曜石が３点、他の安山岩、頁岩、チャート、粘板岩は単体の出土である。定型的な石器はなく、調整痕ある剥片１点以外は剥片、砕片であり、石英斑岩製の礫が１点組成に加わる。

石器の縦横比は１：１のものが多いが、やや縦長系統に偏る傾向が認められる。

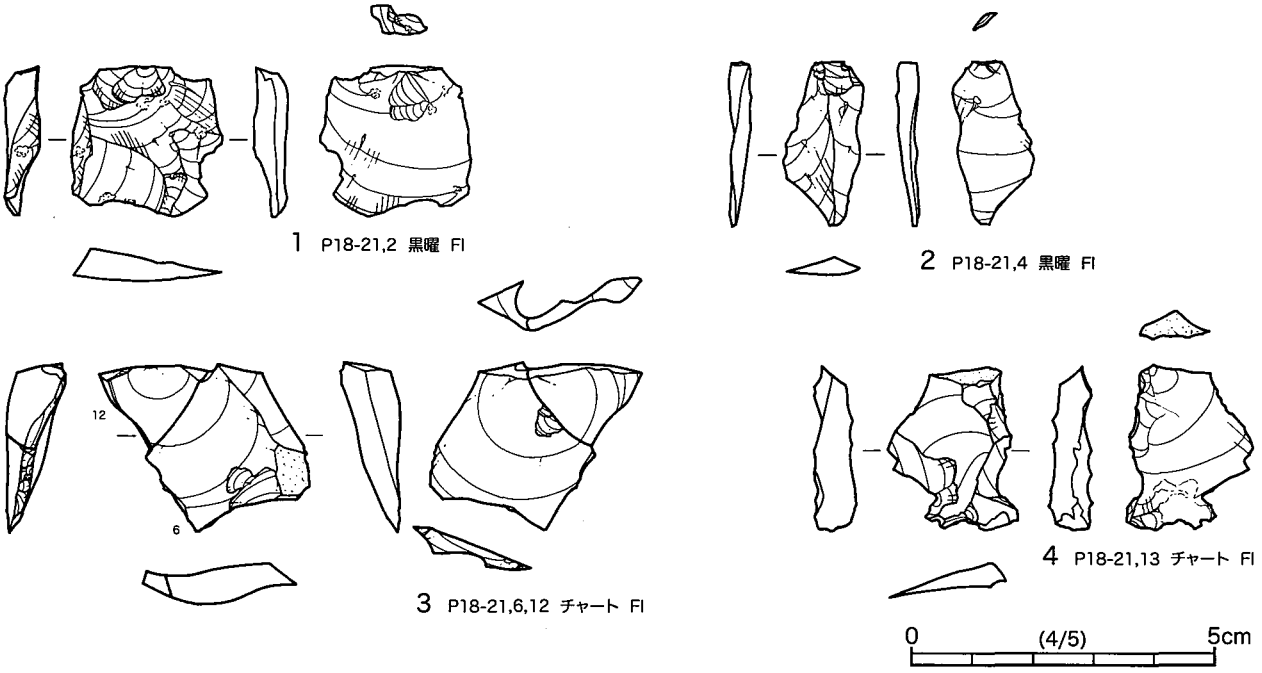
１は黒曜石製の調整痕ある剥片である。黒色であるが透明感がなく、器表面は光沢の欠ける感がある石



第79図　第９ブロック出土石器（１）



第80図　第９ブロック出土石器（２）

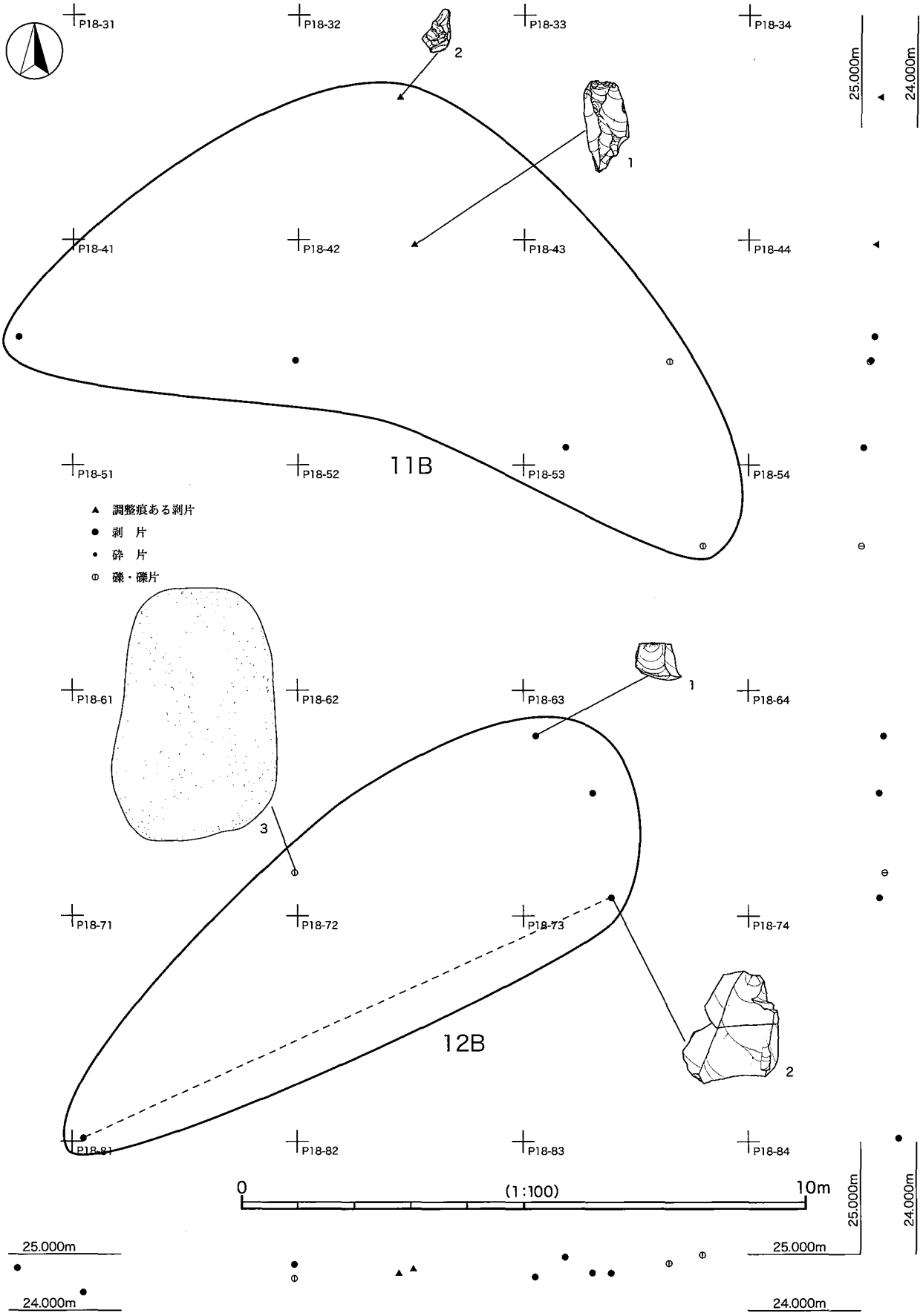


第81図　第10ブロック出土石器

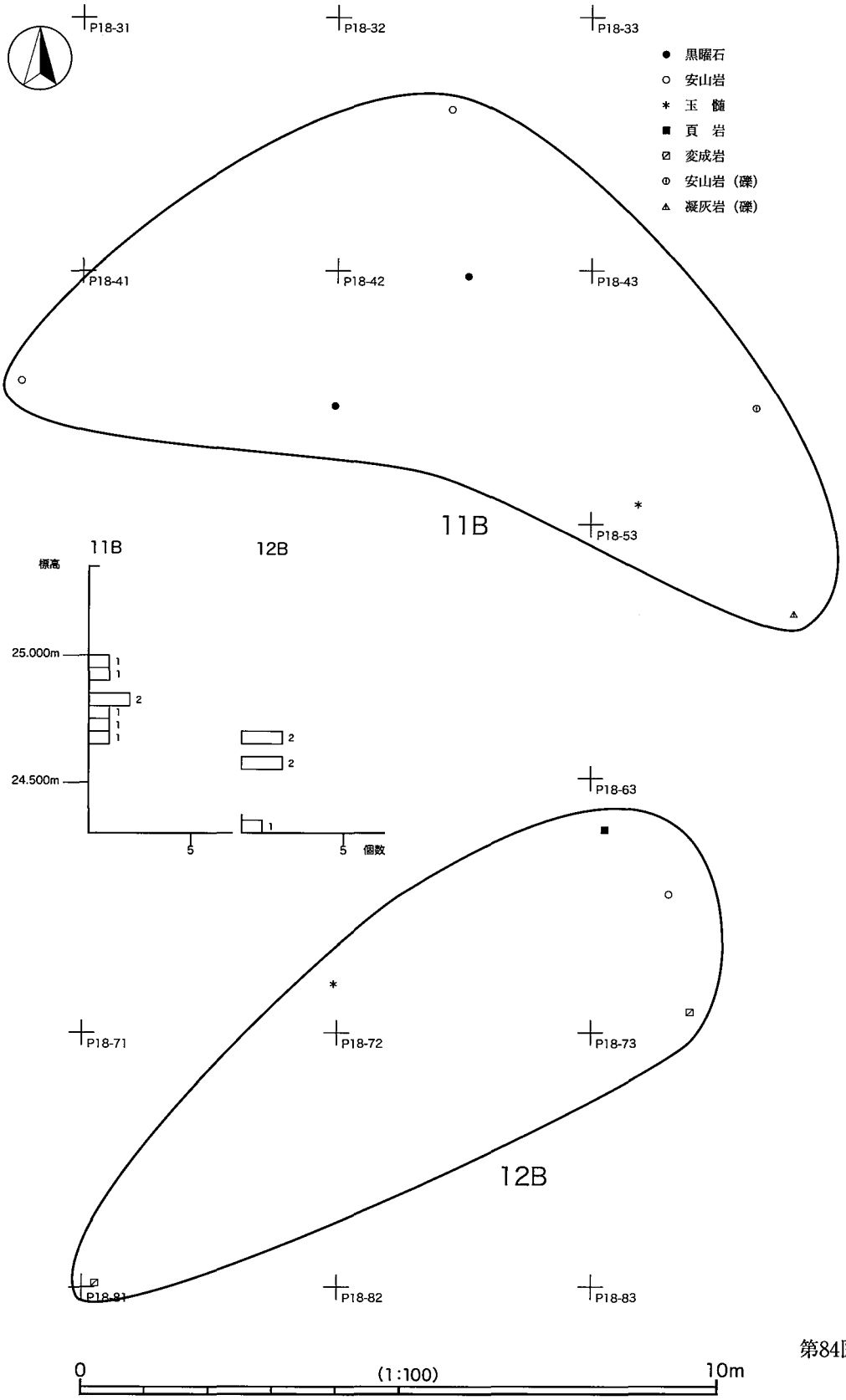
質である。部厚な縦長剥片であるが、背面構成は多方向からの剥離で構成される。調整は右側縁のみに施され、粗い調整後に微細な調整を施している。全て腹面側からの調整である。

２は黒曜石製の剥片である。１と同様の石質であるが、夾雑物の混入が著しい。このため剥離の方向が細かく変化し剥離面には凹凸が多い。部厚な不定形剥片であり、打面は剥片剥離時に欠損している。

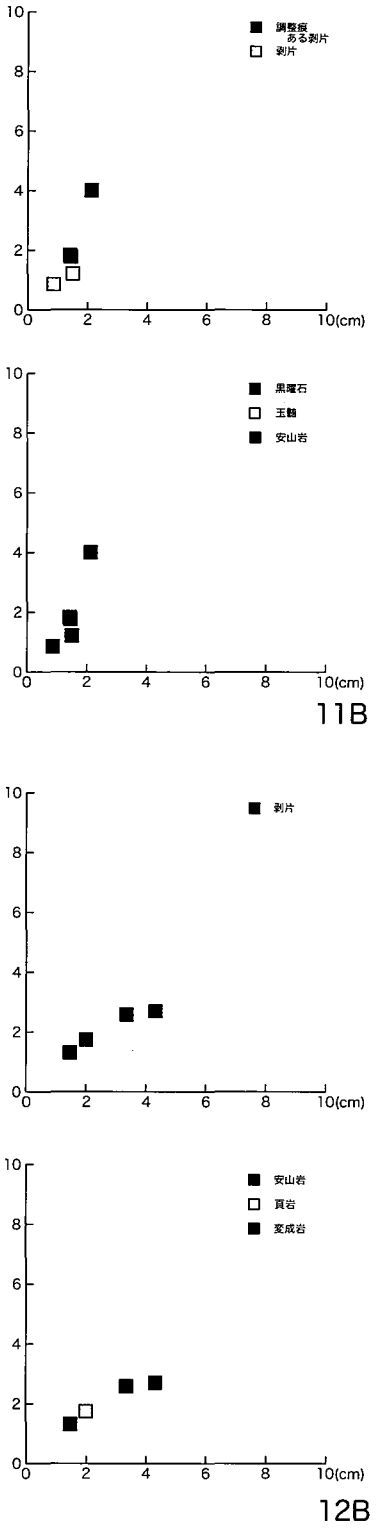
３は頁岩製の剥片である。礫面は黄土色、内面は青灰色を呈する。器表面は肌理が細かいが、礫面には



第82図　第11・12ブロック器種別分布



第83図　第11・12ブロック石材別分布



第84図　第11・12ブロック石器形状比グラフ

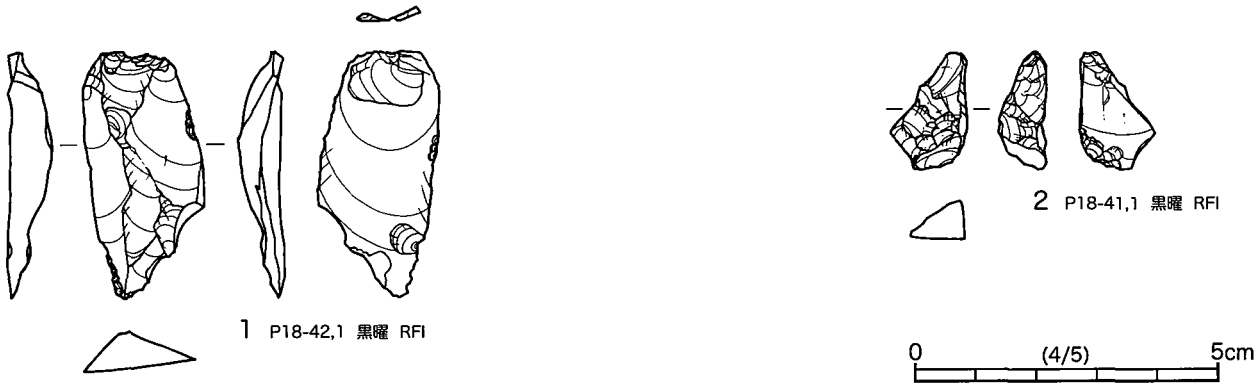
	調整痕ある剥片	剥 片	礫	合 計	組成比
黒曜石	2 5.1			2 5.1	40.00 75.01
玉 髄		1 0.6		1 0.6	20.00 8.82
安山岩		2 1.1		2 1.1	40.00 16.17
合 計	2 5.1	3 1.7		5 6.8	100.00 100.00
組成比	40.00 75.00	60.00 25.00		100.00 100.00	
安山岩			1 12.8	1 12.8	50.00 69.57
凝灰岩			1 5.6	1 5.6	50.00 30.43
合 計			2 18.4	2 18.4	100.00 100.00
組成比				100.00 100.00	

11B

	剥 片	礫	合 計	組成比
頁 岩	1 1.2		1 1.2	25.00 4.86
安山岩	1 0.9		1 0.9	25.00 3.64
変成岩	2 22.6		2 22.6	50.00 91.50
合 計	4 24.7		4 24.7	100.00 100.00
組成比	100.00 100.00		100.00 100.00	
玉 髄		1 1376.0		

12B

第13表　第11・12ブロック石器組成表



第85図　第11ブロック出土石器

細かい凹凸が見受けられる。打面に対して軸が斜行する形状であり、背面は礫面と打面方向からの剥離で構成される。

（9）第９ブロック（第76～80図、第12・15表、図版21・22）

分布

P18-01グリッドからP18-12グリッドにかけて検出された。石器は東西方向を長軸とした楕円形状に分布する。分布範囲は長軸７ｍ、短軸５ｍを測り、P18-12グリッド杭付近に径２ｍほどの集中区が認められる。

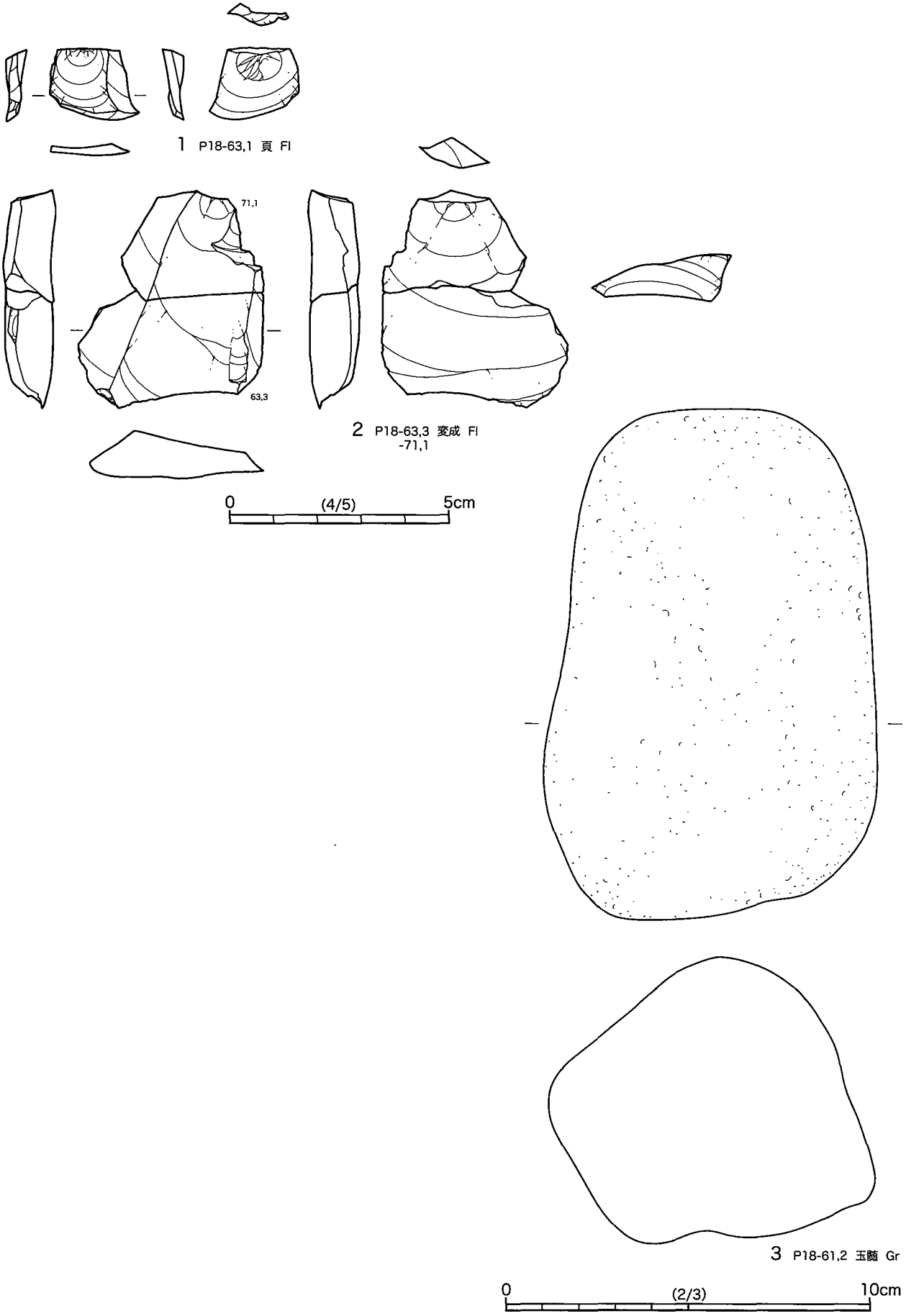
石器の出土層位は、ローム層の堆積状況が不明なため明確にすることができない。調査時の記述ではⅣ～Ⅵ層とある。ヒストグラムは出土レベル範囲の下方に集中する傾向がみられ、ピークは24.7m付近を示す。石器出土レベルの最大値は25.111m、最小値は24.565m、平均は24.844mである。

接合資料

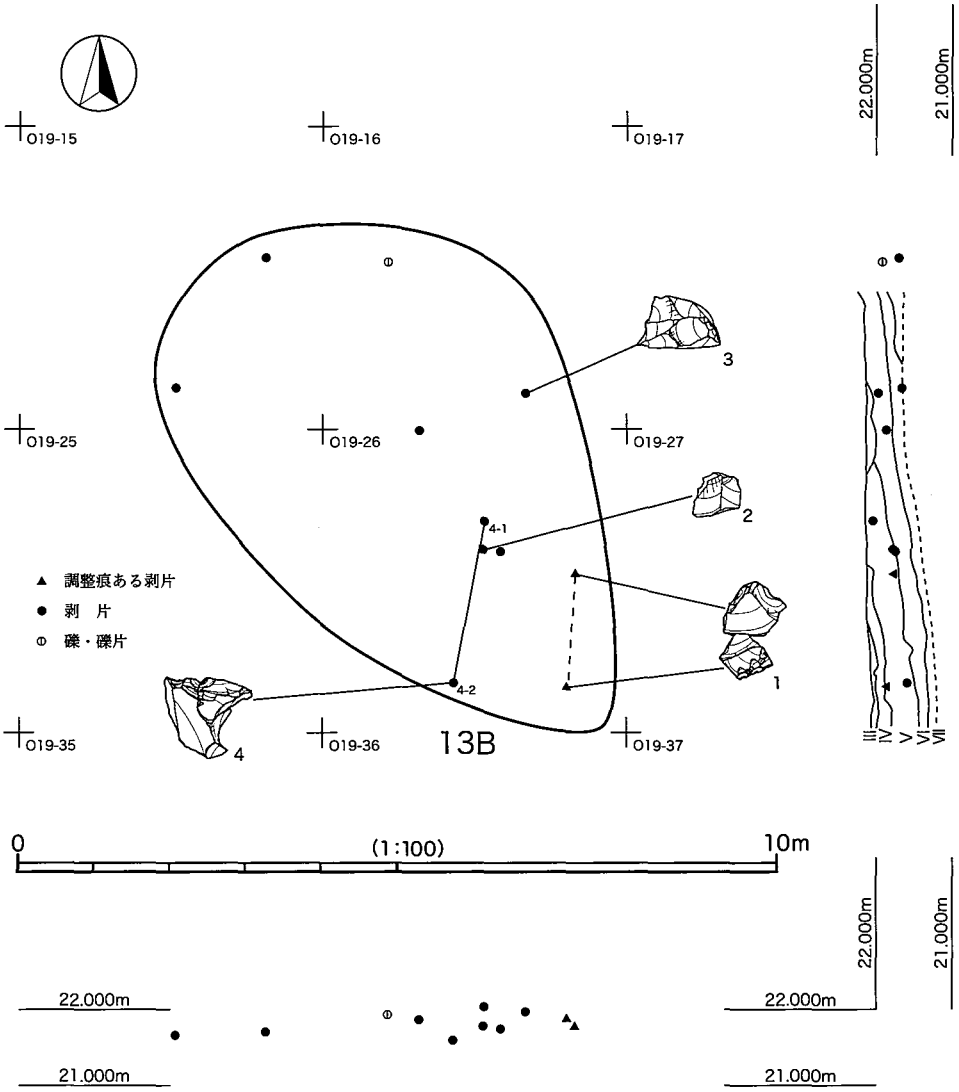
３個体確認された。全て剥片相互の接合資料である。

器種・石材

定型的な石器は玉髄製のナイフ形石器１点のみで、他は剥片、砕片で構成される。計47点の内訳は、黒曜石17点、玉髄29点、安山岩１点であり、安山岩製の石器は客体的である。点数的には黒曜石の比率は36.17％となるが、重量比では11.29％に止まり、点数的、重量比的にも玉髄が主体となる。



第86図　第12ブロック出土石器



第87図　第13ブロック器種別分布

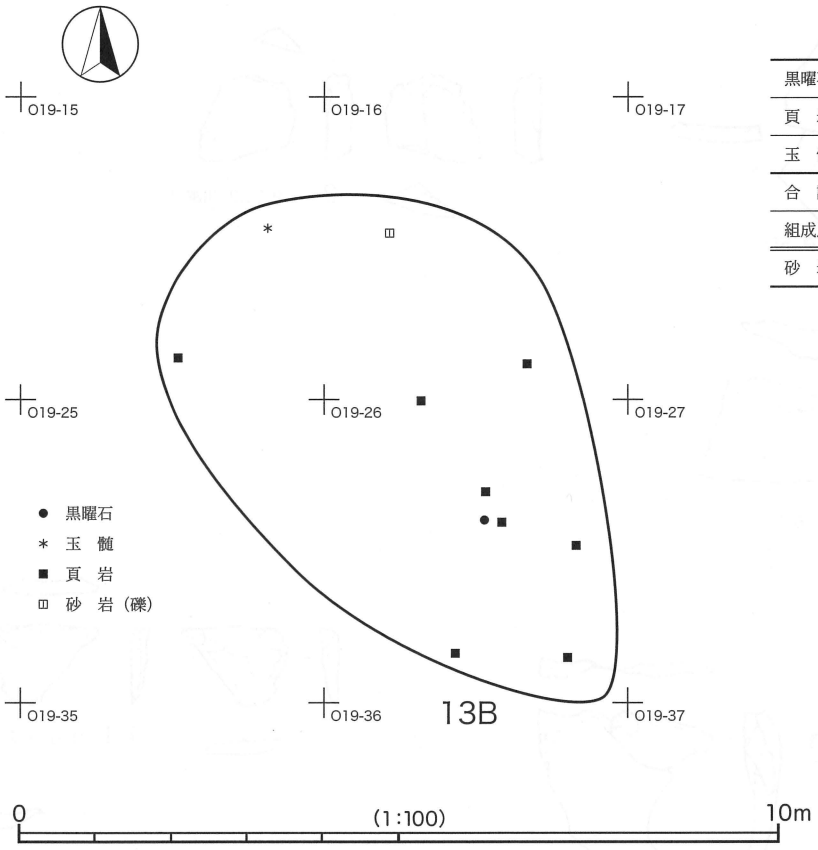
石器の形状は、２cmほどの小型剥片に横長の系列がみられるが、それ以外は縦長剥片となる傾向が認められる。

各石材の石質は石材毎にほぼ同一であり、母岩の個体数はほぼ単数と考えられる。玉髄は半透明で、橙色の混入がみられるものである。黒曜石は色調が強く、夾雑物が多量に混入する。安山岩は器表面が黄土色を呈する石質である

１は玉髄製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面を留めている。末端部側を先端部とし、調整は右側縁の一部に施される。正面基部付近にみられる剥離痕は、剥片剥離時のものである。

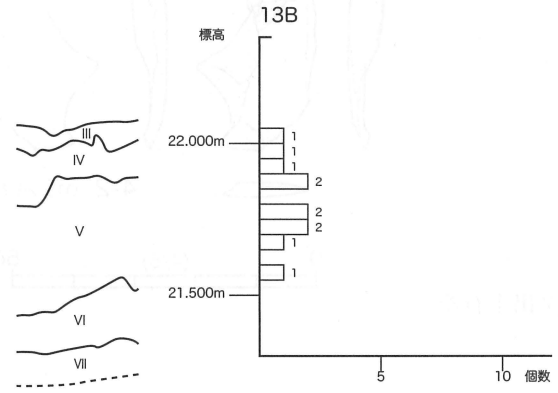
２は黒曜石製の剥片である。剥片剥離時に４分割したものである。不定形剥片であり、剥片剥離時に打点から分離した痕跡と、夾雑物により打撃の方向が変化し分離した痕跡が認められる。

３から５は玉髄製の接合資料である。いずれも剥片２点の接合である。３・４は同一打面から作出されるが、５については打面再生が行われる以前と以後の剥片の接合例である。

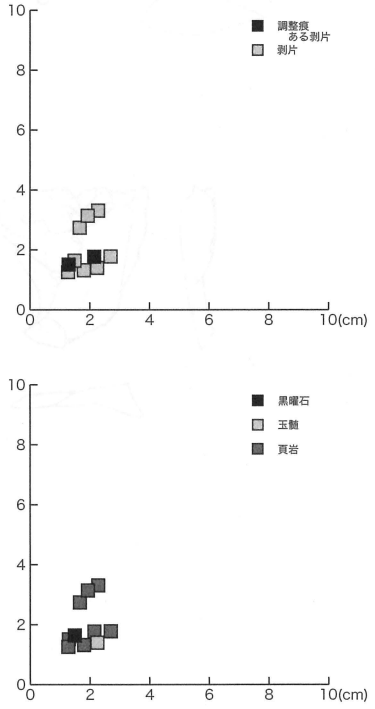


	調整痕ある剥片	剥 片	礫	合 計	組成比
黒曜石		1 0.5		1 0.5	10.00 2.12
頁 岩	2 3.6	6 17.7		8 21.3	80.00 90.25
玉 髄		1 1.8		1 1.8	10.00 7.63
合 計	2 3.6	8 20.0		10 23.6	100.00 100.00
組成比	20.00 15.25	80.00 84.75		100.00 100.00	
砂 岩			1 13.1		

第14表　第13ブロック石器組成表



第88図　第13ブロック石材別分布



第89図　第13ブロック石器形状比グラフ

（10）第10ブロック（第76～78・81図、第12・15表、図版22）

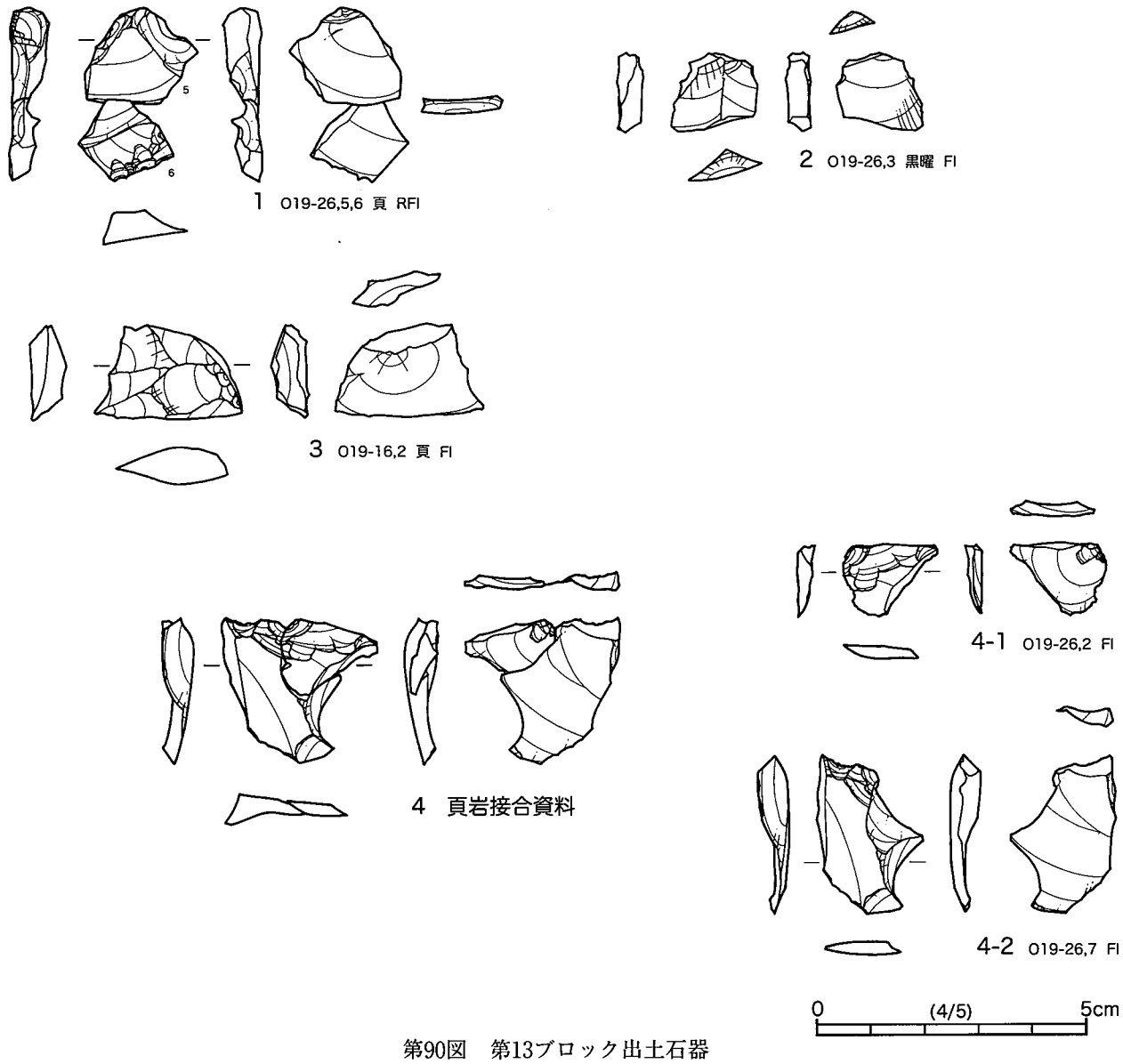
分布

P18-21グリッドから検出された。径1.5mほどの円形状に石器が出土する。

出土層位は不明瞭であるが、調査時の記述ではⅤ～Ⅵ層となっている。垂直分布のヒストグラムのピークは24.8m付近にみられ、隣接する第９ブロックと比較すると若干上方に所在する。石器出土レベルの最大値は25.057m、最小値は24.740m、平均は24.908mである。

器種・石材

剥片、砕片で構成され、定型的な石器の出土はなかった。計17点の内訳は、黒曜石の石器が10点、チャート製の石器が７点であり、点数的には黒曜石が半数以上を占めるが、重量比ではチャートが76.25％を



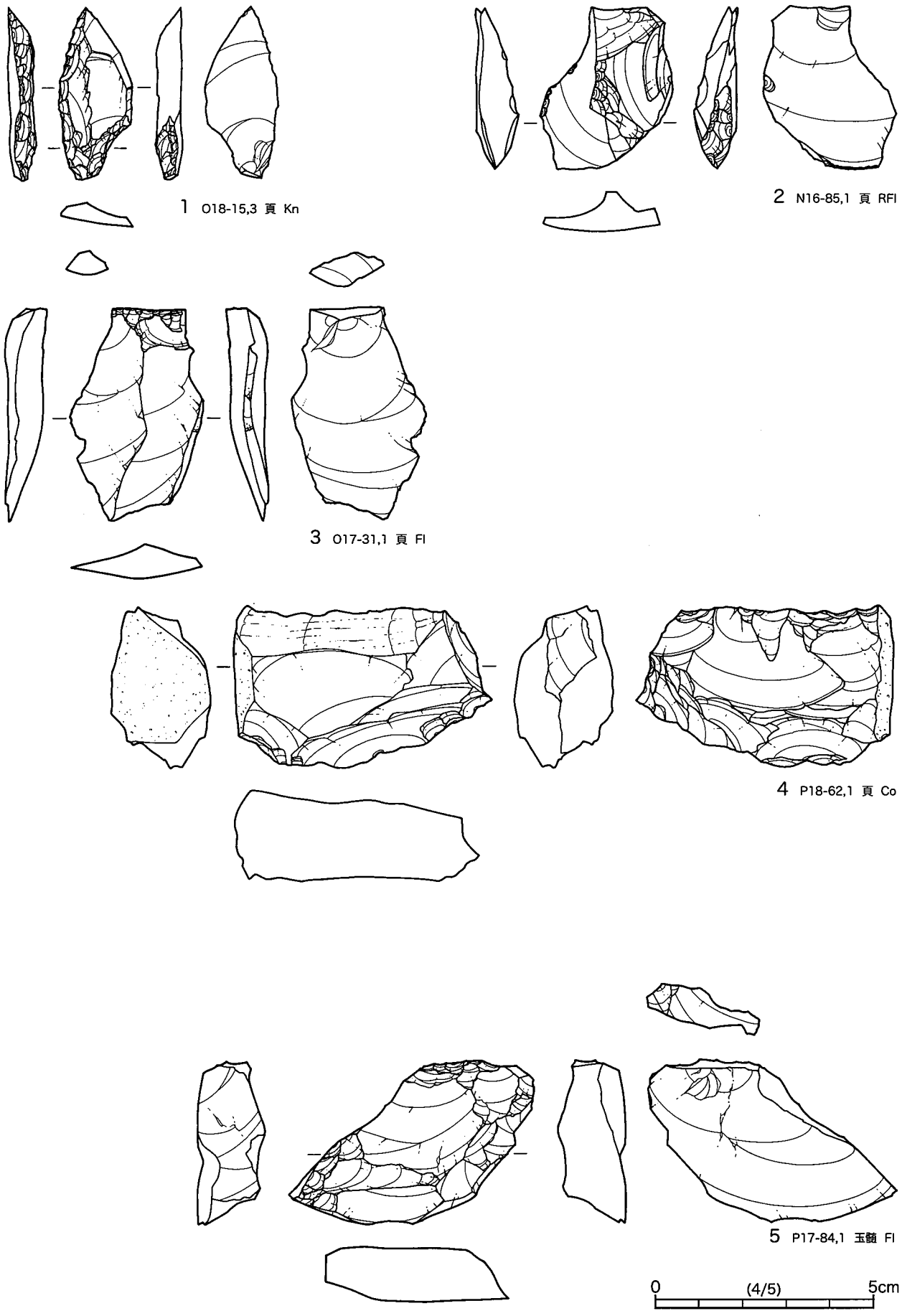
第90図　第13ブロック出土石器

占める。これは、器種毎の点数の相違も関係するが、チャート製の石器が比較的に大型である点も指摘されよう。

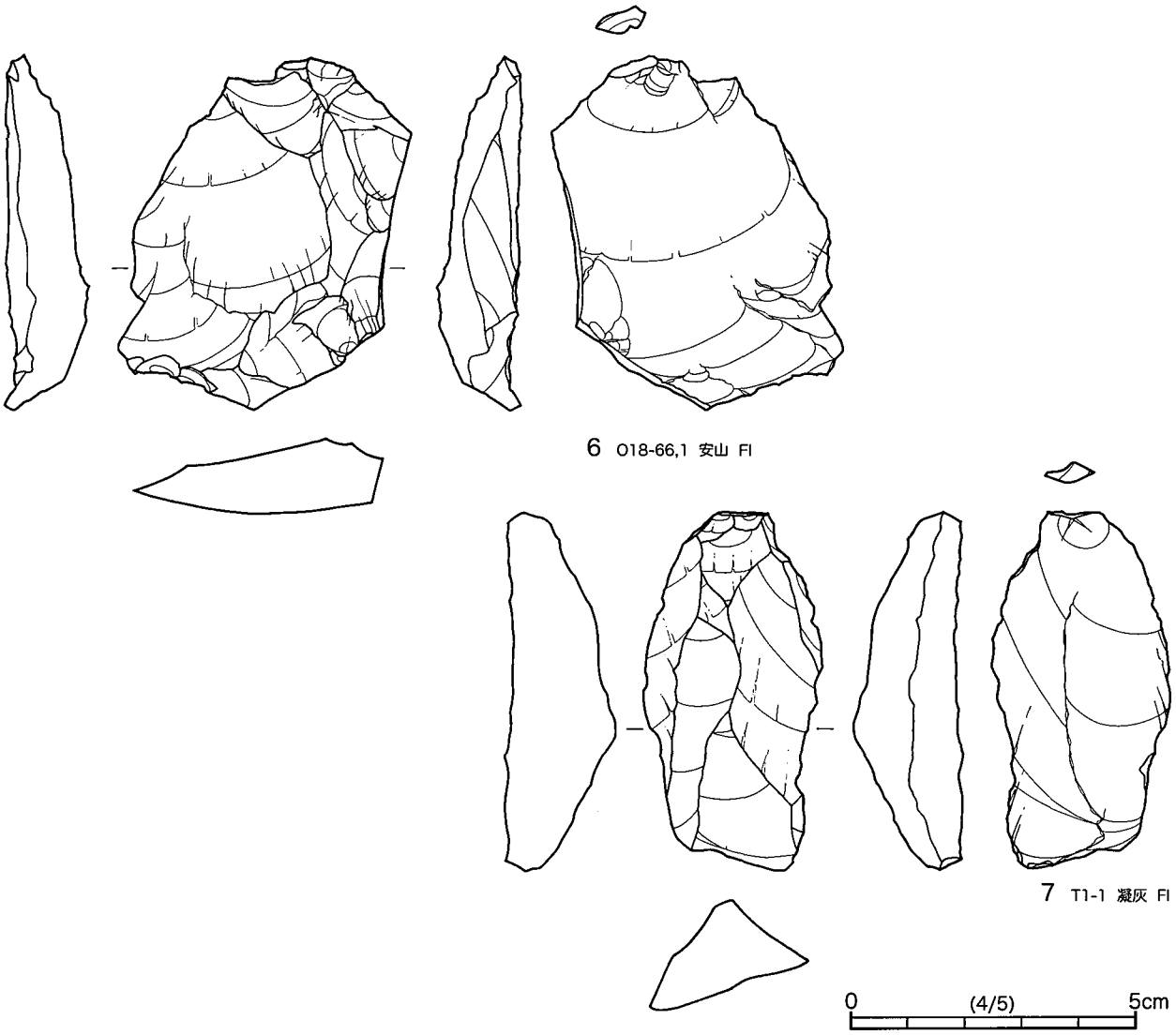
黒曜石は、やや透明感はあるものの、細かい夾雑物が混入する石質であり、チャートについては、礫面はクリーム色、内面は暗灰色を呈し、節理の混入がほとんどみられない石質である。

１・２は黒曜石製の剥片である。縦横比がほぼ同一の正方形を呈する形状である。背面は末端部に左側縁方向からの剥離がみられる以外は、全て打面方向からの剥離で構成される。２は小型の縦長剥片であり、背面は打面側からの剥離で構成される。

３・４はチャート製の剥片で、３は打面に対し軸が斜行する形状である。剥片剥離時に打点から２分し、末端部も欠損する。背面は同一打面および打面側からの剥離と礫面で構成される。４は不定形剥片で、礫面を打面として作出される。背面は多方向からの剥離で構成されており、剥片剥離工程の初期段階に作出された剥片と考えられる。



第91図　単独出土石器（1）



第92図　単独出土石器（2）

（11）第11ブロック（第82～85図、第13・15表、図版22）

分布

P18-32グリッドからP18-53グリッドの広範囲にかけて検出された。分布範囲は長軸12m、短軸７mの長楕円形状を呈するが、石器の出土点数は計７点であり極めて散漫な分布状況といえる。

ローム層の堆積状況に不備があるため、石器の出土層位は不明である。隣接した第12ブロックも同様に出土層位は不明だが、調査時の記述はⅨ層となっている。両ブロックのヒストグラムを比較すると、第11ブロックはやや上方にピークが認められる。石器出土レベルの最大値は24.987m、最小値は24.652m、平均は24.822mである。

器種・石材

黒曜石２点、玉髄１点、安山岩２点で構成される。他に安山岩製、凝灰岩製の礫が１点ずつ組成に加わる。石器組成は、定型的な石器はなく、調整痕ある剥片、砕片で構成される。

１・２は黒曜石製の調整痕ある剥片である。１は透明度が高く、不純物の混入がほとんどみられない石

質である。背面が打面方向からの剥離により構成される縦長剥片で、両側縁の一部および末端部に微細な調整が施される。２は透明な部位がほとんどみられない石質で、調整は素材剥片の形状を大きく変化させるように施される。

（12）第12ブロック（第82～84・86図、第13・15表、図版22）

分布

P18-63グリッドからP18-71グリッドを中心に検出された。分布状況は長軸12m、短軸４mの長楕円形状を呈し、この範囲内に計５点が点在する。

垂直分布のヒストグラムのピークは標高24.7m付近を示し、調査時の記述ではⅨ層出土となっている。石器出土レベルの最大値は24.670m、最小値は24.320m、平均は24.564mである。

器種・石材

剥片４点および玉髄製の原石と考えられる礫１点で構成される。剥片石器では頁岩、安山岩、変成岩が石材として使用される。

１は頁岩製の不定形剥片である。色調は黄土色を呈し、肌理が細かい。背面は打面側からの剥離と左側面側からの剥離により構成される。

２は変成岩製の剥片である。暗灰色を呈し、器表面はざらついた感がある。末端部付近に最大幅を有する縦長剥片であり、剥片作出後に折断される。双方の出土地点には10mの隔たりがある。背面は同一打面から、もしくは打面方向からの剥離により構成され、腹面の末端部はヒンジ・フラクチュアとなる。

３は玉髄製の礫である。断面形状が円形に近い棒状礫である。礫面は赤味を帯びた黄土色を呈し、平滑である。石材の点から剥片剥離を目的としての搬入が想定されるが、敲打痕は全くみられない。

（13）第13ブロック（第87～90図、第14・15表、図版23）

分布

O19-15グリッドからO19-26グリッドにかけて検出された。長軸7.5m、短軸５mの楕円形状を呈する分布である。

石器の出土層位Ⅳ層からⅥ層にかけてであり、ヒストグラムのピークはⅤ層の上部を示す。石器出土レベルの最大値は22.042m、最小値は21.595m、平均は21.812mである。

接合資料

頁岩製の剥片２点の接合資料が一個体確認された。

器種・石材

剥片石器は、黒曜石製の剥片１点、頁岩製の調整痕ある剥片２点、剥片６点、玉髄製の剥片１点の計10点で構成される。砂岩製の礫が１点組成に加わる。頁岩は器表面が灰色を呈する石材と、黄土色を呈する石材の２種が見受けられる。黒曜石は透明度が高く、夾雑物の混入がみられない石質である。

１は頁岩製の調整痕ある剥片である。小型の剥片であるが、折断、調整の痕跡がみられる。背面末端部の調整は、両側の折断が行われる以前に施されている。また、打面部および打面直下の両側縁に対しても調整が施される。

２は黒曜石製の剥片である。末端部側が欠損している。背面は打面側からの剥離により構成される。

3は黄土色を呈する頁岩製の剥片である。不定形剥片であり、背面は両側縁側からの剥離により構成される。

4は頁岩製の接合資料である。同一打面から作出された剥片2点の接合である。背面は多方向からの剥離により構成され、頻繁に打面を転移し剥片剥離を行っていることが窺える。

(14) 単独出土遺物（第91・92図、第15表、図版23）

1は頁岩製のナイフ形石器である。肌理の細かい黒色を呈する石材である。縦長剥片を素材とし、末端部側を先端部としている。左側縁および右側縁の基部に対し、腹面側からの調整が施される。

2は頁岩製の調整痕のある剥片である。暗茶色を呈するいわゆるチョコレート頁岩製である。末端部付近に最大厚をもつ形状で、末端部付近の右側縁に背面、腹面の両面から調整が施される。

3はクリーム色を呈する頁岩製の剥片である。縦長剥片であり、背面は同一打面もしくは打面側からの剥離により構成される。

4は石核で、礫面、内面共に暗灰色を呈する頁岩を使用する。横長の長方体を呈する形状であり、剥片剥離は主として上下両端から行われている。

5は乳白色を呈する玉髄製の剥片である。打面に対し極端に軸が斜行する形状であり、背面は同一打面からの剥離と、左側縁にみられる平坦な剥離面を打面とした剥離により構成される。

6は安山岩製の大型剥片である。末端部付近に最大厚を持つ形状で、背面構成は多方向からの剥離で構成される。

7は明灰色を呈する凝灰岩製の大型剥片である。縦長剥片であり、背面は打面方向からの連続した剥離により構成される。

文化層	ブロック	接図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩	接合番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	標高(m)
Ⅸa	1		N17-27	1	Gr	An			3.55	2.97	0.66	8.3	-26416.176	6177.768	24.508
Ⅸa	1		N17-27	2	Gr	Sa			2.46	0.93	0.71	1.4	-26414.806	6177.736	24.417
Ⅸa	1	61	N17-37	1	HS	An			9.10	5.19	3.39	202.0	-26418.810	6175.687	24.455
Ⅸa	1	61	N17-47	1	Fl	Ob			5.29	3.40	1.33	20.1	-26421.661	6176.745	24.380
Ⅸa	1	61	N17-47	2	Fl	An			5.74	5.29	2.01	51.4	-26421.538	6177.351	24.325
Ⅸa	1		N17-47	3	Fl	Sh			2.29	2.26	0.82	4.0	-26423.516	6176.615	24.360
Ⅴ下	2	62	N17-39	1	Fl	Rh			4.96	3.32	1.20	8.5	-26420.090	6183.967	24.402
Ⅴ下	2	63	N17-49	1	Co	An	6	7	2.99	3.15	2.30	19.4	-26421.210	6185.325	24.278
Ⅴ下	2	62	N17-49	2	Fl	An	5	1	2.34	3.26	0.87	7.4	-26421.748	6184.897	24.588
Ⅴ下	2	62	N17-49	3	Fl	An	3		1.16	2.31	0.40	1.0	-26422.004	6185.129	24.587
Ⅴ下	2		N17-49	4	Fl	An			1.14	1.73	0.35	0.6	-26422.090	6185.576	24.385
Ⅴ下	2	63	N17-49	5	Fl	An	6	1	2.99	2.00	0.75	4.6	-26422.207	6186.015	24.795
Ⅴ下	2		N17-49	6	Fl	An			2.88	3.55	0.89	5.8	-26422.473	6186.169	24.569
Ⅴ下	2	63	N17-49	7	HS	Sa			8.05	5.31	3.35	202.0	-26422.412	6185.940	24.503
Ⅴ下	2		N17-49	8	Ch	An			1.14	0.70	0.11	0.1	-26422.613	6185.388	24.506
Ⅴ下	2		N17-49	9	Fl	An			2.40	1.34	0.58	2.2	-26422.304	6186.637	24.575
Ⅴ下	2	62	N17-49	10	Fl	An	2		1.40	2.55	0.57	1.9	-26421.867	6186.427	24.892
Ⅴ下	2	62	N17-49	11	Fl	An	2		2.33	2.81	0.68	3.6	-26421.730	6185.808	24.672
Ⅴ下	2	63	N17-49	12	Fl	An	6	3	2.73	3.31	1.25	8.4	-26421.534	6185.435	24.720
Ⅴ下	2		N17-49	13	Fl	An			1.17	1.29	0.35	0.5	-26421.318	6186.017	24.588
Ⅴ下	2		N17-49	15	Fl	An			1.74	1.26	0.34	0.5	-26421.556	6186.401	24.492
Ⅴ下	2		N17-49	15	Ch	An			0.96	1.17	0.28	0.2	-26421.556	6186.401	24.458
Ⅴ下	2	63	N17-49	16	Fl	An	6	6	3.59	1.67	0.93	6.2	-26421.010	6186.798	24.503
Ⅴ下	2		N17-49	17	Ch	An			1.84	0.89	0.63	0.7	-26422.396	6186.253	24.458
Ⅴ下	2		N17-49	18	Ch	An			0.53	0.51	0.13	0.1	-26421.687	6186.605	24.415
Ⅴ下	2	63	N17-49	19	RFl	An	6	2	3.74	2.25	2.09	8.2	-26422.083	6186.551	24.427
Ⅴ下	2	63	O17-40	1	Fl	An	6	5	2.40	1.50	0.44	1.7	-26421.713	6186.879	24.633
Ⅴ下	2	62	O17-40	2	Fl	An	5	2	1.12	1.46	0.42	0.5	-26421.774	6186.875	24.347
Ⅴ下	2	63	O17-40	3	Fl	An	6	4	1.86	1.81	0.60	1.9	-26421.907	6186.950	24.448
Ⅴ下	2	62	O17-40	4	Fl	An	1		2.91	2.47	0.51	2.7	-26421.988	6187.272	24.497
Ⅴ下	2	63	O17-40	5	Fl	An	6	3	3.91	3.36	0.86	14.8	-26422.114	6187.433	24.278
Ⅴ下	2	62	O17-40	6	Fl	An	1		2.01	1.53	0.60	1.4	-26422.205	6188.224	24.358
Ⅴ下	2	62	O17-40	7	Fl	An	3		0.85	0.82	0.23	0.2	-26421.935	6187.289	24.326
Ⅴ下	2	62	O17-40	8	Fl	An	5	2	1.86	2.08	0.87	2.7	-26422.296	6188.241	24.340
Ⅴ下	2	62	O17-40	9	Fl	An	3		0.69	0.71	0.21	0.1	-26422.008	6187.329	24.310
Ⅴ下	2		O17-40	12	Fl	An			1.81	4.09	1.37	8.8	-26423.566	6189.817	24.477
Ⅴ下～Ⅵ上	3		O17-40	10	Fl	Ob			1.11	1.36	0.27	0.5	-26422.152	6189.470	24.452
Ⅴ下～Ⅵ上	3		O17-40	11	Fl	Ob			1.61	1.83	0.48	0.9	-26423.866	6190.805	24.290
Ⅴ下～Ⅵ上	3	64	O17-40	13	Fl	Sh			4.10	4.09	1.43	19.4	-26424.575	6189.643	24.537
Ⅴ下～Ⅵ上	3		O17-50	1	Fl	Ob			1.63	2.23	0.47	0.7	-26425.092	6189.335	24.642
Ⅴ下～Ⅵ上	3	64	O17-50	2	Fl	Ch			3.52	2.61	0.46	3.0	-26425.433	6189.693	24.531
Ⅴ下～Ⅵ上	3	64	O17-50	3	RFl	Ob			1.65	2.12	0.67	2.8	-26425.875	6190.661	24.245
Ⅴ下～Ⅵ上	3	64	O17-50	4	HS	Sa			9.11	6.54	4.65	417.0	-26425.465	6190.140	24.483
Ⅵ～Ⅸ?	4	68	O17-32	1	RFl	Ch			2.83	1.50	0.42	1.5	-26420.475	6197.742	24.633
Ⅵ～Ⅸ?	4	68	O17-41	1	Fl	Ob			3.81	2.47	0.63	5.4	-26422.812	6193.220	24.615
Ⅵ～Ⅸ?	4		O17-42	2	Fl	Ch			0.79	1.97	0.39	0.7	-26423.459	6197.060	24.969
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-43	1	Fl	Ssh			6.94	4.49	1.12	32.2	-26424.687	6200.160	24.439
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-43	2	Fl	Ch			1.75	1.20	0.20	0.3	-26424.748	6200.154	24.264
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-43	4	UFl	Ob			3.08	1.60	0.73	3.2	-26422.012	6201.123	24.420
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-43	5	Fl	Sh	5	2	2.69	3.26	1.08	4.7	-26423.201	6201.868	24.678
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-43	6	Fl	Sh			2.23	1.50	0.65	1.8	-26423.586	6201.907	24.306
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-43	7	Ch	Ob			0.71	0.64	0.15	0.1	-26423.752	6201.733	24.349
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-43	8	Fl	Sh			1.73	0.76	0.29	0.3	-26423.786	6202.068	24.644
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-43	9	Fl	Cc			3.68	1.57	0.70	2.9	-26423.239	6202.798	24.416
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-44	1	Fl	Sh	5	1	2.65	2.78	0.65	4.6	-	-	-
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-44	3	Fl	An			3.28	2.36	0.83	5.5	-26423.704	6203.896	24.476
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-44	4	Fl	Cc			1.28	2.19	0.24	0.5	-26424.683	6203.182	24.495
Ⅵ～Ⅸ?	5		O17-44	5	Fl	Ssh			3.41	3.84	0.77	6.2	-26423.598	6203.923	24.443
Ⅵ～Ⅸ?	5	69	O17-64	1	Fl	Cc			3.21	3.42	0.65	7.1	-26430.073	6203.242	24.370
Ⅵ～Ⅸ?	6	70	O17-55	1	Fl	Sh			5.32	4.28	0.91	15.4	-26427.257	6209.924	24.127
Ⅵ～Ⅸ?	6	70	O17-65	1	Fl	Sh	1		4.38	7.07	1.31	31.3	-26431.093	6208.193	24.368
Ⅵ～Ⅸ?	6	70	O17-65	2	Fl	Sh	1		6.27	5.05	1.48	48.8	-26430.511	6208.025	24.348
Ⅵ～Ⅸ?	6	70	O17-65	3	Fl	Rh			4.54	1.67	0.51	3.4	-26431.123	6209.013	24.317
Ⅵ～Ⅸ?	6		O17-65	4	Ch	Ch			1.50	1.21	0.66	0.8	-26430.238	6209.926	24.320
Ⅵ～Ⅸ?	6		O17-65	5	Fl	Tu			3.75	1.73	0.46	3.3	-26429.059	6210.803	24.185
Ⅵ～Ⅸ?	7		O17-58	1	Fl	Cc			1.99	1.18	0.51	0.8	-26428.327	6222.496	24.715
Ⅵ～Ⅸ?	7	74	O17-67	1	RFl	Ob			2.95	1.02	0.53	1.4	-26432.014	6217.868	24.770
Ⅵ～Ⅸ?	7	74	O17-68	1	RFl	Ob			4.05	3.30	0.86	8.8	-26430.603	6219.086	25.304
Ⅵ～Ⅸ?	7		O17-68	2	Fl	Ch			1.41	1.09	0.39	0.6	-26430.603	6219.086	25.302
Ⅵ～Ⅸ?	7		O17-68	3	Fl	An			1.36	1.09	0.72	1.1	-26429.891	6219.257	24.755
Ⅵ～Ⅸ?	7		O17-68	4	Fl	Ch			1.17	0.43	0.33	0.2	-26429.924	6219.604	24.630
Ⅵ～Ⅸ?	8	75	P17-60	1	RFl	Ob			3.78	2.43	1.54	11.8	-26431.749	6228.402	24.883
Ⅵ～Ⅸ?	8		P17-60	2	Fl	An			0.91	1.05	0.48	0.3	-26431.535	6228.208	24.904
Ⅵ～Ⅸ?	8		P17-60	3	Ch	Ob			1.23	1.18	0.23	0.3	-26431.233	6228.622	25.016
Ⅵ～Ⅸ?	8		P17-60	4	Fl	Ch			2.25	2.07	0.52	2.5	-26431.044	6228.050	24.946
Ⅵ～Ⅸ?	8	75	P17-60	5	Fl	Sh			4.45	3.99	1.12	20.1	-26430.501	6228.544	25.005
Ⅵ～Ⅸ?	8		P17-60	6	Ch	Sl			0.72	0.63	0.17	0.1	-26429.811	6229.495	24.851
Ⅵ～Ⅸ?	8		P17-60	7	Gr	Qp			4.85	3.62	2.98	42.3	-26428.751	6229.231	24.952
Ⅵ～Ⅸ?	8	75	P17-60	8	Fl	Ob			2.40	3.01	1.08	5.5	-26431.908	6228.047	24.868
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-01	1	Fl	Cc			3.32	2.87	0.65	4.9	-26448.007	6234.601	24.969
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-02	4	Fl	Cc	3	2	3.31	1.84	0.47	2.5	-26448.685	6235.743	25.098
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-02	5	Fl	Cc	4	1	3.03	2.88	0.96	8.3	-26448.515	6236.166	24.805
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	1	Ch	An			0.44	0.55	0.22	0.1	-26449.056	6234.818	24.753
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	2	Ch	Ob			0.63	1.13	0.35	0.2	-26449.334	6234.734	24.651
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	3	Ch	Ob			0.53	0.55	0.15	0.1	-26449.594	6234.492	24.900
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	4	Fl	Ob			1.33	1.10	0.24	0.2	-26450.237	6239.915	25.111
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	5	Fl	Ob			1.06	1.21	0.59	0.7	-26450.956	6232.497	24.777
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	6	Ch	Ob			0.66	1.33	0.48	0.3	-26451.327	6232.300	24.827
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-11	7	Fl	Ob	2		1.92	1.03	0.48	1.0	-26451.300	6234.781	24.798
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	8	Ch	Ob			0.79	0.42	0.07	0.1	-26451.371	6232.237	24.783
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	9	Fl	Ob			2.45	1.14	0.38	0.6	-26450.810	6234.737	24.977
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-11	10	Fl	Ob			2.32	2.10	0.51	2.3	-26450.704	6234.556	24.935
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-11	11	Fl	Ob	2		1.23	1.66	0.55	1.1	-26450.457	6234.208	24.885
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-11	12	Fl	Ob	2		1.37	1.90	0.62	1.5	-26450.546	6234.684	24.790
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-12	1	Kn	Cc			4.07	1.82	0.58	4.6	-26452.468	6236.626	24.985
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-12	2	Fl	Cc	4	2	3.03	3.43	1.18	9.4	-26451.179	6235.183	24.822
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-12	3	Fl	Cc	3	1	4.00	3.52	1.91	18.9	-26449.245	6235.438	24.953
Ⅳ～Ⅵ?	9	80	P18-12	4	Fl	Cc	5	2	3.15	2.21	0.90	5.4	-26448.892	6235.505	24.869
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	5	Fl	Cc			1.46	1.29	0.51	0.9	-26449.002	6235.575	24.874
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	5	Ch	Cc			0.87	0.98	0.28	0.2	-	-	-
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	6	Fl	Cc			1.78	2.64	0.35	1.7	-26449.245	6235.910	24.937
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	7	Fl	Cc			1.58	1.54	0.37	0.6	-26449.505	6235.831	24.842
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-12	8	Fl	Cc	4	2	1.95	2.10	0.81	3.3	-26449.434	6236.633	24.739
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	9	Ch	Cc			0.68	1.36	0.34	0.3	-26449.642	6236.361	24.810
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	10	Fl	Cc			1.57	2.20	0.63	1.3	-26449.985	6236.126	24.717
Ⅳ～Ⅵ?	9	79	P18-12	11	Fl	Cc	4	1	1.76	1.54	0.30	0.7	-26450.228	6236.016	24.926
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	12	Fl	Cc			1.48	2.30	0.71	2.1	-26450.202	6235.571	24.946
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	13	Ch	Ob			1.05	0.70	0.19	0.1	-26449.925	6235.453	24.779
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	14	Ch	Ob			0.93	0.38	0.12	0.1	-26449.722	6235.404	24.898
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	15	Fl	Cc			1.60	1.45	0.55	1.0	-26450.272	6235.721	24.948
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	16	Fl	Cc			1.54	1.18	0.30	0.5	-26450.268	6238.128	24.760
Ⅳ～Ⅵ?	9	80	P18-12	17	Fl	Cc	5	1	2.76	1.91	0.47	2.0	-26448.804	6236.038	24.565
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	18	Ch	Ob			0.81	1.04	0.23	0.2	-26450.604	6236.194	24.940
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	19	Ch	Cc			0.69	0.82	0.14	0.1	-26449.713	6235.563	24.817
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	20	Fl	Cc			1.64	2.00	0.59	1.3	-26449.275	6235.862	24.879
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	21	Ch	Cc			0.86	1.31	0.31	0.4	-26449.329	6236.053	24.846
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	22	Fl	Ob			1.51	1.12	0.28	0.4	-26449.143	6235.116	24.740
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	23	Ch	Cc			0.85	1.25	0.27	0.2	-26449.285	6236.101	24.812
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	24	Fl	Cc			2.03	1.64	0.48	1.6	-26450.290	6236.012	24.797
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	26	Fl	Cc			2.88	1.76	0.63	1.6	-26449.395	6235.910	24.778
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	27	Ch	Cc			0.89	0.84	0.09	0.1	-26449.850	6235.942	24.640
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	28	Fl	Cc			0.97	1.38	0.27	0.3	-26449.844	6236.082	24.580
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	29	Fl	Cc			2.59	1.39	0.53	0.8	-26450.272	6235.628	24.647
Ⅳ～Ⅵ?	9	80	P18-12	30	Fl	Ob	2		0.80	1.04	0.50	0.6	-26451.238	6236.523	25.090
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	31	Fl	Cc			0.89	1.91	0.30	0.3	-26450.850	6235.090	25.044
Ⅳ～Ⅵ?	9		P18-12	32	Ch	Ob			0.97	0.67	0.22	0.1	-26450.701	6235.466	24.790
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	1	Fl	Ob			2.08	1.37	0.55	1.5	-26453.228	6233.854	24.854
Ⅴ～Ⅵ?	10	81	P18-21	2	Fl	Ob			2.50	2.44	0.51	3.0	-26453.172	6233.627	24.861
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	3	Ch	Ob			1.02	1.49	0.22	0.3	-26453.424	6233.438	25.057
Ⅴ～Ⅵ?	10	81	P18-21	4	Fl	Ob			2.68	1.33	0.28	0.8	-26453.572	6233.121	24.976
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	5	Ch	Ob			0.93	0.88	0.16	0.1	-26453.949	6233.016	24.957
Ⅴ～Ⅵ?	10	81	P18-21	6	Fl	Ch	3		2.88	2.58	0.62	4.4	-26453.958	6233.287	25.000
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	7	Ch	Ob			0.64	0.86	0.21	0.1	-26453.527	6232.744	24.806
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	8	Fl	Ch			2.75	3.27	1.74	11.0	-26454.167	6233.183	24.920
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	9	Ch	Ob			0.82	0.65	0.16	0.1	-26453.556	6233.559	24.975
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	10	Ch	Ob			0.83	0.84	0.24	0.1	-26453.765	6233.491	24.978
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	11	Ch	Ob			0.56	0.42	0.13	0.1	-26454.153	6232.989	24.912
Ⅴ～Ⅵ?	10	81	P18-21	12	Fl	Ch	3		1.96	1.41	0.34	0.9	-26454.153	6233.216	24.970
Ⅴ～Ⅵ?	10	81	P18-21	13	Fl	Ch			2.68	2.65	0.71	2.5	-26453.569	6233.040	24.885
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	14	Ch	Ob			0.54	0.41	0.20	0.1	-26453.533	6233.738	24.740
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	15	Fl	Ch			2.46	1.17	0.40	0.8	-26453.240	6233.707	24.819
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	16	Ch	Ch			1.40	0.66	0.21	0.2	-26453.883	6233.247	24.865
Ⅴ～Ⅵ?	10		P18-21	17	Ch	Ch			1.15	1.05	0.22	0.1	-26453.748	6233.218	24.860
Ⅸ?	11		P18-32	1	Fl	An			0.85	0.86	0.63	0.4	-26458.203	6236.659	24.652
Ⅸ?	11		P18-40	1	Fl	An			1.21	1.50	0.48	0.7	-26452.470	6229.899	24.762
Ⅸ?	11	85	P18-41	1	RFl	Ob			1.83	1.42	0.73	1.4	-26462.893	6234.818	24.817
Ⅸ?	11	85	P18-42	1	RFl	Ob			4.00	2.13	0.62	3.7	-26460.826	6236.917	24.748
Ⅸ?	11		P18-43	1	Gr	An			3.85	2.94	1.25	12.8	-26462.913	6241.457	24.838
Ⅸ?	11		P18-43	3	Fl	Cc			1.77	1.45	0.42	0.6	-26464.439	6239.609	24.947
Ⅸ?	11		P18-53	1	Gr	Tu			4.05	1.49	1.12	5.6	-26466.189	6242.054	24.987
Ⅸ?	12	86	P18-61	2	Gr	Cc			14.09	8.47	7.71	1376.0	-26471.986	6234.816	24.568
Ⅸ?	12	86	P18-63	1	Fl	Sh			1.74	2.00	0.35	1.2	-26469.560	6239.080	24.596
Ⅸ?	12		P18-63	2	Fl	An			1.31	1.46	0.81	0.9	-26470.572	6240.097	24.670
Ⅸ?	12	86	P18-63	3	Fl	Ho	2		2.70	4.32	1.13	13.8	-26472.430	6240.427	24.665
Ⅸ?	12	86	P18-71	1	Fl	Ho	2		2.58	3.35	1.03	8.8	-26476.692	6231.068	24.320
Ⅴ上	13		O19-15	1	Fl	Cc			1.40	2.25	0.78	1.8	-26490.488	6210.113	21.704
Ⅴ上	13		O19-15	2	Fl	Sh			2.74	1.66	0.54	2.1	-26492.205	6208.931	21.661
Ⅴ上	13		O19-16	1	Gr	Sa			3.87	3.68	1.25	13.1	-26490.547	6211.721	21.931
Ⅴ上	13	90	O19-16	2	Fl	Sh			1.78	2.70	0.69	2.8	-26492.278	6213.532	21.969
Ⅴ上	13		O19-26	1	Fl	Sh			3.31	2.28	1.32	10.1	-26492.766	6212.132	21.868
Ⅴ上	13	90	O19-26	2	Fl	Sh	4	1	1.32	1.80	0.29	0.6	-26493.963	6212.991	22.042
Ⅴ上	13	90	O19-26	3	Fl	Ob			1.64	1.49	0.50	0.5	-26494.336	6212.976	21.779
Ⅴ上	13		O19-26	4	Fl	Sh			1.26	1.27	0.32	0.4	-26494.362	6213.206	21.746
Ⅴ上	13	90	O19-26	5	RFl	Sh	1		1.77	2.15	0.61	2.3	-26494.641	6214.185	21.773
Ⅴ上	13	90	O19-26	6	RFl	Sh	1		1.51	1.29	0.46	1.3	-26496.135	6214.068	21.868
Ⅴ上	13	90	O19-26	7	Fl	Sh	4	2	3.14	1.93	0.58	1.7	-26496.094	6212.585	21.595
	B外		19区	1	Fl	Ch			2.37	3.57	0.97	9.7	-	-	-
	B外	92	1T	1	Fl	Tu			6.31	3.24	1.61	29.2	-	-	-
	B外		H12-46	1	Fl	Tu			5.29	4.39	1.96	33.3	-	-	-
	B外		H12-46	1	Fl	Ch			3.34	2.18	0.63	4.5	-	-	-
	B外	91	N16-85	1	RFl	Sh			3.72	3.09	0.97	7.1	-	-	-
	B外		N17-26	1	Gr	Ms			2.05	1.75	1.22	4.0	-	-	-
	B外		O17	1	Fl	Ch			2.96	3.64	1.14	11.6	-	-	-
	B外	91	O17-31	1	Fl	Sh			4.99	3.07	0.94	11.0	-	-	-
	B外		O17-40	9	Ch	An			0.71	0.58	0.14	0.1	-	-	-
	B外		O17-42	14	Fl	Ch			3.07	3.50	2.35	24.9	-	-	-
	B外		O17-66	1	Fl	Ch			1.68	1.89	0.83	3.0	-	-	-
	B外		O17-66	2	Fl	Sh	1		3.27	3.62	1.28	11.6	-	-	-
	B外		O18	7	Fl	Sh			1.45	1.65	0.41	0.8	-	-	-
	B外	91	O18-15	3	Kn	Sh			3.97	1.71	0.68	3.8	-	-	-
	B外		O18-15	14	Fl	Cc			0.88	2.62	0.51	0.8	-	-	-
	B外		O18-15	14	Fl	An			3.12	3.48	1.02	11.4	-	-	-
	B外	92	O18-66	1	Fl	An			6.23	4.85	1.45	47.3	-	-	-
	B外		O19-26	8	Fl	Cc			1.38	1.13	0.65	1.0	-	-	-
	B外	91	P17-84	1	Fl	Cc			3.26	6.20	1.41	28.0	-26439.429	6243.176	24.800
	B外		P18-33	1	Fl	Tu			2.79	3.12	0.70	6.4	-	-	-
	B外	91	P18-62	1	Co	Sh			4.19	5.86	2.10	58.3	-	-	-
	B外		SD002	2	Fl	Cc			2.24	2.71	1.01	5.7	-	-	-

第15表　下矢切東台遺跡出土石器属性表

第２節　縄文時代以降

（１）概要

遺構としては、旧石器時代の石器ブロック群を多数検出した地点と重なる調査対象地の東端部で検出した溝状遺構３条（第93図）だけであり、生活感の希薄な様相となっている。遺物から見ても縄文土器、奈良時代須恵器、平安時代土師器が少量出土するだけで、多くは近世以降の陶磁器が多い。

しかし検出した溝状遺構は、南北方向に直線的に走行するもので、第２章で報告した上矢切南台遺跡の溝群とは様相が異なっている。

（２）溝状遺構

SD001

N18-58・59グリッドからN17-39グリッドまではほぼ真北に直線的に延びる２条１対の溝であるが、南側のN18－88・98グリッド周辺では東へ16°ほど振れた幅広い１条の溝となってしまう。２条が併走する部分の東西両溝は芯々間で６ｍの距離を保ち、西溝は幅２～３ｍを測り、溝底はさらに２条に分かれている。東溝は西溝より広くなり幅３～４ｍとなる。この東溝はN18-88・98グリッド周辺で検出した幅4.5ｍの溝に繋がるものだが、その間の部分は攪乱が著しく溝の痕跡を確認できなかった。この東溝の溝底部は硬化した面が断続的に認められ、西溝とは異なった様相を示している。

遺物は少なく、近世以降の陶磁器が大半だが、８世紀代の須恵器高台付杯や須恵器甕の口縁部小破片があり、古代まで遡る可能性もある。

SD002

P17-51・52からO19-58グリッドに向かって走行する溝で、SD001同様に２条１対となる。走行方向は東へ12°ほど振れるが、ほぼ一直線に伸びている。２条の溝は芯々間約３ｍの間隔を保ちながら併走し、溝幅はともに２～３ｍである。しかしながら溝底部の形状は異なり、西溝は平坦面をもつ断面皿状に、東溝は断面丸底状になっている。またSD001同様に東溝の溝底部は硬化した面が断続的に認めらた。

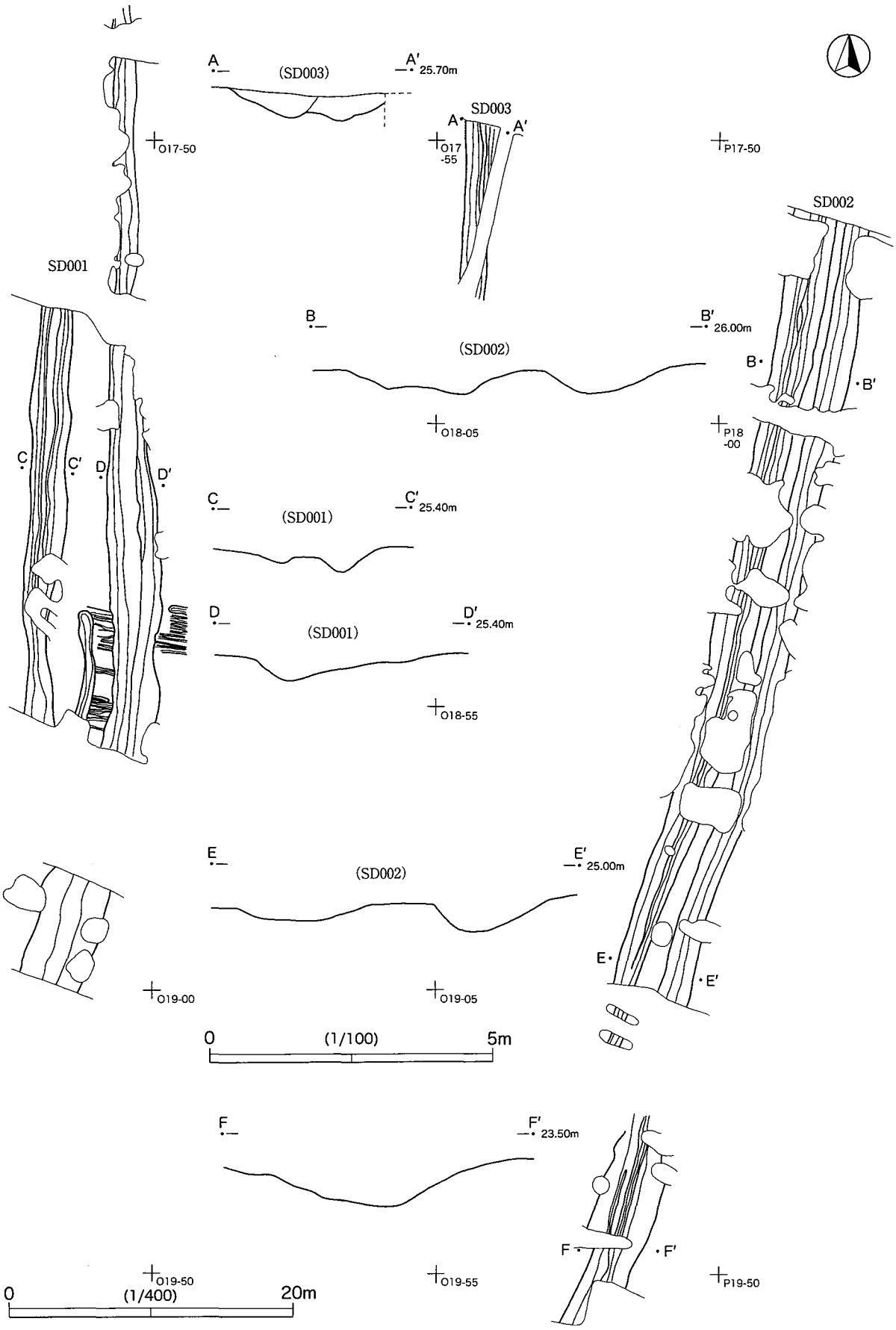
SD003

SD001とSD002のほぼ中間において検出した溝で、O17-45・46からO17-75グリッドに向かう範囲に存在する。SD001と並行したほぼ真北に走行するもので、幅約１ｍの溝２条が平行して走行し、SD001の西溝と同じ断面形態を示している。

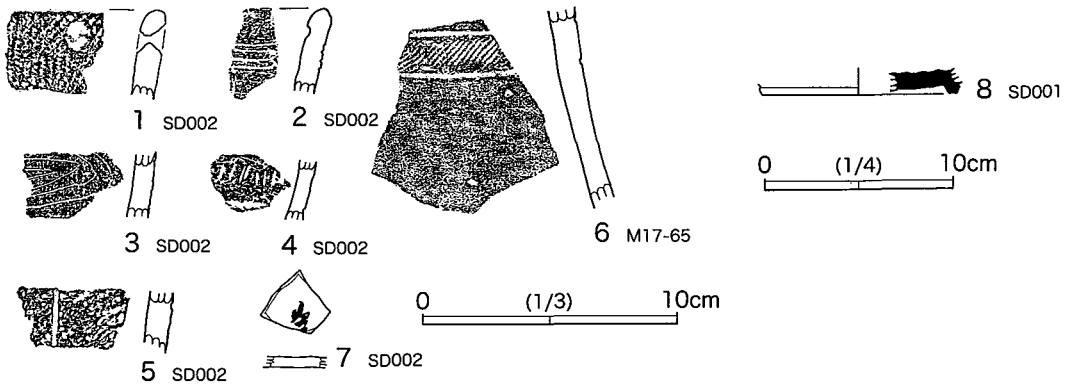
（３）遺物

遺跡全体としての遺物量は少なく、遺構から出土したものもごく僅かで第94図、図版24に示した。

縄文時代で時期を明らかにできるものは、全て後期に属するものと考えられる。１～７はSD002の覆土中からの出土である。１は口縁部に両側穿孔の補修孔を持つもので地文は単節縄文を施している。２も口縁部の破片であり、半裁竹管による並行沈線が施される。３も細い沈線文を施し、４は爪形の刺突文が巡らされている。５は単節縄文による地文と沈線の組み合わせとなり、６は２条の沈線の間を縄文で充填したもので加曽利Ｂ式期のものである。７は土師器杯底部の小破片であり、内面に墨書が認められるが文字は判読できない。８はSD001から出土した須恵器高台付杯の底部で、復元高台径は10.2cm、８世紀前半の湖西産である。



第93図　SD001・SD002・SD003



第94図　SD001・SD002出土遺物

第4章　まとめ

第1節　旧石器時代

上矢切南台遺跡では計12ブロック、下矢切東台遺跡からは計13ブロックが検出された。両遺跡ともにブロックが一地域に集中する傾向がみられるものの、出土層位、石器組成に共通点が少ない。このため所属する文化層の多様性が窺える。この節では、まとめとして上矢切南台遺跡、下矢切東台遺跡から検出されたブロックについて、文化層ごとに帰属させ、各文化層の様相を明らかにしたい。なお、出土層位が明確なブロックについて両遺跡を複合し考察を行い、明確でないブロックについては除外することとする。

Ⅲ層文化層

ソフトローム層中に属する文化層である。上矢切南台遺跡第12ブロックが該当する。礫・礫片で構成されるブロックであるため、剥片石器の特徴については不明である。石材については砂岩、チャートが主体であるが、下総台地北西部の他の遺跡と比較した場合、安山岩、石英斑岩等の火成岩系礫が少なく、前述の堆積岩系礫が多いことが指摘される。

Ⅳ層文化層

上矢切南台遺跡第11ブロックが該当する。小型ナイフ形石器と削片系石器が特徴である。石材はいわゆるチョコレート頁岩が多用される。他にⅤ層上部に所属する下矢切東台遺跡第13ブロックであるが、ナイフ形石器、削片等は認められないものの、使用される頁岩、調整部位等に一部共通点が認められるため、この文化層の範疇に括れるものと考えられる。

Ⅴ層文化層

切り出しナイフ形石器、角錐状石器を組成に含む文化層であり、上矢切南台遺跡第７～９ブロックの３ブロックが該当する。使用される石材は多様であるが、急角度の調整による、断面が正三角形に近い形状を呈するナイフ形石器、角錐状石器が特徴的である。定型的な石器は認められないが、部厚な不定形剥片の作出が行われている点では第９ブロックもこの文化層に属するものと考えられる。

Ⅵ層文化層

連続的に縦長剥片を作出する技術基盤をもつ文化層で、下矢切東台遺跡第２ブロックが該当する。主体となる石材と客体的な石材が明確であり、安山岩が多用される傾向にある。他に小型剥片ではあるが黒曜石を主体とする上矢切南台遺跡第10ブロック、下矢切東台遺跡第３ブロックが所属する。

Ⅶ層文化層

大型の縦長剥片が石器組成の主体となるブロックで、上矢切南台遺跡第１・５ブロックが該当する。また、上矢切南台遺跡第４ブロックであるが、不定形剥片を素材としたナイフ形石器、客体的な石刃状剥片が石器組成に加わる。本文ではⅤ～Ⅵ層の出土として扱ったが、Ⅶ層段階に比定されよう。石材は多様であるが、安山岩が普遍的に認められる。

Ⅸ層文化層

小型不定形剥片を作出する技術基盤をもつ文化層で、Ⅸ層上部のⅨa層に属する文化層である。上矢切南台遺跡第２・３ブロック、下矢切東台遺跡第１ブロックが該当する。石材は頁岩、安山岩が多用され、

背面構成は多方向からの剥離で構成される。上矢切南台遺跡第３ブロックについては石器組成に台形石器、基部調整のナイフ形石器を含み、他の２ブロックと比較すると、やや古段階に比定される。

上矢切南台遺跡、下矢切東台遺跡から検出された各ブロックは、Ⅲ層からⅨ層までの６文化層にそれぞれ比定できることが判明した。さらに各文化層においても細分できる可能性もあり、これはローム層の状態が悪いにもかかわらず、Ⅵ層より上部層の堆積が比較的厚いことに起因する。また、広大な氾濫原に面した下総台地北西端という地形的立地条件にも大きく関係すると考えられる。

第２節　縄文時代～中近世

上矢切南台遺跡では、調査地北端部で縄文前期の竪穴住居跡１軒・集石遺構２基を検出した。グリッド出土遺物も黒浜、浮島、興津、諸磯式が最も多く前期中葉から後葉にかけての時期が主体となっている。前期末から中期初頭の下小野、五領ヶ台式期や後期後半の安行式期の遺物も若干認められたが遺構は存在しなかった。これらの土器の分布も遺構の存在する地点と同様に調査地北端部に認められ、縄文時代の全時期を通して江戸川を望む台地の縁辺部が生活利用地であったことがうかがえる。このことは台地の内陸部に位置する下矢切東台遺跡において、遺構の検出が見られないことや後期の土器が若干出土したにとどまることからも首肯できるであろう。

上矢切南台遺跡では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡６軒を検出した。立地は縄文時代同様に調査地北端部に集中している。おそらくは北西側に広がる広大な氾濫原を可耕地とし、近接する台地上で集落を営んだものと考えられる。

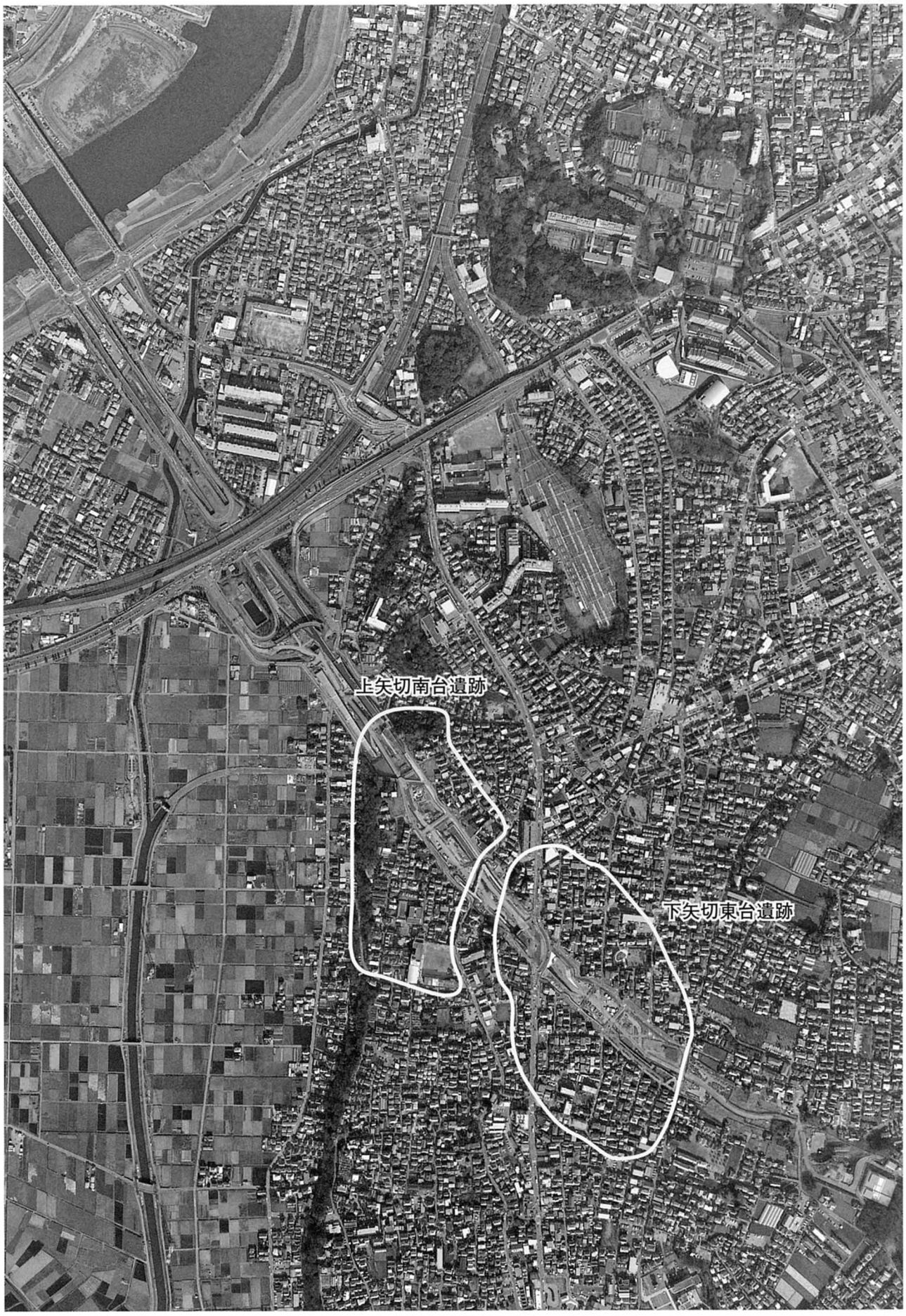
検出した住居跡は、後世の遺構や近年の開発等による攪乱を受けるため決して良好な遺存状態とは言えないが、当該時期の遺跡が多くはない東葛地域にあって貴重な資料を提供している。土器様相としてはいわゆる南関東系の土器となり、今後その位置付けを検討する必要があろう。

また、SI001では装飾壷とともに匙型土製品が３点も出土している。非日常的な使用を目的としたものと考えられ、祭祀の在り方等問題を提起している。

奈良・平安時代の竪穴住居跡４軒は、上矢切南台遺跡の調査地東寄りの地点で散漫な状況で検出している。この分布状況は、前時代の遺構分布と異なり、台地内陸部に入った地点となる。出土遺物は８世紀末から９世紀前半のものであり、集落としては比較的短い期間に営まれたものと考えられる。この散漫な状況と立地を考え合わせると、生活基盤は台地上での畑作主体であった可能性があろう。遺物ではSI011・013から出土したロクロ土師器の切り離し技法に注目したい。卓越して盛行する房総のロクロ土師器であるが、その切り離し技法は糸切りが主体である。しかしながらこの住居出土のものには回転ヘラ切りによる杯が３点あり、同時に静止糸切り技法のものと回転糸切り技法を用いた杯と共存している。ロクロ土師器成立期ではヘラ切り離し技法が採用されることはあるが量的には少なく東葛地域での出土例が多い。ヘラ切り技法は常陸南部や下総で生産される須恵器に認められることから、ロクロ土師器製作工人の背景を考える上で貴重な資料であろう。

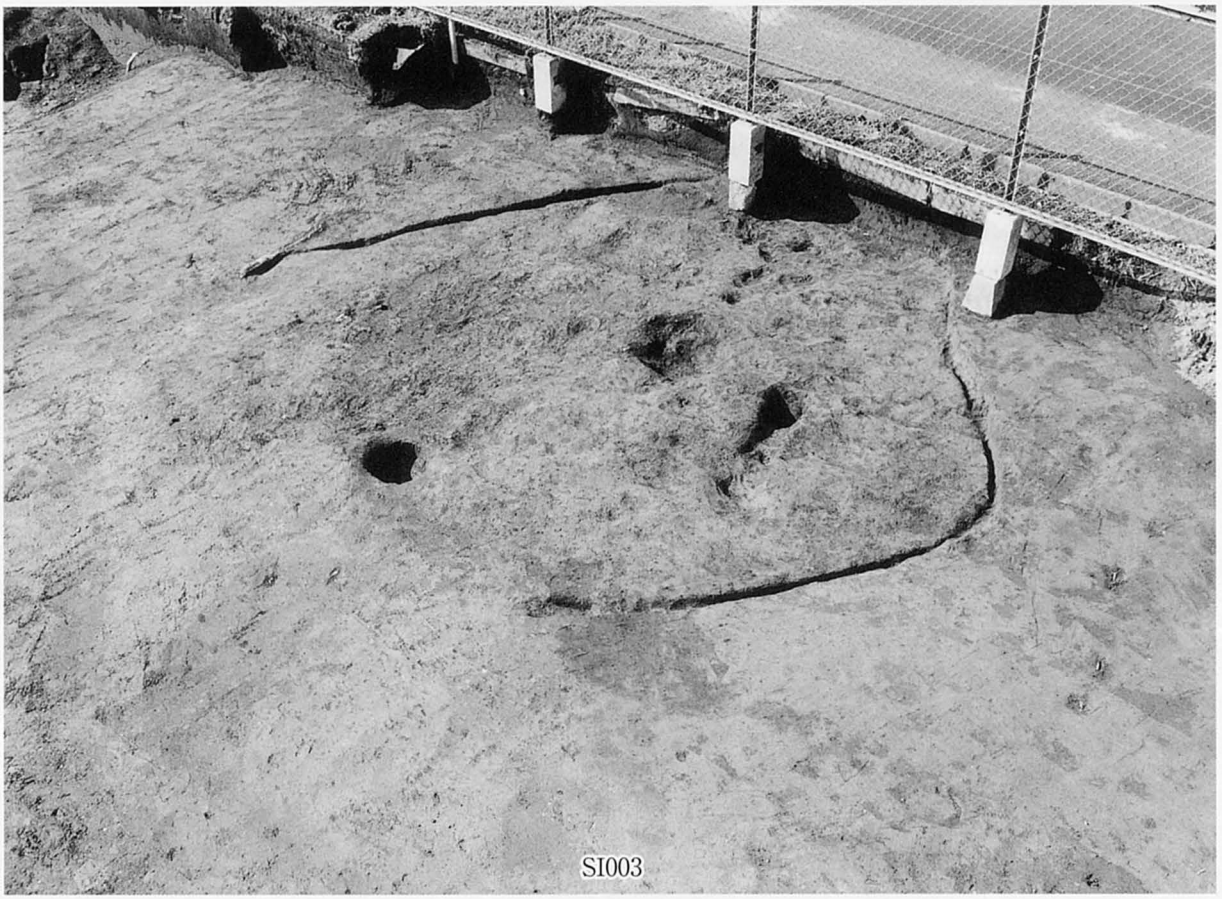
中近世では上矢切南台遺跡と下矢切東台遺跡で検出した溝状遺構がある。しかしながら両遺跡の溝状遺構は、走行方向や形状に大きな差がある。上矢切東台遺跡のSD001やSD004等はクランク状に屈曲しており、何らかの区画を目的としていた可能性がある。下矢切東台遺跡の溝は、いずれも南北方向に直線的に走行している。また、溝底内に硬化面が認められることからも道路として機能していたものであろう。

写　真　図　版



遺跡周辺航空写真（1/10,000）

第9～12ブロック出土状況



SI003

調査地北端部空撮（北から）

調査地北端部空撮（西から）

SI001

SI002

SI004

SI005

SI006

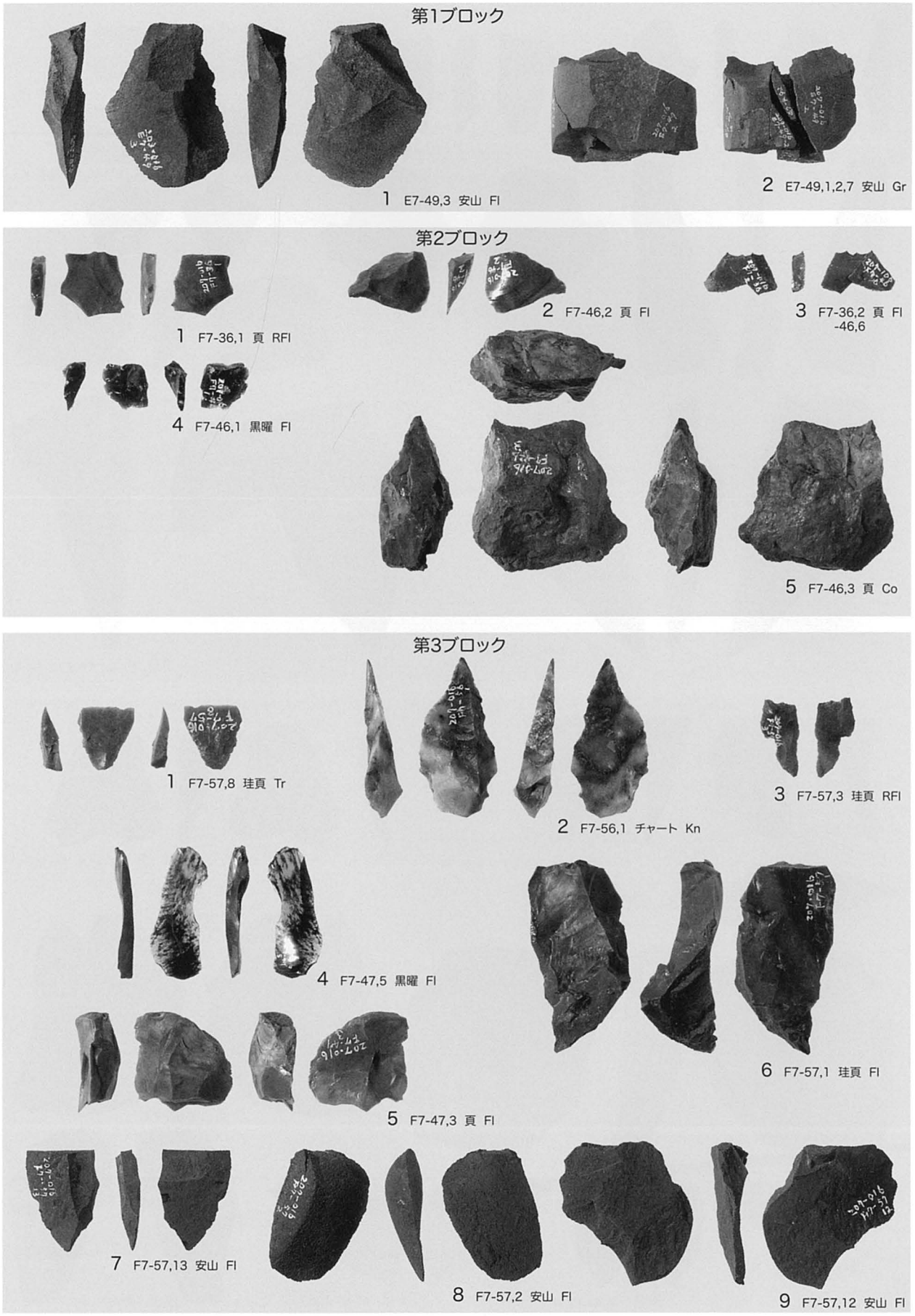
SI007

SI008

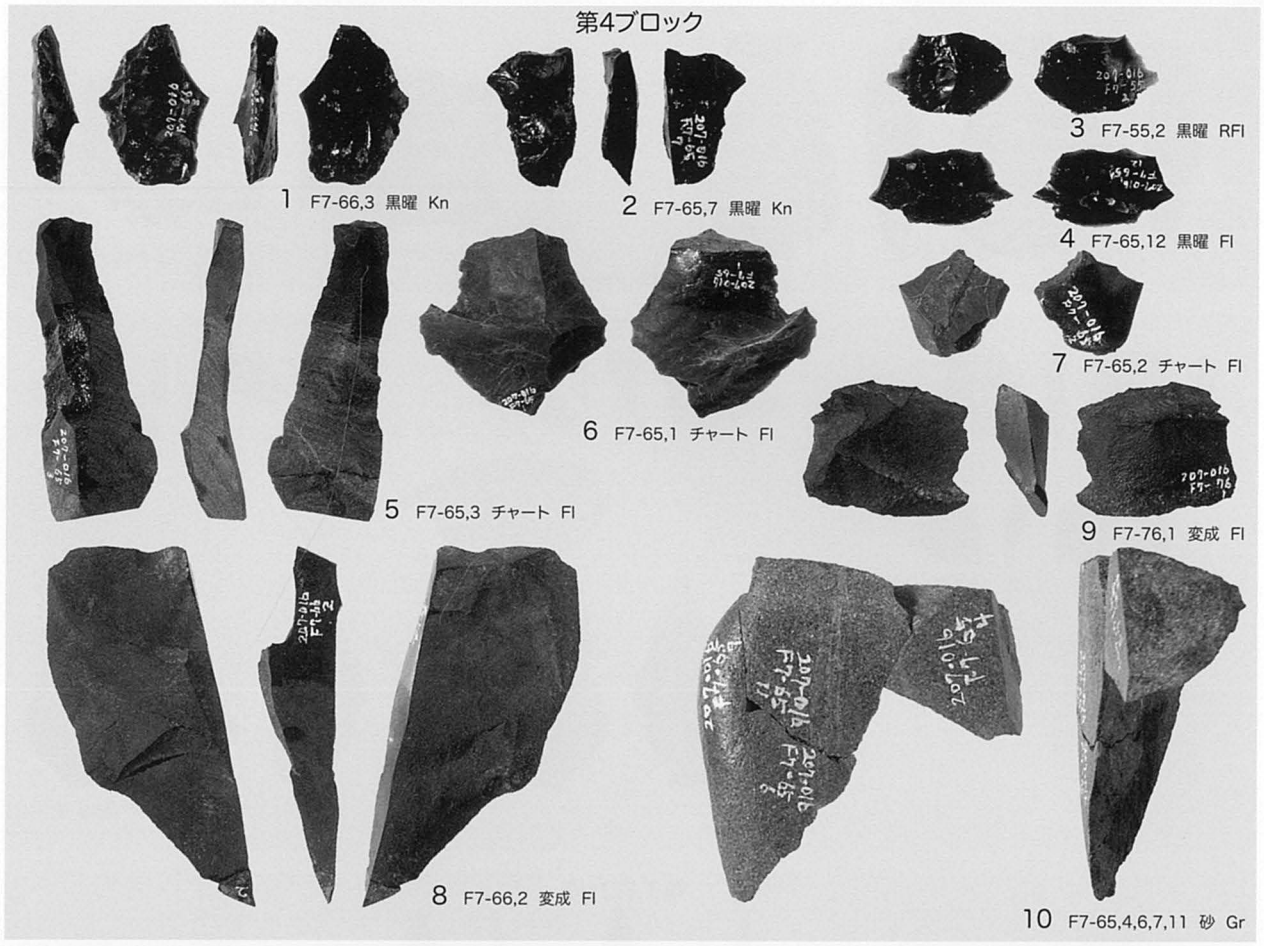
SI009

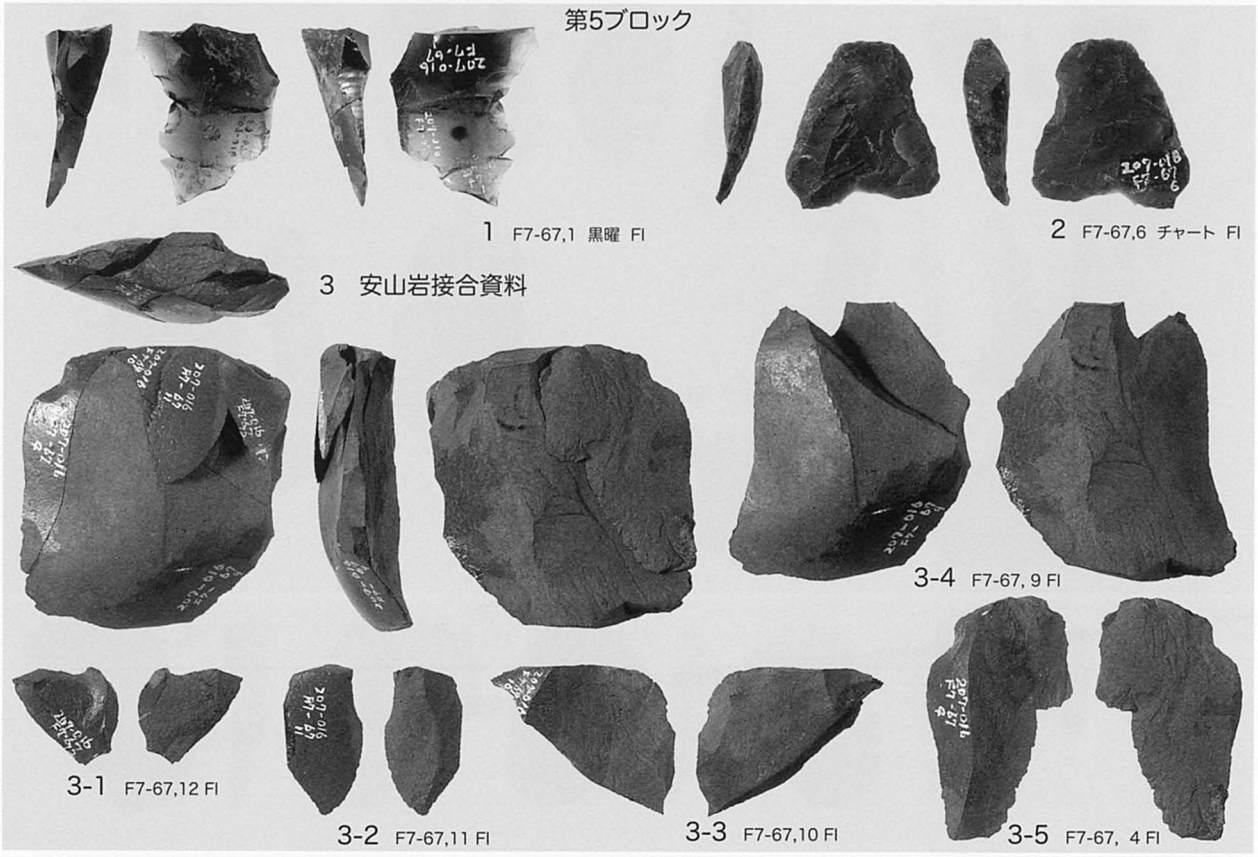
SI010・012

SI011・013

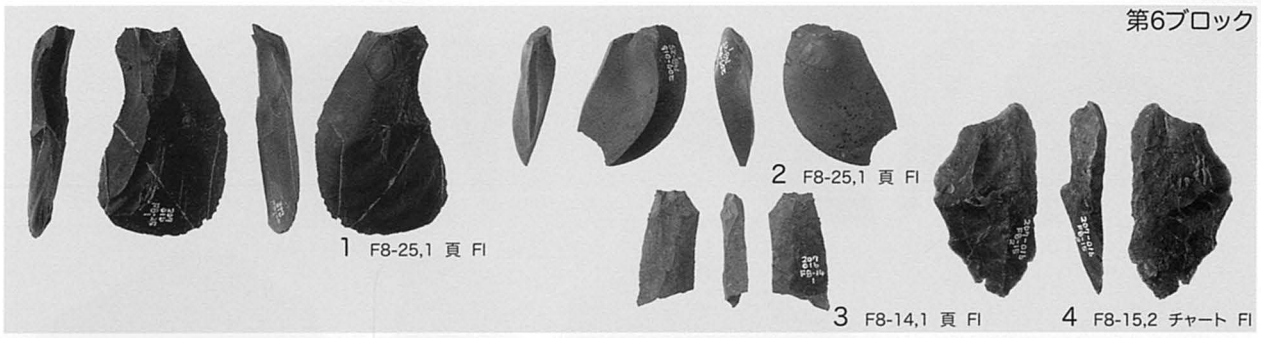


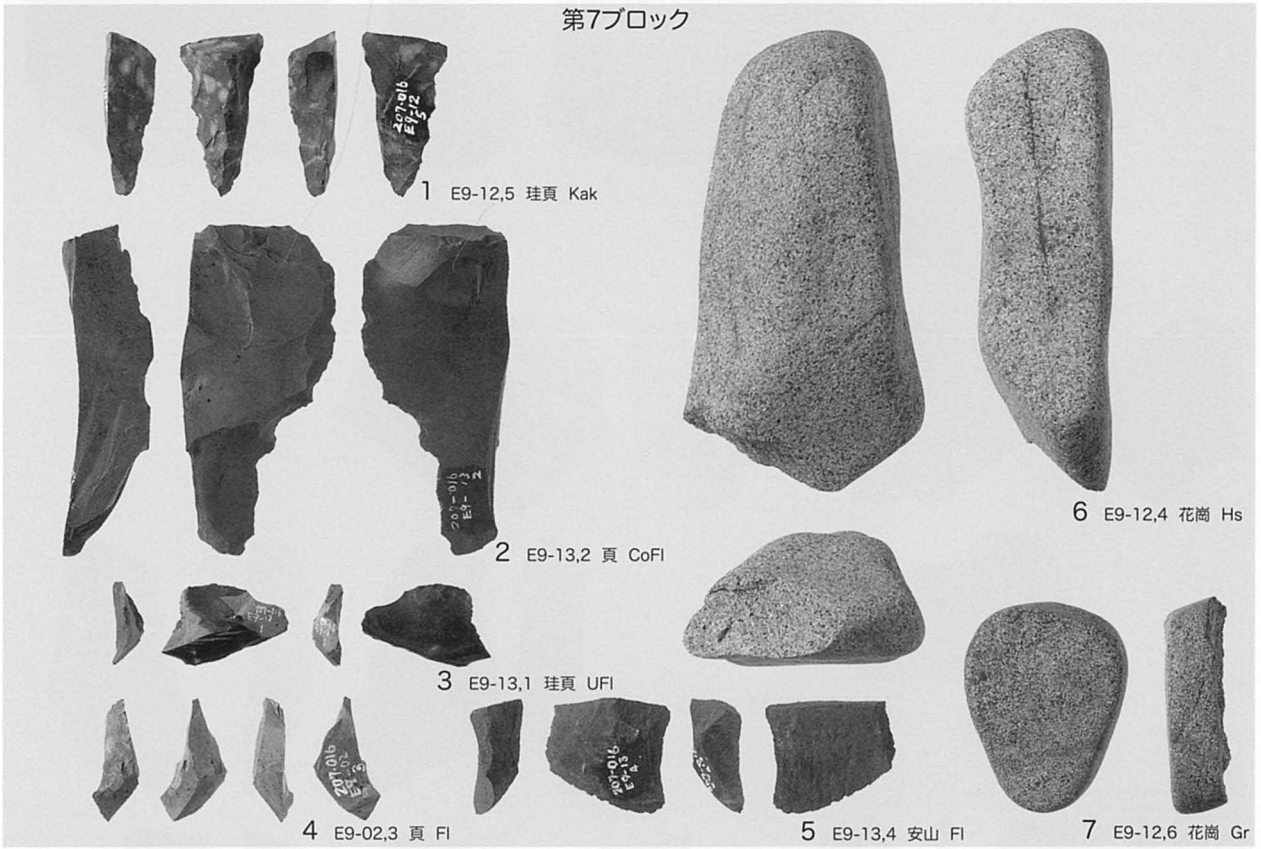
上矢切南台遺跡出土石器（1）

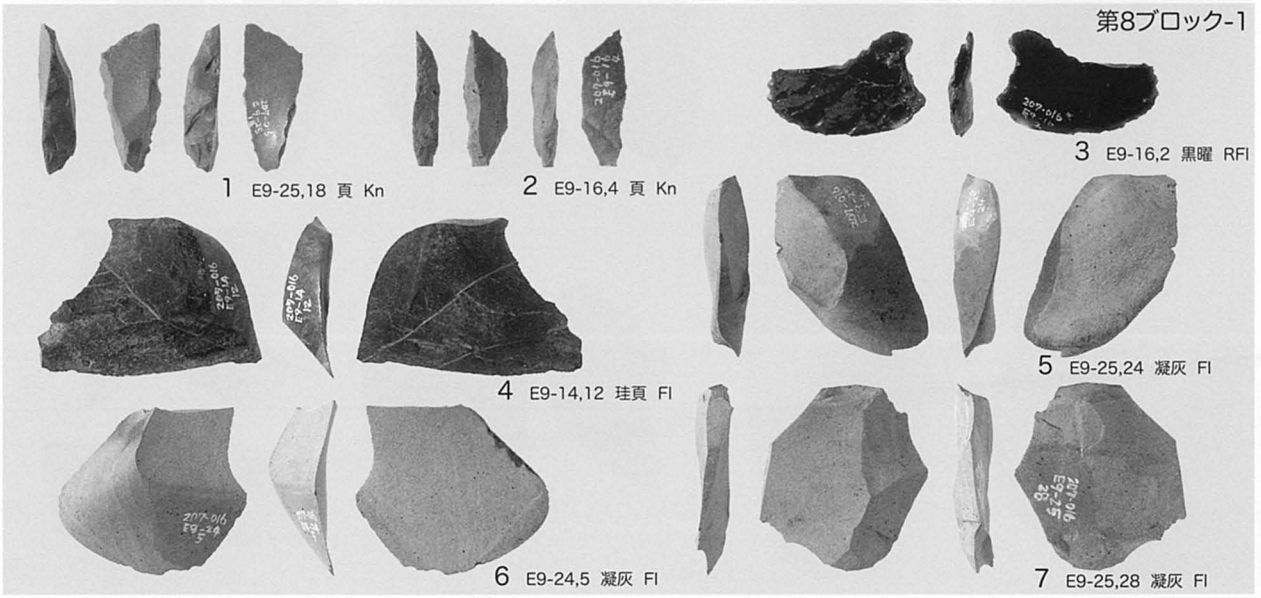




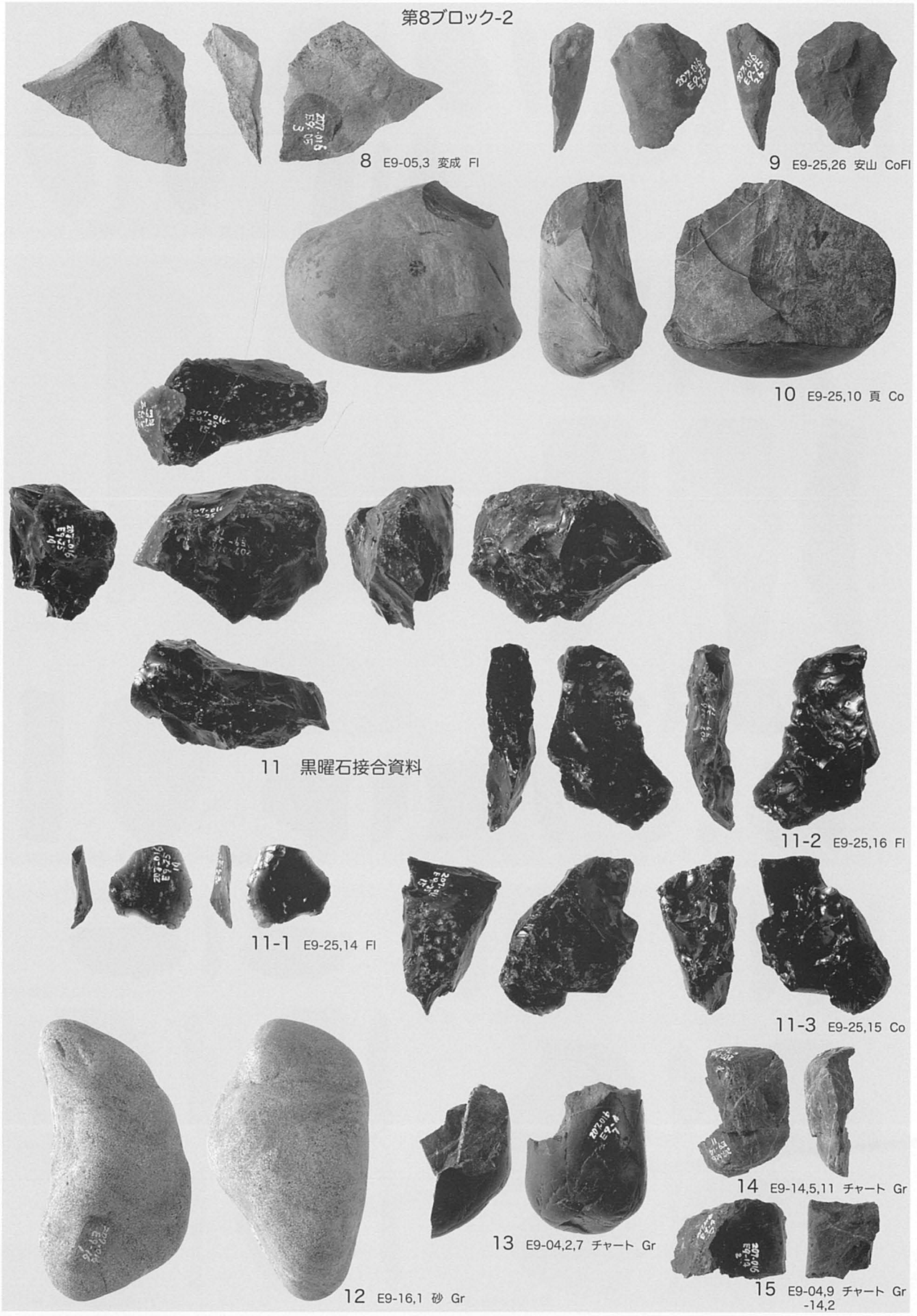
上矢切南台遺跡出土石器（2）



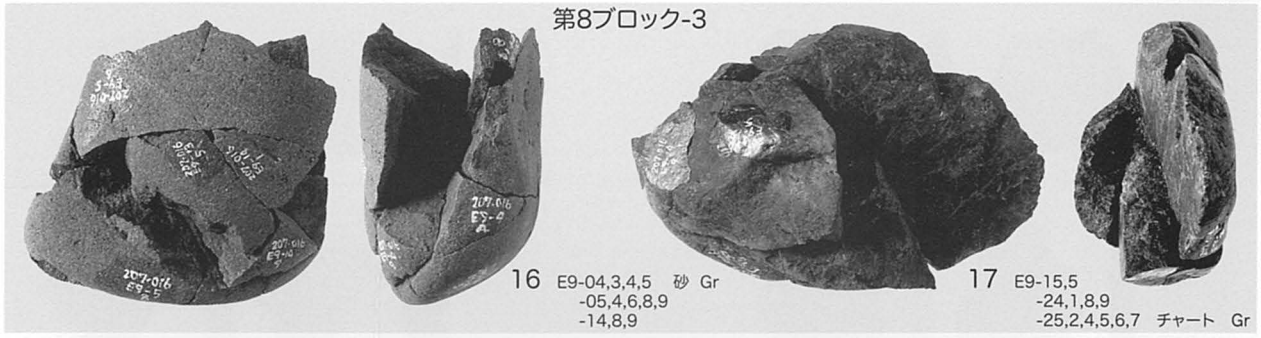


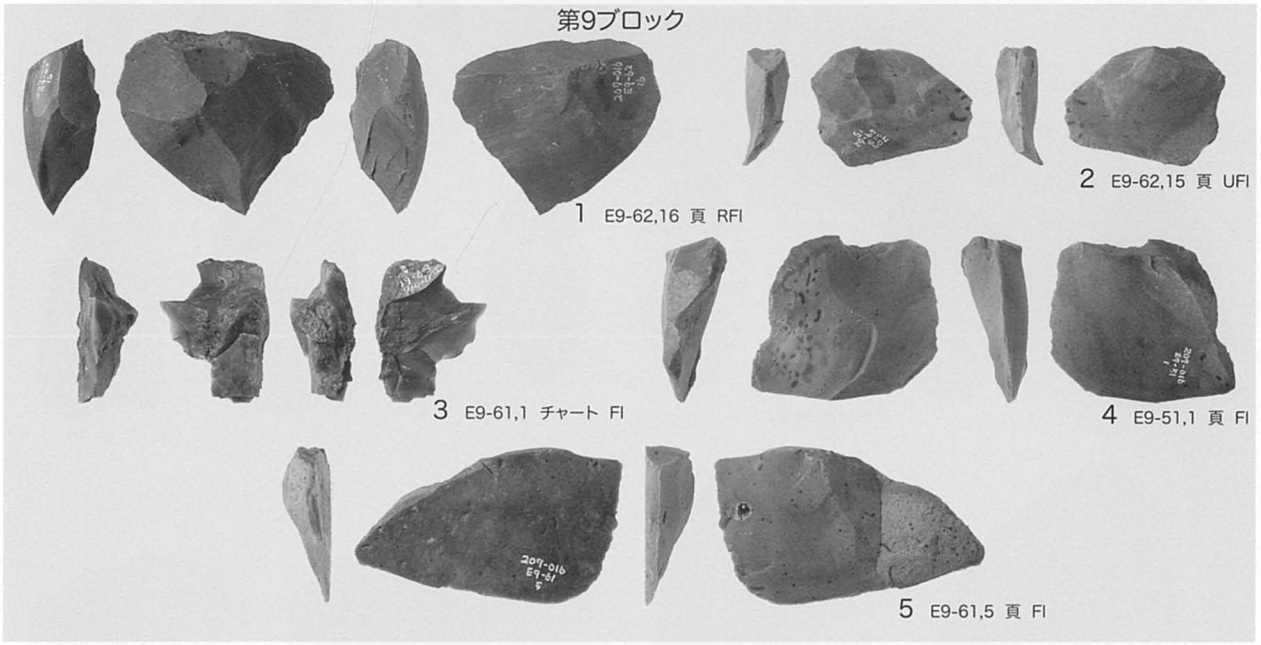


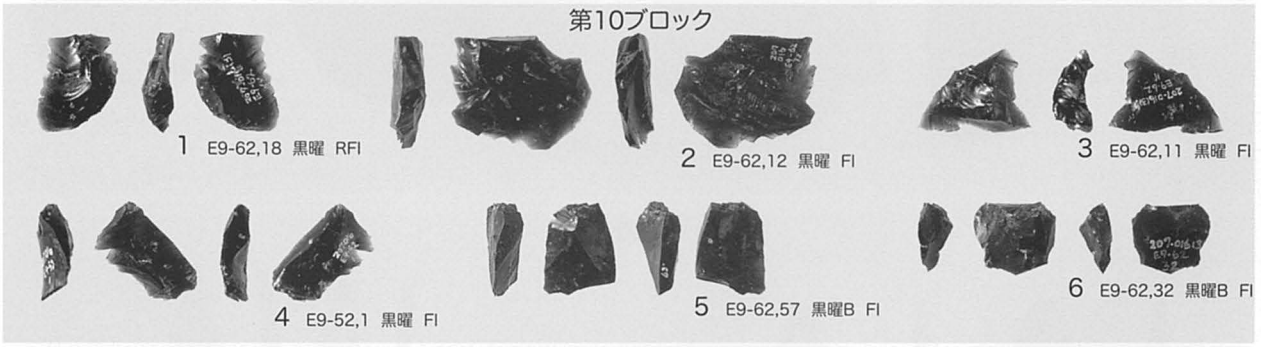
上矢切南台遺跡出土石器（3）

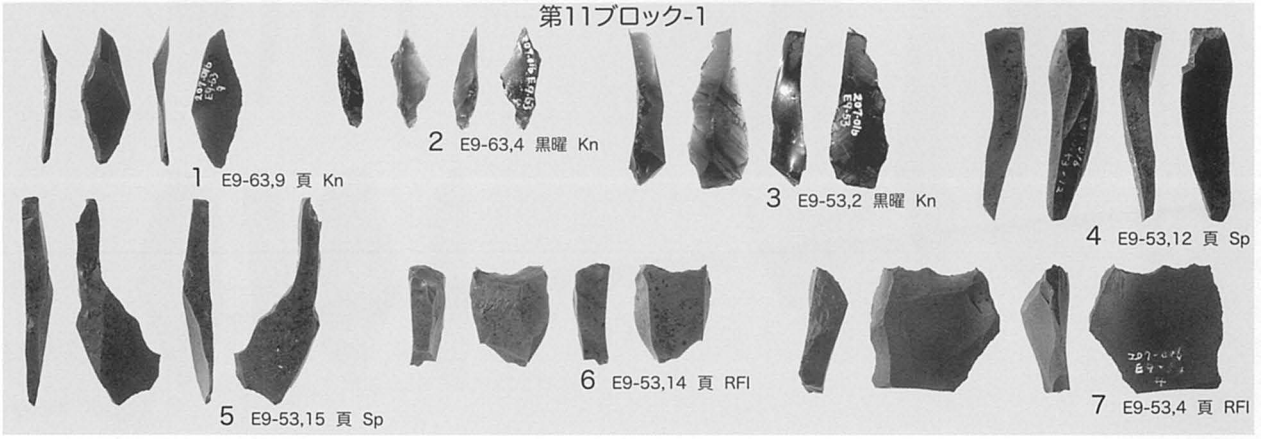


上矢切南台遺跡出土石器（4）

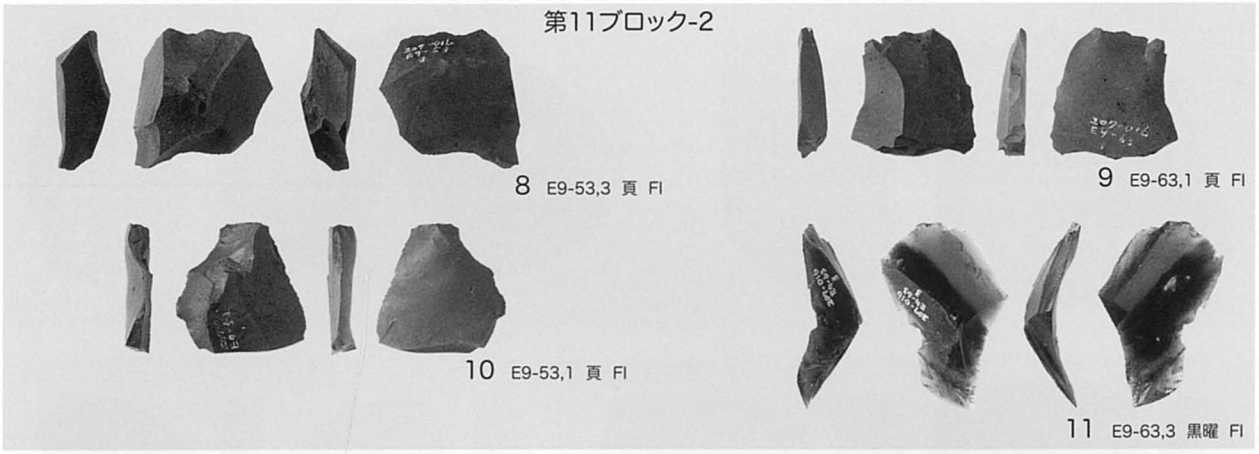


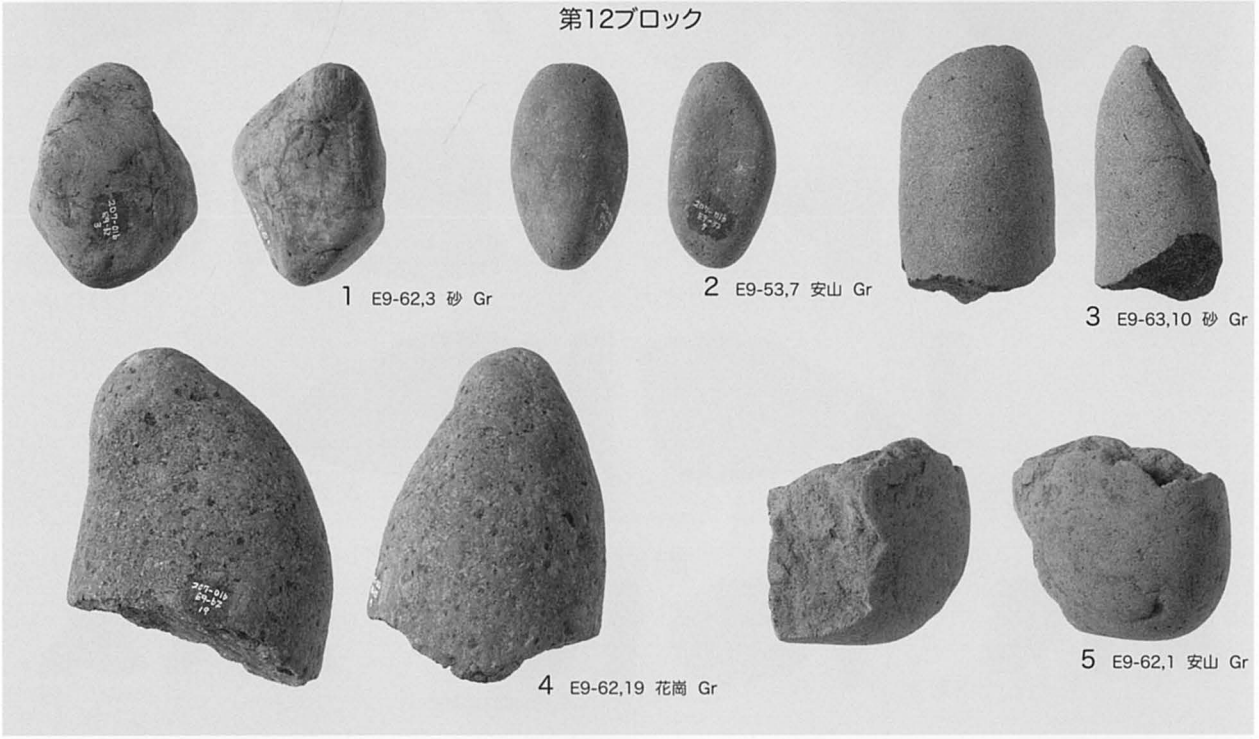


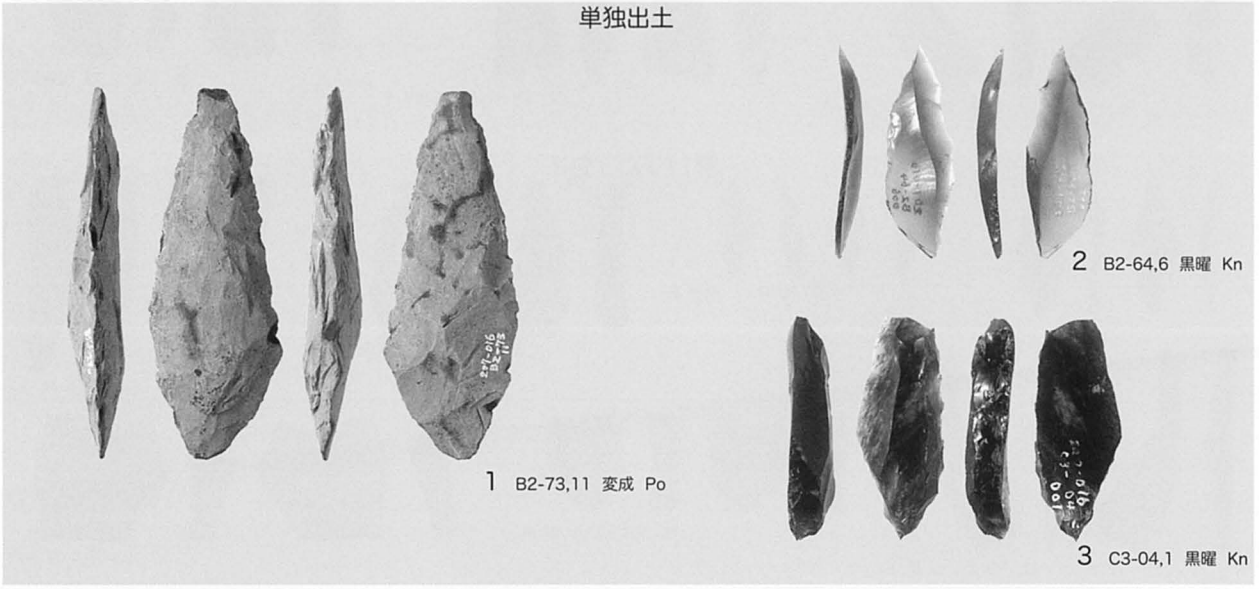




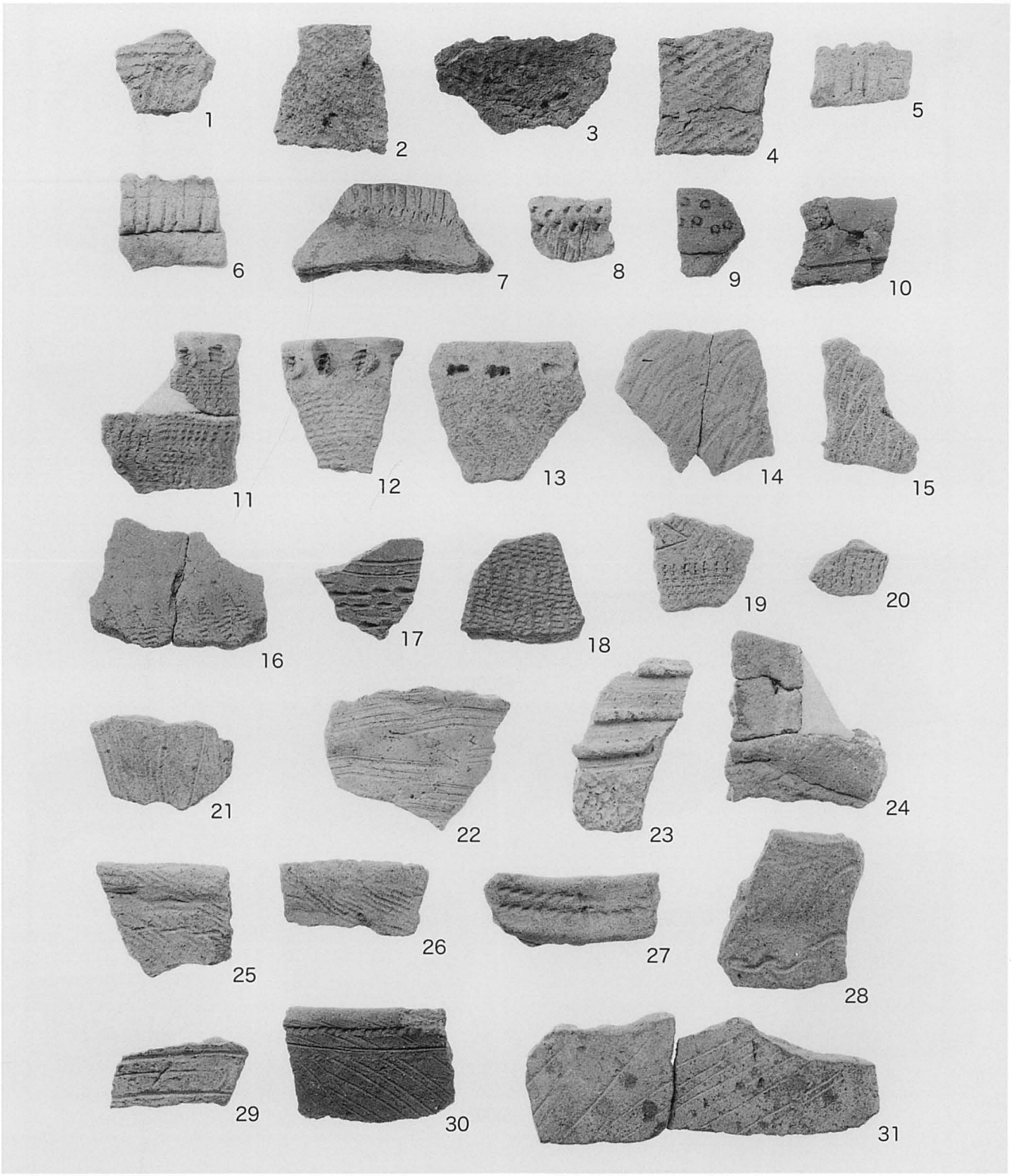
上矢切南台遺跡出土石器（5）





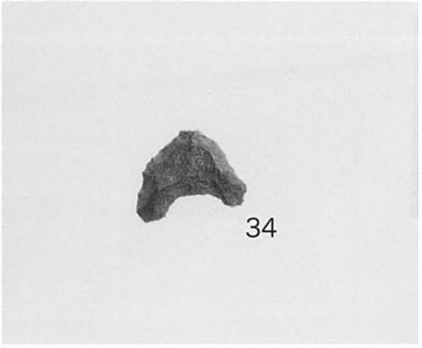


上矢切南台遺跡出土石器（6）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

32

33


34

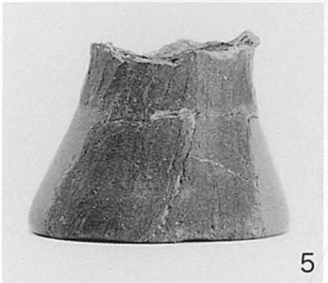
縄文時代遺物

1

2

3

4


5

7

9

10

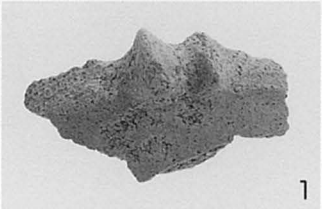
8

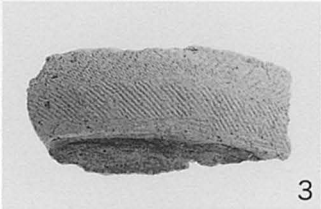
11

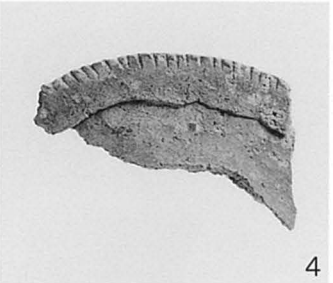
12

SI001

5


1


3


4

8

9

11

SI002

6

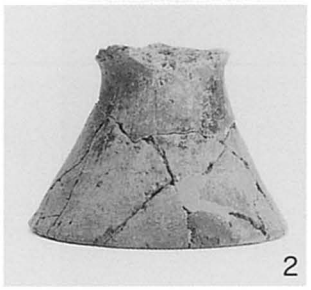
2

3

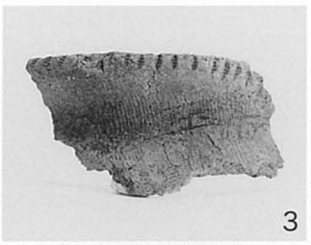
5

4

SI004

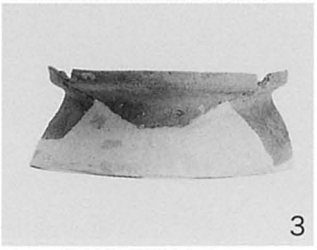


SI005

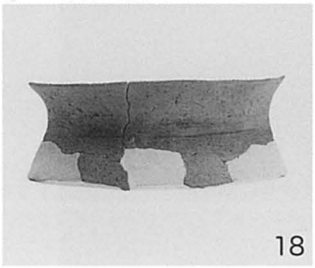


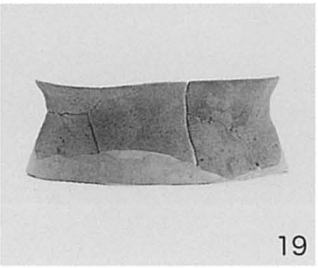
SI007

SI008



SI010・012

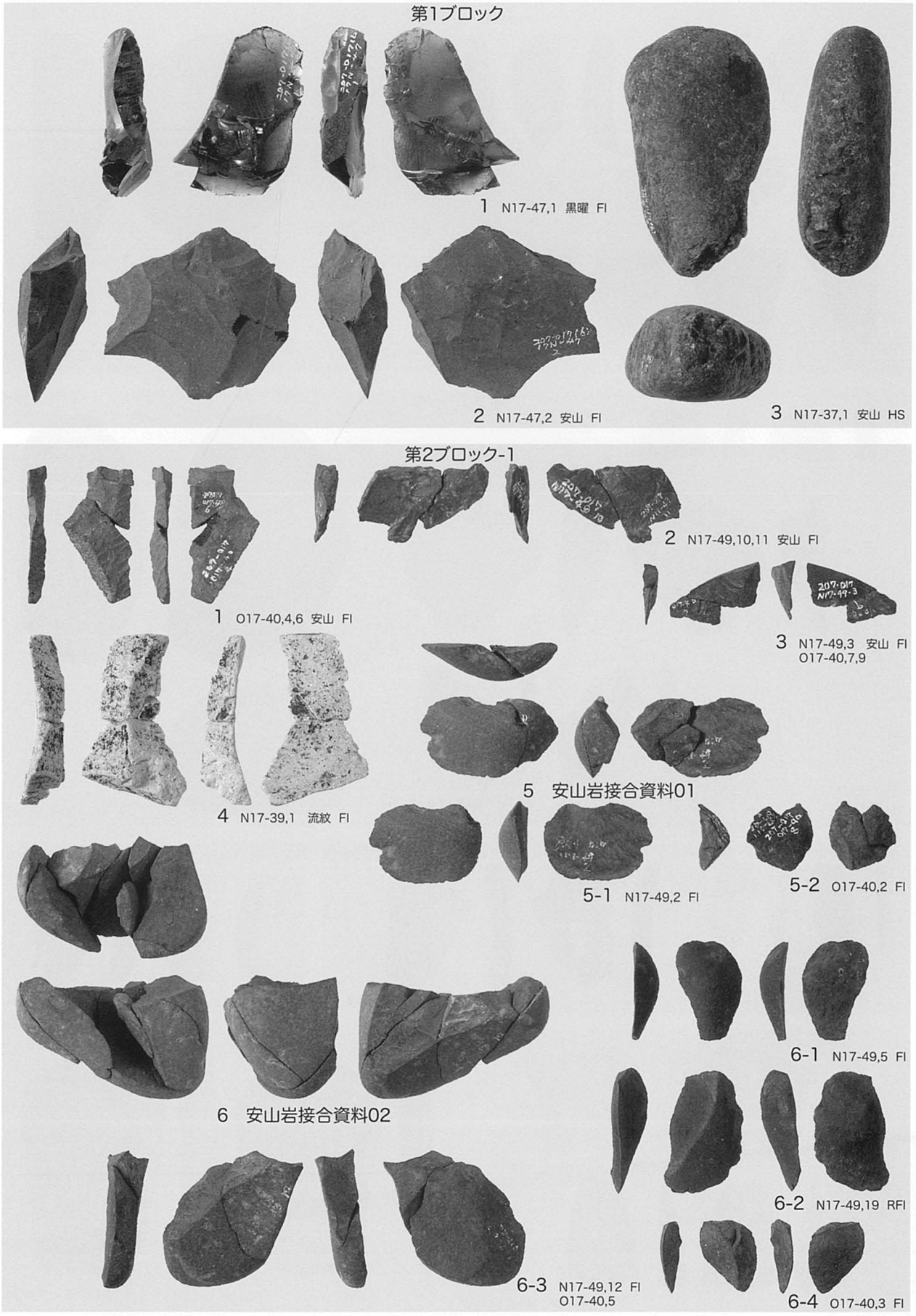




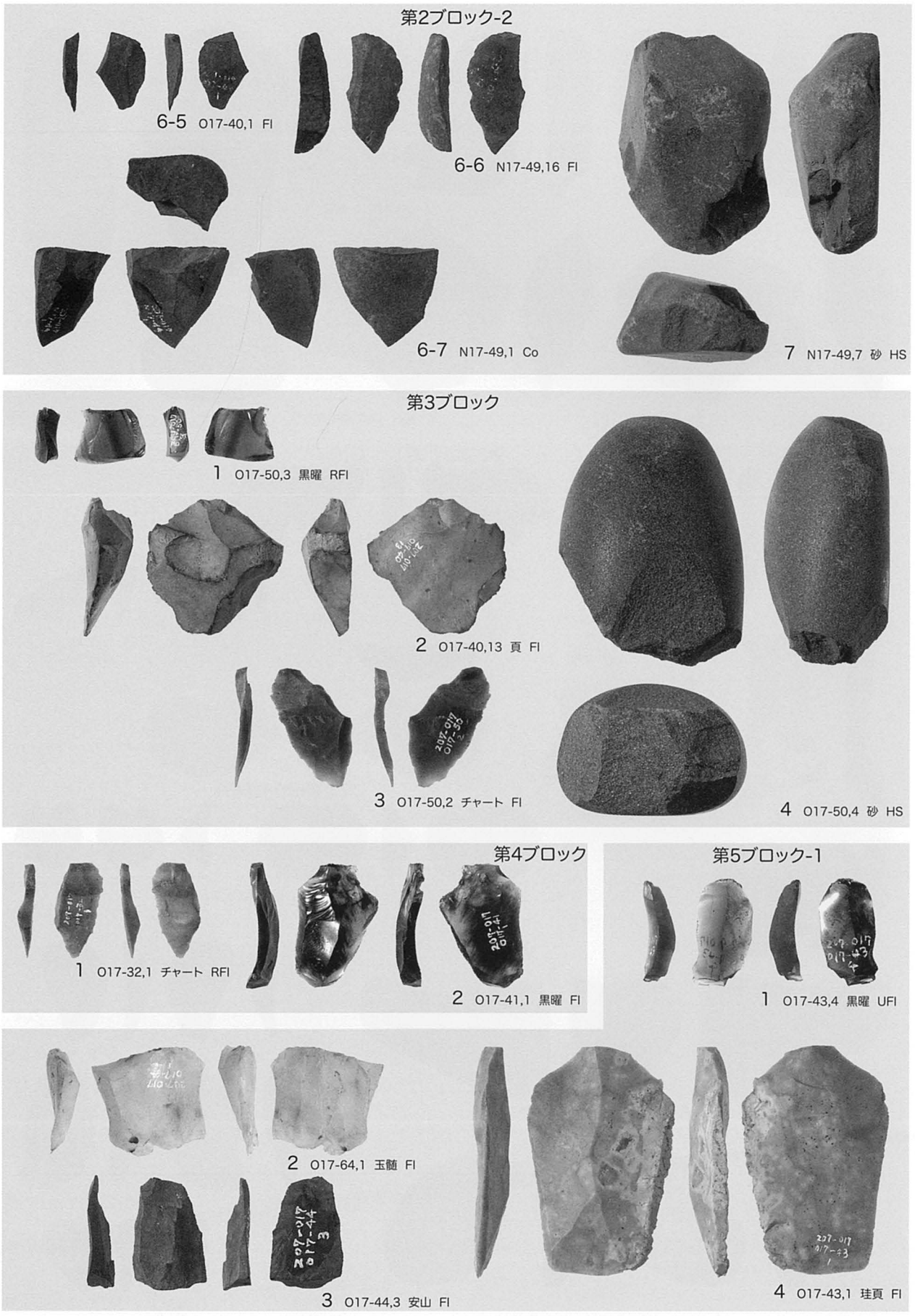
SI011・013

SD001

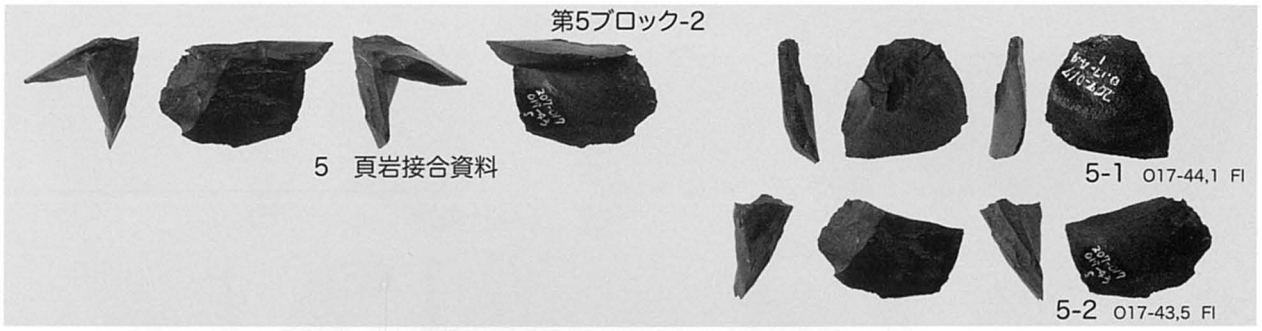
SD002

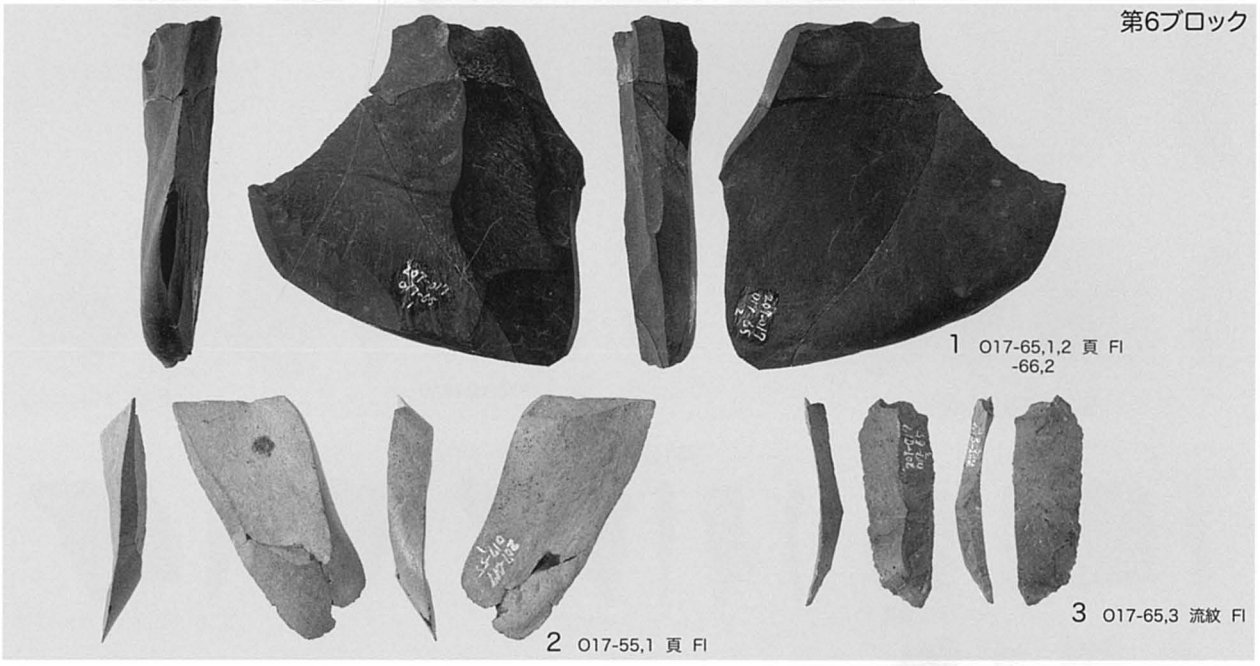


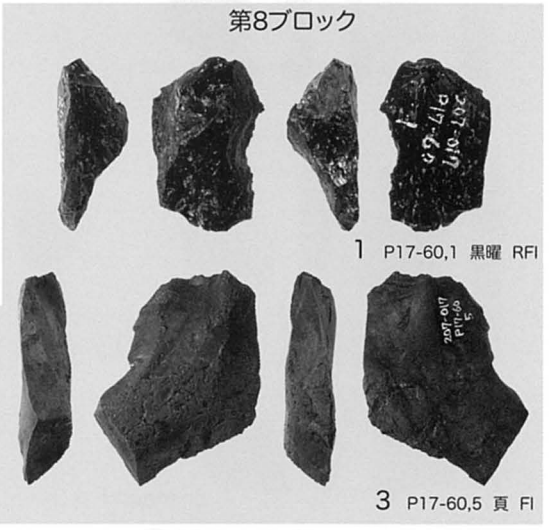
下矢切東台遺跡出土石器（1）

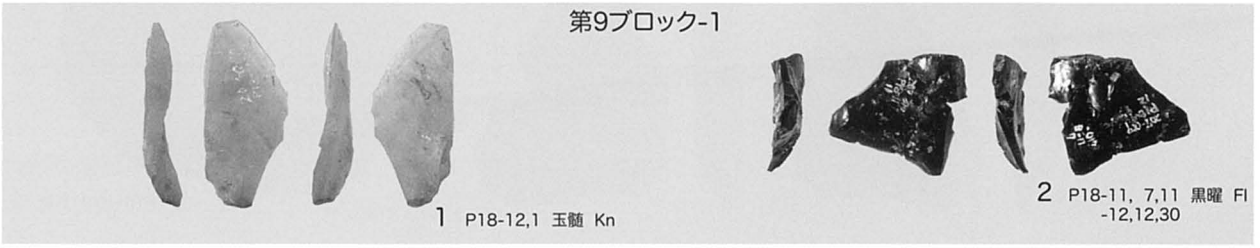


下矢切東台遺跡出土石器（2）

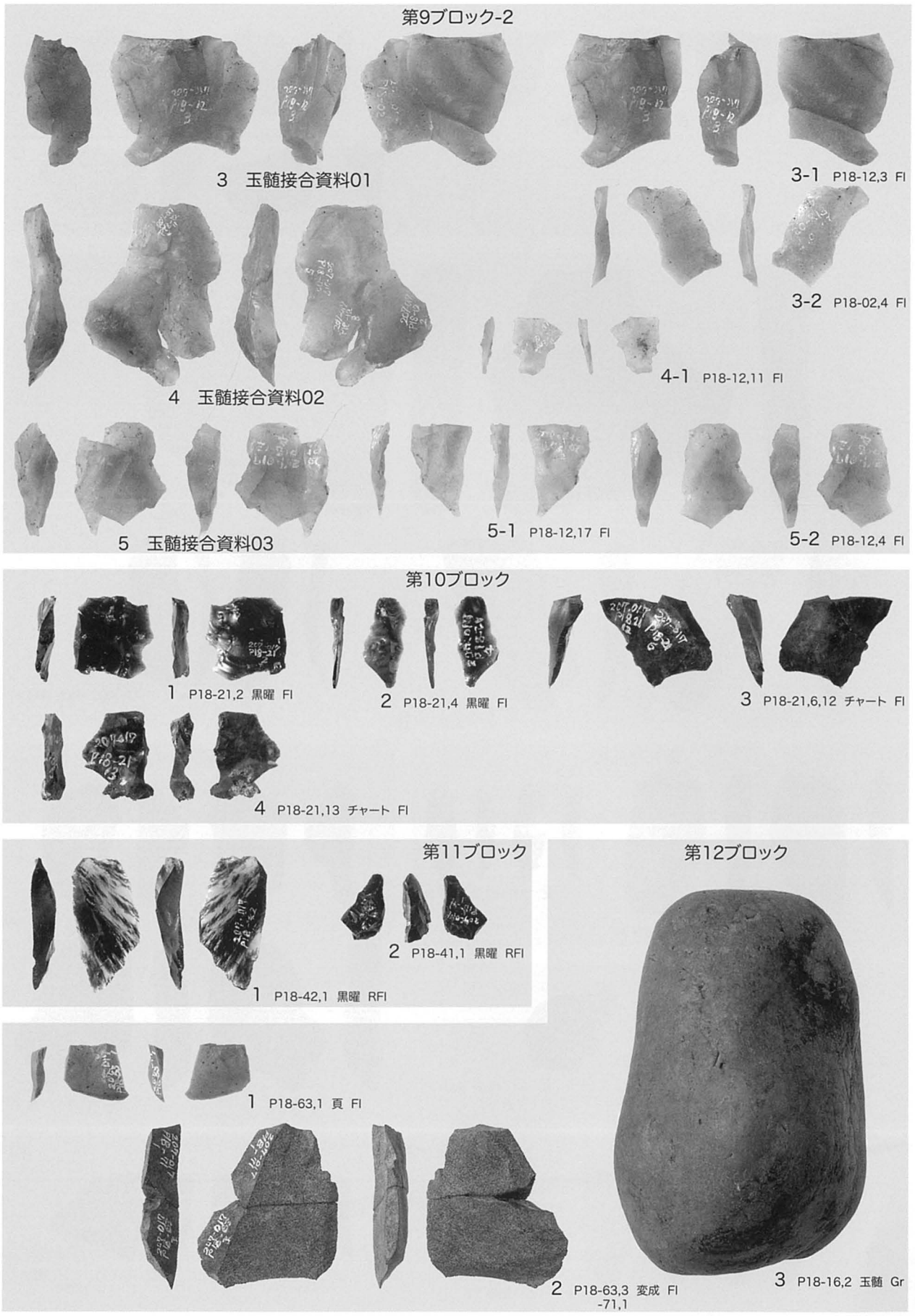




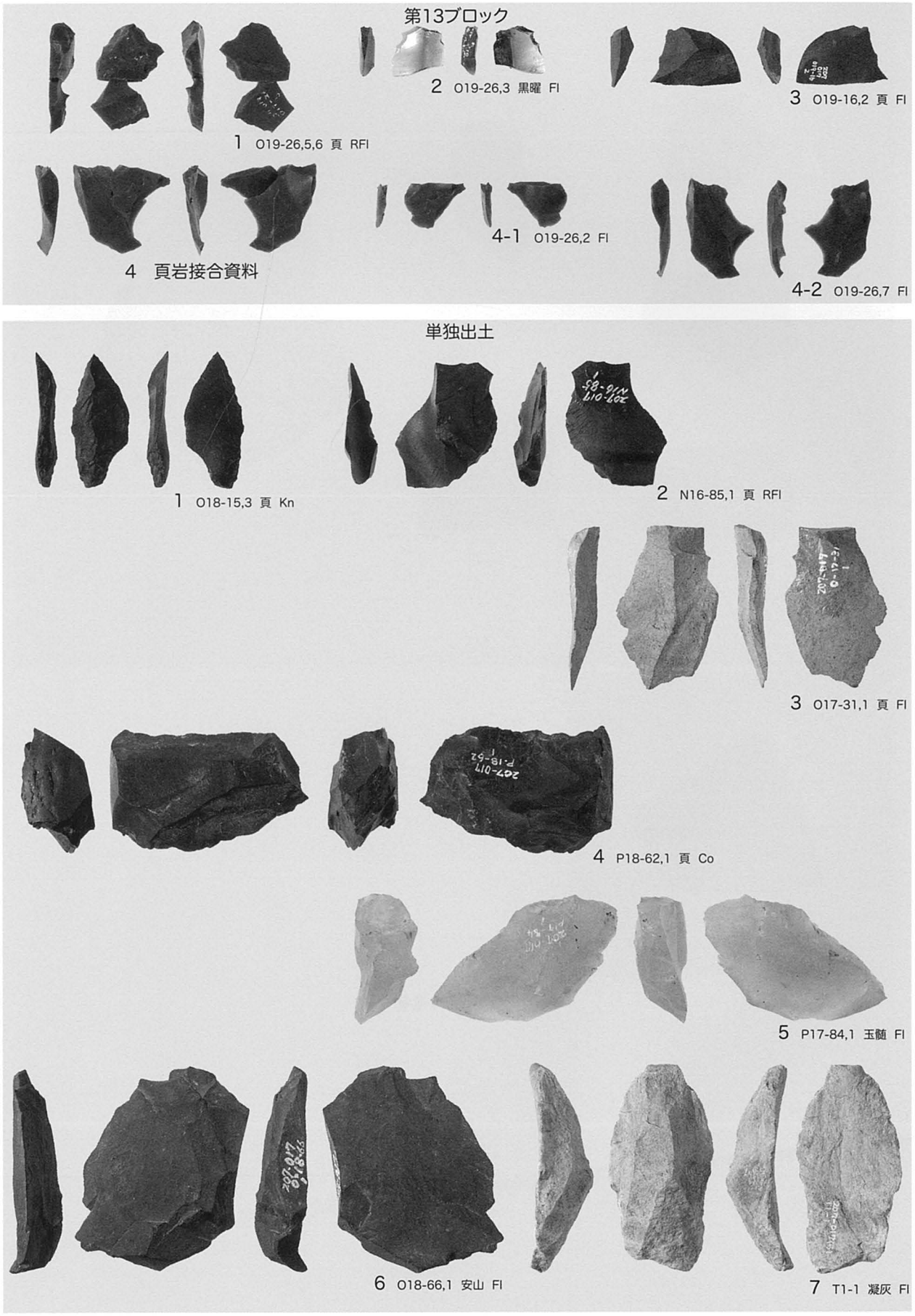




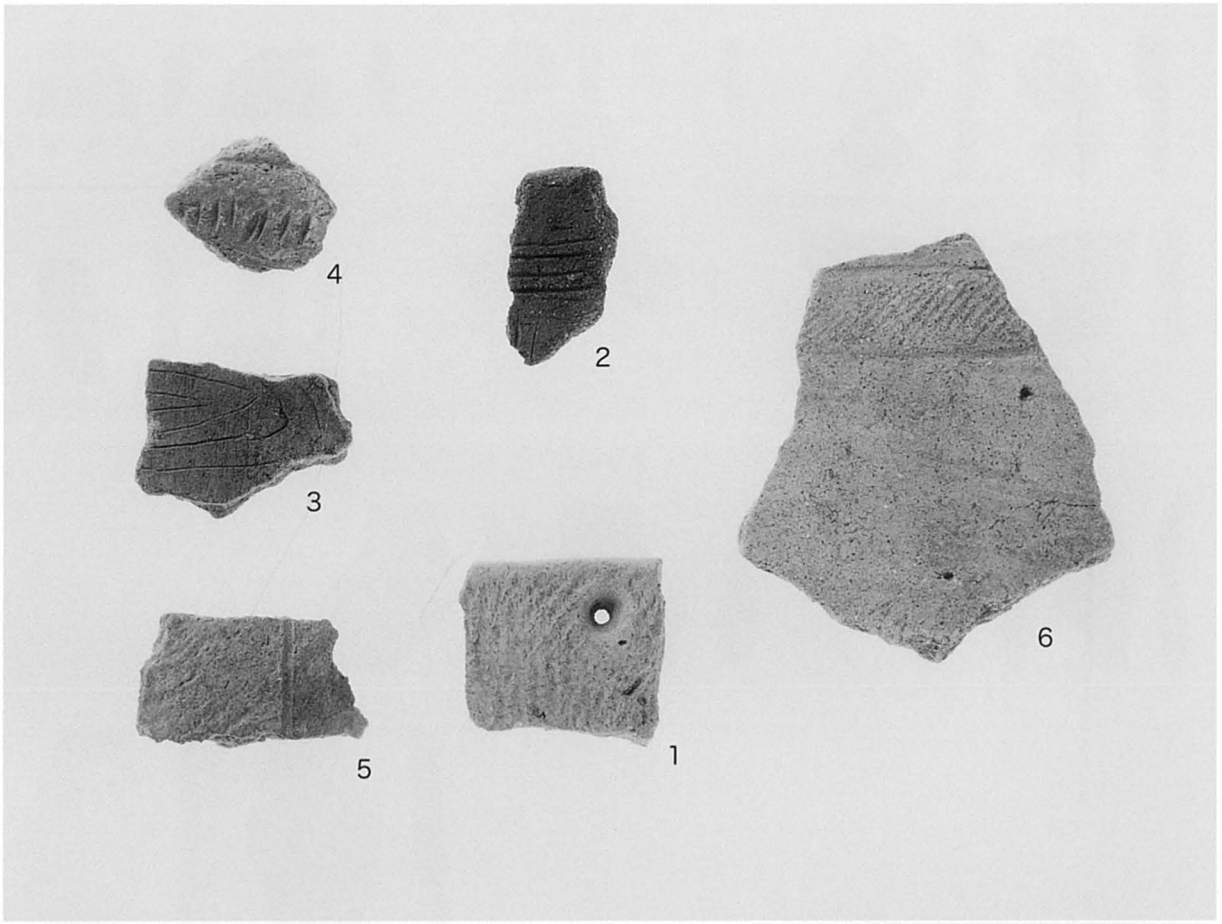
下矢切東台遺跡出土石器（3）

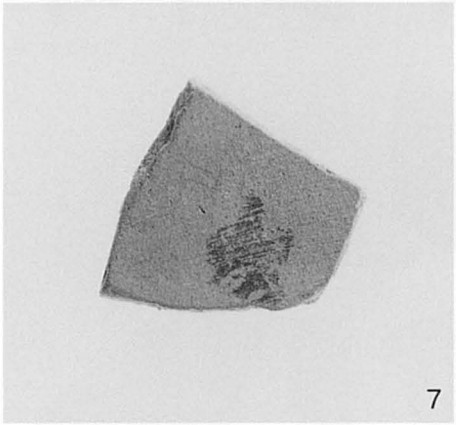


下矢切東台遺跡出土石器（4）



下矢切東台遺跡出土石器（5）





SD002出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうきょうがいかくかんじょうどうろまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ1
書名	東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書1
副書名	上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡
巻次	1
シリーズ名	財団法人千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第627集
編著者名	郷堀英司・落合章雄・豊田秀治
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団　文化財センター
所在地	〒2840-003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2　TEL　043-424-4848
発行年月日	西暦2009年3月27日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上矢切南台遺跡（かみやぎりみなみだいいせき）	松戸市上矢切南台117－2ほか（まつどしかみやぎりみなみだい）	12207	016	35度45分47秒	139度54分00秒	19971001～20051014	28,082㎡	道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査
下矢切東台遺跡（しもやぎりひがしだいいせき）	松戸市下矢切東台6－2ほか（まつどししもやぎりひがしだい）	12207	017	35度45分34秒	139度54分13秒	19971001～20051014	39,892㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上矢切南台遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代後期～古墳時代初頭 奈良・平安時代 中世以降	石器集中地点　12か所 竪穴住居跡　1軒 集石遺構　2基 竪穴住居跡　6軒 竪穴住居跡　4軒 溝　8条	旧石器・縄文土器・土製耳飾り・弥生土器・匙形土製品・土師器・須恵器	旧石器時代の石器集中か所を多数検出
下矢切東台遺跡	集落跡	旧石器時代 中世以降	石器集中地点　13か所 溝　3条	旧石器・縄文土器・土師器・須恵器	旧石器時代の石器集中か所を多数検出

要約

旧石器時代では、上矢切南台遺跡で12ブロック、下矢切東台遺跡で13ブロックの数多くの石器群を検出し、ともにⅢ層からⅨ層までの6文化層に比定できることが判明した。

縄文時代では、上矢切南台遺跡では前期の遺構・遺物が主体となるが密度は薄く、下矢切東台遺跡では後期の遺物が散布していた程度にとどまる。

上矢切南台遺跡では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落が台地縁辺部で営まれていたことが明らかになった。また、奈良時代後半から平安時代初めにかけての小規模な集落は台地内陸部に営まれていた。

上矢切南台遺跡の中近世以降の溝状遺構は区画溝として、下矢切東台遺跡の溝状遺構は道路として機能していたと考えられる。

千葉県教育振興財団調査報告第627集

東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書１

―松戸市上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡―

平成21年３月27日発行

編　　集　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　　行　国土交通省関東地方整備局
首都国道事務所
松戸市竹ヶ花86

財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の２

印　　刷　株式会社　正文社
千葉市中央区都町１－10－６